

## 取扱説明書

### HD映像コミュニケーションユニット

品番 **KX-VC1300J, KX-VC1600J,  
KX-VC2000J**



保証書別添付

技術基準適合認証品

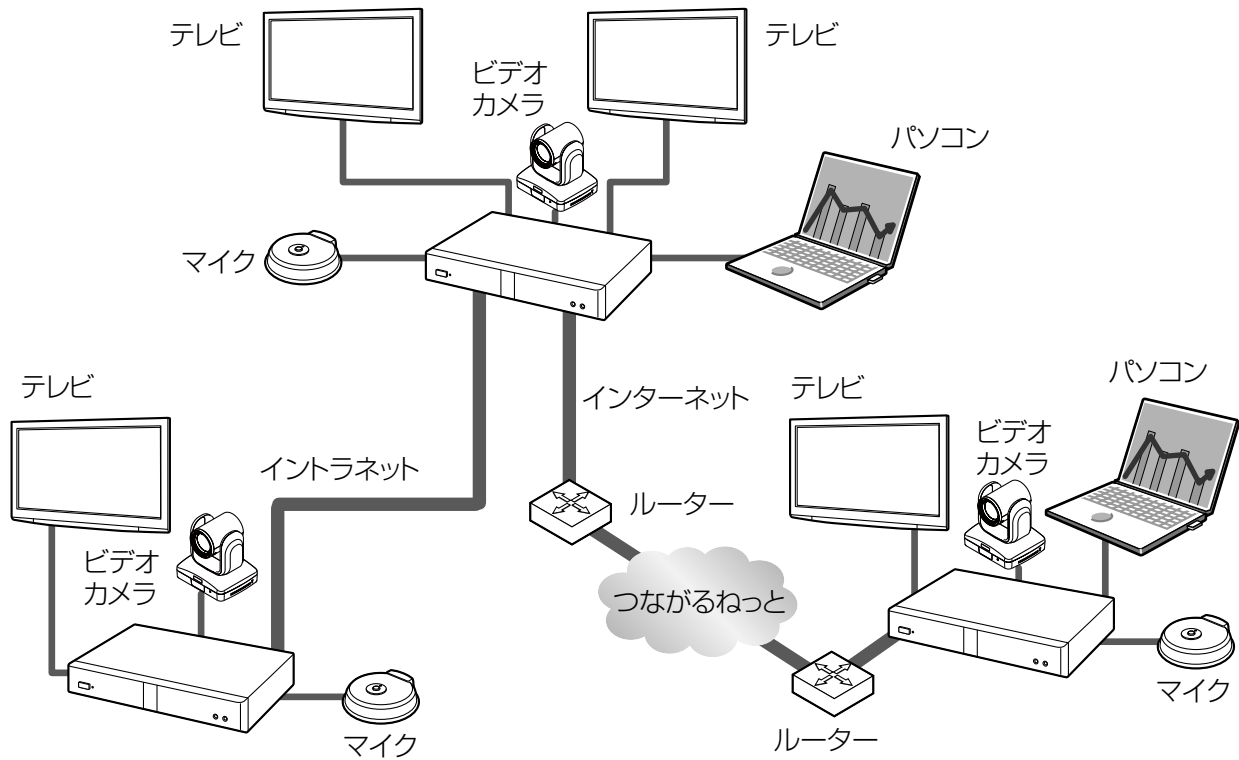
このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(12～16ページ)を必ずお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

KX-VC1300J, KX-VC1600J, KX-VC2000J: ソフトウェアバージョン 6.10以上

# はじめに

## HD映像コミュニケーションユニットの特長



### 臨場感あふれるビデオ会議システム

なめらかな動きと高画質映像、クリアなステレオ<sup>\*1</sup> 音声で臨場感あふれるビデオ会議を行うことができます。

<sup>\*1</sup> 専用デジタルマイクを2台以上接続した場合、ステレオにするためには別途設定が必要です (136 ページ)。専用デジタルマイクと専用アナログマイクを同時に接続した場合など、接続の状態によっては、専用マイクの出力がモノラルになる場合があります (33 ページ、34 ページ)。

### AV機器感覚のリモコン操作、シンプルでわかりやすいGUI (グラフィカルユーザーインターフェイス)

AV機器感覚で操作できる付属のリモコンとシンプルでわかりやすいGUIで、操作や設定を行うことができます。

### 安定した通信品質

ネットワークの混み具合に応じて、自動的にパケットの送信レートを制御するなどの品質制御機能を使用し、パケット損失を抑えることで映像と音声の乱れを防ぐことができます。これにより、インターネット回線またはモバイル回線でも安定した通信品質でビデオ会議を行うことができます。

## デュアルストリーム（2画面）対応

自分側のビデオカメラの映像と同時にPCまたはサブカメラの映像を相手拠点に送信することができます。相手側の様子と共有データを同時に確認することができます、より臨場感のある会議をすることができます。

## デュアルネットワーク対応（KX-VC1600J、KX-VC2000J）

社内ネットワークまたはインターネット回線などの異なるネットワークを同時に接続することにより、社内と社外の端末などをシームレスに接続することができます。

## 多地点接続

内蔵MCUを搭載しKX-VC1300Jでは最大4地点、KX-VC1600Jでは標準で6地点（拡張機能で最大10地点まで）、KX-VC2000Jでは標準で16地点（拡張機能で最大20地点または24地点まで）の多地点通信が可能です。すべての機器がMCU機能を内蔵していますので、フレキシブルな接続が可能となります。

### お知らせ

- 本書では、内蔵MCUを使用して1台で同時に複数の拠点と接続する拠点を「親拠点」、親拠点に接続する拠点を「子拠点」と記載しています。プロファイル発信（58 ページ）で複数拠点と通信が成立した拠点や、2地点通信中に相手拠点を追加した拠点（70 ページ）が「親拠点」になります。

## コンテンツの共有

お手持ちのパソコンやビデオカメラを本体に接続することで、パソコンの画面やビデオカメラの映像をビデオ会議参加者間で共有することができます（92 ページ）。

## 暗号通信

パケットを暗号処理することで、パケットの漏えいによるビデオ会議の内容の盗聴や改ざんを防ぐことができます。

## つながるねっとサービス

「つながるねっとサービス」は簡単で、経済的なHD映像コミュニケーションユニットの通信環境を構築し、運用できるサービスです。<sup>\*1\*</sup><sup>\*2</sup> 複雑なルーター設定が不要なため、ネットワーク管理者以外のお客様も簡単に通信環境を構築できます。また、お客様専用の番号を設定でき、従来のIPアドレスではなく専用の7桁の番号あてに発信できるため、電話をかける感覚で簡単に通信が可能です。暗号通信にも対応しており、インターネット回線でも安全に通信を行うことができます。

「つながるねっとサービス」の詳細については、以下のホームページを参照してください。

<https://sol.panasonic.biz/visual/products/connection.html>

<sup>\*1</sup> ルーターの種類やお客様のインターネット回線の環境によってはご利用できない場合があります。

詳細については、販売店にお問い合わせください。

<sup>\*2</sup> IPv6アドレスは使用できません。

## SIPサーバー経由で発信

SIPサーバーを経由することで、IPアドレスだけではなくSIP-URI（SIPユーザー名@SIPドメイン名）でも通信を行うことができます。相手が自分と同じSIPドメイン名を設定していればSIPユーザー名だけでお互いに発信ができます。利用できるSIPサーバーについては、販売店にお問い合わせください。

## H.323ゲートキーパー経由で発信

H.323ゲートキーパーを経由すると、IPアドレスだけでなくH.323内線番号またはH.323名でも通信することができます。利用できるゲートキーパーについては、販売店にお問い合わせください。

## アクティベーションキーによる機能拡張

別売のアクティベーションキーにより、本機の機能をアップグレードすることができます（22 ページ）。これにより、つながるねっとサービスに加入したり、各種拡張機能（モバイル接続、片方向配信、USBデバイスモード、Webハイブリッドモード）を有効にできます。KX-VC1600Jをご使用の場合は、10地点までの多地点接続が可能となります。KX-VC2000Jをご使用の場合は、20地点または24地点までの多地点接続が可能となります。

## リモコンでビデオカメラをリモート操作

リモコンで自分側のビデオカメラの向きを上下左右に動かしたり、ズームして映像を拡大・縮小することができます（95 ページ）。操作後のビデオカメラの向きやズーム倍率を最大12パターンまで登録（プリセット登録）しておくこともできるので、登録内容呼び出して簡単にビデオカメラの向きやズーム倍率を変更することができます（98 ページ、101 ページ）。また、お手元のリモコンから通信相手側のビデオカメラを操作することもできます。<sup>\*1</sup>

<sup>\*1</sup> 相手側のビデオカメラを操作するには、相手側での設定が別途必要です（138 ページ）。

## IPv6アドレス

IPv6アドレスを利用した通信が可能です。SIPサーバーやH.323ゲートキーパーにIPv6アドレスを利用することもできます。

## USB録画

本体背面のUSB端子に接続したUSBメモリーに会議の内容を録画・録音することができます（84 ページ、140 ページ、196 ページ）。

## 商標および登録商標について

- HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。
- Polycom®は、Polycom, Inc.の米国およびその他の国における商標です。
- Microsoft, Internet Explorer, Microsoft Edge, Windows, および Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- MozillaおよびFirefoxは、米国およびその他の国における Mozilla Foundation の商標です。
- QuickTimeは、米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
- 本書に記載の会社名・ロゴ・製品名・ソフトウェア名は、各会社の商標または登録商標です。

## ライセンスについて

- 本製品は、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされており、以下に記載する行為に係るお客様の個人的又は非営利目的の使用を除いてはライセンスされておりません。
  - i. 画像情報をAVC規格に準拠して（以下、AVCビデオ）記録すること。
  - ii. 個人的活動に従事する消費者によって記録されたAVCビデオ、または、ライセンスを受けた提供者から入手したAVCビデオを再生すること。詳細についてはMPEG LA, LLCホームページ（<http://www.mpegla.com>）をご参照ください。
- 本製品は、Polycom®によってライセンスされたG.722.1とG.722.1 Annex Cを使用しています。
- 本製品はDigia社によってライセンスされたQtライブラリを使用しています。本製品をお使いになる前に、本製品システム設定の「**使用許諾契約**」をお読みください。

## オープンソースソフトウェアについて

この製品には、フリーソフトウェア財団のGPL、LGPLとMOZILLA PUBLIC LICENSE (MPL)、ITU-T およびその他の条件に基づいたオープンソースソフトウェア (OSS) を使用しています。それぞれのOSSは個々のOSSライセンスが適用されます。そのため、本製品をお使いになる前に、GPL、LGPL、MPL、ITU-Tやその他のOSSライセンスに関する情報を本製品システム設定の「**ライセンス情報**」でご確認ください。ライセンスがGPL、LGPL、MPL、およびITU-Tのソースコードは公開されています。これらのソフトウェアについては保証の範囲外となりますので、あらかじめご了承ください。

製品販売後、少なくとも3年間、パナソニック株式会社はコンタクトしてきた個人・団体に対し、GPL/LGPL/MPL/ITU-T の利用許諾条件の下、実費にて、GPL/LGPL/MPL/ITU-T ソフトウェアに対応する、機械により読み取り可能な完全なソースコード、および著作権表示のリストを頒布します。

上記記載内容へのお問い合わせや関連するソースコードの入手方法については、以下のホームページにあるお問い合わせフォームまたは巻末の電話番号へお問い合わせください。

<https://sol.panasonic.biz/visual/soudan>

## その他

### 画面について

本書では、画面の見かたや操作手順などの説明には、KX-VC2000J（拡張機能使用時）での表示画面を使用しています（一部でKX-VC1600Jの表示画面を使用しています）。KX-VC1300J、KX-VC1600J、

またはKX-VC2000J（標準時）では一部表示されない機能もありますが、あらかじめご了承ください。また、イラストについてはKX-VC1600Jのイラストを使用しています。

## 著作権について

- 本製品で使用されているソフトウェアは、Radvision Ltd. のソースコードを使用しています。Portions of this software are © 1996-2012 RADVISION Ltd. All intellectual property rights in such portions of the Software and documentation are owned by RADVISION and are protected by United States copyright laws, other applicable copyright laws and international treaty provisions. RADVISION and its suppliers retain all rights not expressly granted.
- GPL/LGPLその他に基づきライセンスされるオープンソースソフトウェアを除き、本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングは禁じられています。また、本製品に含まれるすべてのソフトウェアの輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

# もくじ

<b>安全上のご注意</b> .....	<b>12</b>
安全上のご注意 .....	12
<b>ご使用にあたってのお願いとお知らせ</b> .....	<b>17</b>
使用上のお願い .....	17
お客様の大切な情報を保護するために .....	18
プライバシー・肖像権について .....	19
個人情報の保護について .....	19
記号について .....	19
<b>準備</b> .....	<b>20</b>
<b>同梱物一覧・別売品</b> .....	<b>20</b>
付属品／添付品について .....	20
別売品について .....	21
<b>各部のなまえとはたらき</b> .....	<b>24</b>
本体（前面） .....	24
本体（背面） .....	25
リモコン .....	27
ランプ表示 .....	29
スクリーンスタンバイ .....	29
<b>接続と準備</b> .....	<b>31</b>
接続機器と環境 .....	31
本体を接続する .....	32
ネットワーク構成例 .....	38
リモコンの準備 .....	40
<b>電源を入れる／切る</b> .....	<b>41</b>
<b>画面の見かた</b> .....	<b>42</b>
ホーム画面（待ち受け画面） .....	42
メニュー画面（待ち受け画面） .....	46
通信中画面 .....	47
<b>入力について</b> .....	<b>50</b>
IPv6アドレスについて .....	50
初期設定 .....	51
<b>通信を開始する</b> .....	<b>55</b>
<b>発信する</b> .....	<b>55</b>
ホーム画面からワンタッチダイヤルで発信する .....	55
アドレス帳から発信する（2地点通信） .....	56
プロファイルから発信する（多地点通信） .....	58
宛先を直接入力して発信する .....	60

通信履歴から発信する .....	63
着信に応答する .....	66
MCUに接続する .....	68
<b>通信中の操作 .....</b>	<b>70</b>
通信中に拠点を追加する（子拠点以外） .....	70
通信中に拠点を追加する（親拠点以外） .....	72
通信中に拠点を切断する .....	73
通信中にコンテンツ送信方法を切り替える .....	74
通信中に画面レイアウトを変更する .....	75
相手拠点の分割画面レイアウトを変更する .....	75
MCU動作モードを変更する（親拠点のみ） .....	80
メイン表示の設定を変更する（親拠点のみ） .....	81
拠点名の表示を変更する（親拠点のみ） .....	83
接続先の音声設定を変更する（親拠点のみ） .....	83
音声の合成拠点の設定を変更する（親拠点のみ） .....	84
録画を開始・終了する .....	84
PC接続方法を表示する .....	85
多地点通信中に特定の子拠点と通話をする（親拠点のみ） .....	85
接続履歴を確認する .....	87
音量を調整する .....	88
マイク音声をマイクオフする .....	89
マイク付近のノイズを減らす .....	91
パソコンやサブビデオカメラの映像を共有する .....	92
<b>ビデオカメラを操作する .....</b>	<b>95</b>
ビデオカメラを操作する .....	95
プリセット登録をする .....	98
登録したプリセットを呼び出す .....	101
ビデオカメラの設定をする .....	103
<b>接続状況などを表示する .....</b>	<b>107</b>
接続状況を表示する .....	107
機器情報を表示する .....	108
<b>設定と登録 .....</b>	<b>109</b>
アドレス帳に登録する .....	109
新規に登録する .....	109
登録内容を編集する .....	110
登録を削除する .....	111
履歴から登録する .....	111
プロフィールに登録する .....	112
新規に登録する .....	112



登録内容を編集する .....	115
登録内容を削除する .....	116
プロフィール待受けを設定する .....	116
プロフィール待受けを解除する .....	117
<b>発信元の設定をする .....</b>	<b>117</b>
発信元を登録する .....	117
発信元を選択する .....	118
発信元情報を削除する .....	119
<b>システムの設定／保守をする .....</b>	<b>120</b>
拠点名を設定する .....	124
日時を設定する .....	124
ネットワークの設定をする .....	124
通信の設定をする .....	128
MCUの設定をする .....	131
ワンタッチダイヤルの設定をする .....	134
スクリーンスタンバイの設定をする .....	135
音の設定をする .....	135
マイク位置の設定をする .....	135
リモコンの設定をする .....	137
ビデオカメラの設定をする .....	138
言語の設定をする .....	139
録画の設定をする .....	140
USBデバイスモードの設定をする .....	140
Webハイブリッドモードの設定をする .....	142
片方向配信を利用する .....	143
機器情報を表示する .....	143
拡張機能の確認を行う .....	143
ネットワーク接続の確認を行う .....	143
自己診断を行う .....	144
ライセンス情報を表示する .....	144
使用許諾契約を表示する .....	144
リモートメンテナンスを行う .....	144
<b>管理者メニューの設定をする .....</b>	<b>146</b>
管理者メニューの一覧 .....	146
管理者パスワードの設定をする .....	150
暗号通信の設定をする .....	150
バージョンアップ確認の設定をする .....	151
接続モードを設定する .....	152
NATの設定をする .....	152
通信タイプの設定をする .....	154

SIPの設定をする .....	154
H.323の設定をする .....	155
コーデックの設定をする .....	156
セキュリティの設定をする .....	157
映像出力の設定をする .....	158
音声入出力の設定をする .....	160
GUIの設定をする .....	162
HDMI制御の設定をする .....	163
電源管理の設定をする .....	164
ショートカットを設定する .....	165
発信元選択の設定をする .....	165
配信木を設定する .....	165
アドレス帳を転送する .....	166
拡張機能を有効にする .....	167
ソフトウェアを更新する .....	168
ビデオカメラを初期化する .....	170
システムの初期化を行う .....	170
リモートアクセスの設定をする .....	170
データをエクスポートする .....	171
データをインポートする .....	172
<b>つながるねっとサービスを利用する .....</b>	<b>174</b>
<b>つながるねっとサービスを利用する .....</b>	<b>174</b>
接続にあたっての準備 .....	174
つながるねっとサービスの導入手順 .....	174
インターネットに接続する .....	176
Registration Key (レジストレーションキー) を取得する .....	176
MPR IDを確認する (本機での操作) .....	176
Registration Key (レジストレーションキー) を取得する (パソコンでの操作) .....	177
Registration Key (レジストレーションキー) を再表示させる (パソコンでの操作) .....	179
<b>モバイル接続拡張を利用する .....</b>	<b>183</b>
<b>モバイル接続拡張を利用する .....</b>	<b>183</b>
<b>片方向配信を利用する .....</b>	<b>184</b>
<b>片方向配信を利用する .....</b>	<b>184</b>
片方向配信とは .....	184
配信の動作について .....	185
配信開始 .....	185
配信終了 .....	185
配信中の障害への対応 .....	185

配信木について .....	186
ネットワークについて .....	186
システムの設定をする .....	187
配信の設定をする .....	187
管理者メニューの設定をする .....	187
配信木を登録する .....	187
配信を行う .....	191
配信を行う .....	191
配信先を選択して配信を行う .....	192
配信中の通信状況を確認する（配信端末） .....	194
配信中の通信状況を確認する（中継・受信端末） .....	194
配信中に録画を開始・終了する .....	195
<b>USB録画機能を利用する .....</b>	<b>196</b>
USB録画機能を利用する .....	196
<b>USBデバイスモードを利用する .....</b>	<b>199</b>
USBデバイスモードを利用する .....	199
<b>Webハイブリッドモードを利用する .....</b>	<b>201</b>
Webハイブリッドモードを利用する .....	201
<b>その他 .....</b>	<b>203</b>
リモコンの電池を交換する .....	203
お手入れ .....	204
<b>入力について .....</b>	<b>205</b>
文字や数字を入力する .....	205
<b>ポート番号について .....</b>	<b>217</b>
ポート番号について .....	217
<b>困ったとき .....</b>	<b>220</b>
基本動作について .....	220
音声について .....	228
機能の設定について .....	230
こんなメッセージが出たら .....	230
つながるねっとサービス登録ページについて .....	240
つながるねっとサービスの本機について .....	241
つながるねっとサービスでこんなメッセージが出たら .....	242
<b>仕様 .....</b>	<b>244</b>
おもなシステム仕様 .....	244
<b>保証とアフターサービス .....</b>	<b>247</b>
<b>索引 .....</b>	<b>249</b>

## 安全上のご注意

### 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



**警告**

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



**注意**

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



**警告**



#### 工事は販売店に依頼する

(工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。)

→ 必ず販売店に依頼してください。

#### 電源プラグやAC アダプターは根元まで確実に差し込む

(差し込みが不完全なまま使用すると、感電や発熱による火災の原因となります。)

→ 傷んだ電源プラグやAC アダプター、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

#### 電源コードは、必ずプラグ本体を持って抜く

(コードが傷つき、火災や感電の原因となります。)

#### 電源プラグを抜き差しするときは、電源プラグ(金属でない部分)を持って抜く

(感電の原因となります。)

#### 持ち運ぶときはコード類をすべて抜く

(コードに足をかけたりして、けがの原因となります。また、コードが傷つき火災や感電の原因となります。)

#### お手入れのときは電源を切る

(感電の原因となります。)

#### 電源プラグやAC アダプターのほこりなどは定期的にとる

(電源プラグやAC アダプターにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。)

→ 電源プラグやAC アダプターを抜き、乾いた布でふいてください。


**警告**
**異常があるときは、すぐ使用をやめる**

(煙が出る、においがするなど、そのまま使用すると火災の原因となります。)

→ 直ちに電源を切り、電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。

**電池の液がもれたときは、素手で液をさわらず、以下の処置をする**

→ 液が目に入ったときは、失明のおそれがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。

→ 液が身体や衣服に付いたときは、皮膚の炎症やけがの原因となるので、きれいな水で十分に洗い流したあと、医師にご相談ください。

**使い切った電池は、すぐにリモコンから取り出す**

(そのまま機器の中に放置すると、液もれ・発熱・破裂の原因となります。)

**禁止****可燃性ガスの雰囲気の中で使用しない**

(爆発によるけがの原因となります。)

**湿気やほこりの多い場所に設置しない**

(火災や感電の原因となります。)

**不安定な場所に置かない**

(落下や転倒によるけがや事故の原因となります。)

**付属のACアダプター（極性統一型プラグ）以外は使用しない**

(付属のACアダプター以外を使用すると、電圧や+-の極性が異なっていることがあるため、発煙・火災の原因となります。)

**付属のACコードは、他の製品に使用しない**

(火災や感電の原因となります。)

**コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100V以外での使用はしない**

(たこ足配線などで、定格を超えると、発熱による火災の原因となります。)

**落とさない、強い衝撃を与えない**

(けがや火災の原因となります。)






**異物を入れない**




(水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。)






→ 直ちに電源を切り、電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。

**リモコンを電子レンジに入れたり電磁調理機器などに置いたりしない**

(発熱・発煙・火災・破裂の原因となります。)

 <b>警告</b>	
 <b>禁止</b>	<p><b>AC コード・電源プラグ・AC アダプターを破損するようなことはしない</b>（傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、束ねるなど）                      （傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因となります。）                      → コード、プラグ、アダプターの修理は販売店へご相談ください。</p> <p><b>雷のときは工事、配線をしない</b>                      （火災や感電の原因となります。）</p> <p><b>電池は誤った使い方をしない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 乾電池は充電しない</li> <li>• 加熱・分解したり、水などの液体や火の中へ入れたりしない</li> <li>• +と-を金属などで接触させない</li> <li>• 金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管したりしない</li> <li>• +と-を逆に入れない</li> <li>• 新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使わない</li> <li>• 被覆のはがれた電池は使わない</li> <li>• 乾電池の代用として充電式電池を使わない</li> </ul> <p>（取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・爆発などを起こし、周囲汚損の原因となります。）                      → 電池には安全のために被覆をかぶせています。これをはがすとショートの原因となりますので、絶対にはがさないでください。                      → 電池を廃棄する場合は、各自治体の指示（地域の条例）に従って処理してください。</p>
 <b>分解禁止</b>	<p><b>分解しない、改造しない</b>                      （火災や感電の原因となります。）                      → 修理や点検は、販売店に依頼してください。</p> <p><b>AC アダプターを分解・修理・改造はしない</b>                      （火災・感電の原因となります。）                      → 修理は販売店へご相談ください。</p>
 <b>電源プラグを抜く</b>	<p><b>煙・異臭・異音が出たり、落下・破損したときは、電源を切り、電源プラグを抜く</b>                      （そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。）                      → 使用を中止し、販売店へご相談ください。</p>
 <b>接触禁止</b>	<p><b>雷が鳴ったら本機や電源プラグ・AC アダプターに触れない</b>                      （感電の原因となります。）</p>

 <b>警告</b>	
 ぬれ手禁止	<b>ぬれた手で、電源プラグやAC アダプターの抜き差しはしない</b> (感電の原因となります。)
 水ぬれ禁止	<b>水をかけたり、ぬらしたりしない</b> (火災や感電の原因となります。) → 直ちに電源を切り、電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。 <b>機器の上や周囲に水などの入った容器を置かない</b> (水などが中に入った場合、火災や感電の原因となります。) → 直ちに電源を切り、電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。

 <b>注意</b>	
	<p><b>配線は正しく行う</b> (ショートや誤配線により、けがの原因となります。)</p> <p><b>専用のAC コードやAC アダプターを使用する</b> (専用以外のAC コードやAC アダプターを使用すると、火災の原因となることがあります。)</p> <p><b>長期間使用しないときは、リモコンから電池を取り出す</b> (液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因となることがあります。)</p> <p><b>廃棄は専門業者に依頼する</b> (燃やすと化学物質などで目を痛めたり、火災、やけどの原因となります。)</p>
 <b>禁止</b>	<p><b>ケーブルなどを傷つけない</b> (重いものを載せたり、はさんだりすると、ケーブルが傷つき、けがの原因となります。)</p> <p><b>湿気や湯気・油煙・ほこりの多い場所では、使用しない</b> (火災・感電の原因となることがあります。)</p> <p><b>水平でない場所や振動の激しい場所では、使用しない</b> (落下により破損・けがの原因となることがあります。)</p> <p><b>ヘッドセット使用時は、音量を上げすぎない</b> (耳を刺激するような大きな音量では、聴力に悪い影響を与える原因となります。)</p> <p><b>通風孔、冷却ファンをふさがない</b> (内部に熱がこもり、火災の原因となります。)</p> <p><b>幼児の手の届く場所に設置しない</b> (けがの原因となります。)</p>
 <b>電源プラグを抜く</b>	<p><b>長期間使用しないときや、お手入れするときは、電源を切り、電源プラグを抜く</b> (漏電により、火災の原因となることがあります。)</p>
 <b>火気禁止</b>	<p><b>火気を近づけない</b> (火災の原因となることがあります。)</p>



## 使用上のお願い

本機をご使用になる際は、以下のことに注意してください。

1. **設置・増設・修理は、お買い上げの販売店へご相談ください。**
2. **機器に、強い衝撃や振動を与えないでください。**  
落としたりぶつかけたりして強い衝撃が加わると、故障や破損の原因になります。
3. **冷凍倉庫など特に温度の下がる場所に置かないでください。**  
故障や動作不良の原因になります。
4. **ラジオ、OA機器、電子レンジ、エアコンなどから約2 m以上離してお使いください。**  
機器からのノイズにより雑音の発生など悪影響を受ける・与える原因になります。
5. **直射日光、暖房設備、ボイラーなどの、特に温度の上がる場所に置かないでください。**  
機器表面や部分が変形・劣化するほか、故障の原因になります。
6. **硫化水素、リン、アンモニア、硫黄、炭素、酸、塵埃、有毒ガスなどの発生する場所に置かないでください。**  
故障や機器の寿命が短くなる原因になります。
7. **殺虫剤などの揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品などに長時間付着させたままにしないでください。**  
変質したり、塗料がはげる原因になります。
8. **キャッシュカード、テレホンカードなどの磁気カード類をマイクに近づけないでください。**  
カード類が使えなくなることがあります。
9. **電磁波発生源や磁気を帯びたもの（高周波マシン・電気溶接機・磁石など）に近づけないでください。**  
雑音の発生や故障の原因になります。
10. **周囲の壁面から10 cm以上離してお使いください。**  
壁面に密着させると、機器の放熱効果が悪くなり、動作異常を起こす可能性があります。

11. **湿気の多い場所でのご使用や、雨などがかかることは避けてください。また、水滴または水沫のかからない状態で使用してください。**  
本機および電源プラグは防水仕様にはなっておりません。
12. **電源プラグは抜き差しが容易にできる近くの電源コンセントに接続してください。**
13. **映像周波数切り替えスイッチ（Videoスイッチ）がご使用地域の映像周波数になっているか確認してください。**
14. **本機は内部に電池が組み込まれています。**  
電池は、日光、火などにより過度の熱にさらされる環境に放置しないでください。
15. **本機の識別および電源、その他の表示は機器底面をご覧ください。**
16. **付属の電源コードは本機専用です。他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。**

## 使用環境について

本機には、使用環境に合わせて、自動的に相手の声を聞き取りやすく調整する機能があります。通信開始直後は、本機が使用環境に適応できていない場合があり、音が途切れたり、エコー（自分の声がスピーカーから聞こえる現象）が発生することがあります。そのため、通信開始直後は、相手と交互にお話ください。

## 移動について

コード類を接続した状態で移動しないでください。コード類の破損の原因になります。

## その他

- この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

- この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品です。
- 停電すると、本機は使えません。

## お客様の大切な情報を保護するために

お客様固有の情報の流出による、不測の損害を回避するため、下記事項をお守りください。  
本機の不正使用による損害に対し、当社は責任を負いかねます。

### 情報の損失を防ぐために

登録したアドレス帳および設定した暗号鍵の内容は、メモなどに控えるようにしてください。

### 情報の流出を防ぐために

- 不特定多数の人が出入りするような場所に、本機を放置しないようにしてください。
- 重要な情報を保存する場合は、本機を適切な場所で管理するようにしてください。
- 重要な個人情報は、本機に登録しないようにしてください。
- 下記のような場合は、アドレス帳および設定した暗号鍵の内容など、必要な利用者情報はメモなどに控え、本機をお買い上げ時の状態に初期化してください（170 ページ）。
  - 本機を譲渡・廃棄する場合
  - 本機を貸し出す場合
  - 本機を修理に出す場合
- 本機を修理に出す場合は、お買い上げの販売店へ依頼するようにしてください。

本製品は、お客様固有のデータ（アドレス帳、暗号鍵、発着信履歴など）を登録または保持可能な製品です。製品内のデータ流出などの不測の損害などを回避するために、本製品を廃棄（または譲渡、返却）される際には、製品内に登録または保持されたデータを必ず消去してください（170 ページ）。

### ネットワーク上での情報の漏えいを防ぐために

- 重要な会議に使用する場合は、盗聴対策のとられているネットワーク上で本機を使用してください。
- 本機は、適切に管理されたLAN上で使用し、不正アクセスが行われないようにしてください。
- 本機と接続するパソコンのセキュリティーは、常に最新の状態にしてください。

## プライバシー・肖像権について

本機の設置や利用につきましては、ご利用されるお客様の責任で被写体のプライバシー（マイクで拾われる音声に対するプライバシーを含む）、肖像権などを考慮のうえ、行ってください。

- 「プライバシーは、私生活をみだりに公開されないという法的保障ないし権利、もしくは自己に関する情報をコントロールする権利。また、肖像権は、みだりに他人から自らの容ぼう・姿態を撮影されたり、公開されない権利」と一般的に言われています。
- 着信時の応答方法で、自動応答または強制応答を設定すると、相手先からの着信と同時に通信が始まります（128 ページ）。着信側は、予定外の時刻や予定外の相手先からの着信においても同様に通信が開始されます。自動応答機能または強制応答機能をオンにする場合は、予期せぬ自動着信によりプライバシー・肖像権の侵害、機密情報の漏えいの恐れがありますのでご注意ください。

## 個人情報の保護について


本機を使用したシステムで撮影された本人が判別できる情報は、「個人情報の保護に関する法律」で定められた「個人情報」に該当します。※

法律に従って、映像情報を適正にお取り扱いください。


※個人情報保護委員会の「個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン（通則編）」における【個人情報に該当する事例】を参照してください。

## 記号について

本機などで示される記号の意味を説明しています。

 直流を示します。

 交流を示します。

 表面が熱くなり、やけどする恐れのある箇所を示します。

## 同梱物一覧・別売品



### 付属品／添付品について

次のものが付属／添付されていますのでご確認ください。

#### 付属品

<p>ACアダプター (極性統一形プラグ) (数量：1)</p>	<p>ACコード (数量：1)</p>
	
<p>品番：PGLV1017 (KX-VC2000J) PGLV1006 (KX-VC1300J、 KX-VC1600J)</p>	
<p>リモコン (数量：1)</p>	<p>電池 (単3形マンガン乾電池) (数量：2)</p>
	
<p>品番：N2QAYB001002</p>	

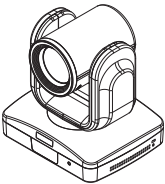
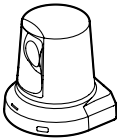
## 添付品

安全上のご注意と お知らせ (数量：1)	保証書 (数量：1)
	


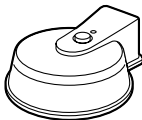
## 別売品について

別売品として以下の製品を用意しています。

### 専用メインカメラ

専用メインカメラ 光学12倍／デジタル10倍ズーム パン／チルト対応	専用メインカメラ 光学3倍／デジタル4倍ズーム パン／チルト対応
	
品番：KX-VD170J	品番：GP-VD131J

## バウンダリーマイクロホン

バウンダリーマイクロホン (デジタルインターフェイスタイプ) (専用ケーブル同梱 ケーブル長：約8.5 m)	バウンダリーマイクロホン (アナログインターフェイスタイプ) (専用ケーブル同梱 ケーブル長：約7 m)
	
品番：KX-VCA001	品番：KX-VCA002

### お知らせ

- 本書ではバウンダリーマイクロホンを「専用マイク」と記載しています。また、バウンダリーマイクロホン（デジタルインターフェイスタイプ）を「専用デジタルマイク」、バウンダリーマイクロホン（アナログインターフェイスタイプ）を「専用アナログマイク」と記載しています。

## アクティベーションキー

アクティベーションキーにより、以下のような機能の拡張ができます。設定については「拡張機能を有効にする」を参照してください（167 ページ）。

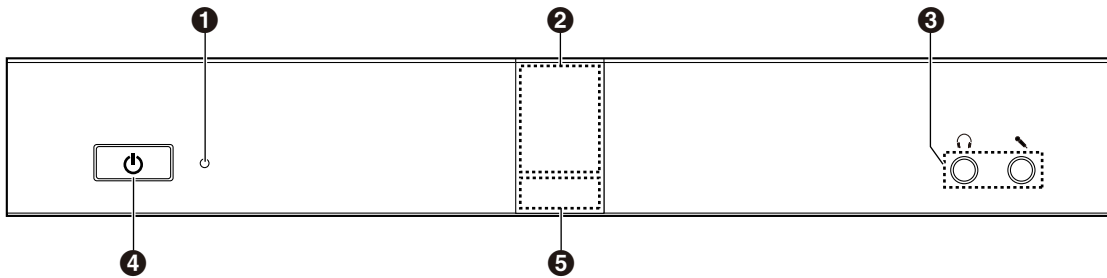
品番 (Model No.)	製品名	種類 (Activation Key Type)	対象モデル	内容
KX-VCS302W	アクティベーションキー（片方向配信拡張）	片方向配信拡張	KX-VC1300J KX-VC1600J KX-VC2000J	片方向配信機能を有効にします
KX-VCS304W	アクティベーションキー (KX-VC1600J 4地点接続拡張)	4地点接続拡張	KX-VC1600J	6地点（デフォルト）から10地点接続に機能を拡張します
KX-VCS305W	アクティベーションキー (KX-VC2000J 4地点接続拡張)	4地点接続拡張	KX-VC2000J	16地点（デフォルト）から20地点接続または24地点接続に機能を拡張します
KX-VCS351W	アクティベーションキー（モバイル接続拡張）	モバイル接続拡張	KX-VC1300J KX-VC1600J	HDコムモバイル端末を標準モードで接続します

品番 (Model No.)	製品名	種類 (Activation Key Type)	対象モデル	内容
KX-VCS352W	アクティベーション キー (KX-VC2000J モバイル接続拡張)	モバイル接続拡張	KX-VC2000J	HDコムモバイル 端末を標準モード で接続します
KX-VCS701W	アクティベーション キー (つながるねっ と1年)	有効期限1年延長	KX-VC1300J KX-VC1600J KX-VC2000J	つながるねっと サービスの利用期 間を延長します
KX-VCS703W	アクティベーション キー (つながるねっ と3年)	有効期限3年延長	KX-VC1300J KX-VC1600J KX-VC2000J	つながるねっと サービスの利用期 間を延長します
KX-VCZ501	USBデバイスモード 拡張キット <sup>*1</sup>	USBデバイス モード拡張	KX-VC1300J KX-VC1600J KX-VC2000J	USBデバイスモー ド機能を有効にし ます
KX-VCZ502	Webハイブリッド モード拡張キット <sup>*1</sup>	Webハイブリッド モード拡張	KX-VC1300J KX-VC1600J KX-VC2000J	Webハイブリッド モード機能を有効 にします

\*1 アクティベーションキーと専用USB変換ケーブルが付属します。

# 各部のなまえとはたらき

## 本体（前面）



### ① 電源ランプ

電源の状態を表示します。ACアダプターから給電されているときは緑または赤色に点灯し、給電されていないときは消灯しています。

### ② リモコン受信部

リモコンからの信号を受信します。最大受信範囲は本体正面で約8 m、左右それぞれ約20° の位置で約3 mです。

### ③ ヘッドセット入出力端子

ヘッドセットを接続するときに使用します（35 ページ）。

### お知らせ

- ヘッドセットを接続した場合、相手側の音声はヘッドセットから聞こえます。テレビやスピーカーからは聞こえません。ただし、「自音声の出力」を「HDMI」に設定している場合、音声はヘッドセットではなくHDMIに出力されます。（161 ページ）
- ヘッドセットを接続した場合、相手側に送る音声は、同時に接続している機器によって次のとおり異なります。

同時に接続している機器	相手に送る音声
専用マイク	ヘッドセットのマイクのみ音声を拾います。専用マイクは音声を拾いません。
汎用マイク	汎用マイクとヘッドセットのマイクが同時に音声を拾います。
専用マイクと汎用マイク	汎用マイクとヘッドセットのマイクが同時に音声を拾います。専用マイクは音声を拾いません。

### ④ 電源ボタン

電源の「入／切」を行います（41 ページ）。

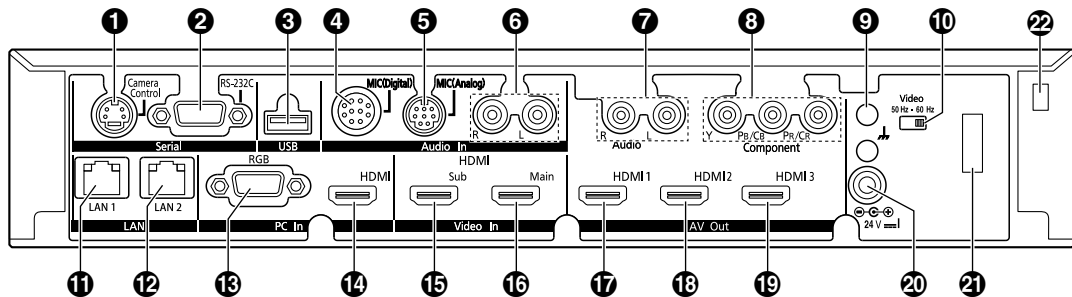
### ⑤ 状態ランプ

本体の状態を表示します（29 ページ）。

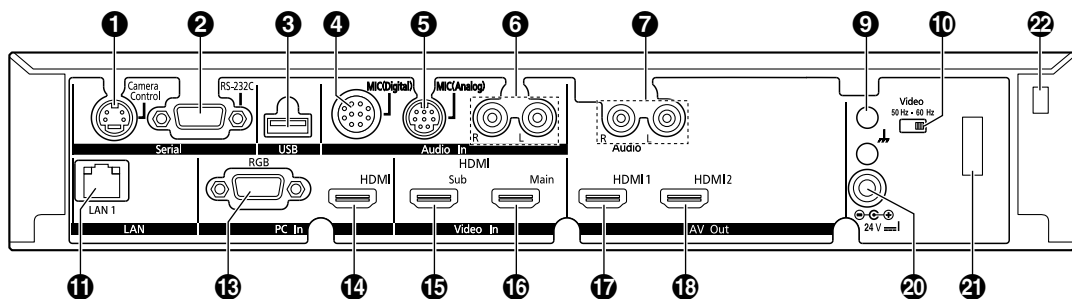


## 本体（背面）

KX-VC1600J, KX-VC2000J



KX-VC1300J



### ① Camera Control端子（カメラ制御端子）

使用しません。

### ② RS-232C端子

通常は使用しません。メンテナンス用パソコンを接続するときに使用します。

### ③ USB端子

動作ログや録画の保存、ソフトウェア更新でUSBメモリーを接続するときに使用します（171 ページ、196 ページ、168 ページ）。または、USBデバイスモード（199 ページ）とWebハイブリッドモード（201 ページ）で使用します。

### ④ MIC (Digital)端子（専用デジタルマイク端子）（32 ページ）

専用デジタルマイク（別売品）（22 ページ）を接続するときに使用します。

### ⑤ MIC (Analog)端子（専用アナログマイク端子）（33 ページ）

専用アナログマイク（別売品）（22 ページ）を接続するときに使用します。

### ⑥ Audio In L/R端子（音声入力端子）（33 ページ）

専用マイク以外の汎用マイクをライン入力で接続するときに使用します。

### ⑦ Audio Out L/R端子（音声出力端子）

アンプ・アクティブスピーカーを接続するときに使用します（37 ページ）。またはHDMI端子を持たないテレビのスピーカーを使用して音声を出力するときに使用します（37 ページ）。

### ⑧ Component端子（映像出力端子）（KX-VC1600J, KX-VC2000J）（37 ページ）

テレビをコンポーネントケーブルで接続するときに使用します。

### ⑨ 機能アース端子

ノイズが多い場合、アース（接地）を取り付けるときに使用します。

**⑩ Videoスイッチ**

本体の映像周波数を設定します。  
接続する機器の映像周波数と同一に設定します（日本国内は通常60 Hzです）。

**⑪ LAN1ジャック (33 ページ)**

LANケーブルを接続します。

**⑫ LAN2ジャック (KX-VC1600J、KX-VC2000J) (33 ページ)**

LANケーブルを接続します（LAN1と別のネットワークに接続するときに使用します）。

**⑬ RGB端子 (PC端子) (36 ページ)**

コンテンツを共有するためのパソコンを接続するときに使用します。

**⑭ HDMI端子 (PC端子) (36 ページ)**

コンテンツを共有するためのパソコンを接続するときに使用します。

**⑮ Sub端子 (サブカメラ端子) (36 ページ)**

メインビデオカメラとは別に、コンテンツを共有するためのビデオカメラ（サブビデオカメラ）をHDMIケーブルで接続するときに使用します。

**⑯ Main端子 (メインカメラ端子) (32 ページ)**

ビデオカメラ（メインビデオカメラ）をHDMIケーブルで接続します。

**⑰ HDMI1端子 (テレビ端子) (32 ページ)**

テレビをHDMIケーブルで接続するときに使用します。

**⑱ HDMI2端子 (テレビ端子) (32 ページ)**

テレビをHDMIケーブルで接続するときに使用します。HDMI2端子を使用するためには、設定が必要です（159 ページ）。

**⑲ HDMI3端子 (テレビ／録画端子) (KX-VC1600J、KX-VC2000J) (32 ページ)**

テレビや録画機器をHDMIケーブルで接続するときに使用します。  
自拠点映像と録画映像を切り替えることができます。

**⑳ DC IN端子 (33 ページ)**

専用ACアダプターのDCコードを接続します。

**お知らせ**

- KX-VC2000Jでは極性のマークを次のように表示する場合があります。

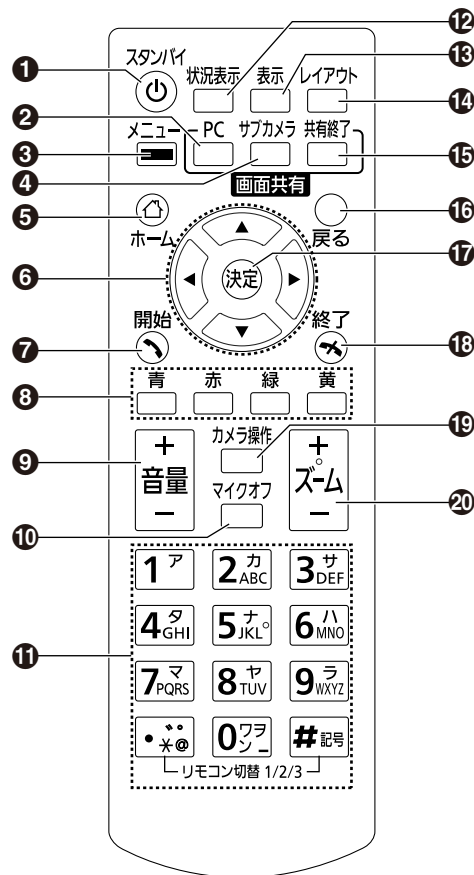
**㉑ フック**

DC IN端子の抜け防止に使用します。

**㉒ 盗難防止ワイヤー取付穴**

盗難防止用ワイヤー金具（市販品）を取り付けます。

## リモコン



- ① 画面への映像出力を停止するときを使用します。(29 ページ)  
長押し (1秒) することにより本体電源をオン/オフすることができます。通信中は本体電源をオフにすることはできません。
- ② 通信中に通信相手とパソコンの画面を共有するときを使用します。非通信中に使用した場合は、自分の画面にのみパソコンの画面が表示されます。(92 ページ)
- ③ メニュー画面を表示するときを使用します。(46 ページ)
- ④ 通信中に通信相手とサブビデオカメラの映像を共有するときを使用します。非通信中に使用した場合は、自分の画面にのみサブビデオカメラの映像が表示されます。(92 ページ)
- ⑤ ホーム画面を表示するときを使用します。(42 ページ)
- ⑥ カーソルまたはビデオカメラのPT (パン: 左右移動、チルト: 上下移動) を移動したり、項目を選ぶときに使用します。
- ⑦ 発信をするときや、手動で着信に応答するときを使用します。(55 ページ、66 ページ)
- ⑧ それぞれのボタンに割り当てられた機能を実行するときを使用します。実行可能な機能はガイドエリアに表示されます。(47 ページ)
- ⑨ 通信中に音量を調整するときを使用します。【+】を押すと大きくなり、【-】を押すと小さくなります。(88 ページ)
- ⑩ 通信中に自分の声を相手に聞こえないようにするときを使用します。(89 ページ)

- ⑪ 文字や数字を入力するときに使用します。(205 ページ)
- ⑫ ネットワークや周辺機器の接続状況を表示するときに使用します。(107 ページ)
- ⑬ ホーム画面や通信中画面で、ガイドエリアなどの情報を表示／非表示するときに使用します(42 ページ、47 ページ)。ホーム画面は「**ホームのガイド表示**」を「**しない**」に設定すると、表示／非表示の切り替えができます(162 ページ)。
- ⑭ 通信中に画面レイアウトを変更するときに使用します。(75 ページ)
- ⑮ コンテンツ共有時にパソコンの画面やサブビデオカメラの映像をメインビデオカメラの映像に切り替えるときに使用します。(92 ページ)
- ⑯ ひとつ前の画面に戻るときに使用します。
- ⑰ 選んだ項目や入力した内容を決定するときに使用します。
- ⑱ 通信を終了するときに使用します。
- ⑲ カメラ操作画面を表示します。(96 ページ)
- ⑳ 自分側または相手側カメラのズーム(拡大・縮小)操作するときに使用します。(95 ページ)

## ランプ表示

ランプ表示で本体の状態を確認することができます。

電源ランプ	状態ランプ	本体の状態
消灯	消灯	• AC電源OFF（ACアダプターからの給電なし）
赤（点灯）	消灯	• AC電源ON（電源ボタンOFF）
緑（点滅）	青（点滅）	• 起動途中
赤（点滅）	消灯	• ハード障害発生中
緑（点灯）	青（点滅）	• 起動状態 • 待ち受け状態
緑（点灯）	青（点灯）	• 通信中
緑（点灯）	黄（点灯）	• 自己診断中
緑（点灯）	赤（点灯）	• 障害発生中 • 保守メンテナンス中 • バージョンアップ中
緑（点灯）	赤（点滅）	• 重大な障害発生中
赤（点灯）	赤（点滅）	• 冷却ファン停止（KX-VC2000Jのみ）
緑（点灯）	消灯	• スクリーンスタンバイ状態

## スクリーンスタンバイ

通信していない状態でリモコンの操作を約10分間（デフォルト）行わなかった場合、またはリモコンの【スタンバイ】を押すと、スクリーンスタンバイ状態になります。スクリーンスタンバイ状態になるとテレビへの映像の出力が停止され、状態ランプが消灯します。

リモコンの操作を行ったり、着信があると、スクリーンスタンバイ状態は解除されます。

### お願い

- 本機でスクリーンスタンバイ状態を解除しても、映像が映らないときは、テレビやビデオカメラの省電力機能を解除してください。解除のしかたは、それぞれの取扱説明書を参照してください。

### お知らせ

- スクリーンスタンバイ状態に移行するまでの時間を変更することができます（135 ページ）。
- リモコンの操作をある一定期間行わなくても、パソコン画面またはサブビデオカメラの映像を自分のテレビに表示している間は、スクリーンスタンバイ状態に移行しません。
- リモコンの操作を行ってスクリーンスタンバイ状態を解除した場合は、常にホーム画面が表示されます。
- スクリーンスタンバイ状態のとき、リモコンの操作を行ってもスクリーンスタンバイ状態が解除されるだけで、操作したボタンの機能は実行されません。
- アドレス帳登録画面などの編集作業中にスクリーンスタンバイ状態へ移行した場合は、保存していない変更は破棄されます。

- スクリーンスタンバイ状態を解除して、映像が映るまでに、約7秒かかります。  
(かかる時間はお使いのテレビの種類により異なります。)
- USB録画中、USBデバイスモード中、Webハイブリッドモード中は、スクリーンスタンバイ状態に移行しません。

## 接続と準備

### 接続機器と環境

ビデオ会議を行うためには、本機の他にビデオカメラ、テレビ、専用マイク／汎用マイク、接続用ケーブルが必要です。

専用マイク以外の機器は、以下の条件を満たしている必要があります。

機器	条件
ビデオカメラ	HDMI出力あり（解像度：1080p／1080i／720p）
テレビ*1	HDMI／コンポーネント／D端子（コンポーネント-D端子変換）入力あり 映像周波数が本体と同じであること
汎用マイク	ラインレベル出力（マイクレベル出力の場合は、マイクアンプ経由）

\*1 HDMI端子とComponent端子の両方にテレビを接続する場合は、同じ解像度を持つテレビを接続してください（160 ページ）。

### ケーブル

以下の市販品のケーブルをご準備ください。

#### HDMIケーブル：

カテゴリー2（HIGH SPEED）推奨

#### お知らせ

- HDMI 端子の接続には、HDMI ロゴが表記されているケーブル（HDMI認証品）をお使いください。HDMI ロゴが表記されていないケーブル（HDMI 非認証品）を使用すると、正しく動作しない場合があります。勘合性のよいHDMIケーブルをお使いください。

#### LANケーブル：

1000BASE-T、100BASE-TX、10BASE-T  
全二重  
カテゴリー5以上

#### VGAケーブル（コンテンツ共有時のパソコン接続用）：

ミニD-Sub 15ピン

#### お知らせ

- 本体のコネクター形状と、ご使用のパソコンのコネクター形状を確認してケーブルを準備してください。

ステレオピンプラグケーブル（汎用マイク／アンプ／アクティブスピーカー／テレビ【HDMI端子なし、スピーカー付き】接続用）：

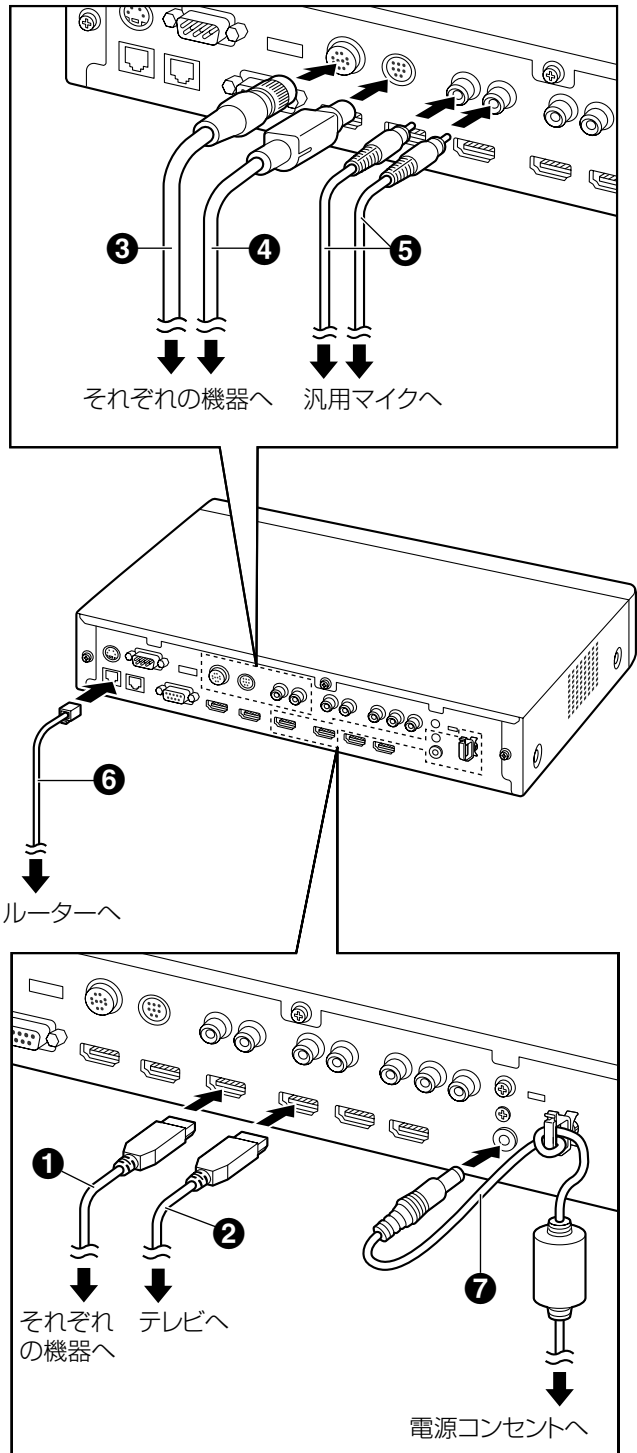
RCAプラグ

### ネットワーク環境

インターネットを経由して本機を利用するには、ブロードバンド回線による接続が必要です。

## 本体を接続する

ここではメインビデオカメラ、テレビ、マイク、LANケーブル、ACアダプター、ACコードの接続のしかたを説明します。



### お願い

- 必ず付属のACコードを使用してください。

### お知らせ

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。

#### 1 メインビデオカメラを接続する

- HDMIケーブル(①)でメインビデオカメラと本体背面のMain端子をつないでください。

#### 2 テレビを接続する

- HDMIケーブル(②)でテレビと本体背面のHDMI1~3端子をつないでください。

### お知らせ

- 本体背面のHDMI3端子は、自撮り映像と録画データを切り替えて出力します。録画する場合は録画機器をHDMI3端子に接続し、出力の設定を録画にしてください。(160ページ)
- パナソニック(株)製テレビの場合は、次の確認をしてください。
  - 業務用PDPの設定例：「画面位置/サイズメニュー」で水平・垂直位置/サイズを調整してください。音声の調整、音量オートおよびサラウンドをオフに設定してください。
  - 民生用テレビの設定例：「設定する」の「画面の設定」の「HD表示領域」を「フルサイズ」に設定してください。
- 接続するテレビがHDMIに対応していない場合は、コンポーネントケーブルをお使いください。コンポーネントケーブル使用時は、音声信号は伝送されませんので、アンペア/アクティブスピーカーを接続するか、テレビのスピーカーを使用してください。
- テレビの設定で「ゲームモード」がある場合は、「ゲームモード」に設定してください。音声遅延が緩和される場合があります。

#### 3 マイクを接続する

#### 専用デジタルマイク(別売品)

専用ケーブル(③)で専用デジタルマイクと本体背面のMIC(Digital)端子をつないでください。

- 必ず専用デジタルマイクに付属のケーブルを使用してください。



- 専用ケーブルのコネクター部をカチッと音がなるまで押して回してください。接続できない場合は、コネクター部の上下を反転させて、再度実施ください。

### 専用アナログマイク（別売品）

専用ケーブル（④）で専用アナログマイクと本体背面のMIC (Analog)端子をつないでください。

- 必ず専用アナログマイクに付属のケーブルを使用してください。
- 専用ケーブルコネクター部の矢印の部分を上に向けて差し込んでください。専用ケーブルを抜くときは、コネクター部をしっかりと持って引き抜いてください。

### 汎用マイク

マイクアンプなどでラインレベルまで信号レベルを増幅してから、ステレオピンプラグケーブル（⑤）で汎用マイクと本体背面のAudio In L/R端子をつないでください。

- 左チャンネル（L）、右チャンネル（R）を確認して、接続してください。

### お知らせ

- 専用マイクと汎用マイクをともに接続した場合は、両方のマイクからの音声入力があります。
- ヘッドセットを接続する場合は35 ページを参照してください。

## 4 ネットワークに接続する

- カテゴリ5以上のLANケーブル（⑥）でハブ、ルーターと本体背面のLANジャックをつないでください。

### お知らせ

- ハブ、ルーターの設定はオートネゴシエーションに設定してください。
- 半二重に設定されたハブ、ルーターに接続しないでください。
- ルーターおよびDCE（回線終端装置）の詳細については、それぞれの取扱説明書を参照してください。

## 5 専用ACアダプターとACコードを接続する

- 必ず本体に付属のACコードを使用してください。

## 6 専用ACアダプターのDCコード（⑦）を本体背面のDC IN端子に差し込む

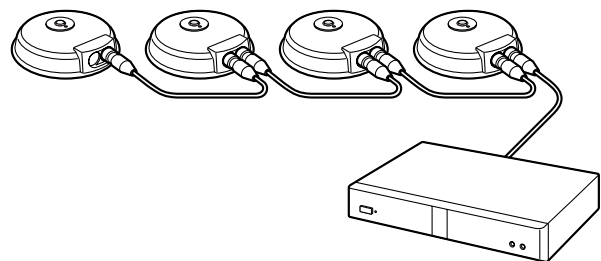
- 必ず本体に付属の専用ACアダプターを使用してください。
- DCコードを抜け防止のフックに巻きつけてください。

## 7 電源プラグを電源コンセントに差し込む

- 電源プラグは、抜き差しが容易にできる近くの電源コンセントに接続してください。

### 専用デジタルマイクについて

専用デジタルマイクは4台までカスケード接続できます。マイク側の端子に入力／出力の区別はありません。また、専用アナログマイク、汎用マイクと同時に使えます。



### お知らせ

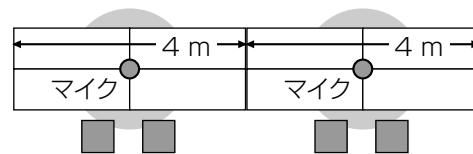
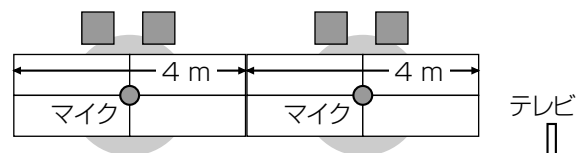
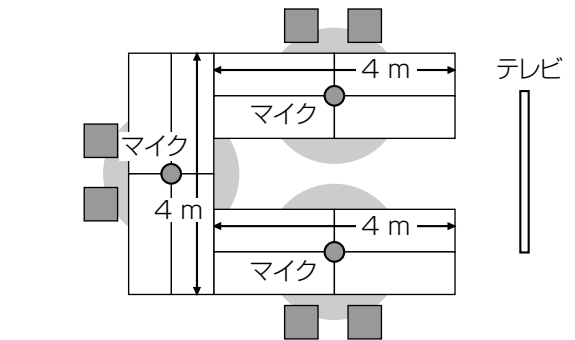
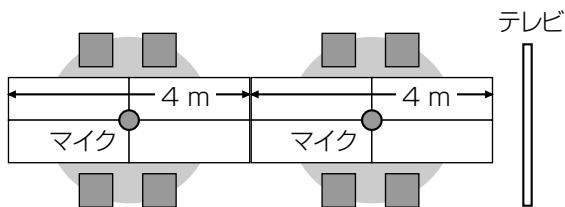
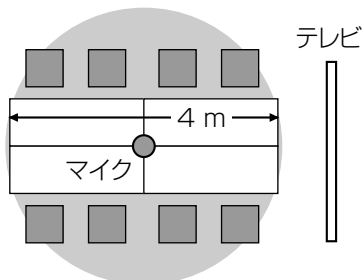
- マイクは、テレビ、スピーカーから1 m以上離して設置してください。
- 専用デジタルマイクを5台以上接続しないでください。接続すると専用デジタルマイクからの音声入力がすべて機能しなくなります。また、専用アナログマイクを同時に接続している場合、専用アナログマイクからの音声入力もすべて機能しなくなります。
- 次の条件をすべて満たす場合、相手側に送る音声はステレオになります。それ以外の場合はモノラルになります。
  - HD映像コミュニケーションユニットでの2地点通信中で、帯域が約1.8 Mbps以上の場合
  - ステレオで集音するように、マイク位置を自動または手動で設定した場合

- ヘッドセットを接続した場合、ヘッドセットのマイク音声優先され、専用デジタルマイクは音声を拾わなくなります。

使用する会議室の騒音レベルとマイクの数によって、マイク1台あたりの集音範囲（マイクを中心とした半径）は異なります。次の表を参考にマイクを配置してください。

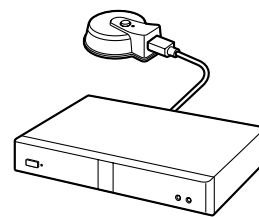
騒音レベル/ マイク	静かな会議室 (40 dBsplA)	通常の会議室 (45 dBsplA)	騒がしい会議室 (50 dBsplA)
1台	約3 m	約2.2 m	約1.2 m
2台	約2.8 m	約1.5 m	約1 m
3台	約2.3 m	約1.3 m	—
4台	約2 m	約1.1 m	—

レイアウト例（通常の会議室）（グレーの円が集音範囲を示しています。）：



### 専用アナログマイクについて

1台の専用アナログマイクを接続できます。また、専用マイクはデジタル・アナログ併せて最大5台のマイクを接続できます。



### お知らせ

- マイクは、テレビ、スピーカーから1 m以上離して設置してください。
- マイクのコネクターを必ずテレビ側に向けて設置してください。
- 次の条件をすべて満たす場合、相手側に送る音声はステレオになります。それ以外の場合はモノラルになります。

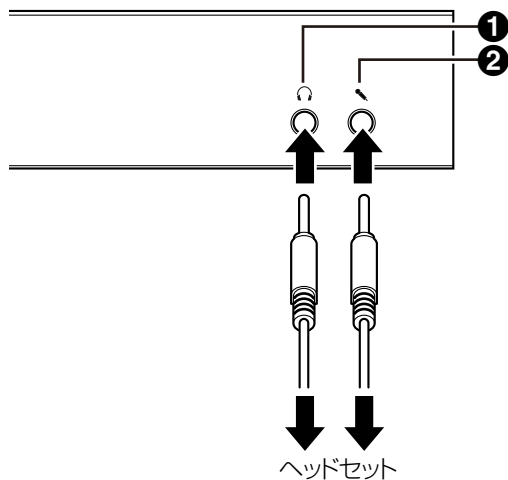
- HD映像コミュニケーションユニットでの2地点通信中で、帯域が約1.8 Mbps以上の場合
- 専用デジタルマイクと同時に接続しない場合
- ヘッドセットを接続した場合、ヘッドセットのマイク音声優先され、専用アナログマイクは音声を拾わなくなります。

使用する会議室の騒音レベルによって、マイクの集音範囲（マイクを中心とした半径）は異なります。次の表を参考にマイクを配置してください。

騒音レベル／マイク	静かな会議室 (40 dBsplA)	通常の会議室 (45 dBsplA)	騒がしい会議室 (50 dBsplA)
1台	約2 m	約1.5 m	約1 m

### ヘッドセットについて

本体前面のヘッドセット入出力端子に、ヘッドセットを接続します。



### お知らせ

- ヘッドホンコネクタ（①）、マイクコネクタ（②）を確認して、接続してください。
- 専用マイクとヘッドセットを同時に接続した場合、ヘッドセットのマイク音声優先され、専用マイクは音声を拾わなくなります。
- 汎用マイクとヘッドセットを同時に接続した場合、両方のマイクが音声を拾います。
- ヘッドセットを接続した場合、テレビやスピーカーからの音声は聞こえません。

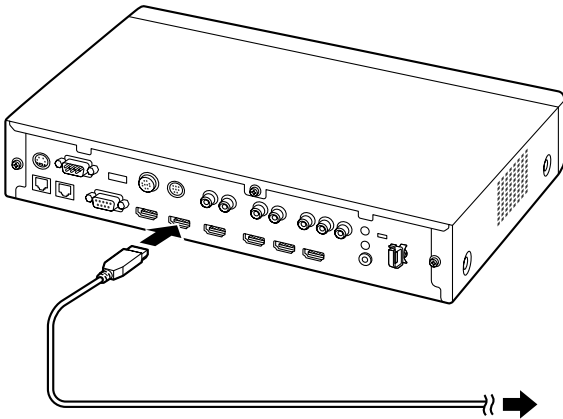
- HDMI3を録画／録音端子としてご使用の場合は、ヘッドセットを接続しても音声が出力されません。（KX-VC1600J、KX-VC2000J）
- 3極ステレオミニプラグ専用です。

## サブビデオカメラの接続

ここではサブビデオカメラの接続のしかたを説明します。サブビデオカメラで撮影した映像は、すべての地点で共有できます。

### 1 サブビデオカメラを接続する

- HDMIケーブルでサブビデオカメラと本体背面のSub端子をつないでください。



#### お知らせ

- サブビデオカメラは通信中に接続したり、取り外すことができます。

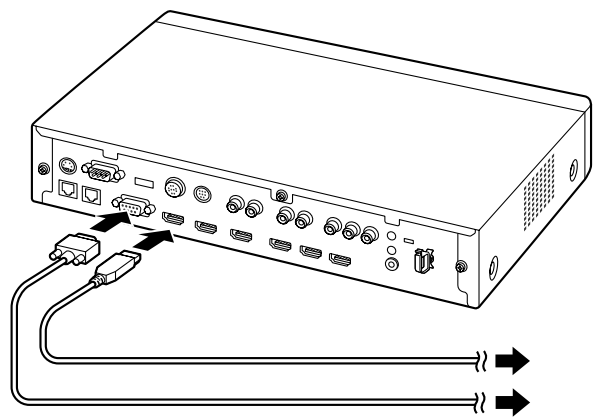
## パソコンの接続

ここではパソコンの接続のしかたを説明します。パソコンを接続することで、パソコン画面の映像をテレビに映しながら通信することができます。

パソコンの映像は、すべての地点で共有できます。

### 1 パソコンを接続する

- HDMIケーブルでパソコンと本体背面のHDMI端子をつないでください。
- HDMI端子のないパソコンの場合は、VGAケーブルでパソコンと本体背面のRGB端子をつないでください。

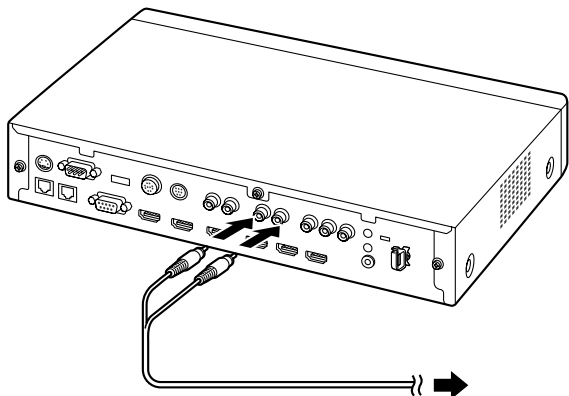


#### お知らせ

- パソコンは通信中に接続したり、取り外すことができます。
- パソコン画面共有に対応している解像度はVGA (640 × 480)、SVGA (800 × 600)、XGA (1024 × 768)、HD (1280 × 720)、WXGA (1280 × 768、1280 × 800)、SXGA (1280 × 1024)、FWXGA (1360 × 768、1366 × 768)、WXGA+ (1440 × 900)、WXGA++ (1600 × 900)、UXGA (1600 × 1200)、WSXGA+ (1680 × 1050)、Full-HD (1920 × 1080) です。
- HDMIケーブルとVGAケーブルの両方が接続されている場合は、HDMIケーブルで接続されているパソコンの映像が表示されません。

## アンプ／アクティブスピーカーの接続

ここではアンプ／アクティブスピーカーの接続のしかたを説明します。



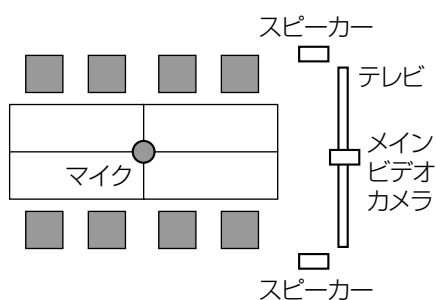
- 1 ステレオプラグケーブルでアンプ／アクティブスピーカーと本体背面のAudio Out L/R端子をつないでください。

### お知らせ

- 左チャンネル (L)、右チャンネル (R) を確認して、接続してください。
- アンプおよびアクティブスピーカーの詳細については、それぞれの取扱説明書を参照してください。

配置例：

以下のようにテレビの両側にスピーカーを配置してください。

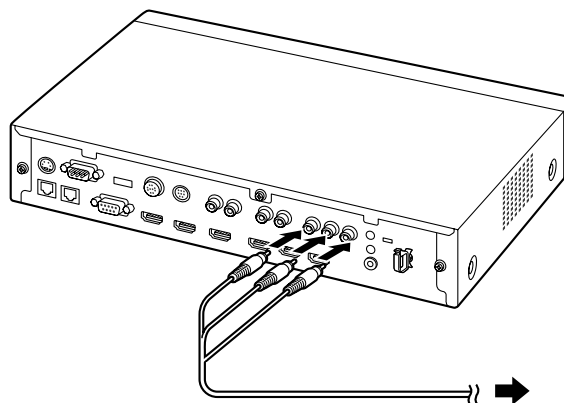


### お願い

- テレビの両側にスピーカーを配置してください。会議室の前方にテレビ、後方にスピーカーを配置すると、相手に送る映像に対して音の左右が逆転するため、相手側では、音の左右が映像と一致しくなくなります。

## コンポーネントケーブルでのテレビの接続

テレビがHDMI端子を持たない場合は、コンポーネントケーブルで接続してください。



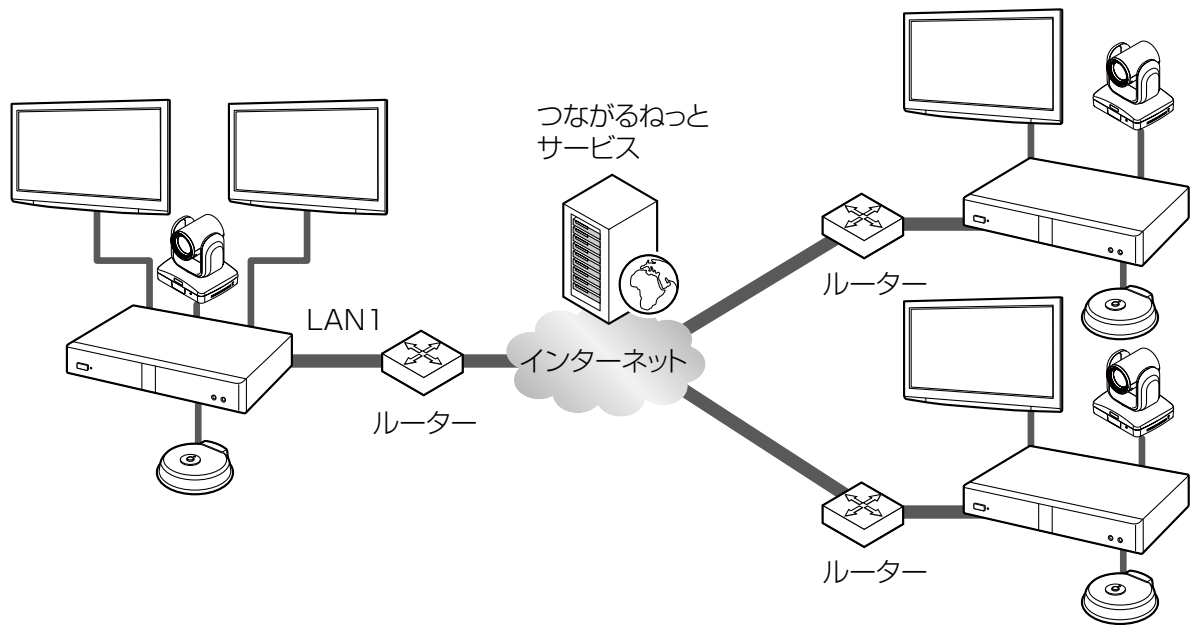
- 1 コンポーネントケーブルでテレビと本体背面のComponent端子をつないでください。

### お知らせ

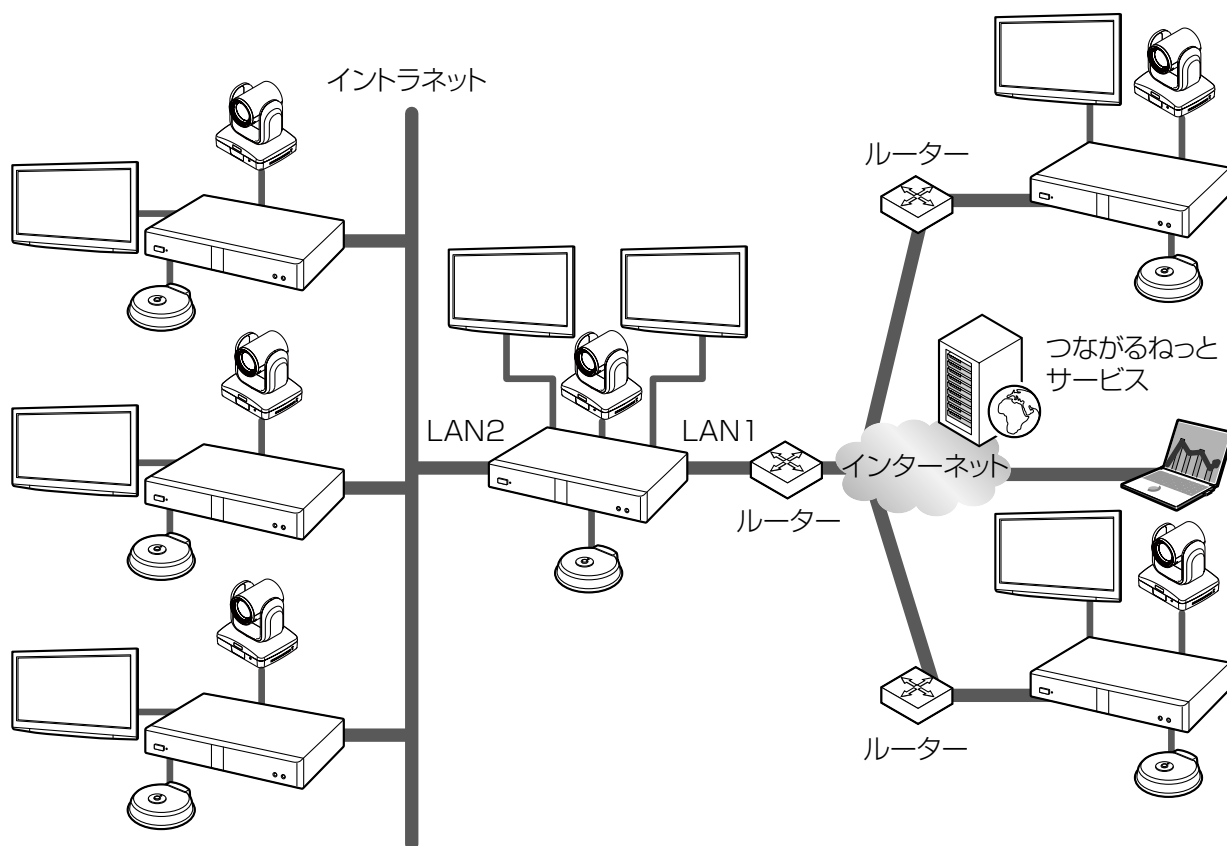
- テレビのスピーカーを使用して音声を出力したい場合は、ステレオプラグケーブルでテレビと本体背面のAudio Out L/R端子 (25 ページ) をつないでください。
- HDMI端子とComponent端子の両方にテレビを接続する場合は、同じ解像度を持つテレビを接続してください。

## ネットワーク構成例

イメージ図（インターネット／つながるねっとサービス使用時）  
LAN1対応



イメージ図（イントラネット／つながるねっとサービス使用時）  
LAN1、LAN2対応（KX-VC1600J、KX-VC2000J）



### お知らせ

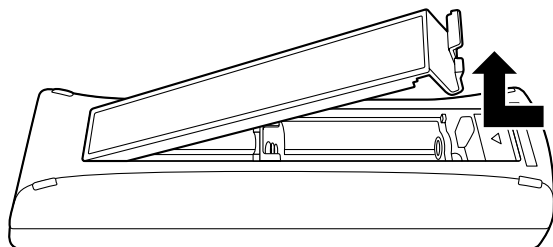
デュアルネットワーク（LAN1、LAN2）使用時

- つながるねっとサービス使用時は、LAN1を使用してください。
- デフォルトゲートウェイはLAN1になります。
- NAT/DHCPはLAN1のみ使用できます。

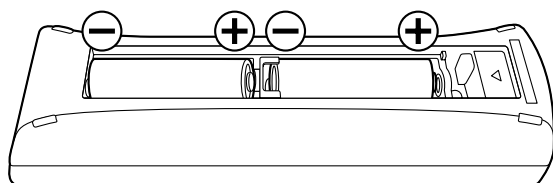
## リモコンの準備

### 電池を入れる

1 ふたを開ける



2 単3形乾電池（付属品）を（-）側から入れ、ふたを閉める





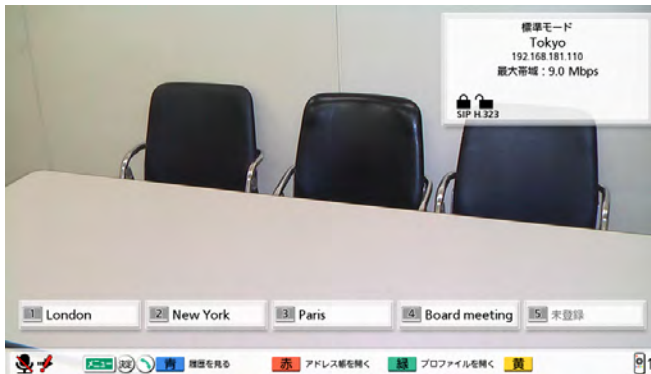
# 電源を入れる／切る

## お知らせ

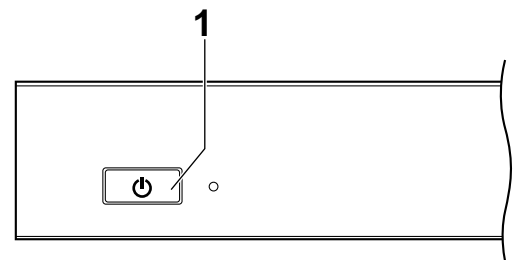
- 本機以外の周辺機器（例：テレビ、メインビデオカメラ）の電源が入っていることを確認してください。
- 初めて電源を入れた場合は初期設定画面が表示されます（51 ページ）。
- 電源ランプが緑の状態でもACアダプターを抜いて電源を切った場合、ACアダプターを挿して給電を再開すると電源を入れた状態（電源ランプが緑）に戻ります。
- 自動で電源を入れたり切ったりすることができます（164 ページ）。

### 1 本体前面の電源ボタンまたはリモコンの電源ボタンを1秒以上押す（電源オン／オフ共通）

- 電源を入れると、電源ランプが緑色に点滅します。その後、電源ランプが緑色点灯し、状態ランプが青色にゆっくり点滅してホーム画面が表示されます。



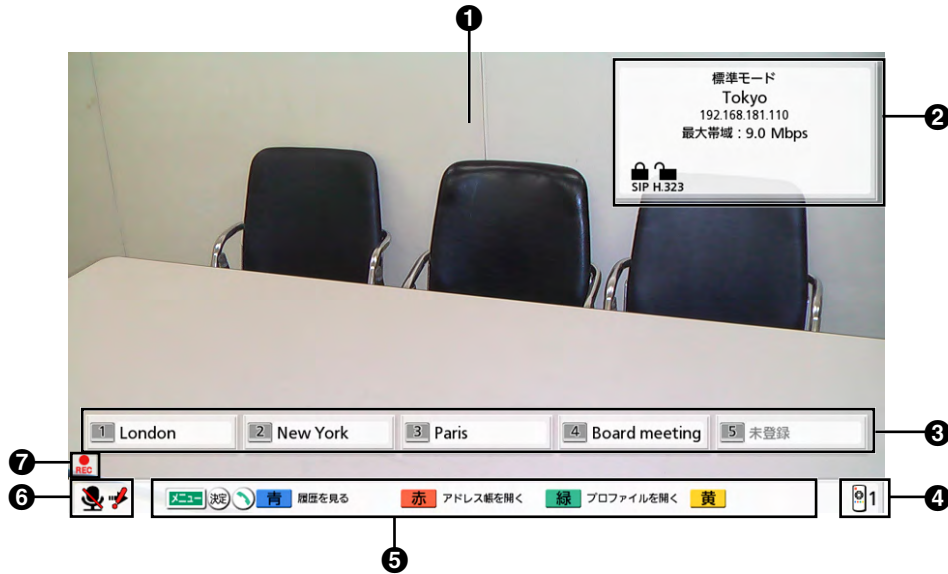
- 電源を切ると、電源ランプが赤になります。



# 画面の見かた

## ホーム画面（待ち受け画面）

電源を入れる则表示されます。リモコンの【ホーム】を押しても表示されます。



### ① メインビデオカメラ映像エリア

メインビデオカメラの映像を表示します。

### ② 本体情報

選択している接続モードによって（152 ページ）、表示される内容は異なります。

標準モード：接続モード、拠点名、SIPユーザー名（SIPサーバー使用時）／H.323内線番号、H.323名（ゲートキーパー使用時）、LAN1 IPアドレス、LAN2 IPアドレス（KX-VC1600J、KX-VC2000J）、最大帯域、暗号通信利用状況アイコン、静的NAT利用状況アイコン（静的NAT使用時）、MCU拠点の映像表示アイコン、プロフィール待受け設定アイコン、アドレス帳登録端末着信アイコン

つながるねっとサービスモード：接続モード、拠点名、接続番号、最大帯域、暗号通信利用状況アイコン、MCU拠点の映像表示アイコン、プロフィール待受け設定アイコン、アドレス帳登録端末着信アイコン

標準・つながるねっとサービスモード：接続モード、拠点名、接続番号、LAN1 IPアドレス、LAN2 IPアドレス（KX-VC1600J、KX-VC2000J）、最大帯域、暗号通信利用状況アイコン、静的NAT利用状況アイコン（静的NAT使用時）、MCU拠点の映像表示アイコン、プロフィール待受け設定アイコン、アドレス帳登録端末着信アイコン

### お知らせ


- 発信元選択時（118 ページ）は、選択している発信元の情報を表示します。発信元設定の拠点名が表示されます。発信元の接続モードによって、表示される内容は異なります。
- 拠点名、発信元設定の拠点名、SIPユーザー名、H.323内線番号、またはH.323名が画面に収まらない場合は、末尾が"…"に置き換わります。

### 暗号通信利用状況アイコン


SIP／H.323／つながるねっとサービス使用時の暗号通信の設定状況をアイコンで表示します。アイコンの詳細は以下のとおりです。

アイコン	設定状況
 SIP	標準モード使用時：「SIPの使用」で「する」を選び、「暗号通信 (SIP)」で「有効」を選んでいきます。 つながるねっとサービスモード／標準・つながるねっとサービスモード使用時：「暗号通信 (SIP)」で「有効」を選んでいきます。
 SIP	標準モード使用時：「SIPの使用」で「する」を選び、「暗号通信 (SIP)」で「無効」を選んでいきます。 つながるねっとサービスモード／標準・つながるねっとサービスモード使用時：「暗号通信 (SIP)」で「無効」を選んでいきます。
 H.323	「H.323の使用」で「する」を選び、「暗号通信 (H.323)」で「接続性優先」を選んでいきます。
 H.323	「H.323の使用」で「する」を選び、「暗号通信 (H.323)」で「有効」を選んでいきます。
 H.323	「H.323の使用」で「する」を選び、「暗号通信 (H.323)」で「無効」を選んでいきます。
 NAT	つながるねっとサービスモード／標準・つながるねっとサービスモード使用時：「暗号通信 (つながるねっと)」で「有効」を選んでいきます。
 NAT	つながるねっとサービスモード／標準・つながるねっとサービスモード使用時：「暗号通信 (つながるねっと)」で「無効」を選んでいきます。


#### 静的NAT利用状況アイコン

アイコン	設定状況
 Static NAT	標準モード使用時、「静的NATの使用」で「する」を選んでいきます。


#### MCU拠点の映像表示アイコン

アイコン	設定状況
	「MCU拠点の映像表示」で「しない」を選んでいきます。

### プロフィール待受け設定アイコン

アイコン	設定状況
	プロフィールの待受けを設定しています（116 ページ）。

### アドレス帳登録端末着信アイコン

アイコン	設定状況
	「アドレス帳以外の着信」で「しない」を選んでいきます（157 ページ）。

#### ③ 会議名／拠点名

ワンタッチダイヤルの1～5に登録されている会議名／拠点名を表示します。会議名／拠点名が画面に収まらない場合は、末尾が"…"に置き換わります。

#### ④ リモコンID



本体のリモコンIDを表示します（設定時のみ）（137 ページ）。

#### ⑤ ショートカットキーエリア

システム設定を呼び出すショートカットキーを表示します（165 ページ）。

#### ⑥ 状況表示エリア

アイコンで本体の状況を表示します。


アイコン	本体の状況
	マイクオフ中
	ネットワークや各種サーバー、周辺機器の接続エラー（未接続・機器の故障など）が発生中 <b>お知らせ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>LANケーブルなど他の機器が未接続の場合や機器の故障で接続に不具合がある場合は、アイコンが表示されます。</li> </ul>



#### お知らせ

- 管理者メニューで「ホームのガイド表示」を「しない」に設定すると、**②③④⑤**の表示を非表示にすることができます（162 ページ）。非表示にした場合でも、リモコンの【表示】を押すと再び表示されます。

#### ⑦ アイコン表示エリア

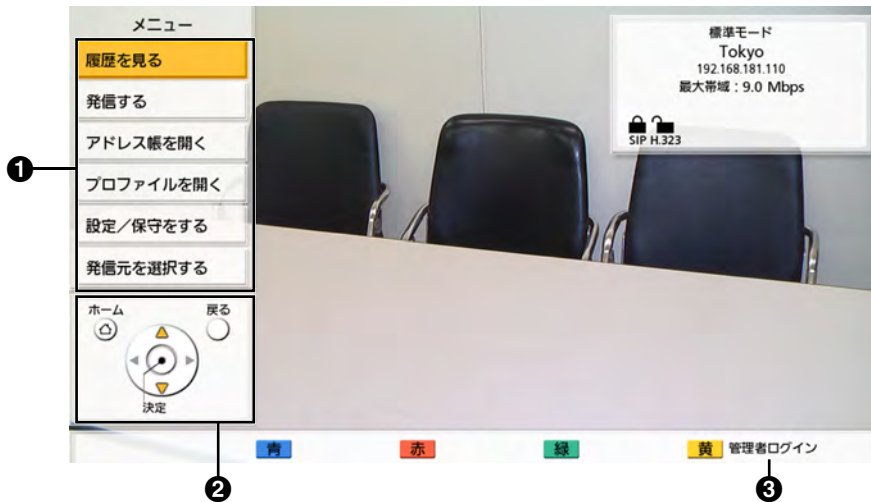
アイコンで本体の状況を表示します。

アイコン	本体の状況
	録画中に表示されます（84 ページ、140 ページ）。

アイコン	本体の状況
	USBデバイスモード中に表示されます（140 ページ、199 ページ）。
	Webハイブリッドモード中に表示されます（142 ページ、201 ページ）。

## メニュー画面（待ち受け画面）

リモコンの【メニュー】を押すと表示されます。機能を実行したり、設定を変更するときに表示します。



### ① メニュー一覧

さまざまな機能を使用したり、設定を行うためのメニューが表示されます。

### ② ガイドエリア

機能の実行時／設定の変更時に、操作可能なリモコンのボタンを表示し、操作をサポートします。

### ③ 管理者ログイン

【黄】を押すと、管理者設定を行うための管理者ログイン画面が表示されます。設定により「管理者ログイン」を非表示にして、【黄】を無効にすることができます（163 ページ）。

## 通信中画面



### ① 相手先情報

標準モード使用時：

- アドレス帳に登録されている場合は、相手先の拠点名を表示します。
- アドレス帳に登録がなく、相手先から拠点名の通知（124 ページ）がある場合は、通知された拠点名を表示します。
- アドレス帳に登録がなく、相手先から拠点名の通知（124 ページ）がない場合は、相手先のIPアドレス、SIP-URI（SIPユーザー名@SIPドメイン名）、ホスト名（hdvc.example.comなど）、H.323内線番号、H.323名、MCUの会議室番号@IPアドレス、またはMCUのSIPユーザー名@IPアドレスを表示します。相手が自分と同じSIPドメイン名を設定している場合は、SIP-URIではなくSIPユーザー名のみを表示します。
- アドレス帳に登録がなく、相手先が他社製のビデオ会議システムを利用している場合、相手先のビデオ会議システムの仕様により、表示が上記記載内容と異なる場合があります。その場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。

つながるねっとサービスモード使用時：

- アドレス帳に登録されている場合は、相手先の拠点名を表示します。
- アドレス帳に登録されていない場合は、接続番号を表示します。

### ② 映像エリア

相手側や自分側の映像、コンテンツ共有時のパソコンの画面やサブビデオカメラの映像を表示します。

### ③ サブ画面

画面レイアウトを変更すると、自分側や相手側の映像を表示します。（画面はPinP表示で自分側の映像を表示している例です。）

### ④ 通信時間

通信時間を表示します。

### お知らせ

- 通信時間が100時間を越えても、99時間59分までしか表示されません。


### ⑤ ガイドエリア


操作可能なリモコンのボタンを表示し、操作をサポートします。


## ⑥ アイコン表示エリア


### ネットワーク状況アイコン

ネットワークの混み具合をアンテナの数で表示します。アイコンの詳細は以下のとおりです。

アンテナ0本 ()：ネットワークが非常に混雑している、または接続拠点に対して帯域が不足している

アンテナ1本 ()：ネットワークが混雑している

アンテナ2本 ()：ネットワークがやや混雑している

アンテナ3本 ()：良好

### お知らせ

- アンテナの数が0～1本の状態が続く場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。
- 多地点通信の場合、相手先ごとのネットワーク状況を比較して、最も混雑しているものを表示します。
- アイコンを表示するかどうかを設定することができます（130 ページ）。  
パソコン画面との合成表示中は、設定にかかわらずアイコンは表示されません。

### 子拠点音声ミュートアイコン ()

内蔵MCUを使用した多地点通信で「接続先の音声」を「全ミュート」にしたときに、親拠点に表示されます（83 ページ、134 ページ）。

### 発信中アイコン ()

通信中に拠点を追加したときや発信時など、他拠点の呼出中に表示します（70 ページ）。

### プレゼンテーションモードアイコン ()

内蔵MCUを使用した多地点通信で、MCU動作モードがプレゼンテーションモードのときに、親拠点に表示されます（80 ページ、112 ページ、131 ページ）。

### 録画中アイコン ()

録画中表示されます（84 ページ、140 ページ）。

### Webハイブリッドモードアイコン ()

Webハイブリッドモード中表示されます（142 ページ、201 ページ）。

## ⑦ 状況表示エリア

アイコンで本体の状況を表示します（44 ページ）。

### お知らせ

- リモコンの【表示】を押すと、相手先情報、通信時間、アイコン表示エリア\*<sup>1</sup>、ガイドエリアを表示／非表示にできます。
- 通信中に拠点を選擇するダイアログボックスで拠点の左に黒い線が表示された場合、最も帯域が低い拠点を示しています。「異速度設定」（134 ページ）により2種類の通信グループがある場合、各グループで最も帯域が低い拠点に黒い線が表示されます。



例：Parisの帯域が最も低い場合



- \*1 アイコン表示エリアの各アイコンを表示しない設定にしている場合は、**【表示】** を押してもアイコンを表示することはできません。

## 入力について

- リモコンでカタカナ、アルファベット、数字を入力することができます。205 ページを参照してください。
- 宛先の入力や登録で入力可能な文字は次のとおりです。
  - SIPユーザー名/MCUの会議室番号：英数字、記号 . = \* + \_ - \$ % ~ ! ? / ( ) ' (半角で最大60文字)
  - H.323名：英数字、記号 . @ : ; = \* + # \_ - \$ \% ~ ^ ! ? / ` ( ) [ ] { } ' (半角で最大60文字)
  - SIPドメイン名：英数字、記号 . - (半角で最大128文字)
  - H.323内線番号：数字、記号 \* # (半角で最大20文字)
- 「ユーザー名@ドメイン名」形式のホスト名の場合、「ユーザー名」「ドメイン名」に入力可能な文字と文字数は「SIPユーザー名」「SIPドメイン名」と同じです。
- アドレス帳にアドレスを登録したり、発信時に宛先を直接入力する場合、入力可能な文字は次のとおりです。
  - SIPの場合：英数字、記号 . @ : ; = \* + \_ - \$ % ~ ! ? / ( ) ' (半角で最大189文字)
  - H.323の場合：英数字、記号 . @ : ; = \* + # \_ - \$ \% ~ ^ ! ? / ` ( ) [ ] { } ' (半角で最大189文字)SIPの場合、ユーザー名部分 (@の前) が半角で最大60文字、ドメイン名部分 (@の後ろ) が半角で最大128文字です。
- 規格に準拠した値を入力してください。詳細についてはネットワーク管理者にご相談ください。

## IPv6アドレスについて

- IPv6アドレスを手動で設定する場合、省略形式または省略しない形式で入力できます (205 ページ)。(入力例)
  - 2001:db8::10
  - 2001:0db8::0010
  - 2001:db8:0:0:0:0:0:10
  - 2001:0db8:0000:0000:0000:0000:0000:0010

# 初期設定

## お知らせ

- 初期設定は初回に電源を入れたときに表示します。次回からは表示されません。
- 本機の電源を入れた後、言語、接続モード、機器、日時、ネットワークの設定をします。この設定は後で変更することができます。

### 1 電源ボタンを押して、本機の電源を入れる

- 言語設定画面が表示されます。



### 2 【決定】 を押し、【▲】 【▼】 で言語を選ぶ

#### お知らせ

- 選択可能な言語は以下のとおりです：  
「日本語」（デフォルト）、「English」：英語、  
「简体中文」「繁體中文」：中国語、  
「Deutsch」：ドイツ語、「Français」：フランス語、  
「Italiano」：イタリア語、  
「Español」：スペイン語、  
「Nederlands」：オランダ語、  
「Português」：ポルトガル語、  
「Русский язык」：ロシア語、  
「العربية」：アラビア語
- 「简体中文」を選択した場合、アラビア語の選択肢は「Arabic」と表示されます。
- 「繁體中文」を選択した場合、再起動後に選択肢の一部は次のように表示されます。  
フランス語：「French」、スペイン語：「Spanish」、ロシア語：「Russian」、アラビア語：「Arabic」

### 3 【決定】 を押す

### 4 【緑】 を押す

### 5 【◀】 【▶】 で「はい」を選び、【決定】 を押す

- 接続モードの設定画面が表示されます。

#### お知らせ

- 手順2で「繁體中文」を選択した場合、再起動後に接続モードの設定画面が表示されます。

### 6 【決定】 を押し、【▲】 【▼】 で設定したい接続モードを選び、再度 【決定】 を押す



#### お知らせ

- 異なる接続モードの相手とは通信できません。
- 「つながるねっとサービスモード」、「標準・つながるねっとサービスモード」を利用するためには、アクティベーションキーにより「つながるねっとサービス」を有効にする必要があります。

### 7 【緑】 を押す

### 8 【◀】 【▶】 で「はい」を選び、【決定】 を押す

- 機器の設定画面が表示されます。

### 9 【▲】 【▼】 で以下の項目を選び、入力する 「拠点名」：本機の拠点名（全角、半角共通で最大24文字）を入力する（205 ページ）

#### お知らせ

- カタカナ、アルファベット、数字が入力できます。

- &lt;>, ” を使用したい場合は、カナモード（全角）で入力してください。

「接続先への通知（SIP）」：【◀ ▶】で、標準モード通信時に接続先へ拠点名を通知するかどうかを選ぶ

– 「する」（デフォルト）：拠点名を接続先へ通知します。

– 「しない」：拠点名を接続先へ通知しません。

「接続先への通知（H.323）」：【◀ ▶】で、標準モード通信時に接続先へ拠点名を通知するかどうかを選ぶ

– 「する」：拠点名を接続先へ通知します。

– 「しない」（デフォルト）：拠点名を接続先へ通知しません。



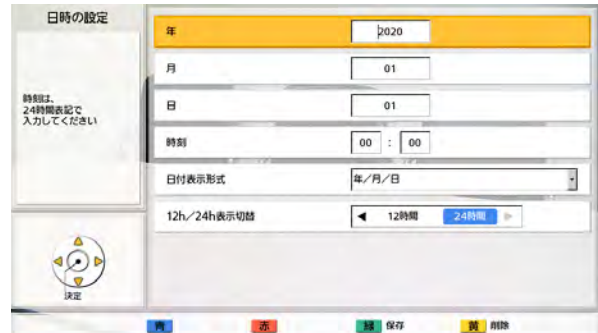
10【緑】を押す

11【◀ ▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- 日時の設定画面が表示されます。

12【▲ ▼】で設定したい項目を選び、入力する

- 西暦（4桁）、月（1～2桁）、日（1～2桁）、時刻（24時間表示）を入力し、日付表示形式（月／日／年、日／月／年、年／月／日）、時間表示（12時間／24時間）を選択してください。



13【緑】を押す

14【◀ ▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- ネットワークの設定画面が表示されます。

15【▲ ▼】で以下の項目を選び、入力する



### お知らせ

- KX-C1300Jの場合、「IPアドレスの設定 (LAN1)」、「IPアドレス (LAN1)」、「サブネットマスク (LAN1)」はそれぞれ「IPアドレスの設定」、「IPアドレス」、「サブネットマスク」と表示されます。

「IPアドレスの設定 (LAN1)」：【◀ ▶】で本機のIPアドレス情報（「IPアドレス (LAN1)」、「サブネットマスク (LAN1)」、「デフォルトゲートウェイ」）をDHCPサーバーから自動的に取得するか、手動で設定するかを選ぶ

- 「自動」（デフォルト）：IPアドレス情報を自動的に取得します。
- 「手動」：IPアドレス情報を手動で設定します。

**お知らせ**

- 「自動」に設定していても、ネットワーク障害の発生などによりIPアドレス情報を取得できない場合があります。この場合、ホーム画面の右上に「アドレス未取得」と表示されます。ネットワーク管理者にご相談ください。

「IPアドレス (LAN1)」: 本機のIPアドレスを入力する

「サブネットマスク (LAN1)」: サブネットマスクを入力する

「デフォルトゲートウェイ」: デフォルトゲートウェイのIPアドレスを入力する

**お知らせ**

- 「IPアドレス (LAN1)」、「サブネットマスク (LAN1)」、「デフォルトゲートウェイ」は、「IPアドレスの設定 (LAN1)」を「手動」に設定している場合のみ入力可能です。
- 「IPアドレス (LAN1)」、「サブネットマスク (LAN1)」、「デフォルトゲートウェイ」の値が1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。  
例: 「192.168.0.1」の場合:  
(正) 192.168.0.1  
(誤) 192.168.000.001

「DNSの設定」: 【◀ ▶】でDNSサーバーのIPアドレス情報（「優先DNSサーバー」、「代替DNSサーバー」）をDHCPサーバーから自動的に取得するか、手動で設定するかを選ぶ

- 「自動」(デフォルト): IPアドレス情報を自動的に取得します。
- 「手動」: IPアドレス情報を手動で設定します。

**お知らせ**

- 「自動」を選ぶには、「IPアドレスの設定 (LAN1)」を「自動」に設定している必要があります。
- つながるねっとサービスの利用やバージョンアップの確認、ネットワークから最新バージョンのダウンロードを行うためには、DNSサーバーの設定が必要です。

「優先DNSサーバー」: 優先DNSサーバーのIPアドレスを入力する

「代替DNSサーバー」: 代替DNSサーバーのIPアドレスを入力する

**お知らせ**

- 「優先DNSサーバー」、「代替DNSサーバー」は、「DNSの設定」を「手動」に設定している場合のみ入力可能です。
- 「優先DNSサーバー」、「代替DNSサーバー」の値が1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。  
例: 「192.168.0.1」の場合:  
(正) 192.168.0.1  
(誤) 192.168.000.001

「LANモード (LAN1)」: 【決定】を押し、【▲】【▼】でLANモードを選ぶ

- 「1 Gbps (自動)」: 接続相手との調停でLANモードを決定します。最大で1Gbps、全二重になります。
- 「1 Gbps (固定)」: 1Gbps、全二重固定にします。
- 「100 Mbps (自動)」(デフォルト): 接続相手との調停でLANモードを決定します。最大で100Mbps、全二重になります。
- 「100 Mbps (固定)」: 100Mbps、全二重固定にします。
- 「10 Mbps (固定)」: 10Mbps、全二重固定にします。

**お知らせ**

- KX-VC2000Jでのみ表示される設定です。
- 接続するハブやルーターの設定と合わせてください。
- 「10 Mbps (固定)」を設定した場合、「通信の設定」の「最大帯域」を10 Mbps以下に設定してください (128 ページ)。

**16**【緑】を押す

**17**【◀ ▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- 自動的に再起動し、設定内容が反映されます。

**お知らせ**

- IPアドレスやサブネットマスクに無効な値を入力した場合、再度有効な値を入力するようにメッセージが表示されます。

- IPアドレスはマルチキャストアドレスやブロードキャストアドレスは使用できません。
- 手順5を完了する前に電源を切り再起動すると、手順1から開始されます。手順5を完了して再起動した場合は、手順6から再開します。
- 手順14を完了する前に電源を切り再起動すると、手順6から開始されます。手順14を完了して再起動した場合は、手順15から再開します。

## 発信する

通信を開始するには次の発信方法があります。

### お知らせ

- 本機以外の周辺機器（例：テレビ、メインビデオカメラ）の電源が入っていることを確認してください。
- 発信後、一定時間（約60秒）内に相手から応答がなかった場合、自動的に発信を中止します。
- 着信履歴からは2地点通信のみ発信することができます。
- 通信帯域が1拠点あたり256 kbpsを下回った場合は、アンテナアイコンを0本にしてお知らせします。この場合、映像や音声の品質に問題が生じることがあります。
- アドレス帳や通信履歴に登録された通信タイプ（SIPまたはH.323）が、通信タイプ設定画面で「**しない**」に設定されている場合、発信はできません。
- 入室制限のかかったプロフィールで発信し、通信中に拠点を追加する場合、相手先を直接入力しての発信や通信履歴からの発信はできません。
- 発信中に着信があると、応答するかどうか確認するダイアログボックスが表示されます。  
【◀】【▶】で「はい」「いいえ」を選び、【決定】を押す
  - 「はい」を選んだ場合、着信に応答します。
  - 「いいえ」を選んだ場合、着信を中止し発信を続けます。

## ホーム画面からワンタッチダイヤルで発信する

### お知らせ

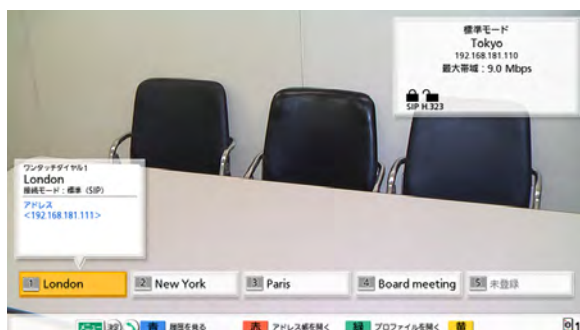
- ワンタッチダイヤルで発信するには、あらかじめワンタッチダイヤルの設定をしておく必要があります（134 ページ）。

#### 1 【ホーム】を押す

- ホーム画面が表示されます。

#### 2 ワンタッチダイヤル（1～5）を押す

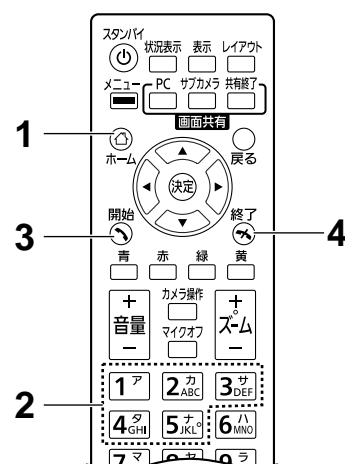
- 選んだワンタッチダイヤルの登録先情報が表示されます。



#### 3 【開始】を押し、通信する

#### 4 通信を終了するときは、【終了】を押す

- ホーム画面が表示されます。



## アドレス帳から発信する（2地点通信）

### お知らせ

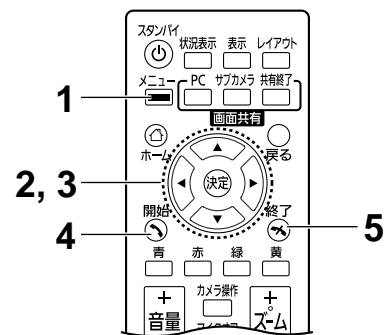
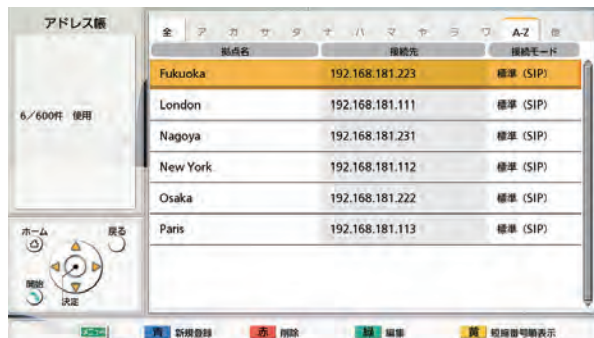
- アドレス帳から発信するには、あらかじめアドレス帳に相手先を登録しておく必要があります（109 ページ）。
- ネットワークの設定画面で「IPアドレスの設定（LAN1）」を「自動」に設定している場合（124 ページ）、または「IPv6アドレスの設定（LAN1）」を、「自動（SLAAC）」、「自動（DHCP）」に設定している場合（126 ページ）、自動的にIPアドレスを取得するため、相手側のアドレス帳にすでに登録されているIPアドレスから変わる可能性があります。この場合、相手側がアドレス帳のIPアドレスを選んで発信してもつながりません。詳細については、ネットワーク管理者にご相談ください。

#### 1 【メニュー】を押す

- メニュー画面が表示されます。

#### 2 【▲】【▼】で「アドレス帳を開く」を選び、【決定】を押す

- アドレス帳画面が表示されます。「拠点名」の50音・アルファベット順に、行ごとのタブで表示されます。



### お知らせ

- 【黄】を押すと、短縮番号順に表示することができます。



### 3 【▲】【▼】で発信したい相手を選ぶ

- 【◀】【▶】を押すと、前後のタブ（行）に切り替わります。（アドレスが登録されていないタブには切り替わりません。）
- リモコンの数字ボタンを押すと、各ボタンに割り当てられたタブ（行）に切り替わります。

数字ボタン	タブ（行）
1	ア行
2	カ行
3	サ行
4	タ行
5	ナ行
6	ハ行
7	マ行
8	ヤ行
9	ラ行
0	ワ行
*	A-Z
#	他

#### お知らせ

- 手順2で短縮番号順に表示した場合は、短縮番号（1～600）を押して選択することができません。

### 4 【開始】を押し、通信する

### 5 通信を終了するときには、【終了】を押す

- ホーム画面が表示されます。

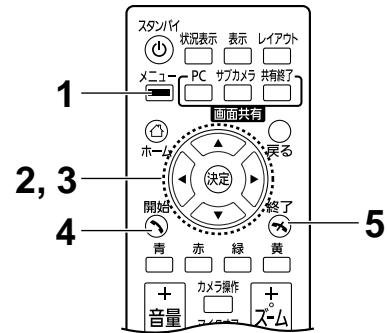
## プロフィールから発信する（多地点通信）

メニュー画面からの多地点への発信は、最大20件のプロフィール（1～20）から選ぶことができます。

### お知らせ

- プロフィールから発信するには、あらかじめプロフィール設定でプロフィールを登録しておく必要があります（112 ページ）。

- 1 【メニュー】を押す
  - メニュー画面が表示されます。
- 2 【▲】【▼】で「プロフィールを開く」を選び【決定】を押す
  - プロフィール一覧画面が表示されます。



- 3 【▲】【▼】で会議で発信したいプロフィールを選ぶ
- 4 【開始】を押し、通信する
- 5 通信を終了するとき、【終了】を押す
  - 多地点通信の終了については、「通信中に拠点を切断する（73 ページ）」を参照してください。

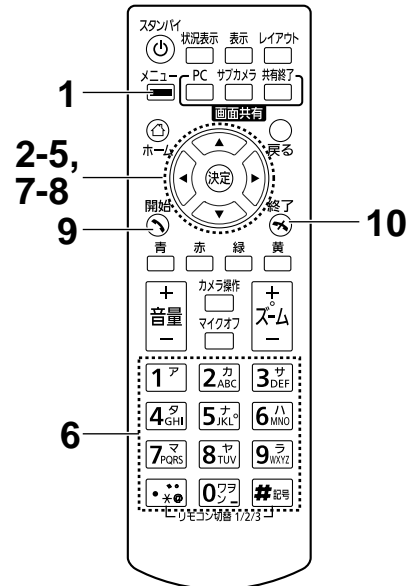
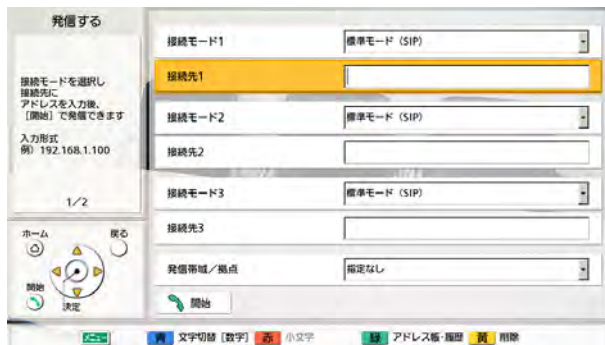
### お知らせ

- **【開始】** を押して通信を開始する前に、選択したプロフィールから接続先を変更して発信することができます。選択した接続先は保存されませんのでご注意ください。
  1. **【青】** を押す
    - プロファイル設定画面が表示されます。
  2. **【▲】【▼】** で「**接続先**」を選び **【決定】** を押す
    - プロファイル内で接続先を選択する画面が表示されます。
  3. **【▲】【▼】** で相手先を選び **【決定】** を押す
    - 選択の欄の「**✓**」の有無が切り替わります。「**✓**」が表示された相手に発信します。
  4. **【開始】** を押し、通信する
    - 発信を確認するダイアログボックスが表示されます。
  5. **【◀】【▶】** で「**はい**」を選び、**【決定】** を押す

## 宛先を直接入力して発信する

標準モード使用時は相手先のIPアドレス（またはホスト名）、SIP-URI（またはSIPユーザー名）、H.323内線番号、H.323名、またはMCUの会議室番号@IPアドレス、つながるねっとサービスモード使用時は接続番号を入力して発信します。

- 1 **【メニュー】** を押す
  - ・ メニュー画面が表示されます。
- 2 **【▲】【▼】** で「**発信する**」を選び、**【決定】** を押す
  - ・ ダイレクト入力画面が表示されます（画面は KX-VC1600J（標準時）のものです）。



### お知らせ

- ・ 手順1、手順2の代わりにホーム画面で **【開始】** を押しても、ダイレクト入力画面が表示されます。

- 3 **【▲】【▼】** で入力する「**接続モード1**」～「**接続モード3**」を選び **【決定】** を押す
- 4 **【▲】【▼】** で接続モード（「**標準モード (SIP)**」、「**標準モード (H.323)**」、「**つながるねっとサービスモード**」）を選ぶ
- 5 **【▲】【▼】** で「**接続先1**」～「**接続先3**」を選ぶ
- 6 標準モード使用時はIPアドレス（またはホスト名）、SIP-URI（またはSIPユーザー名）、H.323内線番号、H.323名、またはMCUの会議室番号@IPアドレス、つながるねっとサービスモード使用時は接続番号（7桁）を入力する

### お知らせ

- ・ 多地点通信時は、手順3～6を繰り返してください。
- ・ 4地点以上に発信する場合は **【赤】** で次ページを表示してください。

- 7 1ページ目で **【▲】【▼】** で「**発信帯域/拠点**」を選び **【決定】** を押す

- 8 **【▲】【▼】** で発信帯域／拠点（指定なし、256 kbps～18 Mbps）を選ぶ（選択肢の最大値のデフォルト：9.0 Mbps）
- 9 **【開始】** を押し、通信する
- 10 通信を終了するときは、**【終了】** を押し
  - ホーム画面が表示されます。

### お知らせ

- KX-VC1300Jで同時に接続できる相手先は3地点です。KX-VC1600Jをご使用の場合は5地点まで利用可能ですが、アクティベーションキー（KX-VCS304W）による拡張を行うと9地点まで接続することができます。KX-VC2000Jをご使用の場合は15地点まで利用可能ですが、アクティベーションキー（KX-VCS305W）による拡張を行うと19地点または23地点まで接続することができます。
- IPv4アドレスで1桁または2桁の数値を含むIPアドレスを入力する場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。  
例：「192.168.0.1」の場合：  
（正）192.168.0.1  
（誤）192.168.000.001
- IPv6アドレスの入力形式は50 ページを参照してください。
- IPv6アドレスでポート番号を指定して発信する場合、IPv6アドレスを[]で囲んでください。  
（入力例）[2001:db8::10]:5060
- SIP-URI（SIPユーザー名@SIPドメイン名）を入力して発信するには、「**SIPサーバーの使用**」を「**する**」に設定し、「**SIPサーバーアドレス**」、「**SIPユーザー名**」、「**SIPドメイン名**」を設定する必要があります。必要に応じて「**ダイジェスト認証**」、「**認証用ID**」、「**認証用パスワード**」の設定も行ってください（154 ページ）。詳細については、ネットワーク管理者にご相談ください。
- 自分と同じSIPドメインへ発信する場合は、SIPユーザー名のみでの入力でも発信できます。自分と異なるSIPドメインへ発信する場合は、SIPユーザー名に加えてSIPドメイン名の入力が必要です。SIPドメイン名を入力しなかった場合は、自分のSIPドメイン名が自動的に付与されて発信します。誤った相手に発信する可能性がありますのでご注意ください。
- 宛先の入力で入力可能な文字は50 ページを参照してください。
- MCUの会議室番号@IPアドレスを入力して発信するには、「**SIPサーバーの使用**」および「**ゲートキーパーの使用**」を「**しない**」に設定する必要があります（154 ページ、156 ページ）。
- KX-VC300・KX-VC600の3.00より古いソフトウェアバージョン（3.00は含みません）を使用している相手に発信する場合、H.323は使用できません。通信タイプ設定画面で「**SIPの使用**」を「**する**」に設定する必要があります（154 ページ）。
- 通信タイプの設定画面（154 ページ）で「**しない**」に設定された項目は、接続モードで設定できません。
- H.323を使用する場合、宛先として次のように入力して発信することができます。
  - IPアドレス（またはホスト名）%H.323内線番号（またはH.323名）
  - IPアドレス（またはホスト名）##H.323内線番号（またはH.323名）

- ダイレクト入力画面から次の手順で、アドレス帳または通信履歴から宛先を選んで入力することができます。（プロファイルから宛先を入力することはできません。）

標準モード使用時：IPアドレス（またはホスト名）／SIP-URI（またはSIPユーザー名）／H.323内線番号／H.323名／MCUの会議室番号@IPアドレス  
つながるねっとサービスモード使用時：接続番号

**1. 【緑】 を押す**

- アドレス帳または履歴を選択するダイアログボックスが表示されます。

**2. 【▲】 【▼】 でアドレス帳または履歴を選択し、【決定】 を押す**

**3. 【▲】 【▼】 で相手を選ぶ**

- アドレス帳の場合、【◀】 【▶】、または数字ボタンを押すと、「全」、「ア」～「ワ」、「A-Z」、「他」から表示するタブ（行）が選べます（57 ページ）。
- 履歴の場合、【緑】 を押すと発信履歴と着信履歴が切り替わります。

**4. 【決定】 を押す**

- アドレス帳から宛先を選択した場合、接続先に拠点名が表示されます。
- 通信履歴から宛先を選択した場合、履歴に拠点名で表示されている宛先を選択すると、接続先に拠点名が表示されます。
- 拠点名が表示されている接続先を、文字・数字を直接入力して変更するには、【黄】 を押して拠点名を削除してから入力してください。

## 通信履歴から発信する

通信履歴から相手に発信することができます。通信履歴は発信履歴と着信履歴に分かれます。発信履歴と着信履歴には、発着信の履歴が新しい順に100件まで記憶されています。拠点名／会議名またはアドレス情報<sup>\*1</sup>、日時、通信時間、通信結果、接続モードなどの情報が発信履歴、着信履歴にそれぞれ表示されます。通信履歴に拠点名で表示されている相手のアドレスをアドレス帳から削除または編集した場合、通信履歴の表示は拠点名ではなくアドレス情報になります。

<sup>\*1</sup> アドレス情報は次のとおりです。

IPアドレス／ホスト名／SIP-URI／H.323内線番号／H.323名／MCUの会議室番号@IPアドレス／MCUのSIPユーザー名@IPアドレス／接続番号（つながるねっとサービスモード使用時は、接続番号が表示されます。）

### お知らせ

- 相手が自分と同じSIPドメイン名を設定している場合、通信履歴には、SIP-URI（SIPユーザー名@SIPドメイン名）ではなくSIPユーザー名のみが表示されます。

### 発信履歴：

- アドレス帳から発信した場合、拠点名が表示されます。IPアドレス（またはホスト名）／SIP-URI／H.323内線番号／H.323名／MCUの会議室番号@IPアドレス／接続番号を直接入力して発信した場合（60 ページ）、相手先から拠点名の通知（124 ページ）があれば、通知された拠点名が表示されず<sup>\*1</sup>。拠点名の通知がない場合は入力した宛先が表示されます。（入力した宛先がアドレス帳に登録されている場合でも、直接入力した宛先が表示されます。）
- プロファイルを使用した発信でも、発信履歴に記憶されますので、発信履歴から発信することができます。
- 続けて同じ相手に発信した場合は、すべての履歴を発信履歴に保存するか、最新の履歴だけ発信履歴に保存するかを選べます（158 ページ）。

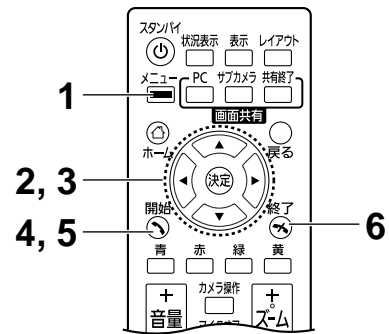
<sup>\*1</sup> 接続番号は相手先から拠点名が通知されません。

### 着信履歴：

- かけてきた相手のIPアドレス／SIP-URI／H.323内線番号／H.323名／MCUの会議室番号@IPアドレス／接続番号がアドレス帳に登録されている場合、拠点名／会議名が表示されます。アドレス帳に登録がなく、相手先から拠点名の通知（124 ページ）がある場合は、通知された拠点名が表示されず<sup>\*1</sup>。アドレス帳に登録がなく、相手先から拠点名の通知がない場合は、IPアドレス（またはホスト名）／SIP-URI／H.323内線番号／H.323名／MCUの会議室番号@IPアドレス／MCUのSIPユーザー名@IPアドレス／接続番号が表示されます。
- MCUの機種によっては、会議室番号@IPアドレスではなく、MCUのSIPユーザー名@IPアドレスで着信する場合があります。この着信履歴から発信しても、MCUの会議室に直接入ることはできません。
- 続けて同じ相手から着信があった場合は、すべての履歴を着信履歴に保存します。ただし、続けて同じ相手から異常着信（暗号設定不一致など）があった場合は、すべての履歴を着信履歴に保存するか、最新の履歴だけ着信履歴に保存するかを選べます（158 ページ）。
- 他社のビデオ会議システムとの接続では、規格に準拠していないなどの理由から、着信履歴のSIP-URI（またはSIPユーザー名）、H.323内線番号、またはH.323名から発信できない場合があります。その場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。

<sup>\*1</sup> 接続番号は相手先から拠点名が通知されません。

- 1 【メニュー】を押す
  - メニュー画面が表示されます。
- 2 【▲】【▼】で「履歴を見る」を選び、【決定】を押す
  - 発信履歴一覧画面が表示されます。



### お知らせ

- プロファイルを使用した発信やプロファイル待受け設定中の着信の場合、拠点間の発着信の履歴に加えて、プロファイルを使用したことを示すプロファイルの履歴を表示します。プロファイルの履歴と、プロファイルを使用した個別の発着信の履歴には、プロファイルID (PID) が表示されます。
- 通信の結果は、「結果」に次のとおり表示されます。
  - ○：相手とつながった場合
  - ×：相手とつながらなかった場合
  - -：プロファイル、配信
- 【緑】を押すと、着信履歴画面に切り替わります。【緑】を押すたびに、発信履歴画面と着信履歴画面を切り替えることができます。
- 着信履歴の相手をアドレス帳に登録すると、着信履歴が更新され、アドレス帳に登録した拠点名が表示されます。



- アドレス帳に登録されていない相手から拠点名の通知をとまなう着信があると、同じ相手からの着信履歴すべてに通知された拠点名が表示されます。
- アドレス帳に登録されていない相手を選んで【青】を押すと、アドレス帳登録画面が表示され、相手を登録することができます（111 ページ）。規格に準拠していないなどの理由から、着信履歴のSIP-URI（またはSIP ユーザー名）、H.323内線番号、H.323名をアドレス帳に登録できない場合があります。その場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。

### 3 【▲】【▼】で発信したい相手を選ぶ

#### お知らせ

- 【決定】を押すと、履歴詳細画面が表示されます（プロフィールの履歴、配信の発信履歴を選択した場合は表示されません）。



- 発信元を選択していないとき（118 ページ）は、「発信元選択名」には基本設定の値が表示されます。
- 「帯域」には接続拠点との調停帯域を表示します。
- 通信相手によっては、「機器名」には何も表示されないことがあります。

### 4 【開始】を押す

- 発信のダイレクト入力画面が表示されます（配信の履歴を選択した場合は表示されません）。

#### お知らせ

- 発信する拠点数や接続先のアドレスを編集することができます。

### 5 【開始】を押し、通信する

### 6 通信を終了するときには、【終了】を押す

- ホーム画面が表示されます。

## 着信に应答する

着信に应答する方法として、手動应答、自動应答、強制应答があり、設定によりいずれかが設定されています（128 ページ）。

### お知らせ

- 本機以外の周辺機器（例：テレビ、メインビデオカメラ）の電源が入っていることを確認してください。
- 内蔵MCUを使用した多地点通信で「子拠点」として運用する拠点は、通信の設定で「**2地点以上の着信**」を「**無効**」に設定してください。この設定により通信中に着信しなくなります。

### 手動应答の場合

着信があると着信音が鳴り、ダイアログボックスが表示されます。



- アドレス帳に登録されている場合は、かけてきた相手の拠点名が表示されます。
- アドレス帳に登録がなく、相手先から拠点名の通知（124 ページ）がある場合は、通知された拠点名が表示されます。
- アドレス帳に登録がなく、相手先から拠点名の通知（124 ページ）がない場合は、IPアドレスまたは接続番号など、相手から通知されたアドレス情報が表示されます。

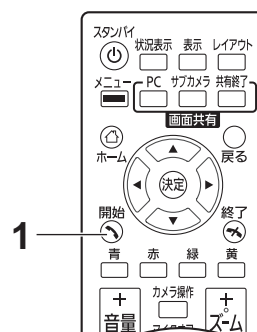
### お知らせ

- 相手が自分と同じSIPドメイン名を設定している場合は、SIP-URI（SIPユーザー名@SIPドメイン名）ではなくSIPユーザー名のみが表示されます。
- 会議名／拠点名、ホスト名、SIP-URI（またはSIPユーザー名）、H.323内線番号、またはH.323名が画面に収まらない場合は、末尾が"..."に置き換わります。

### 应答する

#### 1 【開始】を押す

- 通信が開始されます。
- **【決定】**を押して、应答することもできます。



### お知らせ

- 着信後、一定時間（約60秒）内に应答をしなかった場合、自動的に切断されます。
- 発信中に着信があると、应答するかどうか確認するダイアログボックスが表示されます（「**通信の設定**」で「**2地点以上の着信**」が「**有効**」の場合のみ）。  
**【◀ ▶】**で「はい」「いいえ」を選び、**【決定】**を押す  
 - 「はい」を選んだ場合、着信に应答します。

- 「いいえ」を選んだ場合、着信を中止し発信を継続します。

## 自動応答の場合

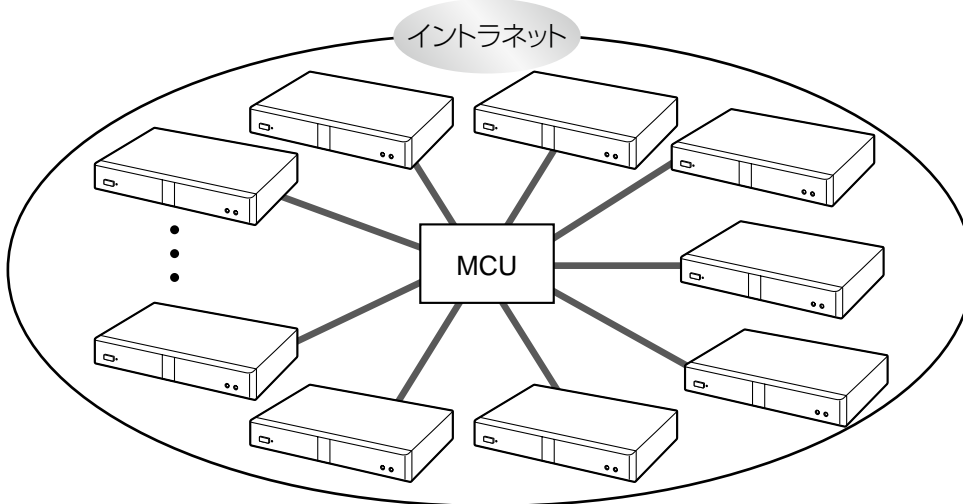
ホーム画面表示中に着信があると、着信音が一度だけ鳴った後、自動的に応答して通信が開始されます。ホーム画面以外の画面を表示中に着信があると、ダイアログボックスが表示され、着信は継続します。

## 強制応答の場合

通信中・待ち受け中にかかわらず、着信があると自動的に応答して通信が開始されます。

## MCUに接続する

MCUに接続することで、25拠点以上の多地点間でのビデオ会議を行うことができます。



### お知らせ

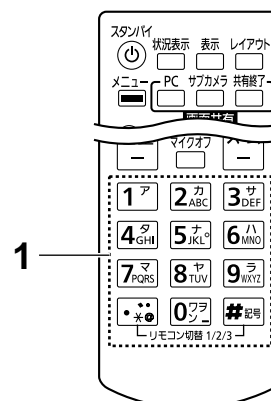
- 接続するMCUは次の条件を満たしている必要があります。MCUの設定をご確認ください。
  - SIPまたはH.323での通信が可能である
  - H.264 Baseline Profile (ベースラインプロファイル)、H.264 High Profile (ハイプロファイル) での通信が可能である
  - 音声コーデックG.711、G.722、G.722.1、G.722.1 Annex Cでの通信が可能である
- 接続が可能なMCUの機種については、販売店にお問い合わせください。
- MCU接続の場合、SIPサーバーを経由したSIP-URIによる通信は動作保証外です。必ずIPアドレスによる通信を行ってください。
- 接続仕様（解像度など）や利用できる機能（コンテンツ共有など）は、接続する機種によって異なります。詳細については、販売店にお問い合わせください。
- MCU接続を行う操作手順は、接続するMCUにより異なります。詳細については、販売店にお問い合わせください。
- 相手側に送る音声はモノラルになります。
- サブビデオカメラの映像を共有中に、サブビデオカメラの静止画を送信することはできません。
- 暗号通信ができない場合がありますので、その場合はイントラネット回線またはVPNをご利用ください。詳細については、販売店にお問い合わせください。
- MCUと通信中は、次の設定のうち最も小さい値の帯域が適用されます。ネットワークの状態に応じて、適切な帯域を設定する必要があります。
  - 通信の設定の「**最大帯域**」(128 ページ)
  - 通信の設定の「**1拠点毎の最大帯域 (LAN1)**」 / 「**1拠点毎の最大帯域 (LAN2)**」(128 ページ、128 ページ)
  - アドレス帳に登録した「**最大帯域**」(109 ページ)
  - 宛先を直接入力して発信したときの「**発信帯域/拠点**」(60 ページ)

## トーン信号でMCUを遠隔操作する

MCUと通信中にリモコンのボタン（0～9、#、\*）を押すと、トーン信号を送信することができます。トーン信号を送信することで、MCUの遠隔操作（例：画面レイアウトの変更）を行うことができます。

### お知らせ

- 遠隔操作できる機能や操作手順は、接続するMCUにより異なります。
- 接続するMCUがトーン信号を受信できない場合は、エラーメッセージが表示され、トーン信号を送信しません。
- 相手側がトーン信号を送信してきた場合、音切れが発生したり、音が鳴ったりすることがあります。
- トーン信号による相手機器の操作は、KX-VC2000J、KX-VC1600J、KX-VC1300J、HDVC-MPCSでも行うことができます。



### 1 トーン信号（0～9、#、\*）を入力する

- 入力欄 (1) が表示されます。



### お知らせ

- 入力欄に表示されるトーン信号は最大16桁までです。例えば、17桁目を入力した場合、最初に入力した1桁目が非表示になり、2桁目から17桁目までが表示されます。
- トーン信号が入力されていないときは、入力欄は表示されません。
- 最後に入力してから約3秒間、トーン信号が入力されない場合は、入力欄は消えます。
- 入力欄が消えたあと、再度トーン信号を入力した場合は、前回入力したトーン信号の続きから表示されます。

## 通信中に拠点を追加する（子拠点以外）

2地点通信中の拠点や親拠点は、次の操作で通信中に相手拠点を追加することができます。

- 1 【メニュー】を押す
  - 通信中メニュー画面が表示されます。
- 2 【▲】【▼】【◀】【▶】で「発信する」を選び【決定】を押す
  - 発信方式を選択するダイアログボックスが表示されます。



### お知らせ

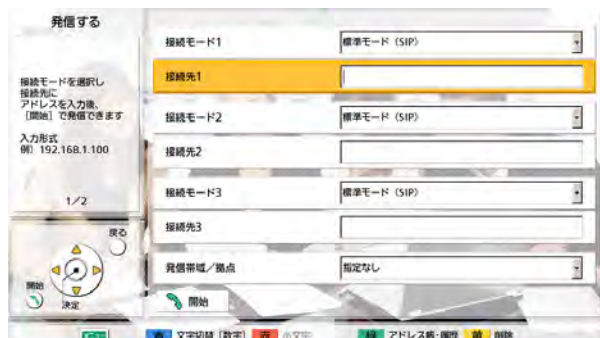
- プロファイル発信以外の発信方法で通信中となっている拠点の場合、ダイアログボックスは表示されず、ダイレクト入力画面が表示されます。
- プロファイル設定で入室制限が「する」に設定されたプロファイルで発信し通信中となっている拠点の場合、ダイアログボックスは表示されず、発信で使用したプロファイルが選択されます。

- 3 【▲】【▼】で発信方法（「プロフィール」、「ダイレクト入力」）を選ぶ  
プロフィールを選択：
  - 接続先選択画面が表示されます。



1. 【▲】【▼】で追加したい接続先を選び【決定】を押す
  - 選択の欄に「✓」が表示されます。
 ダイレクト入力を選択：

- ダイレクト入力画面が表示されます（画面はKX-VC1600J（標準時）のものです）。



1. **【▲】** **【▼】** で追加したい相手先の情報を設定する

### お知らせ

- 相手先を参照して設定することができます。
  - ① **【緑】** を押す
    - アドレス帳または履歴を選択するダイアログボックスが表示されます。
  - ② **【▲】** **【▼】** でアドレス帳または履歴を選択し、**【決定】** を押す
  - ③ **【▲】** **【▼】** で相手を選ぶ
    - アドレス帳の場合、**【◀】** **【▶】**、または数字ボタンを押すと、「全」、「ア」～「ワ」、「A-Z」、「他」から表示するタブ（行）が選べます（57 ページ）。
    - 履歴の場合、**【緑】** を押すと発信履歴と着信履歴が切り替わります。
  - ④ **【決定】** を押す

## 4 **【開始】** を押す

### お知らせ

- 自拠点の子拠点になった場合、「通信中に拠点を追加する（親拠点以外）（72 ページ）」の手順で拠点を追加してください。
- アドレス帳から宛先を選択した場合、接続先に拠点名が表示されます。
- 通信履歴から宛先を選択した場合、履歴に拠点名で表示されている宛先を選択すると、接続先に拠点名が表示されます。
- 拠点名が表示されている接続先を、文字・数字を直接入力して変更するには、**【黄】** を押して拠点名を削除してから入力してください。
- 同時に接続できる拠点数は61 ページを参照してください。

## 通信中に拠点を追加する（親拠点以外）

多地点通信中の子拠点や2地点通信中の拠点は、次の操作で相手拠点を追加することができます。

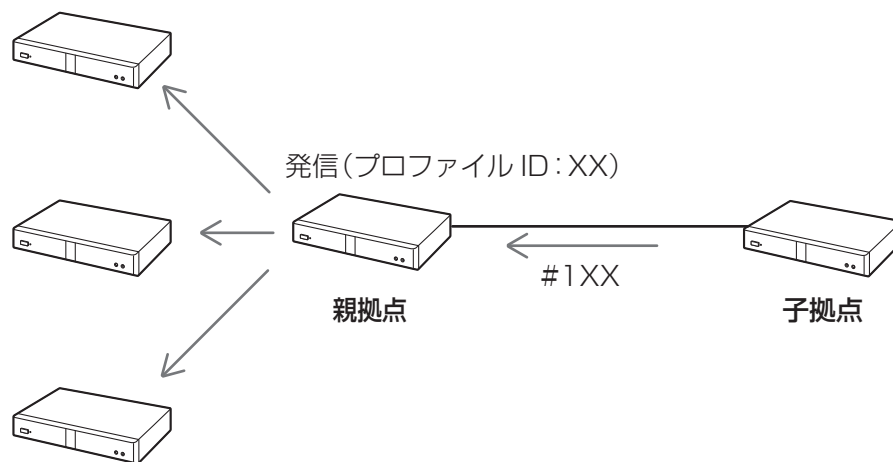
### お知らせ

- 親拠点到プロファイル設定の「**接続先**」の設定が必要です（114 ページ）。
- 子拠点到親拠点到プロファイルID を通知すると、親拠点到ID に対応する「**接続先**」に発信します。
- 2地点通信の場合、プロファイルIDを通知される側の拠点到親拠点到なって発信を行います。
- 親拠点是「**接続先**」に対してプロファイル発信をしません（「**接続先**」に登録された拠点到発信先のリストとしてのみ利用し、それ以外のプロファイル設定を使用しません）。

### 1 【#】【1】【X】【X】 を押す（XX：01～20）

- 親拠点到プロファイルID（XX：01～20）に対応する「**接続先**」に登録された拠点到発信します。

#### イメージ図



### お知らせ

- 親拠点到「**MCU の設定**」で「**DTMF による発信・切断**」を「**無効**」に設定している場合、相手拠点到追加はできません（134 ページ）。
- 異なるプロファイルID で手順1 を複数回行うことができます。
- 複数の子拠点到親拠点到に対して手順1 を行うことができます。
- 次の場合、子拠点到親拠点到の追加はできません。
  - プロファイルから発信した通信
  - プロファイル待受け設定により、プロファイルの設定で開始した通信
  - デュアルストリーム通信でコンテンツ共有中
  - シングルストリーム通信で親拠点到コンテンツ送信中
  - 機器情報表示画面表示中、接続表示画面表示中
- 同時に接続できる拠点到数は61 ページを参照してください。



## 通信中に拠点を切断する

通信中に相手拠点を切断することができます。

### 2地点通信で切断する

#### 1 【終了】 を押す

- 通信が切断されます。

### 多地点通信で切断する（親拠点のみ）

#### 1 【終了】 を押す

- 切断先を選択するダイアログボックスが表示されます（画面はKX-VC1600J（標準時）のものであります）。

#### お知らせ

- 手順1で【メニュー】を押して【▲】【▼】【◀】【▶】で「切断する」を選び【決定】を押しても、ダイアログボックスが表示されます。



#### 2 【▲】【▼】【◀】【▶】で切断する拠点をを選び【決定】を押す

- 選択された拠点が切断されます。

### 多地点通信で切断する（子拠点のみ）

#### 自拠点を切断する場合

#### 1 【終了】 を押す

- 操作した子拠点のみ、通信が切断されます。

#### 自拠点以外を切断する場合

#### 1 【#】【1】【9】【9】 を押す

- 操作した子拠点と親拠点が通信を継続し、ほかのすべての拠点が切断されます。

#### お知らせ

- 親拠点が「MCU の設定」で「DTMF による発信・切断」を「無効」に設定している場合、自拠点以外の切断はできません（134 ページ）。

## 通信中にコンテンツ送信方法を切り替える

通信中にコンテンツ送信方法を切り替えることができます。

### お知らせ

- コンテンツ送信中は送信方法を切り替えることはできません。

### 1 【メニュー】を押す

- 通信中メニュー画面が表示されます。

### 2 【▲】【▼】【◀】【▶】で「コンテンツ送信方法」を選び、【決定】を押す

- コンテンツ送信方法を選択するダイアログボックスが表示されます。



### 3 【▲】【▼】でコンテンツ送信方法を選び、【決定】を押す

- 「自動」(デフォルト)：デュアルストリームとシングルストリームを自動で切り替えます。
- 「シングルストリーム固定」：シングルストリームに固定します。

## 通信中に画面レイアウトを変更する

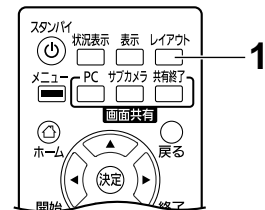
通信中に、画面レイアウトを変更することができます。

### お知らせ

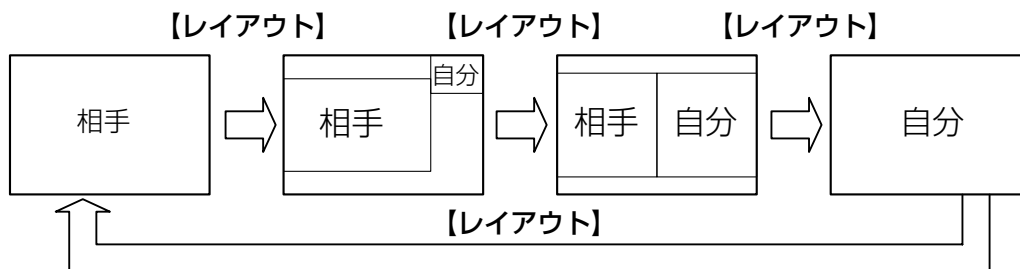
- 表示パターンは、表示するディスプレイの数、接続地点数、コンテンツ共有の有無、親拠点か子拠点か、シングルストリームかデュアルストリームかにより異なります。
- 通信中にデフォルトで表示されるレイアウトは、「映像出力の設定」の「通信開始時のレイアウト」で変更することができます（159 ページ）。

#### 1 【レイアウト】を押す

- 【レイアウト】を押すたびに、以下の順番に画面レイアウトが切り替わります。
  - レイアウト1：相手側の映像
  - レイアウト2：相手側の映像・右上に自分側の映像（PwithP）
  - レイアウト3：相手側の映像・自分側の映像（Side By side）
  - レイアウト4：自分側の映像



例：1ディスプレイ表示、2地点通信、コンテンツ共有なし、親拠点、シングルストリーム通信時



## 相手拠点の分割画面レイアウトを変更する

通信中に相手拠点の分割画面レイアウトを変更することができます。レイアウト構成内の数字は、拠点映像の表示優先順位を表します。(以降、表示優先順位1を「メイン表示」と記載します。)

### 親拠点の操作：

#### 1 【メニュー】を押す

- 通信中メニュー画面が表示されます。

2 ▲ ▼ ◀ ▶ で「レイアウトの設定」を選び【決定】を押す

- レイアウトの設定ダイアログボックスが表示されます。



3 【決定】を押し、▲ ▼ で設定するレイアウトを選び【決定】を押す

- 「自動切替」：会議に参加している拠点の数とMCU動作モード（80 ページ、112 ページ、131 ページ）によって、自動的にレイアウトが切り替わります。
- 「CP1」～「CP28」：選択したレイアウトに変更されます。

4 ▲ ▼ で「決定」を選び【決定】を押す

自動切替時の会議拠点数とレイアウト（ディスカッションモード）

拠点の数	レイアウト番号
2	CP1
3～4	CP4
5～6	CP6
7～8	CP8
9	CP9
10	CP10
11～13	CP13
14～15	CP15
16	CP16
17～20	CP20
21	CP21
22～24	CP24

自動切替時の会議拠点数とレイアウト（プレゼンテーションモード）

拠点の数	レイアウト番号
2	CP1
3	CP2
4～5	CP4

拠点の数	レイアウト番号
6~7	CP6
8~9	CP8
10	CP9
11	CP10
12~14	CP13
15~16	CP15
17	CP16
18~21	CP20
22	CP21
23~24	CP24

通信中に選択できるレイアウトパターン

レイアウト番号	レイアウト構成										
CP1	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> </table>	1									
1											
CP2	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> </table>	1	2								
1	2										
CP4	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> </table>	1	2	3	4						
1	2										
3	4										
CP6	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> </table>	1	2		3	4	5		6		
1	2										
	3										
4	5										
	6										
CP8	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> </table>	1	2		3		4	5	6	7	8
1	2										
	3										
	4										
5	6										
7	8										

レイアウト番号	レイアウト構成																																				
CP9	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr> </table>	1	2	3	4	5	6	7	8	9																											
1	2	3																																			
4	5	6																																			
7	8	9																																			
CP10	<table border="1"> <tr><td colspan="2">1</td><td colspan="2">2</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> </table>	1		2		3	4	5	6	7	8	9	10																								
1		2																																			
3	4	5	6																																		
7	8	9	10																																		
CP13	<table border="1"> <tr><td colspan="2">1</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td colspan="2"></td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr> <tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td></tr> </table>	1		2	3			4	5	6	7	8	9	10	11	12	13																				
1		2	3																																		
		4	5																																		
6	7	8	9																																		
10	11	12	13																																		
CP15	<table border="1"> <tr><td colspan="4">1</td><td colspan="2">2</td></tr> <tr><td colspan="4"></td><td colspan="2">3</td></tr> <tr><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr> <tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td></tr> </table>	1				2						3		4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15												
1				2																																	
				3																																	
4	5	6	7	8	9																																
10	11	12	13	14	15																																
CP16	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr> <tr><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td></tr> <tr><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td></tr> </table>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16																				
1	2	3	4																																		
5	6	7	8																																		
9	10	11	12																																		
13	14	15	16																																		
CP20	<table border="1"> <tr><td colspan="3">1</td><td colspan="4">2</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr> <tr><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td></tr> </table>	1			2				3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20											
1			2																																		
3	4	5	6	7	8																																
9	10	11	12	13	14																																
15	16	17	18	19	20																																
CP21	<table border="1"> <tr><td colspan="4">1</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td colspan="4"></td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td colspan="4"></td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td colspan="4"></td><td>8</td><td>9</td></tr> <tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr> </table>	1				2	3					4	5					6	7					8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
1				2	3																																
				4	5																																
				6	7																																
				8	9																																
10	11	12	13	14	15																																
16	17	18	19	20	21																																
CP24	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>2</td><td colspan="2">5</td><td>6</td></tr> <tr><td colspan="2"></td><td>7</td><td>8</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>9</td><td>10</td><td></td></tr> <tr><td colspan="2"></td><td>11</td><td>12</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td></tr> <tr><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td></tr> </table>	1	2	5		6			7	8		3	4	9	10				11	12		13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24				
1	2	5		6																																	
		7	8																																		
3	4	9	10																																		
		11	12																																		
13	14	15	16	17	18																																
19	20	21	22	23	24																																
CP25	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> <tr><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td></tr> <tr><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td></tr> </table>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25											
1	2	3	4	5																																	
6	7	8	9	10																																	
11	12	13	14	15																																	
16	17	18	19	20																																	
21	22	23	24	25																																	

レイアウト番号	レイアウト構成																																										
CP28	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> </tr> </table>										2	3	4				5	6	7				8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
			2	3	4																																						
			5	6	7																																						
			8	9	10																																						
11	12	13	14	15	16																																						
17	18	19	20	21	22																																						
23	24	25	26	27	28																																						

## 子拠点側の操作：

通信中にリモコンを操作することにより、子拠点側から画面レイアウトを変更することができます。

### 子拠点のリモコン操作とレイアウト

テンキー	レイアウト番号
*21	CP1
*22	CP2
*24	CP4
*26	CP6
*28	CP8
*29	CP9
*20	CP10
*30	CP10
*33	CP13
*35	CP15
*36	CP16
*40	CP20
*41	CP21
*44	CP24
*45	CP25
*48	CP28

### お知らせ

- \*#4、\*#6で前後のレイアウト番号に切り替えることができます。\*#4で小さい番号へ、\*#6で大きい番号へ切り替わります。
- 「MCUの設定」で「DTMFによる分割レイアウト変更」を「無効」に設定している場合、子拠点からの操作はできません（134 ページ）。
- 子拠点側から画面レイアウト変更をすると全拠点のレイアウトも変更されます。
- 親拠点のレイアウトが自動切替の場合（「MCUの設定」で「レイアウト」を「自動切替」に設定（131 ページ）、または通信中メニューで「レイアウトの設定」を「自動切替」に設定（76 ページ））、子拠点からの操作はできません。

## MCU動作モードを変更する（親拠点のみ）

通信中に、MCU動作モードを変更することができます。

- 1 【メニュー】を押す
  - 通信中メニュー画面が表示されます。
- 2 【▲】【▼】【◀】【▶】で「MCU動作モード」を選び【決定】を押す
  - MCU動作モードの設定ダイアログボックスが表示されます。



- 3 【▲】【▼】でMCU動作モードを選ぶ
  - 「ディスカッション」：親拠点、子拠点で同じ映像が表示されます（会議に適したモードです）。
  - 「プレゼンテーション」：親拠点には子拠点の合成映像、子拠点には親拠点の映像のみが表示されます（講義に適したモードです）。

### お知らせ

- 「GUIの設定」で「MCU動作中の「黄」ボタン」に「ディスカッション／プレゼンテーション」を設定すると、【黄】を押してMCU動作モードを切り替えることができます（163 ページ）。



## メイン表示の設定を変更する（親拠点のみ）

通信中に、メインに表示する拠点の設定を変更することができます。

### 1 【メニュー】を押す

- 通信中メニュー画面が表示されます。

### 2 【▲】【▼】【◀】【▶】で「メイン表示の設定」を選び【決定】を押す

- MCU動作モード（80 ページ、112 ページ、131 ページ）に応じたメイン表示の設定ダイアログボックスが表示されます。



### 3 【決定】を押し【▲】【▼】で切り替え方法を選び【決定】を押す

- ディスカッションモードの場合
  - 「自拠点」：自拠点を表示します。
  - 「音声切替1」：会議中に最も音量が大きい相手（発言者）を、自動的にメイン表示として表示します。
  - 「音声切替2（自拠点）」：自拠点の表示位置はメイン表示に固定され、最も音量が大きい相手（発言者）を、表示優先順位2として表示します。
  - 「音声切替2（接続先1）」～「音声切替2（接続先23）」：選択した拠点がメイン表示に固定され、最も音量が大きい相手（発言者）を、表示優先順位2として表示します。
  - 「接続先1」～「接続先23」：選択した拠点がメイン表示として表示されます。
  - 「位置指定」：各拠点の映像を設定した表示位置に表示します。
- プレゼンテーションモードの場合
  - 「接続先1」～「接続先23」：選択した拠点がメイン表示として表示されます。
  - 「位置指定」：各子拠点の映像を設定した表示位置に表示します。

#### お知らせ

- 「位置指定」はプロファイル登録時のみ選択可能です（通信中に「位置指定」から「位置指定」以外へ変更できますが、再度「位置指定」に変更することはできません）。「位置指定」選択時の表示位置については、「メイン表示（ディスカッション）」（113 ページ）、「メイン表示（プレゼンテーション）」（113 ページ）を参照してください。
- 次の場合、現在の設定は「音声切替2（#未接続#）」と表示されます。この状態からほかの切り替え方法を選択することも可能です。
  - 「音声切替2（接続先1）」～「音声切替2（接続先23）」を設定後、選択した接続先が切断した場合。

- プロファイルの登録で「メイン表示 (ディスカッション)」に「音声切替2 (接続先1)」～「音声切替2 (接続先30)」を設定した状態で、選択した接続先が未接続の場合 (113 ページ)。

#### 4 【▲】【▼】で「決定」を選び【決定】を押す

##### お知らせ

- シングルストリーム通信中にコンテンツ共有を行うと、コンテンツ映像が自動的にメイン表示として表示されます。

## 拠点名の表示を変更する（親拠点のみ）

通信中、画面に拠点名を表示するかどうか、設定を変更することができます。

- 1 【メニュー】を押す
  - 通信中メニュー画面が表示されます。
- 2 【▲】【▼】【◀】【▶】で「拠点名の表示」を選び【決定】を押す
  - 拠点名の表示を設定するダイアログボックスが表示されます。



- 3 【▲】【▼】で拠点名の表示（「する」、「しない」）を選び【決定】を押す

## 接続先の音声設定を変更する（親拠点のみ）

通話中に、自拠点と接続先の音声を合成するモードを選択することができます。

- 1 【メニュー】を押す
  - 通信中メニュー画面が表示されます。
- 2 【▲】【▼】【◀】【▶】で「接続先の音声」を選び【決定】を押す
  - 接続先の音声を設定するダイアログボックスが表示されます。



- 3 【▲】【▼】で「合成（自動選択）」、「合成（固定拠点）」または「全ミュート」を選び【決定】を押す
  - 「合成（自動選択）」（デフォルト）：音声が大きい順に最大4拠点までの音声を自動的に合成します。
  - 「合成（固定拠点）」：音声を合成する拠点を最大4拠点まで指定します。
  - 「全ミュート」：接続先の音声をミュートし、親拠点の音声のみを出力します。

## 音声の合成拠点の設定を変更する（親拠点のみ）

「接続先の音声」を「合成（固定拠点）」に設定した場合（83 ページ、112 ページ）の音声を合成する拠点を設定します。

- 1 【メニュー】を押す
  - 通信中メニュー画面が表示されます。
- 2 【▲】【▼】【◀】【▶】で「音声の合成拠点」を選び【決定】を押す
  - 拠点を選擇するダイアログボックスが表示されます。



- 3 【▲】【▼】で音声を合成する拠点をを選び【決定】を押す
  - 【決定】でチェックのあり、なしが切り替わり、最大で4拠点まで選擇できます。
- 4 【▲】【▼】で「決定」を選び【決定】を押す

### お知らせ

- 通信中メニュー（83 ページ）の「接続先の音声」、またはプロフィールの登録（112 ページ）の「接続先の音声」を「合成（固定拠点）」に設定している場合のみ設定可能です。

## 録画を開始・終了する

通信中に録画を開始・終了することができます。録画した映像・音声は、本体背面に接続したUSBメモリーに保存されます。

### お知らせ

- 録画機能の詳細は「USB録画機能を利用する（196 ページ）」を参照してください。
- 待ち受け中に録画を開始・終了することもできます（140 ページ）。

- 1 【メニュー】を押す
  - 通信中メニュー画面が表示されます。
- 2 【▲】【▼】【◀】【▶】で「USB録画」を選び、【決定】を押す
  - 録画の開始または終了を確認するダイアログが表示されます。
- 3 【◀】【▶】で「はい」「いいえ」を選び、【決定】を押す  
非録画中の場合
  - 「はい」を選んだ場合、録画を開始します。

- 「いいえ」を選んだ場合、録画を開始しません。  
録画中の場合
- 「はい」を選んだ場合、録画を終了します。
- 「いいえ」を選んだ場合、録画を終了しません。

#### お知らせ

- 「GUIの設定」で「通信中の「緑」ボタン」に「USB録画」を設定すると、【緑】で通信中に録画を開始・終了できます（163 ページ）。

## PC接続方法を表示する

Webハイブリッドモード使用時のPC接続方法を表示します（201 ページ）。

### 1 【メニュー】を押す

- 通信中メニュー画面が表示されます。

### 2 【▲】【▼】【◀】【▶】で「PC接続方法」を選び【決定】を押す

- Webハイブリッドモード使用時に、HD映像コミュニケーションユニットとパソコンを接続する方法を表示します。

### 3 【決定】を押す

- 通信中メニュー画面に戻ります。

#### お知らせ

- 「PC接続方法」は「Webハイブリッドモード」を「常時有効」または「一時有効」に設定している場合に表示されます（142 ページ）。

## 多地点通信中に特定の子拠点と通話をする（親拠点のみ）

多地点通信中、親拠点からひとつの子拠点を選択し、ほかの拠点に聞かれずに1対1で通話することができます。選択されなかった子拠点は、1対1通話中の拠点に音声を送ったり、選択されなかった子拠点どうしで通話したりすることはできません。

### 1対1通話の開始

#### 1 【メニュー】を押す

- 通信中メニュー画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】【◀】【▶】** で「1対1通話」を選び**【決定】** を押す

- 子拠点を選択するダイアログボックスが表示されます。



3 **【▲】【▼】【◀】【▶】** で通話する子拠点を選び**【決定】** を押す

- 選択した子拠点と1対1通話を開始します。

## 1対1通話の終了

1 **【メニュー】** を押す

- 通信中メニュー画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】【◀】【▶】** で「1対1通話」を選び**【決定】** を押す

- 子拠点を選択するダイアログボックスが表示されます。

3 **【▲】【▼】【◀】【▶】** で「1対1通話終了」を選び**【決定】** を押す

- 子拠点との1対1通話を終了します。

### お知らせ

- 手順3で「1対1通話終了」の代わりに別の子拠点を選択すると、別の子拠点との1対1通話を開始します。

### お知らせ

- 「MCU動作中の「青」ボタン」に「1対1通話」を設定している場合、**【青】** を押して1対1通話を開始・終了できます（163 ページ）。
- 1対1通話を開始すると、多地点通信中のすべての拠点で画面レイアウトが2分割（左側：親拠点、右側：通話相手の子拠点）に切り替わり、1対1通話中であることを文字で画面に表示します。
- 1対1通話の音声は、ほかの子拠点には聞こえません。また1対1通話中の2拠点に、ほかの子拠点の音声は聞こえません。
- 1対1通話中の2拠点以外の拠点は通話できません。
- 1対1通話を終了すると、開始前の画面レイアウトに戻ります。ただし、1対1通話中にコンテンツ共有などで画面レイアウトを変更した場合は、変更した画面レイアウトのままです。
- USB録画の音声は、1対1通話の音声になります。
- 1対1通話中は、通信中メニューで「接続先の音声」、「音声の合成拠点」の設定はできません。
- ディスカッションモード時に親拠点の映像を表示しない場合（133 ページ）、1対1通話はできません。

- 1対1通話中に【PC】または【サブカメラ】を押すと、多地点通信中のすべての拠点でパソコンやサブカメラの映像を共有します。1対1通話中のコンテンツ共有操作は、多地点通信中のすべての拠点で有効です（音声は1対1通話のままです）。

## 接続履歴を確認する

通信中の端末が、通信開始から現在まで他拠点と行った接続の履歴を確認することができます。

### お知らせ

- 多地点通信中に接続履歴を確認するには、「MCU動作中の「青」ボタン」で「接続履歴」を設定してください（163 ページ）。

### 1 通信中に【青】を押す

- 接続履歴画面が表示されます。



### 2 【戻る】を押す

- 通信中画面に戻ります。

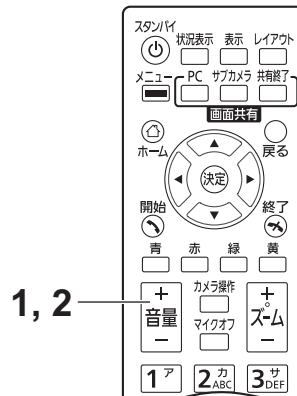
### お知らせ

- 【▲】【▼】で接続履歴画面をスクロールして、前後の履歴を表示することができます。
- 接続履歴画面を表示して約10秒間何も操作を行わないと、通信中画面に戻ります。
- 通信中に通信相手が他拠点と行った接続の履歴は表示されません。

## 音量を調整する

通信中に音量を調整することができます。

- 1 【音量 (+/-)】 を押す
    - 音量調整バーが画面下に表示されます。
  - 2 【音量 (+/-)】 で音量を調整する
    - 【+】 を押すと、相手の声が大きくなります。
    - 【-】 を押すと、相手の声が小さくなります。
- 約3秒後、音量調整バーの表示が消えます。



### お知らせ

- 通信開始時の音量を設定することができます (135 ページ)。
- 通信終了後は、設定した通信開始時の音量に戻ります。
- 通信中の音量を調整できます。テレビの音量は調整できません。



## マイク音声をマイクオフする

通信中に、自分の声を相手に聞こえないようにすること（マイクオフ）ができます。相手の声は聞こえますが、相手には自分の声は聞こえません。

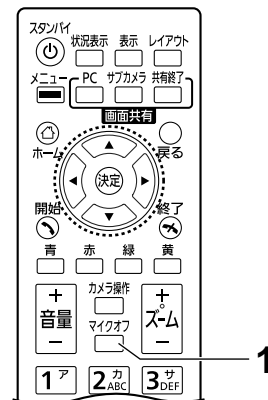
### お知らせ

- 発信または着信から通信を開始したときのマイクを、マイクオフにする設定ができます（129 ページ）。

## マイクオフする（リモコンで操作する）

### 1 【マイクオフ】を押す

- 画面の状況表示エリアにアイコン（42 ページ）が表示され、専用マイクのランプが赤色点灯します。ランプの色が変わったことを確認してください。
- もう一度【マイクオフ】を押すと、マイクオフは解除されます。専用マイクのランプが緑色点灯します。ランプの色が変わったことを確認してください。

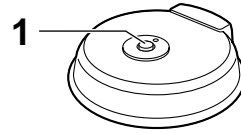


## マイクオフする（専用マイクで操作する）

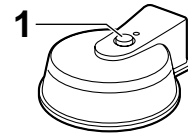
- 1 マイクオフボタンを押す
  - 画面の状況表示エリアにアイコン（42 ページ）が表示され、専用マイクのランプが赤色点灯します。ランプの色が変わったことを確認してください。
  - もう一度マイクオフボタンを押すと、マイクオフは解除されます。専用マイクのランプが緑色点灯します。ランプの色が変わったことを確認してください。

### お知らせ

- 専用デジタルマイクを複数接続している場合、ひとつの専用デジタルマイクのマイクオフボタンを押すとすべての専用デジタルマイクがマイクオフになります。
- 専用デジタルマイクと専用アナログマイクを同時に接続している場合、一方の専用マイクのマイクオフボタンを押すと両方の専用マイクがマイクオフになります。
- ヘッドセットを接続している場合、専用マイクのマイクオフボタンは使用できません。



専用デジタルマイク



専用アナログマイク

## マイク付近のノイズを減らす

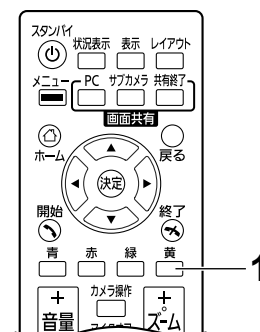
通信中に自分のマイク付近のノイズ（書類をめくる音などの雑音）を減らし、相手に自分の音声を聞きやすくします。音声とノイズが同時にマイクに入った場合は、音声小さくなる場合があります。

### 1 【黄】を押す

- 「手元ノイズ抑圧 [ON]」が表示され、本機能が有効になります。



- もう一度【黄】を押すと「手元ノイズ抑圧 [OFF]」が表示され、本機能が無効になります。

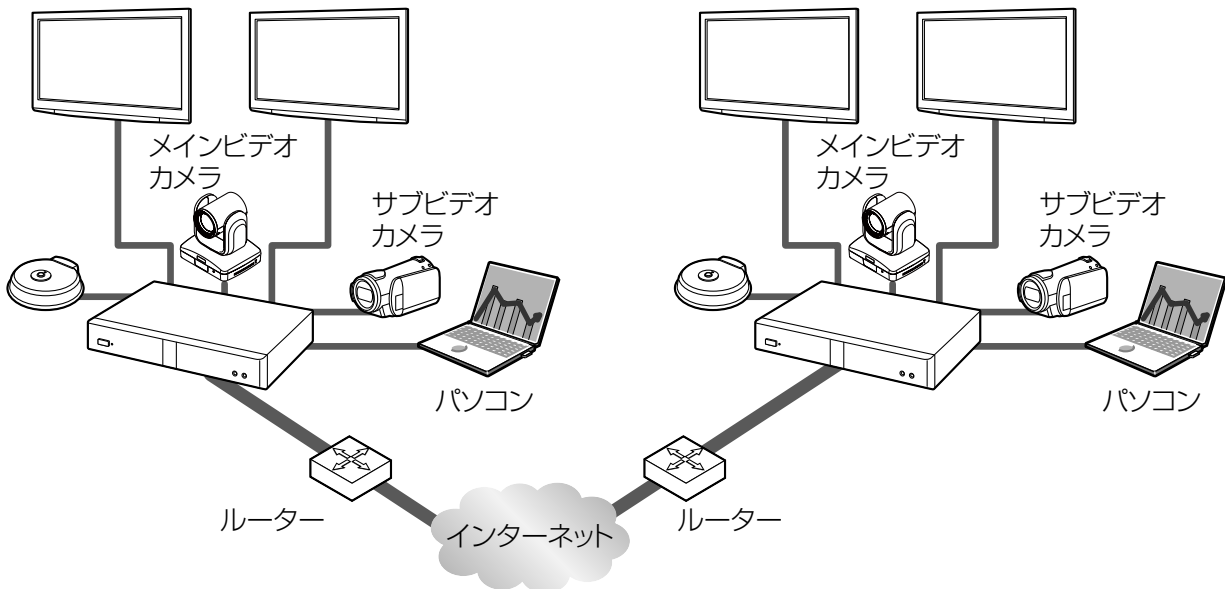


### お知らせ

- 本機能は、専用デジタルマイク接続時にのみ有効です。
- 通信を開始したときに本機能を有効にするかどうかを、あらかじめ設定することができます（130 ページ）。
- 通信終了後は、本機能は設定した通信開始時の設定に戻ります。
- 「GUIの設定」で「MCU動作中の「黄」ボタン」に「ディスカッション／プレゼンテーション」を設定した場合、MCUを使用した通信中は「黄」ボタンの機能がMCU動作モード変更に変わります（163 ページ）。

## パソコンやサブビデオカメラの映像を共有する

本機にパソコンやサブビデオカメラを接続すると、パソコンやサブビデオカメラの画面を自分と相手のテレビに表示させることができます。パソコンやサブビデオカメラの画面を見せながら説明をする場合などに便利です。



### お知らせ

- パソコン画面共有に対応している解像度はVGA (640 × 480)、SVGA (800 × 600)、XGA (1024 × 768)、HD (1280 × 720)、WXGA (1280 × 768、1280 × 800)、SXGA (1280 × 1024)、FWXGA (1360 × 768、1366 × 768)、WXGA+ (1440 × 900)、WXGA++ (1600 × 900)、UXGA (1600 × 1200)、WSXGA+ (1680 × 1050)、Full-HD (1920 × 1080) です。

### 1 通信中に【PC】または【サブカメラ】を押す デュアルストリーム通信の場合：

- 自分側のビデオカメラの映像と同時に、パソコンまたはサブビデオカメラのコンテンツ映像を相手拠点に送信することができます。相手側の様子と共有データを、同時に確認することができます。

### お知らせ

- 通信の設定 (129 ページ) でデュアルストリーム通信を無効にした場合、またはデュアルストリーム通信ができない端末と接続した場合は、画面切り替え方式となります。

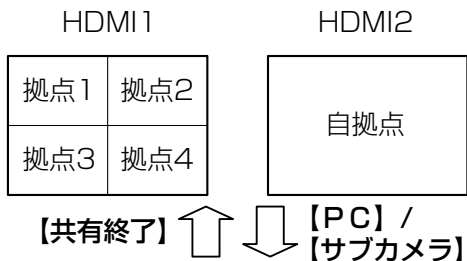
画面切り替え方式 (以降、「シングルストリーム通信」と記載します。) の場合：

- テレビの表示が、メインビデオカメラの映像からパソコンまたはサブカメラのコンテンツ映像に切り替わります。  
相手のテレビにも同じ映像が表示されます。

### 2 メインビデオカメラの映像に戻す場合は【共有終了】を押す

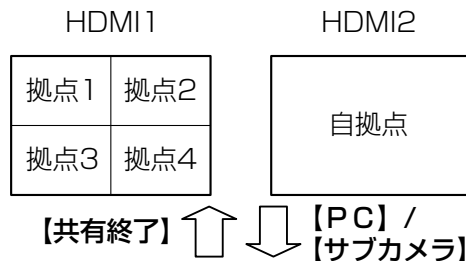
例：シングルストリーム通信（2画面使用、4地点通信、親拠点）

コンテンツ共有なし

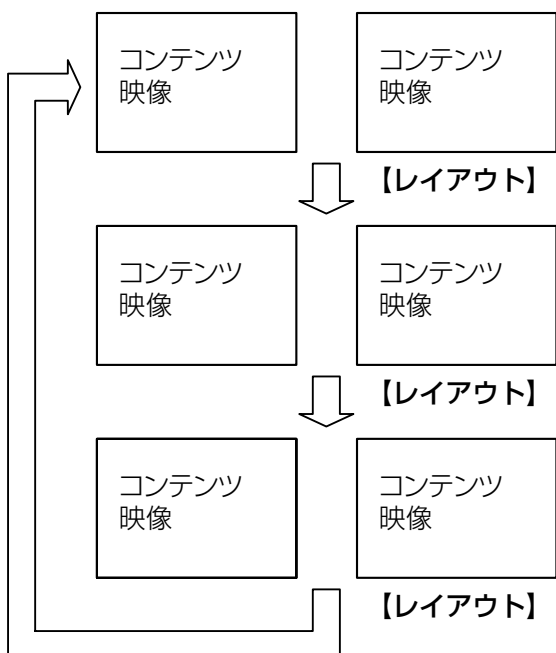


例：デュアルストリーム通信（2画面使用、4地点通信、親拠点）

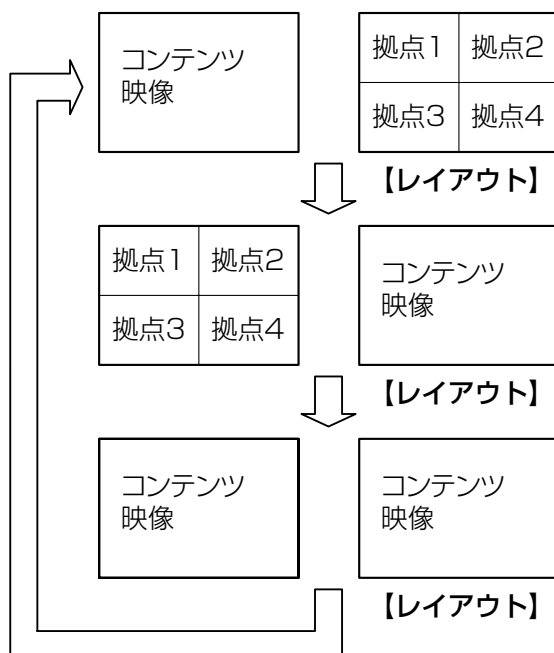
コンテンツ共有なし



コンテンツ共有あり



コンテンツ共有あり



※拠点1～拠点4は自拠点、または相手拠点です。

### お知らせ

- **【レイアウト】** を押すたびに、2モニター間でコンテンツ映像、コンテンツ映像とカメラ映像の合成画面、カメラ映像の表示を切り替えることができます。
- シングルストリーム通信の場合
  - 2地点通信時、相手の画面レイアウトの状態によっては、相手のテレビに同じ画面が表示されない場合があります。その際は、**【共有終了】** を押してコンテンツ共有を解除するか、相手側の画面レイアウトを、こちら側の画面を表示するレイアウトに変更するように伝えてください。
- デュアルストリーム通信の場合
  - パソコンまたはサブカメラのコンテンツ映像を共有中に相手側からもコンテンツ映像を共有することができます。この場合、全拠点のコンテンツ映像が、後から共有された映像に変わりますのでご注意ください。
- ホーム画面（待ち受け画面）を表示中に**【PC】** または **【サブカメラ】** を押すと、パソコンまたはサブカメラのコンテンツ映像を表示することができます。パソコンまたはサブカメラのコンテンツ映像を表示中は、スクリーンスタンバイ状態に移行しません。ホーム画面に戻るときは、**【共有終了】** を押してください。

## ビデオカメラを操作する

通信中、自分側または相手側に接続されたPTZ（パン・チルト・ズーム）カメラのパン（左右移動）、チルト（上下移動）、ズームを操作することができます。メインまたはサブビデオカメラで操作が可能です。サブビデオカメラは、シングルストリーム通信でサブビデオカメラの映像をコンテンツ共有しているときに操作が可能です。

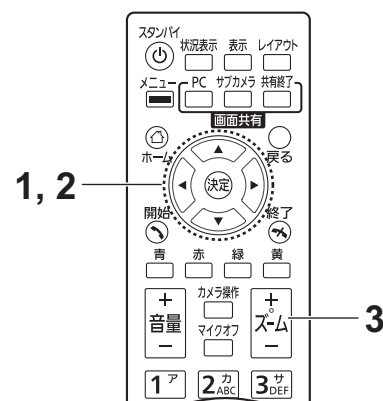
### お知らせ

- 本書では、ビデオカメラの方向を変えると、カメラ可動部が回転するタイプを「PTZカメラ」と記載しています。
- 対応しているビデオカメラの機種については、販売店にお問い合わせください。
- ビデオカメラの機種によっては、利用できる機能が限られる場合があります。（例：ズーム機能のみのビデオカメラ）
- 相手側が他社製のビデオ会議システムを使用している場合、操作ができなかったり、誤動作を起こす可能性があります。
- 「**非通信中のカメラ直接操作**」の設定で、待ち受け中のビデオカメラの操作を「**無効**」にすることができます（138 ページ）。
- 通信参加者の中に、KX-VC400、KX-VC500、KX-VC300、KX-VC600の2.30より古いソフトウェアのバージョン（2.30は含みません）を使用している相手がいる場合、相手側のビデオカメラは操作できません。自分側のビデオカメラ操作のみ可能です。
- 自分側のビデオカメラについて、相手側からの操作を許可するには、自分側で「**通信相手からのカメラ制御**」の設定（デフォルト：「**無効**」）を「**有効**」にする必要があります（138 ページ）。
- 親拠点では全拠点、子拠点では自拠点と親拠点のメイン表示に表示されている拠点のカメラを操作することができます。
- 内蔵MCUを使用した多地点通信の子拠点が自拠点以外のカメラを操作するには、親拠点側で「**カメラ制御の転送**」の設定（デフォルト：「**無効**」）を「**有効**」にし（133 ページ）、かつ「**通信相手からのカメラ制御**」の設定（デフォルト：「**無効**」）を「**有効**」にする必要があります（138 ページ）。

### 自分側のビデオカメラを直接操作する

ホーム画面、通信中画面からリモコンにより直接PTZ（パン・チルト・ズーム）操作をすることができます。

1. **【▲】【▼】**： ビデオカメラを上方向／下方向に移動
2. **【◀】【▶】**： ビデオカメラを左方向／右方向に移動
3. **【ズーム（+／-）】**： ビデオカメラをズームイン、ズームアウトする



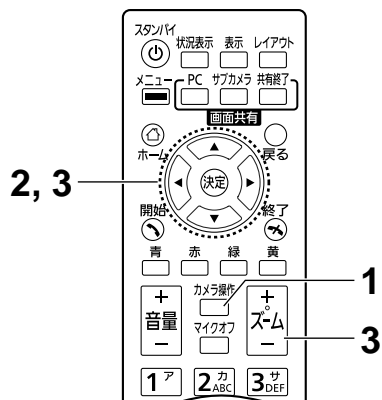
**お知らせ**

- 「カメラ操作時のレイアウト変更」に「有効」を設定した場合、通信中にカメラ操作を行うと、自分側のビデオカメラ映像が表示され操作の確認を行うことができます。操作しない状態が約3秒間続くと、元の画面が表示されます。

**ビデオカメラをメニューから操作する**

1 【カメラ操作】を押す

- 拠点選択ダイアログボックスが表示されます。



**お知らせ**

- 拠点選択ダイアログボックスが表示されてから約10秒間操作を行わなかった場合、ダイアログボックスの表示が消えます。
- 非通信中は拠点選択ダイアログボックスは表示されません。手順3へすすんでください。

2 【▲】【▼】で操作したい拠点を選び、【決定】を押す

- カメラ操作画面が表示されます。





### 3 リモコンのボタンを押してビデオカメラを操作する

**【ズーム (+/-)】**：ズームイン/ズームアウト

**【◀ ▶】**：ビデオカメラを左方向/右方向に移動

**【▲ ▼】**：ビデオカメラを上方向/下方向に移動

- ボタンを押している間動作を続け、ボタンを離すと停止します。微調整したい場合は、ボタンを押してすぐ離す操作を繰り返してください。
- 通信中画面に戻りたい場合は **【戻る】** を押してください。

#### お知らせ

- リモコンの **【表示】** を押すと、ガイドエリアを表示/非表示にできます。非表示にした場合、ガイド表示の一部を非表示にするか、全部を非表示にするかを管理者メニューで設定できます（163 ページ）。
- 以下のような場合は **【カメラ操作】** を押してもビデオカメラを操作できません。
  - 機器情報表示画面表示中、接続表示画面表示中
  - ダイアログボックス表示中

# プリセット登録をする

非通信中、自分側にメインまたはサブビデオカメラとして接続されたビデオカメラのプリセット（パン、チルト、ズームなどの調整）を12通りまで登録することができます。

## お知らせ

- プリセット登録は、プリセット機能をサポートしているビデオカメラを使用している場合のみ可能です。詳細については、販売店にお問い合わせください。

### 1 【ホーム】 を押す

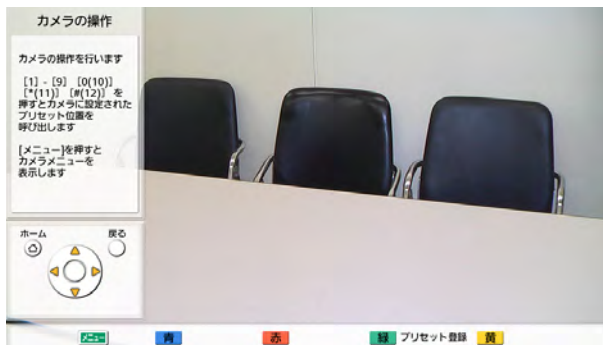
- ホーム画面が表示されます。

## お知らせ

- サブビデオカメラのプリセット登録をする場合は、【サブカメラ】 を押してください。

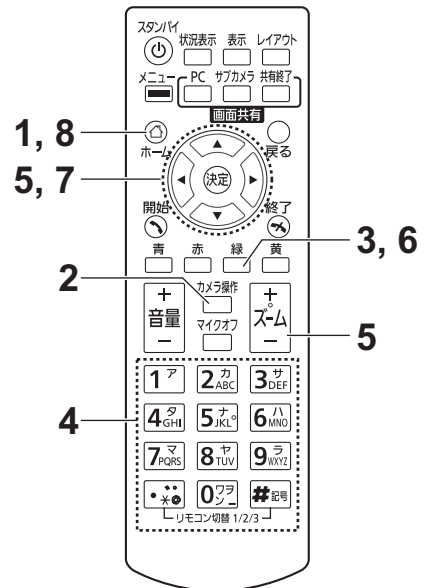
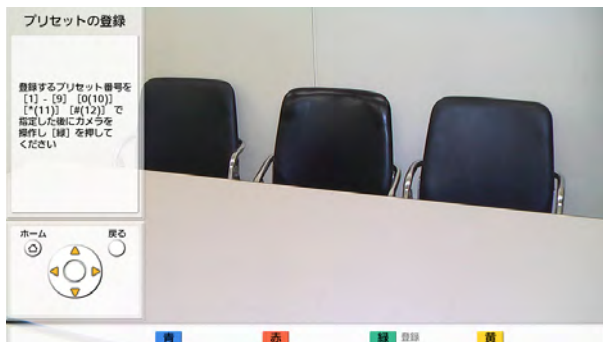
### 2 【カメラ操作】 を押す

- 自分側のビデオカメラのカメラ操作画面が表示されます。



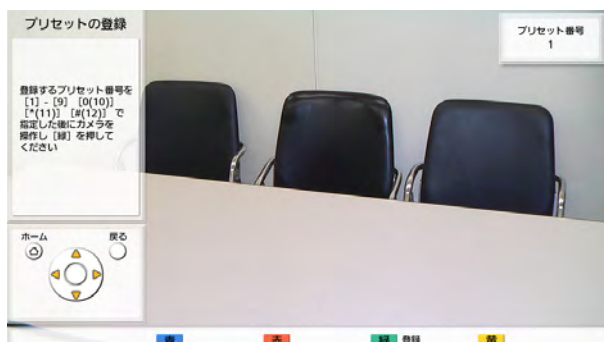
### 3 【緑】 を押す

- プリセット登録画面が表示されます。



#### 4 数字ボタン（0～9、\*、#）を押して、登録したいプリセット番号を選ぶ

- 画面右上に選んだプリセット番号が表示されます。



#### お知らせ

- リモコンの数字ボタンに、次のプリセット番号が割り当てられています。

数字ボタン	プリセット番号
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9
0	10*
*	11*
#	12*

\* KX-VD170J での使用を想定したプリセット番号で、KX-VD170J で動作検証されています。

- すでに登録しているプリセット番号を選んで登録を行った場合、プリセット登録情報は上書きされます。
- 5 リモコンのボタンを押して、ビデオカメラのプリセットを調整する
- 【ズーム (+/-)】**：ズームイン／ズームアウト  
**【◀ ▶】**：ビデオカメラを左方向／右方向に移動  
**【▲ ▼】**：ビデオカメラを上方向／下方向に移動
- 6 **【緑】** を押す
- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

7 【◀ ▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- プリセット登録画面が表示されます。

**お知らせ**

- 連続して登録したい場合は、手順4～7をくり返してください。

8 【ホーム】を押す

- ホーム画面が表示されます。

**お知らせ**

- プリセット登録情報はビデオカメラ側に保存されます。ビデオカメラを初期化した場合、プリセット登録情報は破棄されますので、本機を使用して再度プリセット登録を行ってください。

## 登録したプリセットを呼び出す

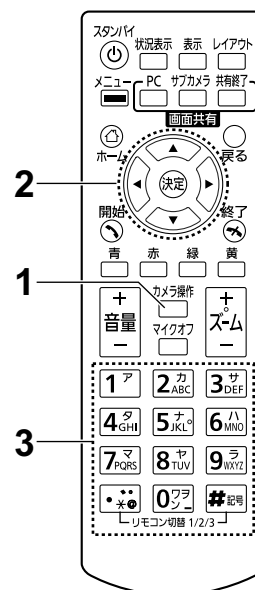
通信中に、事前に登録した自分側のビデオカメラのプリセットを呼び出し、ビデオカメラの向き、ズーム倍率の設定内容などをご希望の状態に調整することができます。

### お知らせ

- 対応しているビデオカメラの機種については、販売店にお問い合わせください。
- 通信中は、相手側で登録されたビデオカメラのプリセットを呼び出すことも可能です。

#### 1 【カメラ操作】を押す

- 拠点選択ダイアログボックスが表示されます。



### お知らせ

- 拠点選択ダイアログボックスが表示されてから約10秒間操作を行わなかった場合、ダイアログボックスの表示が消えます。
- 非通信中は拠点選択ダイアログボックスは表示されません。手順3へすすんでください。

#### 2 【▲】【▼】で「自拠点」を選び、【決定】を押す

- カメラ操作画面が表示されます。



### お知らせ

- 自拠点以外を選択すると、選択した拠点のプリセットを呼び出せます。

**3** 数字ボタン（0～9、\*、#）を押して、呼び出したいプリセット番号を選ぶ

- ビデオカメラの向きやズーム倍率が、事前に登録した状態になります。

**お知らせ**

- リモコンの数字ボタンに、次のプリセット番号が割り当てられています。

数字ボタン	プリセット番号
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9
0	10*
*	11*
#	12*

\* KX-VD170J での使用を想定したプリセット番号で、KX-VD170J で動作検証されています。

## ビデオカメラの設定をする

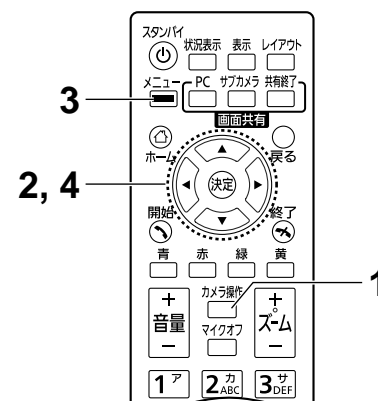
通信中または非通信中、自分側にメインまたはサブビデオカメラとして接続されたビデオカメラの明るさやホワイトバランスなどを設定することができます。

### お知らせ

- ビデオカメラの機種によっては、設定できない場合があります。  
対応しているビデオカメラの機種については、販売店にお問い合わせください。

#### 1 【カメラ操作】を押す

- 拠点選択ダイアログボックスが表示されます。



### お知らせ

- 拠点選択ダイアログボックスが表示されてから約10秒間操作を行わなかった場合、ダイアログボックスの表示が消えます。
- 非通信中は拠点選択ダイアログボックスは表示されません。手順3へすすんでください。

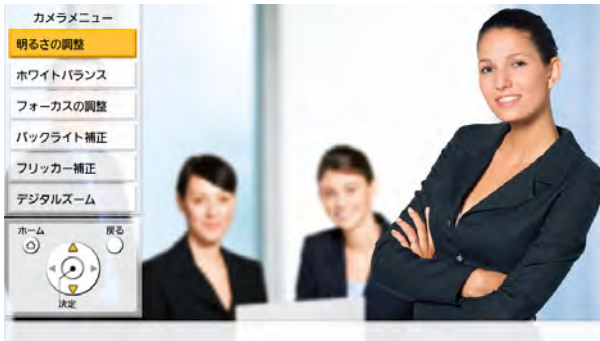
#### 2 【▲】【▼】で「自拠点」を選び、【決定】を押す

- カメラ操作画面が表示されます。



3 【メニュー】を押す

- カメラメニュー画面が表示されます。



4 【▲】【▼】で設定したい項目を選び【決定】を押す

- 各項目の設定画面が表示されます。

**お知らせ**

- ビデオカメラの機種によっては、項目は2画面に渡って表示されます。【赤】（または【▶】）を押すと次の画面へ、【青】（または【◀】）を押すと前の画面へ移動し、すべての項目を表示することができます。
- ビデオカメラの機種によっては、設定項目が表示されない場合があります。
- カメラメニュー画面で設定を行っている間、相手側から自分側のビデオカメラを操作することはできません。

**「明るさの調整」画面**

「明るさモード」：【決定】を押し、【▲】【▼】で「標準」、「手動」を選ぶ

**お知らせ**

- 「手動」を選んだ場合、リモコンのボタンを押して手動で明るさを調整できます。

【青】：暗く

【赤】：明るく



**「ホワイトバランス」画面**

さまざまな光源のもとで、白色が白色に映し出せるよう色合いを補正する機能です。

「ホワイトバランス」：【決定】を押し、【▲】【▼】で設定したいホワイトバランスの値（「自動」、「室内1」、「室内2」、「室外（晴れ）」、「室外（曇り）」、「ワンプッシュ」）を選ぶ

**お知らせ**

- 光源などにより色合いが不自然な場合以外は、「自動」を選んでください。
- 「室内1」は光源が白熱電球などの場合、「室内2」は光源が電球色蛍光灯やナトリウムランプなどの場合に使用します。
- 「ワンプッシュ」を選んだ場合、ホワイトバランスを調整できます。次の手順に従ってください。

**1. 【決定】を押し**

- 以前に「ワンプッシュ」を選んでホワイトバランスを設定していた場合は、前回調整した状態が呼び出されます。

**2. 白い紙をビデオカメラに向ける****3. 【緑】を押し**

「フォーカスの調整」画面：【▲】【▼】で以下の項目を選び、入力する

「フォーカス位置」：【決定】を押し、【▲】【▼】で「中央」、「両サイド」を選ぶ

「フォーカスモード」：【決定】を押し、【▲】【▼】で「自動」、「手動」を選ぶ

**お知らせ**

- 「手動」を選んだ場合、リモコンのボタンを押してフォーカスを調整できます。

【青】：近く

【赤】：遠く

**「バックライト補正」画面**

逆光時に被写体が暗くなるのを自動で補正する機能です。

「バックライト補正」：【決定】を押し、【▲】【▼】で「する」、「しない」を選ぶ

「フリッカー補正」画面

映像のちらつきを補正する機能です。

「フリッカー補正」：【決定】を押し、【▲】【▼】で「する」、「しない」を選ぶ

「デジタルズーム」画面

撮影範囲の中央を切り出して、デジタル処理で拡大する機能です。

「デジタルズーム」：【決定】を押し、【▲】【▼】で「する」、「しない」を選ぶ

「シャープネス」画面

映像の輪郭の鮮明さを調整する機能です。

「シャープネス」：【決定】を押し、【▲】【▼】で「強」、「中」、「弱」、「しない」を選ぶ

「ノイズフィルター」画面

照度が低いときなどの映像ノイズを抑制する機能です。効果を強くすると残像が増える場合があります。

「ノイズフィルター」：【決定】を押し、【▲】【▼】で「強」、「中」、「弱」、「しない」を選ぶ

お知らせ

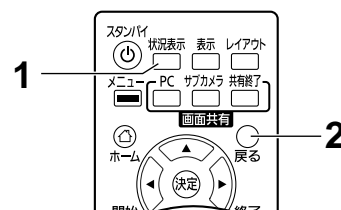
- 各設定画面で設定を完了したら【決定】を押してください。その後【メニュー】または【戻る】を押すとカメラメニュー画面が表示されます。

## 接続状況を表示する

ネットワークや周辺機器の接続状況を確認することができます。

### 1 【状況表示】を押す

- 接続表示画面が表示されます。接続や接続機器に不具合がある箇所、または接続されていない機器がある箇所には「—」のマークが表示されます。



### 2 【戻る】を押す

- 接続表示画面を表示させる前の画面に戻ります。

### お知らせ

- 通信中は手順1で【状況表示】を2回押してください。

## 機器情報を表示する

### お知らせ

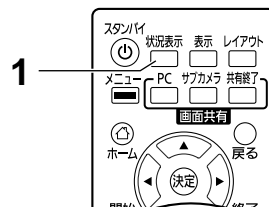
- 配信中以外の機器情報表示を説明しています。配信中の機器情報表示については「配信中の通信状況を確認する（配信端末）（194 ページ）」、「配信中の通信状況を確認する（中継・受信端末）（194 ページ）」を参照してください。

### 1 【状況表示】を2回押す

- 機器情報表示画面が表示されます。

拠点名	: Tokyo
MACアドレス	: ██████████
IPアドレス	: 192.168.181.110 / 255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	: 192.168.181.1
DNSサーバー	: 203.119.1.1
最大帯域	: 9.0 Mbps
暗号通信 (SIP)	: 有効
暗号通信 (H.323)	: 無効
バージョン情報	: ██████████
映像周波数	: 60Hz

青      赤 次ページ      緑      黄



- 機器情報表示画面は、2画面から3画面に渡って表示されます。【赤】を押すと次の画面へ、【青】を押すと前の画面へ移動し、すべての項目を表示することができます。

### お知らせ

- 「暗号通信 (SIP)」 / 「暗号通信 (H.323)」 / 「暗号通信 (つながるねっと)」には暗号通信の有効 / 無効 / 接続性優先が表示されます。
- 非通信中は1ページ目、2ページ目に自拠点の情報を表示します。
- 通信中は1ページ目に相手拠点、2ページ目、3ページ目に自拠点の情報を表示します。1ページ目で送受信帯域やパケットロス率などの通信中のネットワーク状況を確認できます。
- 多地点通信時は、1ページ目で【緑】を押すと拠点選択ダイアログボックスが表示され、表示する拠点を変更できます。【緑】の代わりに【◀】 / 【▶】で表示する拠点を変更することもできます。
- 拠点選択ダイアログボックスで左に黒い線が表示された拠点は、最も帯域が低い拠点です（「異速度設定」(134 ページ)により2種類の通信グループがある場合、各グループで最も帯域が低い拠点到黒い線が表示されます）。

## アドレス帳に登録する

アドレス帳には相手先を最大600件まで登録することができます。

### お知らせ

- 入力中に着信があると、応答するかどうか確認するダイアログボックスが表示されます。  
【◀】【▶】で、「はい」、「いいえ」を選び、【決定】を押す
  - 「はい」を選ぶと着信に応答し、入力中の内容は反映されず、破棄されます。
  - 「いいえ」を選ぶと、入力を続けることができます。
- 「着信時の応答方法」に「強制応答」を設定すると、入力中の着信に応答し、入力中の内容は破棄されず（128 ページ）。
- 管理者メニューの設定で、アドレス帳の新規登録、編集、削除が行えないようにすることができます（162 ページ）。

## 新規に登録する

### 1 【メニュー】を押す

- メニュー画面が表示されます。

### 2 【▲】【▼】で「アドレス帳を開く」を選び、【決定】を押す

### 3 【青】を押す

- アドレス帳登録画面が表示されます。

拠点名	<input type="text"/>
カナ	<input type="text"/>
短縮番号	4
最大帯域	指定なし
接続モード	標準モード (SIP)
アドレス	<input type="text"/>

青 文字切替【カナ】 赤 小文字 緑 保存 黄 削除

### 4 【▲】【▼】で以下の項目を選び、入力する

【拠点名】：拠点名（全角、半角共通で最大24文字）を入力する（205 ページ）

【カナ】：カナ（全角、半角共通で最大24文字）を入力する（205 ページ）

### お知らせ

- 「カナ」を空白にして設定を保存すると、「拠点名」の内容が「カナ」にコピーされます。「拠点名」を空白にして設定を保存すると、「カナ」の内容が「拠点名」にコピーされます。

【短縮番号】：短縮番号（1～600）を入力する

【最大帯域】：【決定】を押し、【▲】【▼】で最大帯域（「256 kbps」～「18 Mbps」、「指定なし」[デフォルト]）を選ぶ

### お知らせ

- 「指定なし」を設定した場合、通信設定画面（128 ページ）で設定した最大帯域が適用されます。
- 標準モード使用時の通信中は、最大帯域を最も小さく設定した参加者の最大帯域が適用されます。
- 販売店により設定された最大帯域より大きい値で通信することはできません。詳細については、販売店へお問い合わせください。

【接続モード】：【決定】を押し、【▲】【▼】で接続モード（通信タイプ）（「標準モード (SIP)」、「標準モード (H.323)」、「つながるねっとサービスモード」）を選ぶ

【アドレス】：IPアドレス（またはホスト名）、SIP-URI（またはSIPユーザー名）、H.323内線番号、H.323名、MCUの会議室番号@IPアドレス、または接続番号を入力する

### お知らせ

- IPv4アドレスを入力するとき、1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「001」のような入力はいしないでください。  
例：「192.168.0.1」の場合：  
（正）192.168.0.1  
（誤）192.168.000.001
- IPv6アドレスの入力形式は50 ページを参照してください。

- ポート番号を付加してIPv6アドレスを入力する場合、IPv6アドレスを[]で囲んでください。  
(入力例) [2001:db8::10]:5060
- 宛先の入力で入力可能な文字は50 ページを参照してください。
- 相手が自分と同じSIPドメイン名を設定している場合は、SIPユーザー名のみでの入力登録できます。自分と異なるSIPドメイン名の場合は、SIPユーザー名に加えてSIPドメイン名の入力が必要です。
- SIPドメイン名を入力しなかった場合は、自分のSIPドメイン名が自動的に付与され登録されます。意図しない相手を登録する可能性がありますのでご注意ください。
- H.323を使用する場合、次のように入力することができます。
  - IPアドレス (またはホスト名) %H.  
323内線番号 (またはH.323名)
  - IPアドレス (またはホスト名) ##H.  
323内線番号 (またはH.323名)
- 規格に準拠した値を入力してください。詳細については、ネットワーク管理者にご相談ください。

## 5 【緑】 を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

## 6 【◀ ▶】 で「はい」を選び、【決定】 を押す

- アドレス帳画面が表示されます。

### お知らせ

- 連続して登録したい場合は、【青】を押して、手順4~6をくり返してください。

## 7 【ホーム】 を押す

- ホーム画面が表示されます。

## 登録内容を編集する

### 1 【メニュー】 を押す

- メニュー画面が表示されます。

### 2 【▲】 【▼】 で「アドレス帳を開く」を選び、【決定】 を押す

- アドレス帳画面が表示されます。

### 3 【▲】 【▼】 で編集したい相手を選ぶ

- 【◀ ▶】、または数字ボタンを押すと、「全」、「ア」～「ワ」、「A-Z」、「他」から表示するタブ（行）が選べます（57 ページ）。

### 4 【決定】 を押す

- アドレス帳詳細画面が表示されます。

### 5 【緑】 を押す

- アドレス帳修正画面が表示されます。

拠点名	London
カナ	London
短縮番号	1
最大帯域	指定なし
接続モード	標準モード (SIP)
アドレス	192.168.181.111

青 文字切替 [カナ]   赤 小文字   緑 保存   黄 削除

### 6 【▲】 【▼】 で編集したい項目を選び、編集する

### 7 【緑】 を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 8 【◀ ▶】 で「はい」を選び、【決定】 を押す

- アドレス帳詳細画面が表示されます。

### 9 【ホーム】 を押す

- ホーム画面が表示されます。

## 登録を削除する

### 1 【メニュー】を押す

- メニュー画面が表示されます。

### 2 【▲】【▼】で「アドレス帳を開く」を選び、【決定】を押す

- アドレス帳画面が表示されます。

全	ア	カ	サ	タ	ナ	ハ	マ	ヤ	ラ	ワ	A-Z	他
拠点名		接続先		接続モード								
	Fukuoka	192.168.181.223	標準 (SIP)									
	London	192.168.181.111	標準 (SIP)									
	Nagoya	192.168.181.231	標準 (SIP)									
	New York	192.168.181.112	標準 (SIP)									
	Osaka	192.168.181.222	標準 (SIP)									
	Paris	192.168.181.113	標準 (SIP)									

青 新規登録 赤 削除 緑 編集 黄 短縮番号順表示

### 3 【▲】【▼】で削除したい登録先を選ぶ

- 【◀】【▶】、または数字ボタンを押すと、「全」、「ア」～「ワ」、「A-Z」、「他」から表示するタブ（行）が選べます（57 ページ）。

### 4 【赤】を押す

- 削除を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 5 【◀】【▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- アドレス帳画面が表示されます。

### 6 【ホーム】を押す

- ホーム画面が表示されます。

## 履歴から登録する

発信履歴から相手先をアドレス帳に登録することができます。

### 1 【メニュー】を押す

- メニュー画面が表示されます。

### 2 【▲】【▼】で「履歴を見る」を選び、【決定】を押す

- 発信履歴一覧画面が表示されます。

#### お知らせ

- 【緑】を押すと、着信履歴を表示することができます。

### 3 【▲】【▼】で登録したい1地点の履歴を選び、【青】を押す

- アドレス帳登録画面が表示されます。

拠点名	<input type="text"/>
カナ	<input type="text"/>
短縮番号	<input type="text" value="4"/>
最大帯域	指定なし
接続モード	標準モード (SIP)
アドレス	<input type="text" value="192.168.181.119"/>

青 文字切替 [カナ] 赤 小文字 緑 保存 黄 削除

### 4 【▲】【▼】で必要な項目を選び、入力する

### 5 【緑】を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 6 【◀】【▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- 発信履歴一覧画面または着信履歴一覧画面が表示されます。手順2で表示した画面が表示されます。

### 7 【ホーム】を押す

- ホーム画面が表示されます。

## プロフィールを登録する

会議に参加できる拠点、通信タイプ、分割画面レイアウトなど、会議を開始するために必要な設定を事前にプロフィールとして登録することができます。最大20件まで設定することができます。

### 新規に登録する

- 1 **【メニュー】** を押す
  - メニュー画面が表示されます。
- 2 **【▲】【▼】** で「プロフィールを開く」を選び、**【決定】** を押す
  - プロファイル一覧画面が表示されます。
- 3 **【▲】【▼】** で「#未使用#」を選ぶ
- 4 **【青】** を押す
  - プロファイル設定画面が表示されます。



- 5 **【▲】【▼】** で以下の項目を選び入力する

#### お知らせ

- 項目は2画面に渡って表示されます。文字入力中以外は**【赤】**を押すと次の画面へ、**【青】**を押すと前の画面へ移動し、すべての項目を表示することができます。
- 「**接続先**」(手順6～8)、「**音声の合成拠点**」(手順9～11)は手順5の途中でも設定できます。ただし、「**音声の合成拠点**」を設定する場合は、先に「**接続先**」を設定してください。

「**会議名**」：拠点名（全角、半角共通で最大24文字）を入力する（205 ページ）

「**入室制限**」：**【◀】【▶】** で登録された拠点以外の会議への入室を制限するかどうかを選ぶ

- 「**する**」：会議への入室制限を行います。
- 「**しない**」(デフォルト)：会議への入室制限を行いません。

「**拠点名の表示**」：**【◀】【▶】** で多地点接続時に拠点名を表示するかどうかを選ぶ

- 「**する**」(デフォルト)：拠点名を表示します。
- 「**しない**」：拠点名を表示しません。

#### お知らせ

- 親拠点では、HDMI1から出力された映像の場合のみ、分割画面に拠点名を表示します。ただし、カメラ映像やコンテンツ映像のレイアウトとしてPwithP、またはSidebySideを設定している場合は、HDMI1からの出力でも拠点名は表示されません（158 ページ）。
- プレゼンテーションモードの場合、親拠点に表示される子拠点の合成映像に拠点名を表示します。

「**接続先の音声**」：**【決定】** を押し、**【▲】【▼】** で多地点接続時に、相手拠点の音声を強制的にミュートするかどうかを選ぶ

- 「**合成 (自動選択)**」(デフォルト)：音声が大きい順に最大4拠点までの音声を自動的に合成します。
- 「**合成 (固定拠点)**」：音声を合成する拠点を最大4拠点まで指定します。
- 「**全ミュート**」：相手拠点の音声をミュートします。

#### お知らせ

- 「**合成 (固定拠点)**」を選択した場合、「**音声の合成拠点**」を設定してください（「**音声の合成拠点**」の設定の前に「**接続先**」の設定が必要です）。

「**MCU動作モード**」：**【決定】** を押し、**【▲】【▼】** で通信開始時のMCUの動作モードを選ぶ

- 「**ディスカッション**」(デフォルト)：親拠点、子拠点で同じ映像が表示されず（会議に適したモードです）。
- 「**プレゼンテーション**」：親拠点には子拠点の合成映像、子拠点には親拠点の映像のみが表示されます（講義に適したモードです）。



「レイアウト（ディスカッション）」：【決定】を押し、【▲】【▼】でディスカッションモード時の分割画面のレイアウトを選ぶ

－ 「自動切替」（デフォルト）：会議に参加している拠点の数によって、自動的にレイアウトが切り替わります。

－ 「CP1」～「CP28」：選択された画面レイアウトで表示されます（77 ページ）。

「レイアウト（プレゼンテーション）」：【決定】を押し、【▲】【▼】でプレゼンテーションモード時の分割画面のレイアウトを選ぶ

－ 「自動切替」（デフォルト）：会議に参加している拠点の数によって、自動的にレイアウトが切り替わります。

－ 「CP1」～「CP28」：選択された画面レイアウトで表示されます（77 ページ）。

「メイン表示（ディスカッション）」：【決定】を押し、【▲】【▼】でメイン表示（表示優先順位1）に表示する画面を選ぶ

－ 「自拠点」（デフォルト）：自拠点を表示します。

－ 「音声切替1」：最も音量が大きい拠点を、自動的にメイン表示に表示します。

－ 「音声切替2（自拠点）」：自拠点の映像をメイン表示に表示し、その時点で最も音量が大きい拠点を表示優先順位2に表示します。

－ 「音声切替2（接続先1）」～「音声切替2（接続先30）」：選択した拠点がメイン表示に固定され、最も音量が大きい相手（発言者）を、表示優先順位2として表示します。

－ 「接続先1」～「接続先30」：選択した接続先の映像をメイン表示に表示します。

－ 「位置指定」：各拠点の映像を設定した表示位置に表示します。

#### お知らせ

- ・ 「位置指定」を選択すると、親拠点は「自映像の表示位置」で設定した表示位置に表示されます。子拠点はプロフィール設定の「接続先」のIDが小さい順に、優先順位が高い表示位置（親拠点の表示位置を除く）に表示されます。表示優先順位と表示位置の関係は77 ページを参照してください。

「メイン表示（プレゼンテーション）」：【決定】を押し、【▲】【▼】でメイン表示（表示優先順位1）に表示する画面を選ぶ

－ 「接続先1」（デフォルト）～「接続先30」：選択した接続先の映像をメイン表示に表示します。

－ 「位置指定」：各子拠点の映像を設定した表示位置に表示します。

#### お知らせ

- ・ 「位置指定」を選択すると、プロフィール設定の「接続先」のIDが小さい順に、優先順位が高い表示位置に表示されます。表示優先順位と表示位置の関係は77 ページを参照してください。

「自映像の表示位置」：【決定】を押し、【▲】【▼】で自映像の表示位置（表示優先順位）を選ぶ（1（デフォルト）～24）

#### お知らせ

- ・ 「メイン表示（ディスカッション）」で「位置指定」が設定されている場合のみ設定可能です。
- ・ 指定した表示位置が子拠点の接続数よりも大きい場合、自動的に表示位置が前に詰められます。
- ・ 表示優先順位と表示位置の関係は77 ページを参照してください。

「表示位置の設定」：【決定】を押し、【▲】【▼】で表示位置に割り当てた拠点が接続していない場合の動作を選ぶ

－ 「前に詰める」（デフォルト）：次に優先順位が高い表示位置の映像を前詰めで表示します。

－ 「黒画」：拠点が接続していない表示位置の映像を黒い画面で表示します。

#### お知らせ

- ・ 「メイン表示（ディスカッション）」または「メイン表示（プレゼンテーション）」で「位置指定」が設定されている場合のみ設定可能です。

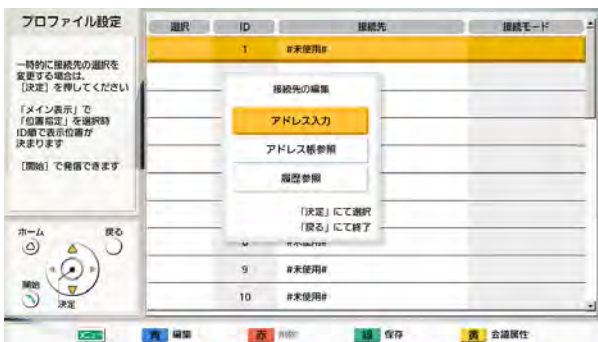
- 6 ▲▼ で「接続先」を選び、決定 を押す
- 接続先選択画面が表示されます。



**お知らせ**

- 選択の欄に「✓」が表示された接続先の登録がない場合、開始 を押しても発信しません。
- 黄 を押すとプロフィール設定画面（1ページ目）に戻ります。
- 接続先は30か所まで登録可能ですが、「#未使用#」、「接続モード（通信タイプ）」の無効な設定を除き、先頭から使用可能な接続数が自動的に選択されます。

- 7 ▲▼ で「#未使用#」を選び、青 を押す
- 入力方式選択のダイアログボックスが表示されます。



「アドレス入力」を選択した場合

- アドレス入力画面が表示されます。

- ① ▲▼ で以下の項目を選び、入力する
- 「接続モード」：決定 を押し、▲▼ で接続モード（通信タイプ）を選び、決定 を押す

- 「標準モード（SIP）」（デフォルト）：SIPを使用して通信します。

- 「標準モード（H.323）」：H.323を使用して通信します。
- 「つながるねっとサービスモード」：つながるねっとサービスを使用して通信します。

- ② 「アドレス」：IPアドレス（またはホスト名）／SIP-URI（またはSIPユーザー名）／H.323内線番号／H.323名／MCUの会議室番号@IPアドレス／接続番号を入力する

- ③ 緑 を押す

- 接続先選択画面が表示されます。

「アドレス帳参照」を選択した場合

- アドレス帳画面が表示されます。

- ① ▲▼ で登録したい相手を選び、決定 を押す

- 接続先選択画面が表示されます。

「履歴参照」を選択した場合

- 発信履歴選択画面が表示されます。（緑 を押すと、着信履歴を表示することができます。）

- ① ▲▼ で登録したい相手を選び、決定 を押す

- 接続先選択画面が表示されます。

**お知らせ**

- 手順7のあとに「音声の合成拠点」や手順5の項目の設定を行わない場合、手順8～11を行わずに手順12にしてください。

- 8 黄 を押す

- プロフィール設定画面（1ページ目）が表示されます。

## 9 【▲】【▼】で「音声の合成拠点」を選び、【決定】を押す

- 音声の合成拠点画面が表示されます。



### お知らせ

- 「接続先の音声」で「合成（固定拠点）」を選択した場合のみ必要な設定です。

## 10【▲】【▼】で音声合成する拠点を選び【決定】を押す

- 【決定】でチェックのあり、なしが切り替わり、最大で4拠点まで選択できます。

### お知らせ

- 接続先の登録がない場合、選択肢は自拠点のみです。先に手順6～8で接続先を設定してください。

## 11【緑】を押す

- プロファイル設定画面が表示されます。

## 12【緑】を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

## 13【◀】【▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- プロファイル一覧画面が表示されます。

## 14【ホーム】を押す

- ホーム画面が表示されます。

### お知らせ

- 連続して登録したい場合は、プロフィール一覧画面で【青】を押して、手順3～13をくり返してください。

## 登録内容を編集する

### 1 【メニュー】を押す

- メニュー画面が表示されます。

### 2 【▲】【▼】で「プロフィールを開く」を選び、【決定】を押す

- プロファイル一覧画面が表示されます。

### 3 【▲】【▼】で編集したいプロフィールを選ぶ

### 4 【青】を押す

- プロファイル設定画面が表示されます。

### お知らせ

- 項目は2画面に渡って表示されます。文字入力中以外は【赤】を押すと次の画面へ、【青】を押すと前の画面へ移動し、すべての項目を表示することができます。



### 5 【▲】【▼】で編集したい項目を選び、編集する

### 6 【緑】を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 7 【◀】【▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- プロファイル一覧画面が表示されます。

### 8 【ホーム】を押す

- ホーム画面が表示されます。

## 登録内容を削除する

### 1 【メニュー】を押す

- メニュー画面が表示されます。

### 2 【▲】【▼】で「プロフィールを開く」を選び、【決定】を押す

- プロファイル一覧画面が表示されます。



### 3 【▲】【▼】で削除したい登録先を選ぶ

### 4 【赤】を押す

- 削除を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 5 【◀】【▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- プロファイル一覧画面が表示されます。

### 6 【ホーム】を押す

- ホーム画面が表示されます。

## プロフィール待受けを設定する

待ち受け中に着信すると、プロフィールに登録した設定で会議を開始します。

### お知らせ

- プロファイル待受け設定中でも、待ち受け中の発信操作（発信方法、発信先）に制約はありません。
- プロファイル待受け設定中にほかのプロファイル待受けを設定すると、先に設定したプロファイル待受けは解除されます。

- 「入室制限」を「する」に設定したプロファイルの場合、「接続先」に登録した拠点からの着信にのみ応答し、プロファイルの設定で会議を開始します。
- プロファイル待受けは、設定した時点で選択されている発信元（118 ページ）の待ち受けとして設定され、その発信元を選択している間のみ有効です。発信元を切り替えた場合、プロファイル待受けも変更後の発信元を選択中に設定した内容に切り替わります。

### 1 【メニュー】を押す

- メニュー画面が表示されます。

### 2 【▲】【▼】で「プロフィールを開く」を選び、【決定】を押す

- プロファイル一覧画面が表示されます。

### 3 【▲】【▼】でプロフィール待受けを設定するプロフィールを選ぶ

#### お知らせ

- 「#未使用#」の行は選択できません。

### 4 【緑】を押す

- プロファイル待受けを設定／解除するダイアログボックスが表示されます。

### 5 【◀】【▶】で「一時設定」または「常時設定」を選び、【決定】を押す

- プロファイル一覧画面が表示され、待受けを設定したプロフィールの「待受け」列に「✓」が表示されます。

#### お知らせ

- 「一時設定」を選ぶと、本機の再起動時にプロフィール待受け設定が解除されます（アドレス帳の転送や設定変更などで自動的に再起動する場合も解除されます）。「常時設定」を選ぶと、本機の再起動後も待受け設定が継続します。
- 【戻る】を押すと、プロフィール待受けを設定せずにプロフィール一覧画面に戻ります。

## 6 【ホーム】 を押す

- ホーム画面が表示されます。

## プロフィール待受けを解除する

### 1 【メニュー】 を押す

- メニュー画面が表示されます。

### 2 【▲】 【▼】 で「プロフィールを開く」を選び、【決定】 を押す

- プロフィール一覧画面が表示されます。プロフィール待受けを設定したプロフィールは「待受け」列に「✓」が表示されます。

### 3 【▲】 【▼】 でプロフィール待受けを解除するプロフィールを選ぶ

### 4 【緑】 を押す

- プロフィール待受けを設定／解除するダイアログボックスが表示されます。

### 5 【◀】 【▶】 で「設定解除」を選び、【決定】 を押す

- プロフィール一覧画面が表示され、待受けを解除したプロフィールの「待受け」列の「✓」が削除されます。

#### お知らせ

- 【戻る】 を押すと、プロフィール待受けを解除せずにプロフィール一覧画面に戻ります。

## 6 【ホーム】 を押す

- ホーム画面が表示されます。

## 発信元の設定をする

最大10パターンまで発信元を登録することができます。ネットワークや接続モードの設定を変更することなく、1台の本機を複数の会議室で使用することができます。

#### お知らせ

- 管理者メニューの設定で、メニュー画面から発信元選択画面を表示しないようにすることができます（162 ページ）。

## 発信元を登録する

### 1 【メニュー】 を押す

- メニュー画面が表示されます。

### 2 【▲】 【▼】 で「発信元を選択する」を選び、【決定】 を押す

- 発信元選択画面が表示されます。

### 3 【▲】 【▼】 で「#未使用#」を選び、【青】 を押す

- 発信元設定画面が表示されます。

### 4 【▲】 【▼】 で以下の項目を選び、入力する

「発信元の作成方法」：【決定】 を押し、【▲】 【▼】 で作成方法を選ぶ

- 「新規作成」(デフォルト)：新規に作成します。
- 「基本設定からコピー」：発信元選択画面の一番上の行(基本設定)の設定を流用します。
- 「(1) “拠点名” からコピー」～「(9) “拠点名” からコピー」：(1)～(9)は発信元IDに

対応しています。基本設定以外の発信元が設定されていない場合、作成方法の選択肢として表示されません。“拠点名”には発信元ID1～9にすでに設定されている拠点名が表示されます。

【拠点名】：発信元の拠点名を入力する

**お知らせ**

- &lt;>,” を使用したい場合は、カナモード（全角）で入力してください。

【接続モード】：【決定】を押し、【▲】【▼】で設定したい接続モード（標準モード、つながるねっとサービスモード、標準・つながるねっとサービスモード）を選ぶ（デフォルト：「標準モード」）

**5 【緑】 を押す**

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

**6 【◀】【▶】 で「はい」を選び、【決定】 を押す**

- 発信元選択画面が表示されます。

**7 【ホーム】 を押す**

- ホーム画面が表示されます。

## 発信元を選択する

**1 【メニュー】 を押す**

- メニュー画面が表示されます。

**2 【▲】【▼】 で「発信元を選択する」を選び、【決定】 を押す**

- 発信元選択画面が表示されます。



**3 【▲】【▼】 で使用したい発信元を選ぶ**

**お知らせ**

- 選択中の発信元には、「現在の設定」に「→」が表示されます。
- 発信元が登録されていない場合は「#未使用#」が表示されます。

**4 【緑】 を押す**

- 発信元の利用を確認するダイアログボックスが表示されます。

**5 【◀】【▶】 で「はい」を選び、【決定】 を押す**

- 自動的に再起動します。

**お知らせ**

- 接続モードを変更する場合、ネットワークの状態によっては再起動に時間がかかる場合があります。
- もう一度再起動すると発信元は基本設定（発信元選択画面の先頭行）に戻ります。再起動前の選択を保持する場合は、「再起

動後の選択状態継続」で「有効」を設定してください（165 ページ）。

- 発信元ごとにシステムの設定や管理者メニューの設定が行えます。発信元を切り替えた状態で各種設定を変更し保存すると、その発信元を選択時のみ有効な設定になります。

## 発信元情報を削除する

### 1 【メニュー】を押す

- メニュー画面が表示されます。

### 2 【▲】【▼】で「発信元を選択する」を選び、【決定】を押す

- 発信元選択画面が表示されます。



現在の設定	発信元ID	拠点名	接続モード
→	—	Tokyo	標準
	1	room1	標準
	2	room2	標準
	3	room3	標準・つながるねっと
	4	room4	標準
	5	#未使用#	
	6	#未使用#	
	7	#未使用#	
	8	#未使用#	
	9	#未使用#	

### 3 【▲】【▼】で削除したい発信元を選ぶ

### 4 【赤】を押す

- 削除を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 5 【◀】【▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- 発信元選択画面が表示されます。

### 6 【ホーム】を押す

- ホーム画面が表示されます。

## システムの設定／保守をする

本機の種類機能を設定・変更・確認することができます。

### お知らせ

- 入力中に着信があると、応答するかどうか確認するダイアログボックスが表示されます。  
【◀】【▶】で「はい」、「いいえ」を選び、【決定】を押す
- 「はい」を選ぶと着信に応答し、入力中の内容は反映されず、破棄されます。
- 「いいえ」を選ぶと、入力続けることができます。
- 「着信時の応答方法」に「強制応答」を設定すると、入力中の着信に応答し、入力中の内容は破棄されます（128 ページ）。

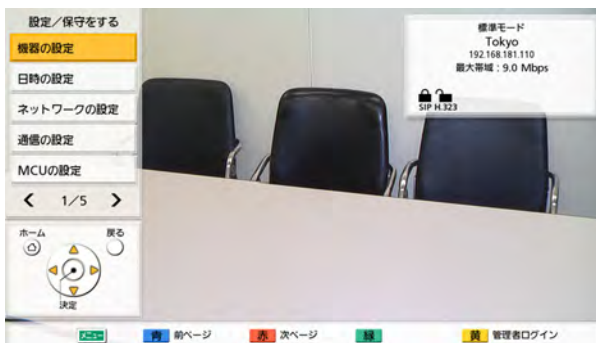
### 1 【メニュー】を押す

- メニュー画面が表示されます。

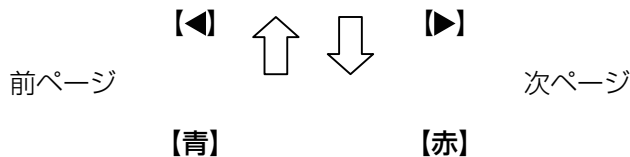
### 2 【▲】【▼】で「設定／保守をする」を選び、【決定】を押す

- システム設定画面が表示されます。

### システム設定画面一覧



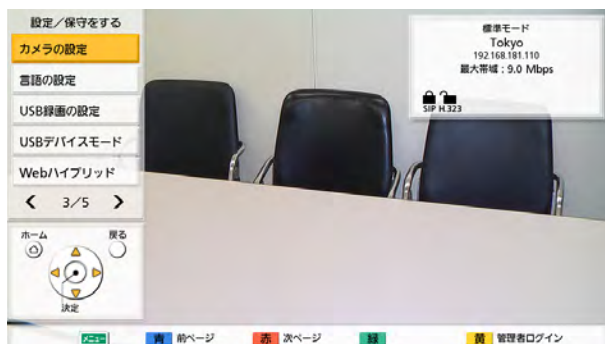
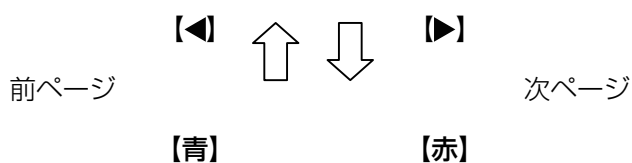
- ① 機器の設定：  
拠点名を設定します（124 ページ）。
- ② 日時の設定：  
日時を設定します（124 ページ）。
- ③ ネットワークの設定：  
ネットワークの設定をします（124 ページ）。
- ④ 通信の設定：  
通信で使用する項目を設定します（128 ページ）。
- ⑤ MCUの設定：  
内蔵MCUの設定をします（131 ページ）。



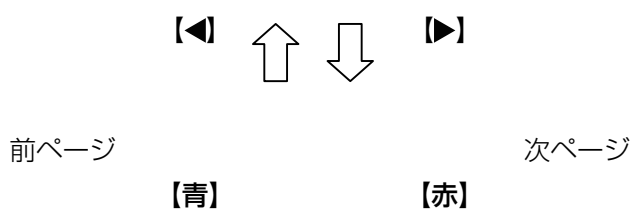




- ⑥ ワンタッチ設定：  
ホーム画面で表示されるワンタッチダイヤルを設定します（134 ページ）。
- ⑦ スタンバイの設定：  
スクリーンスタンバイに移行する時間を設定します（135 ページ）。
- ⑧ 音の設定：  
起動や通信開始時などの音の設定をします（135 ページ）。
- ⑨ マイク位置の設定：  
専用デジタルマイクの集音位置を設定します（135 ページ）。
- ⑩ リモコンの設定：  
リモコンと本体にIDを設定します（137 ページ）。

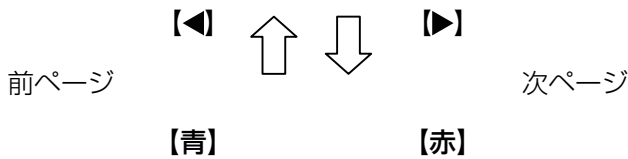


- ⑪ カメラの設定：  
自拠点カメラの設定をします（138 ページ）。
- ⑫ 言語の設定：  
表示する言語を設定します（139 ページ）。
- ⑬ USB録画の設定：  
録画モードなどの設定や、待ち受け中の録画の開始・終了を行います（140 ページ）。
- ⑭ USBデバイスモード：  
USB動作モードの変更やUSBデバイスモード時の画質などを設定します（140 ページ）。
- ⑮ Webハイブリッド：  
Webハイブリッドモードの設定をします（142 ページ）。





- 16 管理者でログイン：  
管理者メニューの設定画面に移行します（146 ページ）。
- 17 配信の設定：  
配信機能の設定をします（187 ページ）。
- 18 機器情報の表示：  
本体の設定情報を表示することができます（143 ページ）。
- 19 拡張機能の確認：  
ソフトウェア拡張機能により有効にした機能を確認することができます（143 ページ）。
- 20 ネットワークの確認：  
IPアドレスを指定して、ネットワーク接続を確認することができます（143 ページ）。



- 21 自己診断：  
相手側に送信される映像、音声を自拠点で確認することができます（144 ページ）。
- 22 ライセンス情報：  
ライセンスやオープンソースソフトウェアについての情報を表示することができます（144 ページ）。
- 23 使用許諾契約：  
使用許諾契約についての情報を表示することができます（144 ページ）。
- 24 リモートメンテナンス：  
販売店によるリモートメンテナンスを実行するための操作を行います（144 ページ）。

**3** 【▲】【▼】で設定する項目を選び、【決定】を押す

- 選択した画面が表示されるので、各画面（1～24）の説明に従って設定します。

#### 4 【ホーム】を押す

- ホーム画面が表示されます。

## 拠点名を設定する

### 1 「機器の設定」を選び、【決定】を押す

- 機器の設定画面が表示されます。

### 2 【▲】【▼】で以下の項目を選び、入力する

「拠点名」：本機の拠点名（全角、半角共通で最大24文字）を入力する（205 ページ）

#### お知らせ

- 「&lt;>,” を使用したい場合は、カナモード（全角）で入力してください。

「接続先への通知（SIP）」：【◀】【▶】で、標準モード通信時に接続先へ拠点名を通知するかどうかを選ぶ

– 「する」（デフォルト）：拠点名を接続先へ通知します。

– 「しない」：拠点名を接続先へ通知しません。

「接続先への通知（H.323）」：【◀】【▶】で、標準モード通信時に接続先へ拠点名を通知するかどうかを選ぶ

– 「する」：拠点名を接続先へ通知します。

– 「しない」（デフォルト）：拠点名を接続先へ通知しません。

### 3 【緑】を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 【◀】【▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- システム設定画面が表示されます。

## 日時を設定する

### 1 「日時の設定」を選び、【決定】を押す

- 日時の設定画面が表示されます。

### 2 【▲】【▼】で項目を選び、情報を入力する

- 西暦（4桁）、月（1～2桁）、日（1～2桁）、時刻（24時間表示）を入力し、日付表示形式（月／日／年、日／月／年、年／月／日）、時間表示（12時間／24時間）を選択してください。

### 3 【緑】を押す

- 設定の保存と保存後の再起動を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 【◀】【▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- 設定内容を反映させるため、本機は自動的に再起動されます。

## ネットワークの設定をする

### お知らせ

- 項目は複数画面に渡って表示されます。文字入力中以外は【赤】を押すと次の画面へ、【青】を押すと前の画面へ移動し、すべての項目を表示することができます。
- 設定を変更した場合、変更した画面で【緑】を押して設定を保存してください。
- 管理者メニューの設定で、ネットワークの設定画面を表示しないようにすることができます（162 ページ）。

### LAN1の設定をする

#### お知らせ

- KX-VC1300Jの場合、「IPアドレスの設定（LAN1）」、「IPアドレス（LAN1）」、「サブネットマスク（LAN1）」はそれぞれ「IPアドレスの設定」、「IPアドレス」、「サブネットマスク」と表示されます。

### 1 「ネットワークの設定」を選び、【決定】を押す

- ネットワークの設定画面が表示されます。

### 2 【▲】【▼】で以下の項目を選び、入力する

「IPアドレスの設定（LAN1）」：【◀】【▶】で本機のIPアドレス情報（「IPアドレス（LAN1）」、「サブネットマスク（LAN1）」、「デフォルトゲートウェイ」）をDHCPサーバーから自動的に取得するか、手動で設定するかを選ぶ

– 「自動」（デフォルト）：IPアドレス情報を自動的に取得します。

– 「手動」：IPアドレス情報を手動で設定します。

### お知らせ

- 「自動」に設定していても、ネットワーク障害の発生などによりIPアドレス情報を取得できない場合があります。この場合、ホーム画面の右上に「アドレス未取得」と表示されます。ネットワーク管理者にご相談ください。

「IPアドレス (LAN1)」：本機のIPアドレスを入力する

「サブネットマスク (LAN1)」：サブネットマスクを入力する

「デフォルトゲートウェイ」：デフォルトゲートウェイのIPアドレスを入力する

### お知らせ

- 「IPアドレス (LAN1)」、「サブネットマスク (LAN1)」、「デフォルトゲートウェイ」は、「IPアドレスの設定 (LAN1)」を「手動」に設定している場合のみ入力可能です。
- 「IPアドレス (LAN1)」、「サブネットマスク (LAN1)」、「デフォルトゲートウェイ」の値が1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。  
例：「192.168.0.1」の場合：  
(正) 192.168.0.1  
(誤) 192.168.000.001

「DNSの設定」：【◀】【▶】でDNSサーバーのIPアドレス情報（「優先DNSサーバー」、「代替DNSサーバー」）をDHCPサーバーから自動的に取得するか、手動で設定するかを選ぶ

- 「自動」(デフォルト)：IPアドレス情報を自動的に取得します。
- 「手動」：IPアドレス情報を手動で設定します。

### お知らせ

- 「自動」を選ぶには、「IPアドレスの設定 (LAN1)」を「自動」に設定している必要があります。
- 次の機能を使用するためには、DNSサーバーの設定が必要です。
  - ホスト名での発信
  - ホスト名でのSIPサーバー/ゲートキーパーアドレスの設定
  - バージョンアップの確認

- ネットワークからの最新バージョンのダウンロード

「優先DNSサーバー」：優先DNSサーバーのIPアドレスを入力する

「代替DNSサーバー」：代替DNSサーバーのIPアドレスを入力する

### お知らせ

- 「優先DNSサーバー」、「代替DNSサーバー」は、「DNSの設定」を「手動」に設定している場合のみ入力可能です。
- 「優先DNSサーバー」、「代替DNSサーバー」の値が1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。  
例：「192.168.0.1」の場合：  
(正) 192.168.0.1  
(誤) 192.168.000.001

「LANモード (LAN1)」：【決定】を押し、【▲】【▼】でLANモードを選ぶ

- 「1 Gbps (自動)」：接続相手との調停でLANモードを決定します。最大で1Gbps、全二重になります。
- 「1 Gbps (固定)」：1Gbps、全二重固定にします。
- 「100 Mbps (自動)」(デフォルト)：接続相手との調停でLANモードを決定します。最大で100Mbps、全二重になります。
- 「100 Mbps (固定)」：100Mbps、全二重固定にします。
- 「10 Mbps (固定)」：10Mbps、全二重固定にします。

### お知らせ

- KX-VC2000Jでのみ表示される設定です。
- 接続するハブやルーターの設定と合わせてください。
- 「10 Mbps (固定)」を設定した場合、「通信の設定」の「最大帯域」を10 Mbps以下に設定してください(128 ページ)。

## 3 LAN1の設定を変更した場合：【緑】を押し

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されるので、設定を保存してください。

IPv6の設定をする場合：**【赤】** を押す

- 次ページが表示されます。

LAN2の設定をする場合：**【赤】** を2回押し、手順6へすすむ

#### IPv6の設定をする

##### お知らせ

- KX-VC1300Jの場合、「IPv6の使用 (LAN1)」、「IPv6アドレスの設定 (LAN1)」、「IPv6アドレス (LAN1)」、「プレフィックス長 (LAN1)」はそれぞれ「IPv6の使用」、「IPv6アドレスの設定」、「IPv6アドレス」、「プレフィックス長」と表示されます。

- 4 **【▲】【▼】** で以下の項目を選び、入力する  
**「IPv6の使用 (LAN1)」**：「する」、「しない」（デフォルト）を選ぶ

##### お知らせ

- 「**【する】**」を選ぶと、機器情報表示画面では、IPv4アドレスとIPv6アドレスの両方を表示します。ホーム画面右上にはIPv4アドレスのみ表示します。

**「IPv6アドレスの設定 (LAN1)」**：IPv6アドレスを自動的に取得するか、手動で設定するかを選ぶ

- **「自動 (SLAAC)」**（デフォルト）：IPアドレス情報を自動的にルーターから取得します。
- **「自動 (DHCP)」**：IPアドレス情報を自動的にDHCPサーバーから取得します。
- **「手動」**：IPアドレス情報を手動で設定します。

##### お知らせ

- 「**【自動 (DHCP)]**」に設定した場合、デフォルトゲートウェイのアドレスはルーター広告 (RA：Router Advertisement) から取得します。
- 「**【自動 (SLAAC)]**」または「**【自動 (DHCP)]**」に設定していても、ネットワーク障害の発生などによりIPアドレス情報を取得できない場合があります。この場合、機器情報表示画面でIPv6アドレスは「**【-]**」と表示されます。ネットワーク管理者にご相談ください。

**「IPv6アドレス (LAN1)」**：本機のIPv6アドレスを入力する

**「プレフィックス長 (LAN1)」**：IPv6アドレス用のプレフィックス長を入力する

**「IPv6 デフォルトゲートウェイ」**：IPv6用のデフォルトゲートウェイのIPv6アドレスを入力する

##### お知らせ

- 「**【IPv6アドレス (LAN1)]**」、「**【プレフィックス長 (LAN1)]**」、「**【IPv6 デフォルトゲートウェイ]**」は、「**【IPv6アドレスの設定 (LAN1)]**」を「**【手動]**」に設定している場合のみ入力可能です。
- 「**【IPv6アドレス (LAN1)]**」、「**【IPv6 デフォルトゲートウェイ]**」の入力形式は50 ページを参照してください。
- 「**【IPv6アドレス (LAN1)]**」にはグローバルアドレスを設定してください。

**「IPv6 優先DNSサーバー」**：IPv6用の優先DNSサーバーのIPv6アドレスを入力する

**「IPv6 代替DNSサーバー」**：IPv6用の代替DNSサーバーのIPv6アドレスを入力する

##### お知らせ

- 「**【IPv6 優先DNSサーバー]**」、「**【IPv6 代替DNSサーバー]**」の入力形式は50 ページを参照してください。

- 5 IPv6の設定を変更した場合：**【緑】** を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されるので、設定を保存してください。
- LAN2の設定をする場合：**【赤】** を押す
- 次ページが表示されます。

LAN2の設定をする (KX-VC1600J、KX-VC2000J)

- 6 **【▲】【▼】** で以下の項目を選び、入力する  
**「LAN2の使用」**：LAN2の「する」、「しない」（デフォルト）を選ぶ  
**「IPアドレス (LAN2)」**：LAN2のIPアドレスを入力する  
**「サブネットマスク (LAN2)」**：LAN2のサブネットマスクを入力する

### お知らせ

- 「IPアドレス (LAN2)」、「サブネットマスク (LAN2)」の値が1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。  
例：「192.168.0.1」の場合：  
(正) 192.168.0.1  
(誤) 192.168.000.001

「IPv6の使用 (LAN2)」：「する」、「しない」(デフォルト) を選ぶ

「IPv6アドレス (LAN2)」：LAN2のIPv6アドレスを入力する

「プレフィックス長 (LAN2)」：IPv6アドレス用のプレフィックス長を入力する

「LANモード (LAN2)」：【決定】 を押し、【▲】【▼】 でLANモードを選ぶ

- 「1 Gbps (自動)」：接続相手との調停でLANモードを決定します。最大で1Gbps、全二重になります。
- 「1 Gbps (固定)」：1Gbps、全二重固定にします。
- 「100 Mbps (自動)」(デフォルト)：接続相手との調停でLANモードを決定します。最大で100Mbps、全二重になります。
- 「100 Mbps (固定)」：100Mbps、全二重固定にします。
- 「10 Mbps (固定)」：10Mbps、全二重固定にします。

### お知らせ

- 「IPv6の使用 (LAN1)」を「しない」、「IPv6の使用 (LAN2)」を「する」に設定したときに、「SIPの設定」の「SIPサーバーアドレス」や「H.323の設定」の「ゲートキーパーアドレス」をホスト名で設定する場合は、手順4で「IPv6 優先DNSサーバー」、「IPv6 代替DNSサーバー」を設定してください。また、手順8～13でDNSサーバーと通信するためのルーティングを設定してください。
- 「IPv6アドレス (LAN2)」の入力形式は50ページを参照してください。
- 「IPv6アドレス (LAN2)」にはグローバルアドレスを設定してください。
- 「LANモード (LAN2)」はKX-VC2000Jだけで表示される設定です。また、「LAN2

の使用」を「しない」に設定している場合は設定できません。

- 「LANモード (LAN2)」の設定は、接続するハブやルーターの設定と合わせてください。
- 「LANモード (LAN2)」を「10 Mbps (固定)」に設定した場合、「通信の設定」の「最大帯域」を10 Mbps以下に設定してください(128ページ)。
- 「ルーティングの設定」は、「LAN2の使用」を「する」に設定しないと表示されません。「LAN2の使用」を「する」に変更した場合は、【緑】を押して設定を保存・終了し、再度「ネットワークの設定」を選んでルーティングを設定してください。

- 7 LAN2の設定を変更した場合：【緑】を押す  
ルーティングの設定をする場合：手順8へすすむ

LAN2のルーティング設定をする  
(KX-VC1600J、KX-VC2000J)

- 8 【▲】【▼】で「ルーティングの設定」を選び、【決定】を押す

- ルーティング一覧画面が表示されます。

- 9 【▲】【▼】で「#未使用#」を選ぶ

- 10【青】を押す

- ルーティングの設定画面が表示されます。

- 11【▲】【▼】で以下の項目を選び、入力する

「IPアドレス形式」：IPv4アドレス、IPv6アドレスを指定する

「宛先IPアドレス」：LAN2で通信する相手側のIPアドレスを入力する

「サブネットマスク」：LAN2で通信する相手側のサブネットマスクを入力する

「プレフィックス長」：LAN2で通信する相手側のIPv6アドレス用のプレフィックス長を入力する

「ゲートウェイ」：設定した相手との通信用のゲートウェイアドレスを入力する

### お知らせ

- 「サブネットマスク」は「IPアドレス形式」が「IPv4」に設定されている場合のみ設定可能です。

- 「プレフィックス長」は「IPアドレス形式」が「IPv6」に設定されている場合のみ設定可能です。
- 「IPアドレス形式」が「IPv4」の場合、「宛先IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」の値が1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。  
例：「192.168.0.1」の場合：  
（正）192.168.0.1  
（誤）192.168.000.001
- 「IPアドレス形式」が「IPv6」の場合、「宛先IPアドレス」、「ゲートウェイ」の入力形式は50 ページを参照してください。

## 12【緑】を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

## 13【◀ ▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- ルーティング一覧画面が表示されます。

### お知らせ

- 連続して登録したい場合は、手順9～13をくり返してください。
- 登録した「宛先IPアドレス」はネットワークアドレスに変換して使用されます。ネットワークアドレスが同一の宛先IPアドレスを複数登録する必要はありません。

## 14【戻る】を押す

- システム設定画面が表示されます。

## 通信の設定をする

### お知らせ

- 管理者メニューの設定で、通信設定画面を表示しないようにすることができます（162 ページ）。

## 1 「通信の設定」を選び、【決定】を押す

- 通信設定画面が表示されます。

## 2 【▲】【▼】で以下の項目を選び、入力する

- 項目は複数画面に渡って表示されます。【赤】を押すと次の画面へ、【青】を押すと前の画面

へ移動し、すべての項目を表示することができません。

### お知らせ

- 画面を移動する前に、変更した設定内容を保存する必要があります。
- 通信タイプ設定画面（154 ページ）で「SIPの使用」を「しない」に設定している場合、「暗号通信（SIP）」は設定できません。
- 通信タイプ設定画面（154 ページ）で「H.323の使用」を「しない」に設定している場合、「暗号通信（H.323）」は設定できません。

「着信時の応答方法」：決定を押し、【▲】【▼】で着信方法（「手動応答」[デフォルト]、「自動応答」、「強制応答」）を選ぶ（66 ページ）

「2地点以上の着信」：【◀ ▶】で2地点以上の子拠点からの着信をするかどうかを選ぶ

- 「有効」（デフォルト）：2地点以上の着信を許可します。
- 「無効」：2地点以上の着信を拒絶します。

### お知らせ

- 内蔵MCUを使用した多地点通信で「親拠点」として運用する拠点は「有効」を選択してください。

「最大帯域」：【決定】を押し、【▲】【▼】で最大帯域（256 kbps～24 Mbps）を選ぶ（デフォルト：9.0 Mbps）

### お知らせ

- KX-VC1300J・KX-VC1600Jの場合、設定範囲は256 kbps～18 Mbpsです。
- 24 Mbpsを選択している場合でも、2地点通信の最大帯域は18 Mbpsです（KX-VC2000J）。

「1拠点毎の最大帯域（LAN1）」：【決定】を押し、【▲】【▼】で1拠点毎の最大帯域（256 kbps～18 Mbps、指定なし）を選ぶ（デフォルト：指定なし）

「1拠点毎の最大帯域（LAN2）」（KX-VC1600J、KX-VC2000J）：【決定】を押し、【▲】【▼】で1拠点毎の最大帯域（256 kbps～18 Mbps、指定なし）を選ぶ（デフォルト：指定なし）



## お知らせ

- KX-VC1300Jの場合、「1拠点毎の最大帯域 (LAN1)」は「1拠点毎の最大帯域」と表示されます。
- 2地点通信では、最大帯域を最も小さく設定した拠点の最大帯域が適用され、多地点通信では、各拠点の最大帯域と接続拠点数に応じた帯域が適用されます。ただし、「1拠点毎の最大帯域」の値（「指定なし」を除く）のほうが小さい場合、「1拠点毎の最大帯域」の値が最大帯域として適用されます。
- 販売店により設定された最大帯域より大きい値を設定することはできません。詳細については、販売店へお問い合わせください。

「デュアルストリーム」：【◀ ▶】でデュアルストリーム通信を有効にするかどうかを選ぶ

- 「有効」(デフォルト)：デュアルストリーム通信を有効にします。
- 「無効」：デュアルストリーム通信を無効にします。

「コンテンツ送信方法」：【決定】を押し、【▲ ▼】でデュアルストリーム有効時のコンテンツ送信方法を選ぶ

- 「自動」(デフォルト)：デュアルストリーム、シングルストリームを自動で選択します。
- 「シングルストリーム固定」：シングルストリームに固定します。

「エンコードレート比率」：【決定】を押し、【▲ ▼】でメインストリームとサブストリームのエンコードレート比率を選ぶ

- 「メイン (30%) < サブ (70%)」：サブストリーム優先で通信します。
- 「メイン (50%) = サブ (50%)」(デフォルト)：同じ優先度で通信します。
- 「メイン (70%) > サブ (30%)」：メインストリーム優先で通信します。

「画質 (メインカメラ)」／「画質 (サブカメラ)」：【決定】を押し、【▲ ▼】で映像の動きのなめらかさと解像度のどちらを優先させるかを選ぶ

- 「動き優先」(デフォルト)：動きのなめらかさを優先させます。
- 「解像度優先」：画質を優先させます。

– 「解像度固定 (最大フルHD)」：通信帯域によらず解像度を、フルHDまたは相手の最大解像度のうち低い方の値に固定します。

– 「解像度固定 (最大HD)」：通信帯域によらず解像度を、HDまたは相手の最大解像度のうち低い方の値に固定します。

「画質 (PC)」：【決定】を押し、【▲ ▼】で映像の動きのなめらかさと解像度のどちらを優先させるかを選ぶ

- 「動き優先」：動きのなめらかさを優先させます。
- 「解像度優先」(デフォルト)：画質を優先させます。

「優先制御」：【◀ ▶】で低帯域時やネットワーク混雑時に、音声と映像のどちらを優先させるかを選ぶ

– 「音声優先」(デフォルト)：低帯域時の音声品質を優先させ、ネットワーク混雑時の音声の乱れを防止します。

– 「映像優先」：低帯域時やネットワーク混雑時でも、映像品質を優先させます。

「発信時のマイクオフ」：【◀ ▶】で発信して通信を開始したときのマイクを、マイクオフするかどうかを選ぶ

- 「する」：マイクをマイクオフします。
- 「しない」(デフォルト)：マイクをマイクオフしません。

「着信時のマイクオフ」：【◀ ▶】で応答して通信を開始したときのマイクを、マイクオフするかどうかを選ぶ

- 「する」：マイクをマイクオフします。
- 「しない」(デフォルト)：マイクをマイクオフしません。

「最長通信時間」：1回の通信で、連続通信できる最長時間 (時間・分) を入力する

## お知らせ

- 0時間0分 (デフォルト) に設定すると、通信時間に制限はありません。
- 設定した通信時間が経過すると、自動的に通信が切断されます。

「マイク状態表示」：【◀ ▶】で専用マイク／ヘッドセットの接続状況検知を有効にするかどうかを選ぶ

- 「する」(デフォルト)：専用マイク／ヘッドセットの検知を有効にします。

- 「しない」：専用マイク／ヘッドセットの検知を無効にします。

### お知らせ

- 専用マイク／ヘッドセットを使用していないときは、「しない」に設定してください。

「ネットワーク状況アイコン表示」：【◀ ▶】でネットワーク状況アイコンを表示するかどうかを選ぶ

- 「する」(デフォルト)：ネットワーク状況アイコンを表示します。
- 「しない」：ネットワーク状況アイコンを非表示にします。

「通信開始時のガイド表示」：【◀ ▶】で通信開始時のガイドエリアを表示するかどうかを選ぶ

- 「する」(デフォルト)：ガイドエリアを表示します。
- 「しない」：ガイドエリアを非表示にします。

「通信開始時の手元ノイズ抑圧」：【◀ ▶】で通信開始時のノイズ抑圧機能を有効にするかどうかを選ぶ

- 「ON」：ノイズ抑圧機能を有効にします。
- 「OFF」(デフォルト)：ノイズ抑圧機能を無効にします。

「暗号通信 (SIP)」：【◀ ▶】で暗号通信を有効にするかどうかを選ぶ

- 「有効」：暗号通信を有効にします。
- 「無効」(デフォルト)：暗号通信を無効にします。

「暗号通信 (H.323)」：【決定】を押し、【▲ ▼】で暗号通信を有効にするかどうかを選ぶ

- 「接続性優先」：相手先が暗号化通信を「有効」に設定しているときは、暗号化通信が有効になります。「無効」に設定しているときは、暗号化せず通信します。

- 「有効」：暗号通信を有効にします。
- 「無効」(デフォルト)：暗号通信を無効にします。

「暗号通信 (つながるねっと)」：【◀ ▶】で暗号通信を有効にするかどうかを選ぶ

- 「有効」：暗号通信を有効にします。
- 「無効」(デフォルト)：暗号通信を無効にします。

### お知らせ

- 「暗号通信 (SIP)」、「暗号通信 (H.323)」は、標準モード、標準・つながるねっとサービスモード使用時に表示されます。
- 「暗号通信 (つながるねっと)」は、つながるねっとサービスモード、標準・つながるねっとサービスモード使用時に表示されます。
- 通信ができなくなる可能性がありますので、暗号通信の設定を変更するときはご注意ください。
- 暗号通信を無効にした場合、盗聴対策のとられていないネットワークでは、盗聴される恐れがありますのでご注意ください。
- 「暗号通信 (SIP)」 / 「暗号通信 (H.323)」 / 「暗号通信 (つながるねっと)」の設定ができない場合は、ネットワーク管理者にご連絡ください。

「つながるねっとのサーバーポート」：【決定】を押し、【▲ ▼】でつながるねっとサーバーと接続するときのポート設定を選ぶ

- 「通常」：通常使用されるポートに自動で設定されます。
- 「代替」(デフォルト)：通常で通信できない場合に設定します。

### お知らせ

- 「接続モード」が「つながるねっとサービスモード」、「標準・つながるねっとサービスモード」の場合に表示されます。

「送信帯域制御」：【◀ ▶】で送信帯域制御を有効にするかどうかを選ぶ

- 「有効」(デフォルト)：送信帯域制御を有効にします。
- 「無効」：送信帯域制御を無効にします。

### お知らせ

- 「無効」に設定した場合、同じネットワークを利用するほかの通信に影響を与えるときがあります。

「映像送信最小帯域」：送信帯域制御による通信中の最小帯域 (0 kbps、64 kbps ~ 1500 kbps) を入力する (デフォルト：0 kbps)

### お知らせ

- 最小帯域を無効にするときは0を入力します。

「非対称送信レート」：【決定】を押し、【▲】【▼】で非対称送信レート（256 kbps～2.0 Mbps）を選ぶ（デフォルト：256 kbps）

「非対称送信（LAN1）」「非対称送信（LAN2）」：【決定】を押し、【▲】【▼】で調停帯域とは別に非対称の送信レートで通信を行う相手機器を選ぶ

- － 「指定なし」（デフォルト）：非対称の通信を行いません。
- － 「HDコム+HDコムモバイル」
- － 「HDコムモバイル」
- － 「HDコムモバイル（Android™用）」
- － 「HDコムモバイル（iOS用）」
- － 「HDコムモバイル（Windows用）」
- － 「HDコム」
- － 「HDコム+HDコムモバイル（Android™用）」
- － 「HDコム+HDコムモバイル（iOS用）」
- － 「HDコム+HDコムモバイル（Windows用）」

### お知らせ

- KX-VC1300Jの場合、「非対称送信（LAN1）」は「非対称送信」と表示されません。
- 「非対称送信（LAN2）」はKX-VC1600J、KX-VC2000Jで設定可能です。
- 選択肢の「HDコム」はHD映像コミュニケーションユニットを表します。「HDコムモバイル」は「HDコムモバイル（Android™用）」、「HDコムモバイル（iOS用）」、「HDコムモバイル（Windows用）」を表します。
- 「HDコムモバイル」または「HDコムモバイル（Android™用）」を含む選択肢を設定した場合、HDコムLiveも非対称通信の対象になります。
- 非対称の通信はSIPを使用した通信（通信タイプが「標準モード（SIP）」または「つながるねっとサービスモード」の場合）で有効です。
- 他社のビデオ会議システムとの通信では、非対称の通信を行いません。

### 3 【緑】を押し

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 【◀ ▶】で「はい」を選び、【決定】を押し

- システム設定画面が表示されます。

## MCUの設定をする

### 1 「MCUの設定」を選び、【決定】を押し

- 内蔵MCUの設定画面が表示されます。

### 2 【▲】【▼】で以下の項目を選び、入力する

- 項目は複数画面に渡って表示されます。【赤】を押しと次の画面へ、【青】を押しと前の画面へ移動し、すべての項目を表示することができます。

「MCU動作モード」：【決定】を押し、【▲】【▼】で通信開始時のMCUの動作モードを選ぶ

- － 「ディスカッション」（デフォルト）：親拠点、子拠点で同じ映像が表示されます（会議に適したモードです）。
- － 「プレゼンテーション」：親拠点には子拠点の合成映像、子拠点には親拠点の映像のみが表示されます（講義に適したモードです）。

「レイアウト（ディスカッション）」：【決定】を押し、【▲】【▼】でディスカッションモード時の分割画面のレイアウトを選ぶ

- － 「自動切替」（デフォルト）：接続拠点数により自動的にレイアウトが切り替わります。
- － 「CP1」～「CP28」：画面レイアウトを手動で設定します。

### お知らせ

- 「自動切替」を選択した場合、会議に参加している拠点の数によって、自動的にレイアウトが切り替わります。

拠点の数	レイアウト番号
2	CP1
3～4	CP4

拠点の数	レイアウト番号
5~6	CP6
7~8	CP8
9	CP9
10	CP10
11~13	CP13
14~15	CP15
16	CP16
17~20	CP20
21	CP21
22~24	CP24

- 会議中の画面レイアウトは、次の15パターンから選ぶことができます。レイアウト構成内の数字は、拠点映像の表示優先順位を表します。

レイアウト番号	レイアウト構成										
CP1	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> </table>	1									
1											
CP2	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> </table>	1	2								
1	2										
CP4	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> </table>	1	2	3	4						
1	2										
3	4										
CP6	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> </table>	1	2		3	4	5		6		
1	2										
	3										
4	5										
	6										
CP8	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> </table>	1	2		3		4	5	6	7	8
1	2										
	3										
	4										
5	6										
7	8										

レイアウト番号	レイアウト構成																												
CP9	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">9</td> </tr> </table>	1	2	3	4	5	6	7	8	9																			
1	2	3																											
4	5	6																											
7	8	9																											
CP10	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> </table>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																		
1	2																												
3	4																												
5	6																												
7	8																												
9	10																												
CP13	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">11</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">12</td> <td style="text-align: center;">13</td> <td style="text-align: center;">14</td> </tr> </table>	1	2	3		4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14													
1	2	3																											
	4	5																											
6	7	8																											
9	10	11																											
12	13	14																											
CP15	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">7</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">9</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">11</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">12</td> <td style="text-align: center;">13</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">14</td> <td style="text-align: center;">15</td> </tr> </table>	1	2		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15												
1	2																												
	3																												
4	5																												
6	7																												
8	9																												
10	11																												
12	13																												
14	15																												
CP16	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">12</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">13</td> <td style="text-align: center;">14</td> <td style="text-align: center;">15</td> <td style="text-align: center;">16</td> </tr> </table>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16												
1	2	3	4																										
5	6	7	8																										
9	10	11	12																										
13	14	15	16																										
CP20	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">12</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">13</td> <td style="text-align: center;">14</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">15</td> <td style="text-align: center;">16</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">17</td> <td style="text-align: center;">18</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">19</td> <td style="text-align: center;">20</td> </tr> </table>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20								
1	2																												
3	4																												
5	6																												
7	8																												
9	10																												
11	12																												
13	14																												
15	16																												
17	18																												
19	20																												
CP21	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">7</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">9</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">12</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">13</td> <td style="text-align: center;">14</td> <td style="text-align: center;">15</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">16</td> <td style="text-align: center;">17</td> <td style="text-align: center;">18</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">19</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td style="text-align: center;">21</td> </tr> </table>	1	2	3		4	5		6	7		8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21				
1	2	3																											
	4	5																											
	6	7																											
	8	9																											
10	11	12																											
13	14	15																											
16	17	18																											
19	20	21																											
CP24	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">12</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">13</td> <td style="text-align: center;">14</td> <td style="text-align: center;">15</td> <td style="text-align: center;">16</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">17</td> <td style="text-align: center;">18</td> <td style="text-align: center;">19</td> <td style="text-align: center;">20</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">21</td> <td style="text-align: center;">22</td> <td style="text-align: center;">23</td> <td style="text-align: center;">24</td> </tr> </table>	1	2	5	6			7	8	3	4	9	10			11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
1	2	5	6																										
		7	8																										
3	4	9	10																										
		11	12																										
13	14	15	16																										
17	18	19	20																										
21	22	23	24																										
CP25	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td style="text-align: center;">13</td> <td style="text-align: center;">14</td> <td style="text-align: center;">15</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">16</td> <td style="text-align: center;">17</td> <td style="text-align: center;">18</td> <td style="text-align: center;">19</td> <td style="text-align: center;">20</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">21</td> <td style="text-align: center;">22</td> <td style="text-align: center;">23</td> <td style="text-align: center;">24</td> <td style="text-align: center;">25</td> </tr> </table>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25			
1	2	3	4	5																									
6	7	8	9	10																									
11	12	13	14	15																									
16	17	18	19	20																									
21	22	23	24	25																									

レイアウト番号	レイアウト構成																																
CP28	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>27</td> <td>28</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		2	3	4	1	5	6	7		8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28		
	2	3	4																														
1	5	6	7																														
	8	9	10																														
11	12	13	14																														
15	16	17	18																														
19	20	21	22																														
23	24	25	26																														
27	28																																

「レイアウト (プレゼンテーション)」: **【決定】** を押し、**【▲】** **【▼】** でプレゼンテーションモード時の分割画面のレイアウトを選ぶ

- 「自動切替」 (デフォルト): 接続拠点数により自動的にレイアウトが切り替わります。
- 「CP1」 ~ 「CP28」: 画面レイアウトを手動で設定します。

#### お知らせ

- 「自動切替」を選択した場合、会議に参加している拠点の数によって、自動的にレイアウトが切り替わります。

拠点の数	レイアウト番号
2	CP1
3	CP2
4~5	CP4
6~7	CP6
8~9	CP8
10	CP9
11	CP10
12~14	CP13
15~16	CP15
17	CP16
18~21	CP20
22	CP21
23~24	CP24

「メイン表示 (ディスカッション)」: **【決定】** を押し、**【▲】** **【▼】** でメイン表示の表示方法を選ぶ

- 「自拠点」 (デフォルト): 自拠点を表示します。
- 「音声切替1」: 最も音量が大きい拠点を、自動的にメイン表示に表示します。

- 「音声切替2 (自拠点)」: 自拠点の映像をメイン表示に表示し、その時点で最も音量が大きい拠点を表示優先順位2に表示します。

「画面切り替え時間」: **【◀】** **【▶】** で音声制御時に画面を固定する時間 (1~20秒) を選ぶ (デフォルト: 10秒)

「拠点名の表示」: **【◀】** **【▶】** で分割画面内に拠点名を表示するかどうかを選ぶ

- 「する」 (デフォルト): 拠点名を表示します。
- 「しない」: 拠点名を表示しません。

#### お知らせ

- 親拠点では、HDMI1から出力された映像の場合のみ、分割画面に拠点名を表示します。ただし、カメラ映像やコンテンツ映像のレイアウトとしてPwithP、またはSidebySideを設定している場合は、HDMI1からの出力でも拠点名は表示されません (158 ページ)。
- プレゼンテーションモードの場合、親拠点に表示される子拠点の合成映像に拠点名を表示します。

「MCU拠点の映像表示」: **【◀】** **【▶】** でディスカッションモード時の合成映像に親拠点の映像を表示するかどうかを選ぶ

- 「する」 (デフォルト): 親拠点の映像を表示します。
- 「しない」: 親拠点の映像を表示しません。

「カメラ制御の転送」: **【◀】** **【▶】** で子拠点からメイン表示拠点のカメラ操作を許可するかどうかを選ぶ

- 「有効」: 子拠点からのカメラ操作を許可します。
- 「無効」 (デフォルト): 子拠点からのカメラ操作を許可しません。

「DTMFによるコンテンツ共有」: **【◀】** **【▶】** で子拠点のリモコン操作によるコンテンツ共有を許可するかどうかを選ぶ

- 「有効」 (デフォルト): 子拠点からのリモコンによる操作を許可します。
- 「無効」: 子拠点からのリモコンによる操作を許可しません。

#### お知らせ

- 「有効」に設定すると、子拠点から **【PC】**、**【サブカメラ】**、**【共有終了】** ボタンおよびテンキー (\*10: 共有開始、\*11: 共有終了) でコンテンツ共有を操作できます。

「DTMFによる分割レイアウト変更」：【◀ ▶】で相手拠点のリモコン操作により、画面レイアウト変更の操作をするかどうかを選ぶ（79 ページ）

- 「有効」：子拠点からのリモコンによる操作を有効にします。
- 「無効」（デフォルト）：子拠点からのリモコンによる操作を無効にします。

「DTMFによる発信・切断」：【◀ ▶】で相手拠点のリモコン操作により、ほかの拠点に発信したり、通信中の拠点を切断したりするかどうかを選ぶ（72 ページ、73 ページ）

- 「有効」：子拠点からのリモコンによる操作を有効にします。
- 「無効」（デフォルト）：子拠点からのリモコンによる操作を無効にします。

「CP1自動移行」：【◀ ▶】でコンテンツ共有開始時に画面レイアウトをCP1へ変更する機能を有効にするかどうかを選ぶ

- 「有効」（デフォルト）：CP1への移行を有効にします。
- 「無効」：CP1への移行を無効にします。

「接続先の音声」：【決定】を押し、【▲ ▼】で親拠点と接続先の音声を合成するモードを選ぶ

- 「合成（自動選択）」（デフォルト）：音声が大きい順に最大4拠点までの音声を自動的に合成します。
- 「全ミュート」：子拠点の音声をミュートし親拠点の音声のみを出力します。

「異速度設定」：【決定】を押し、【▲ ▼】で2種類の通信グループの閾値を選ぶ

- 「指定なし」：帯域は閾値を考慮しません。
- 「256 kbps以上」～「2.0 Mbps以上」（デフォルト：768 kbps以上）：帯域を考慮して2種類の通信グループの閾値を判定します。

「接続先の音声状況アイコン表示」：【◀ ▶】で子拠点の音声状況アイコンを表示するかどうかを選ぶ

- 「する」（デフォルト）：音声状況アイコンを表示します。
- 「しない」：音声状況アイコンを表示しません。

「プレゼンテーションアイコン表示」：【◀ ▶】でMCU動作モードがプレゼンテーションモードであることを示すアイコンを表示するかどうかを選ぶ

- 「する」（デフォルト）：プレゼンテーションアイコンを表示します。

- 「しない」：プレゼンテーションアイコンを表示しません。

### 3 【緑】 を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 【◀ ▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- システム設定画面が表示されます。

## ワンタッチダイヤルの設定をする

ホーム画面で表示されるワンタッチダイヤル（1～5）に割り当てるアドレス、またはプロフィールを設定します。

### 1 「ワンタッチ設定」を選び、【決定】を押す

- ワンタッチダイヤルの設定画面が表示されます。

### 2 【▲ ▼】で「#未使用#」を選ぶ

### 3 【青】 を押す

- 入力参照先を選択するダイアログボックスが表示されます。

### 4 【▲ ▼】で参照先（「アドレス帳参照」、「プロフィール参照」）を選び【決定】を押す

「アドレス帳参照」を選択した場合：  
アドレス帳選択画面が表示されます。

#### 1. 【▲ ▼】で登録する相手先を選び【決定】を押す

- ワンタッチダイヤルの設定画面が表示されます。

「プロフィール参照」を選択した場合：  
プロフィール一覧参照画面が表示されます。

#### 1. 【▲ ▼】で登録する会議名を選び【決定】を押す

- ワンタッチダイヤルの設定画面が表示されます。

### 5 【緑】 を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

## 6 【◀ ▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- システム設定画面が表示されます。

## スクリーンスタンバイの設定をする

ある一定期間、リモコンの操作を行わない場合や着信がない場合、スクリーンスタンバイ状態に移行します。スクリーンスタンバイ状態に移行するまでの時間を設定することができます。

### 1 「スタンバイの設定」を選び、【決定】を押す

- スクリーンスタンバイ設定画面が表示されます。

### 2 本機がスクリーンスタンバイ状態に移行するまでの時間（分）（0～99）を入力する（デフォルト：10）

#### お知らせ

- 「0」に設定した場合、本機は自動的にスクリーンスタンバイ状態に移行しません。リモコンの【スタンバイ】を押すと、「0」に設定した場合でも、スクリーンスタンバイ状態に移行します。

### 3 【緑】を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 【◀ ▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- システム設定画面が表示されます。

## 音の設定をする

### 1 「音の設定」を選び、【決定】を押す

- 音設定画面が表示されます。

### 2 【▲ ▼】で以下の項目を選び、入力する

「起動音量」：【決定】を押し、【▲ ▼】で起動時の音量レベル（「切」、「小」、「中」[デフォルト]、「大」）を選ぶ

「発信音量」：【決定】を押し、【▲ ▼】で発信音の音量レベル（「切」、「小」、「中」[デフォルト]、「大」）を選ぶ

「着信音量」：【決定】を押し、【▲ ▼】で着信音の音量レベル（「切」、「小」、「中」[デフォルト]、「大」）を選ぶ

「発信音」：【決定】を押し、【▲ ▼】で発信音のパターン（「パターン1」～「パターン5」）を選ぶ（デフォルト：「パターン1」）

「着信音」：【決定】を押し、【▲ ▼】で着信音のパターン（「パターン1」～「パターン5」）を選ぶ（デフォルト：「パターン1」）

「通信開始時の音量」：【◀ ▶】で通信開始時の音量レベル（0～20）を選ぶ（デフォルト：16）

「通信開始時の音質」：【決定】を押し、【▲ ▼】で通信開始時の音質（「高音強調」、「標準」[デフォルト]、「低音強調」、「音声」、「音楽」）を選ぶ

#### お知らせ

- 【赤】を押すと以下の項目を試聴することができます。
  - 「起動音量」
  - 「発信音量」
  - 「着信音量」
  - 「発信音」
  - 「着信音」
- 試聴中の項目の右側に音符のアイコンが表示されます。試聴中に【赤】を押すと試聴を停止します。

### 3 【緑】を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 【◀ ▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- システム設定画面が表示されます。

## マイク位置の設定をする

テレビから見た、専用デジタルマイクの集音位置を設定することができます。音声は通信相手に送信されると、設定した集音位置に基づいたステレオ音声で相手に聞こえます。

## マイク位置を自動で設定する

### 1 「マイク位置の設定」を選び、【決定】を押す

- おまかせ設定画面が表示されます。

#### お知らせ

- ユーザー設定画面が表示されている場合、【青】を押して、おまかせ設定画面に切り替えてください。

### 2 【緑】を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 3 【◀】【▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- システム設定画面が表示されます。

#### お知らせ

- 接続する専用デジタルマイクの台数により、専用デジタルマイクの出力は次のとおり異なります。
  - 2台以上の専用デジタルマイクを接続した場合：モノラル
  - 1台の専用デジタルマイクを接続した場合：ステレオ
- 専用デジタルマイクと専用アナログマイクを同時に接続した場合、専用マイクの出力はどちらもモノラルになります。

## マイク位置を手動で設定する

### 1 「マイク位置の設定」を選び、【決定】を押す

- おまかせ設定画面が表示されます。

#### お知らせ

- ユーザー設定画面が表示されている場合は、手順3にすすんでください。

### 2 【青】を押す

- ユーザー設定画面が表示されます。

### 3 【▲】【▼】で設定したい専用デジタルマイクを選び、【決定】を押す

### 4 【▲】【▼】で専用デジタルマイクの集音位置を選ぶ

【左側】：左側の音声として送信される

【右側】：右側の音声として送信される

【中央モノラル】：すべての音声は左右両方のスピーカーへ同じ音量で送信される

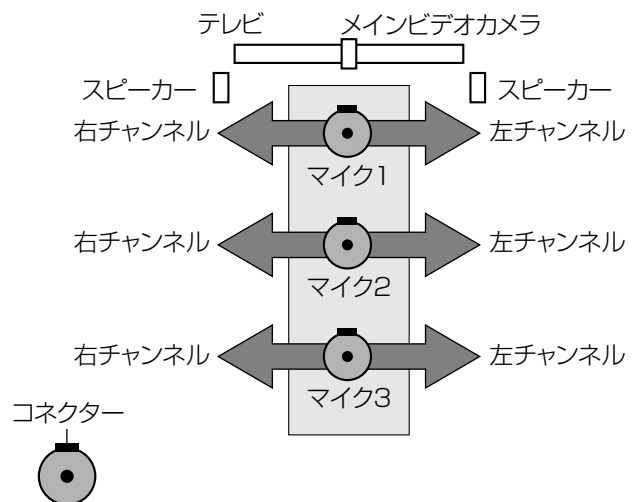
【中央ステレオ】：マイクに集音された左右の音声はそれぞれ左側と右側のスピーカーへ同じ音量で送信される

#### お知らせ

- 専用デジタルマイクを「中央ステレオ」に設定する場合、専用デジタルマイクのコネクターを必ずテレビ側に向けて専用デジタルマイクを設置してください。
- 専用デジタルマイクと専用アナログマイクを同時に接続した場合、専用マイクの出力は次のとおり異なります。
  - 専用デジタルマイク：手動で設定した出力
  - 専用アナログマイク：モノラル
- 次の図中の設定値は、メインビデオカメラ側から見たチャンネルの左右を記載しています。

専用デジタルマイクの集音位置の設定例は次のとおりです。

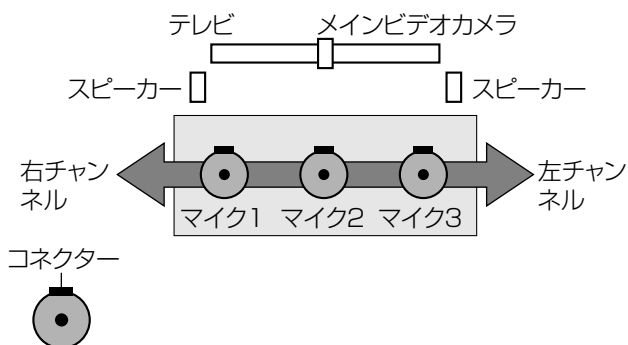
専用デジタルマイクをテレビに対して垂直に設置する場合：





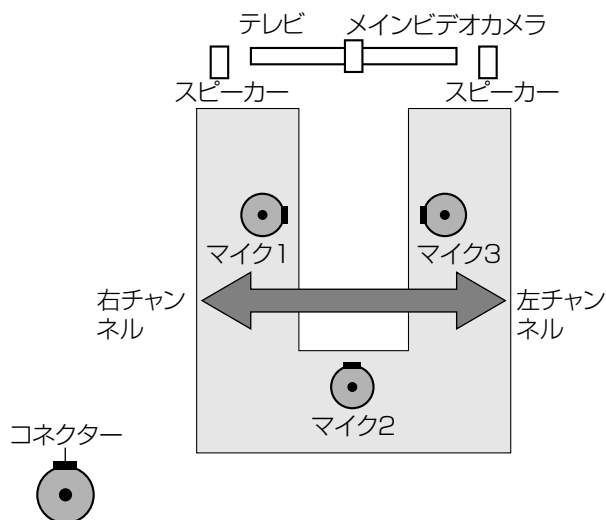
マイク1：「中央ステレオ」  
 マイク2：「中央ステレオ」  
 マイク3：「中央ステレオ」

専用デジタルマイクをテレビに対して平行に設置する場合：



マイク1：「右側」  
 マイク2：「中央モノラル」  
 マイク3：「左側」

専用デジタルマイクを次のように設置する場合：



マイク1：「右側」  
 マイク2：「中央モノラル」  
 マイク3：「左側」

#### お知らせ

- 専用デジタルマイクの近くで音を鳴らしてください。音を拾った専用デジタルマイクに「▶」が表示されます。
- 専用デジタルマイクをマイクオフしている場合は、「▶」は表示されません。

- 複数の専用デジタルマイクが同時に音を拾った場合、「▶」は表示されません。
- 専用デジタルマイクをマイクオフしているときに、マイクオフボタンを押すと、押したときの音を拾って「▶」が表示される場合があります。

#### 5 【緑】 を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

#### 6 【◀▶】 で「はい」を選び、【決定】 を押す

- システム設定画面が表示されます。

#### お知らせ

- 設定後、専用デジタルマイクを移動しないでください。設定が専用デジタルマイクの位置と合わなくなる場合があります。

## リモコンの設定をする

リモコンと本体にリモコンID (1、2、3) を設定することができます。

リモコンIDが同じリモコンからの信号に本体は反応します。リモコンIDを設定しない場合、本体はすべてのリモコンからの信号に反応します。ホーム画面で本体のリモコンIDを確認することができます (42 ページ)。

#### 1 「リモコンの設定」を選び、【決定】 を押す

- リモコン設定画面が表示されます。

#### 2 【▲】【▼】 で以下の項目を選び、入力する

「リモコンIDの設定」：【◀▶】 で「する」、「しない」(デフォルト) を選ぶ

- 「する」を選ぶと、本体のリモコンIDを設定することができます。
- 「しない」を選ぶと、本体はすべてのリモコンに反応します。

「本体のリモコンID」：【◀▶】 で本体のリモコンID (「ID1」[デフォルト]、「ID2」、「ID3」) を選ぶ

「IDの不一致確認」：【◀▶】 で「する」(デフォルト)、「しない」を選ぶ

- 「**する**」を選ぶと、本体に設定したIDと異なるリモコンからの信号を、ホーム画面を表示中に受信したとき、警告画面が表示されます。画面上の次の手順に従って、リモコンIDを変更してください。
- 「**しない**」を選ぶと、本体に設定したIDと異なるリモコンから信号を受信しても、ホーム画面に警告画面は表示されません。

#### お知らせ

- 近くで複数のリモコンIDを使用している場合は、「**IDの不一致確認**」を「**しない**」に設定してください。

### 3 **【緑】** を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 **【◀ ▶】** で「はい」を選び、**【決定】** を押す

### 5 「リモコンIDの設定」を「する」に設定している場合：

リモコンのIDを変更するダイアログボックスが表示されます。手順6にすすんでください。

#### お知らせ

- ダイアログボックスが表示されている間は、着信できません。

### 「リモコンIDの設定」を「しない」に設定している場合：

システム設定画面が表示されます。**【ホーム】** を押して、ホーム画面に戻ります。

### 6 次の手順に従って、リモコンのIDを変更する

#### 1 **【・】** と **【#】** を同時に押したままにする

#### 2 ボタンを離して2秒以内に、手順1の「**本体のリモコンID**」で設定したIDと一致する番号

(1~3) を押す

- 1: ID1
- 2: ID2
- 3: ID3

### 7 **【決定】** を押す

- ダイアログボックスが消えて、本体のリモコンIDが保存されます。

#### お知らせ

- ダイアログボックスが消えない場合は、上記の手順をくり返し実行してください。何度実行してもダイアログボックスが消えない場合は、電源を一度切ったあと再度入れ直して、設定を中止してください。詳細については、販売店へお問い合わせください。

## ビデオカメラの設定をする

### 1 「カメラの設定」を選び、**【決定】** を押す

- ビデオカメラ設定画面が表示されます。

### 2 **【▲ ▼】** で以下の項目を選び、入力する

「**通信相手からのカメラ制御**」：**【◀ ▶】** で、通信相手からのビデオカメラ操作を許可するかどうかを選ぶ

- 「**有効**」：通信相手からのビデオカメラ操作を許可します。
- 「**無効**」(デフォルト)：通信相手からのビデオカメラ操作を許可しません。

「**通信中のカメラ直接操作**」：**【◀ ▶】** で、通信中のリモコンによるカメラ操作を有効にするかどうかを選ぶ

- 「**有効**」(デフォルト)：リモコンによるカメラ操作を許可します。
- 「**無効**」：リモコンによるカメラ操作を許可しません。

「**非通信中のカメラ直接操作**」：**【◀ ▶】** で、非通信中のリモコンによるカメラ操作を許可するかどうかを選ぶ

- 「**有効**」(デフォルト)：リモコンによるカメラ操作を許可します。
- 「**無効**」：リモコンによるカメラ操作を許可しません。

「**パン方向**」：**【◀ ▶】** で、リモコンのボタンを押したときに自分側のビデオカメラが動く方向を選ぶ

- 「**通常**」(デフォルト)：ビデオカメラ側から見た左右方向に動きます。

- 「逆方向」：被写体側から見た左右方向に動きま  
す。
- 「リモコンスルー機能」：【◀ ▶】で、リモコンで  
の操作を、カメラ側で受けるか本機側で受けるか  
を選ぶ
- 「有効」：リモコンでの操作をカメラ側で受けま  
す。
- 「無効」(デフォルト)：リモコンでの操作を本  
機側で受けます。

#### お知らせ

- ソフトウェアバージョン4.50未満では、  
「リモコンスルー機能」は「固定カメラの  
リモコン受信」と表示されます。
- カメラが接続されていない場合、またはカ  
メラの機種によっては、「有効」を選んで  
いても、本機側でリモコン操作を受けます。

「カメラ操作時のレイアウト変更」：【◀ ▶】で、  
カメラ制御時にレイアウトを変更するかどうかを  
選ぶ

- 「有効」：レイアウトを変更します
- 「無効」(デフォルト)：レイアウトを変更しま  
せん

### 3 【緑】を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表  
示されます。

### 4 【◀ ▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- システム設定画面が表示されます。

## 言語の設定をする

### 1 「言語の設定」を選び、【決定】を押す

- 言語設定画面が表示されます。

### 2 【決定】を押し、【▲ ▼】で言語を選ぶ

#### お知らせ

- 選択可能な言語は以下のとおりです：  
「日本語」(デフォルト)、「English」：英語、  
「简体中文」「繁體中文」：中国語、  
「Deutsch」：ドイツ語、「Français」：フ

ランス語、「Italiano」：イタリア語、  
「Español」：スペイン語、  
「Nederlands」：オランダ語、  
「Português」：ポルトガル語、  
「Русский язык」：ロシア語、  
「العربية」：アラビア語

- 「简体中文」を選択した場合、言語が切り  
替わったあと、アラビア語の選択肢は  
「Arabic」と表示されます。
- 「繁體中文」を選択した場合、言語が切り  
替わったあと、選択肢の一部は次のように  
表示されます。  
フランス語：「French」、スペイン語：  
「Spanish」、ロシア語：「Russian」、アラ  
ビア語：「Arabic」

### 3 【決定】を押す

### 4 【緑】を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表  
示されます。

### 5 【◀ ▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

「繁體中文」に変更した場合

「繁體中文」から変更した場合

- 自動的に再起動します。

上記以外

- システム設定画面が選択した言語で表示されま  
す。

#### お知らせ

- 誤って希望しない言語に切り替えてしまっ  
た場合は、次の手順で設定を変更してくだ  
さい。

1. 【ホーム】を押す

2. 【メニュー】を押す

3. 【▼】を4回押して上から5つ目の項目  
を選び、【決定】を押す

4. 【▶】を2回押す

- 次のページが表示されます。

5. 【▼】を1回押して上から2つ目の項目  
を選び、【決定】を押す

- 言語設定画面が表示されます。

6. 手順2からやり直す

## 録画の設定をする

通信中、待ち受け中、配信中のUSB録画の設定をします。また、待ち受け中に録画を開始・終了します。

### お知らせ

- 「セキュリティの設定」で「USB録画」を「有効」に設定している場合のみ設定可能です。
- KX-VC1300J・KX-VC1600JとKX-VC2000Jでは録画される画面が異なります。録画に関する詳細は「USB録画機能を利用する (196 ページ)」を参照してください。

### 設定を変更する場合

#### お知らせ

- 録画中は設定を変更できません。録画中に設定画面に表示されている設定に従って録画されます。

#### 1 「USB録画の設定」を選び、【決定】を押す

- 録画設定画面が表示されます。

#### 2 【▲】【▼】で以下の項目を選び、入力する 「録画モード」：【決定】を押し、【▲】【▼】で「高画質」、「標準」（デフォルト）、「長時間」を選ぶ 「デュアルモニター時の録画面面」：【決定】を押し、【▲】【▼】で「HDMI1」（デフォルト）、「HDMI2」を選ぶ

#### お知らせ

- 「映像出力の設定」で「映像出力」を「HDMI1 / HDMI2」に設定している場合のみ設定可能です（159 ページ）。

「録画状況アイコン表示」：【◀】【▶】で録画中にアイコン表示エリアに録画中を示すアイコンを表示するかどうか選ぶ

- 「する」（デフォルト）：アイコンを表示します。
- 「しない」：アイコンを表示しません。

#### 3 【緑】を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### お知らせ

- 手順3を行わず、「録画を開始・終了する場合」の手順2に進むと、変更した設定で録画を開始することができます。変更した設定は保存されず、録画が終了すると変更前の設定に戻ります。

#### 4 【◀】【▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- システム設定画面が表示されます。

### 録画を開始・終了する場合

#### 1 「USB録画の設定」を選び、【決定】を押す

- 録画設定画面が表示されます。

#### 2 【▲】【▼】で「USB録画」を選び、【決定】を押す

非録画中：録画を開始するか確認するダイアログボックスが表示されるので、【◀】【▶】で「はい」「いいえ」を選び、【決定】を押す

- 「はい」を選んだ場合、録画を開始します。
- 「いいえ」を選んだ場合、録画を開始しません。

録画中：録画を終了するか確認するダイアログボックスが表示されるので、【◀】【▶】で「はい」「いいえ」を選び、【決定】を押す

- 「はい」を選んだ場合、録画を終了します。
- 「いいえ」を選んだ場合、録画を終了しません。

### お知らせ

- 録画を終了した場合、録画完了ダイアログボックスが表示されるまでUSBメモリーを抜かないでください。

## USBデバイスモードの設定をする

USBホストモードとUSBデバイスモードを切り替えます。

**USBホストモード**：USB端子にUSBメモリーを接続して、データのインポート・エクスポート、ソフトウェアの更新、USB録画などを行います。

**USBデバイスモード**：USB端子にパソコンを接続して、本機のカメラ、マイクをパソコンで使用します。

### お知らせ

- 「ソフトウェアの拡張」で「USBデバイスモード拡張」を有効にした場合に設定可能です。
- Webハイブリットモード中は設定できません。

- USBデバイスモード使用時は、必ず専用のUSB変換ケーブルを使用してください。
- USBデバイスモード中（手順2で「USBデバイスモード」を「常時有効」または「一時有効」に設定している間）は、他拠点との通信はできません。
- USBデバイスモードの詳細は「USBデバイスモードを利用する (199 ページ)」を参照してください。

**1** 「USBデバイスモード」を選び、**【決定】** を押す

- USBデバイスモード設定画面が表示されます。

**2** **【▲】** **【▼】** で以下の項目を選び、入力する  
**「USBデバイスモード」**：**【決定】** を押し、**【▲】** **【▼】** でUSBデバイスモードを有効にするかどうか選ぶ

- 「無効」（デフォルト）：USBデバイスモードを無効にして、USBホストモードになります。
- 「常時有効」：USBデバイスモードを有効にします。本機が再起動した場合も、有効状態が継続します。
- 「一時有効」：USBデバイスモードを有効にします。本機が再起動すると自動で「無効」が設定され、USBホストモードに戻ります。

#### お知らせ

- 「常時有効」から「一時有効」、または「一時有効」から「常時有効」に変更する場合は、いったん「無効」を設定してください。

**「画質」**：**【決定】** を押し、**【▲】** **【▼】** で「640×480（最大30 fps）」（デフォルト）、「1280×720（最大15 fps）」を選ぶ

#### お知らせ

- 本体の映像周波数が50 Hzの場合（26 ページ）、「640×480（最大30 fps）」は「640×480（最大25 fps）」に、「1280×720（最大15 fps）」は「1280×720（最大12.5 fps）」になります。

**「USBデバイスモードアイコン表示」**：**【◀】** **【▶】** でアイコン表示エリアにUSBデバイスモード中を示すアイコンを表示するかどうか選ぶ

- 「する」（デフォルト）：アイコンを表示します。
- 「しない」：アイコンを表示しません。

#### お知らせ

- 「USBデバイスモード」を「無効」に設定しているときに設定可能です。

**3** **【緑】** を押す

**「USBデバイスモード」**を「無効」から「常時有効」、または「無効」から「一時有効」に変更した場合

- 設定の保存とモードの切り替えを確認するダイアログボックスが表示されます。**【◀】** **【▶】** で「はい」を選び**【決定】** を押すと、USBデバイスモードに切り替わり、ホーム画面が表示されます。


#### お知らせ

- パソコン画面を本体に接続しているテレビに表示するには**【PC】** を押します。
- USBデバイスモード中の音声入力は、「コンテンツ共有中のHDMI音声入力」（161 ページ）を「PC」に設定した場合と同じになります。

上記以外

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。**【◀】** **【▶】** で「はい」を選び**【決定】** を押すと、システム設定画面が表示されます。

#### お知らせ

- 「USBデバイスモードアイコン表示」を「する」に設定すると、USBデバイスモード中は①の位置に  が表示されます。



## Webハイブリッドモードの設定をする

USBホストモード（140 ページ）とWebハイブリッドモードを切り替えます。

**Webハイブリッドモード**：HD映像コミュニケーションユニットのビデオ会議と、パソコンの汎用会議アプリケーションを使用したWeb会議を相互接続し、ビデオ会議の音声とWeb会議の映像・音声を共有します。

### お知らせ

- 「ソフトウェアの拡張」で「Webハイブリッドモード拡張」を有効にした場合に設定可能です。
- USBデバイスモード中は設定できません。
- Webハイブリッドモード使用時は、必ず専用のUSB変換ケーブルを使用してください。
- Webハイブリッドモードの詳細は「Webハイブリッドモードを利用する（201 ページ）」を参照してください。

## Webハイブリッドモードの設定をする

### 1 「Webハイブリッド」を選び、【決定】を押す

- Webハイブリッド設定画面が表示されます。

### 2 【▲】【▼】で以下の項目を選び、入力する 「Webハイブリッドモード」：【決定】を押し、【▲】【▼】でWebハイブリッドモードを有効にするかどうか選ぶ

- 「無効」（デフォルト）：Webハイブリッドモードを無効にして、USBホストモードになります。
- 「常時有効」：Webハイブリッドモードを有効にします。本機が再起動した場合も、有効状態が継続します。
- 「一時有効」：Webハイブリッドモードを有効にします。本機が再起動すると自動で「無効」が設定され、USBホストモードに戻ります。

### お知らせ

- 「常時有効」から「一時有効」、または「一時有効」から「常時有効」に変更する場合は、いったん「無効」を設定してください。

**「Webハイブリッドモードアイコン表示」**：【◀】【▶】でアイコン表示エリアにWebハイブリッドモード中を示すアイコンを表示するかどうか選ぶ

- 「する」（デフォルト）：アイコンを表示します。

- 「しない」：アイコンを表示しません。

### お知らせ

- 「Webハイブリッドモード」を「無効」に設定しているときに設定可能です。

### 3 【緑】を押す


「Webハイブリッドモード」を「無効」から「常時有効」、または「無効」から「一時有効」に変更した場合

- 設定の保存とモードの切り替えを確認するダイアログボックスが表示されます。【◀】【▶】で「はい」を選び【決定】を押すと、Webハイブリッドモードに切り替わり、ホーム画面が表示されます。

上記以外

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。【◀】【▶】で「はい」を選び【決定】を押すと、システム設定画面が表示されます。

### お知らせ

- 「Webハイブリッドモードアイコン表示」を「する」に設定すると、Webハイブリッドモード中は①の位置に  が表示されます。



## PC接続方法を確認する

### 1 「Webハイブリッド」を選び、【決定】を押す

- Webハイブリッド設定画面が表示されます。

### 2 【▲】【▼】で「PC接続方法」を選び、【決定】を押す

- Webハイブリッドモード使用時に、HD映像コミュニケーションユニットとパソコンを接続する方法を表示します。

**3** 【決定】 を押す

- Webハイブリッド設定画面に戻ります。

**4** 【戻る】 を押す

- システム設定画面が表示されます。

## 片方向配信を利用する

「片方向配信を利用する (184 ページ)」を参照してください。

## 機器情報を表示する

本機の設定情報を表示することができます。

**1** 「機器情報の表示」 を選び、【決定】 を押す

- 機器情報表示画面が表示されます (108 ページ)。

拠点名	: Tokyo
MACアドレス	: ██████████
IPアドレス	: 192.168.181.110 / 255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	: 192.168.181.1
DNSサーバー	: 203.119.1.1
最大帯域	: 9.0 Mbps
暗号通信 (SIP)	: 有効
暗号通信 (H.323)	: 無効
バージョン情報	: ██████████
映像周波数	: 60Hz

青 赤 次ページ 緑 黄

**2** 【戻る】 を押す

- システム設定画面が表示されます。

## 拡張機能の確認を行う

ソフトウェアの拡張 (167 ページ) により有効にした機能を確認することができます。

**1** 「拡張機能の確認」 を選び、【決定】 を押す

- 拡張機能の確認画面が表示されます。

MPR ID	: 1234-5678-90AB-CDEF
つながるねっとサービス	: 2020/12/31 (GMT) が有効期限です
ソフトウェア機能	: 4地点接続拡張

### お知らせ

- 「ソフトウェア機能」の詳細については168 ページを参照してください。

**2** 【戻る】 を押す

- システム設定画面が表示されます。

## ネットワーク接続の確認を行う

IPアドレスを指定して、ネットワーク接続を確認することができます。

### お知らせ

- アドレス帳画面または履歴一覧画面からネットワーク接続の確認を行うことはできません。

**1** 「ネットワークの確認」 を選び、【決定】 を押す

- ネットワーク接続の確認画面が表示されます。

**2** IPアドレスを入力する

### お知らせ

- IPv4アドレスで1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。例: 「192.168.0.1」の場合:  
(正) 192.168.0.1  
(誤) 192.168.000.001
- IPv6アドレスの場合の入力形式は50 ページを参照してください。

- ホスト名は入力できません。

### 3 【赤】 を押す

- ネットワーク接続の確認を開始します。ネットワーク接続の確認が終わった後、確認が成功またはタイムアウトした場合は、結果の詳細が表示されます。確認が失敗した場合は、失敗を示すメッセージが表示されます。

### 4 【戻る】 を押す

- システム設定画面が表示されます。

## 自己診断を行う

相手側のテレビに表示される映像やスピーカーから聞こえる音声を、通信を開始する前に、自分側のテレビとスピーカーで確認することができます。

### お知らせ

- ヘッドセットを接続している場合でも、自己診断を行うことができます。

### 1 「自己診断」を選び、【決定】を押す

- 自己診断画面とダイアログボックスが表示されます。

### お知らせ

- 【青】を押すと、ダイアログボックスを表示/非表示にできます。
- マイクをスピーカーから最低1m以上離してください。

### 2 【赤】 を押す

- 自己診断を開始します。

### お知らせ

- メインビデオカメラからの映像を確認してください。
- ハウリングを避けるため、音量はリモコンの【+】で少しずつ上げてください。
- マイクに向かって話し、スピーカーから音声がかかっているか確認してください。
- 自己診断中は、すべての専用マイクが「中央ステレオ」になります。

- 自己診断中の音質は「標準」になります。

### 3 【赤】 を押す

- 自己診断を終了します。

### お知らせ

- 【赤】を押さなかった場合、自己診断は約10分後に自動的に終了します。

### 4 【戻る】 を押す

- システム設定画面が表示されます。

## ライセンス情報を表示する

ライセンスやオープンソースソフトウェアについての情報を表示することができます。

### 1 「ライセンス情報」を選び、【決定】を押す

- ライセンス情報表示画面が表示されます。
- 【赤】を押すと次の画面へ、【青】を押すと前の画面へ移動します。

### 2 【戻る】 を押す

- システム設定画面が表示されます。

## 使用許諾契約を表示する

使用許諾契約についての情報を表示することができます。

### 1 「使用許諾契約」を選び、【決定】を押す

- 使用許諾契約表示画面が表示されます。

### 2 【戻る】 を押す

- システム設定画面が表示されます。

## リモートメンテナンスを行う

販売店によるリモートメンテナンスを実行するために、次の操作を行います。操作を行った後、リモートメンテナンスが終了するまで本機を使用することはできません。電源を一度切ったあと再度入れ直すと、リモートメンテナンスを終了し、本機を使用することができます。



ます。詳細については、販売店へお問い合わせください。

**1 「リモートメンテナンス」を選び、【決定】を押す**

- リモートメンテナンスの開始を確認するダイアログボックスが表示されます。

**2 【◀ ▶】で「はい」を選び、【決定】を押す**

- リモートメンテナンス画面が表示されます。



# 管理者メニューの設定をする

## 管理者メニューの一覧

本機の管理者用機能を設定・変更・確認することができます。

### お知らせ

- 入力中に着信があると、応答するかどうか確認するダイアログボックスが表示されます。  
【◀】【▶】で「はい」、「いいえ」を選び、【決定】を押す
  - 「はい」を選ぶと着信に応答し、入力中の内容は反映されず、破棄されます。
  - 「いいえ」を選ぶと、入力を続けることができます。

### 1 【メニュー】を押す

- メニュー画面が表示されます。

### 2 【▲】【▼】で「設定／保守をする」を選び、【決定】を押す

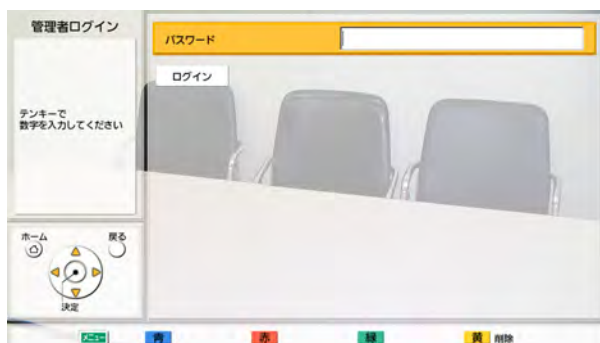
- システム設定画面が表示されます。



### 3 【◀】【▶】を押して、4ページ目を表示する

### 4 【▲】【▼】で「管理者でログイン」を選び、【決定】を押す

- 管理者ログイン画面が表示されます。



### 5 【▲】【▼】で「パスワード」を選び、パスワード（数字4～10桁）を入力する

### お知らせ

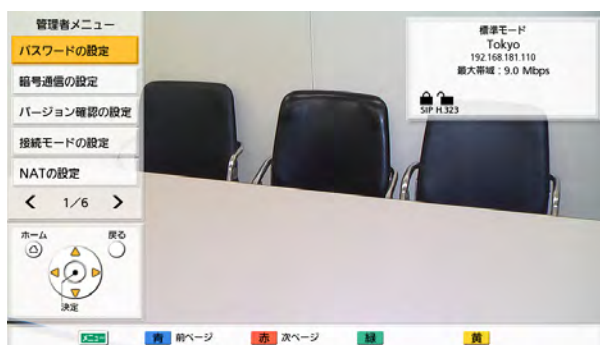
- メニュー画面から「黄」を押しても管理者ログイン画面を表示することができます。

- パスワードは、設置時に設定した管理者メニューログイン用パスワードを入力してください。
- パスワードをお忘れになった場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

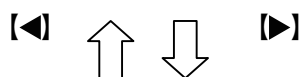
## 6 ▲▼で「ログイン」を選び、【決定】を押す

- 管理者メニュー一覧が表示されます。

### 管理者メニュー画面一覧



- 1 パスワードの設定：  
本機の管理者用パスワードを設定します（150 ページ）。
- 2 暗号通信の設定：  
暗号通信の有無や設定者などを設定します（150 ページ）。
- 3 バージョン確認の設定：  
バージョンアップを行う前に、最新のバージョンを確認するための設定を行います（151 ページ）。
- 4 接続モードの設定：  
相手先と通信するモードを設定します（152 ページ）。
- 5 NATの設定：  
NATの情報を設定します（152 ページ）。

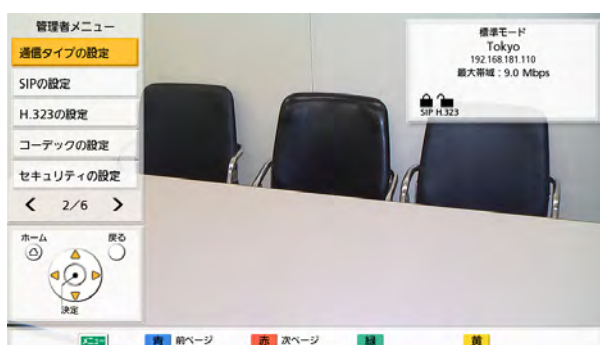


前ページ

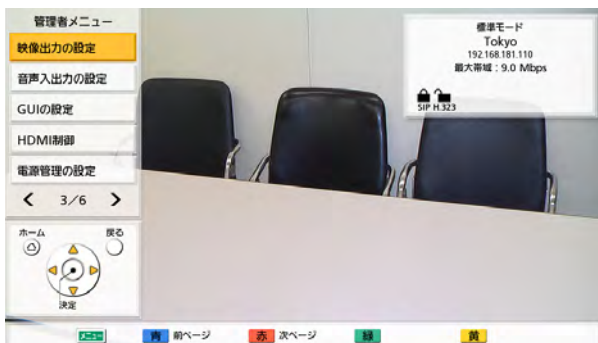
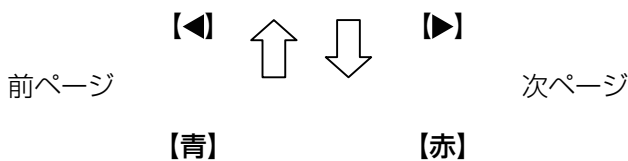
【青】

次ページ

【赤】



- 6 通信タイプの設定：  
本機で使用する通信のタイプを設定します（154 ページ）。
- 7 SIPの設定：  
SIPの設定を行います（154 ページ）。
- 8 H.323の設定：  
H.323の設定を行います（155 ページ）。
- 9 コーデックの設定：  
コーデックの有効／無効を設定します（156 ページ）。
- 10 セキュリティの設定：  
着信拒否や通信履歴の設定をします（157 ページ）。



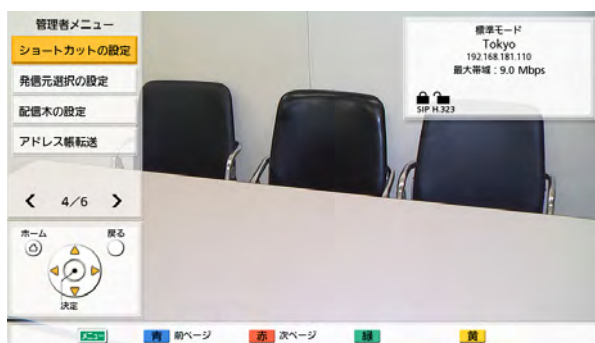
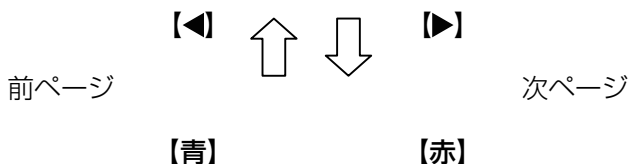
11 映像出力の設定：  
HDMI、アナログコンポーネントの映像出力を設定します（158 ページ）。

12 音声入出力の設定：  
音声の設定を行います（160 ページ）。

13 GUIの設定：  
メニュー画面などに表示される項目の表示の有無を設定します（162 ページ）。

14 HDMI制御：  
HDMIでの制御の有効／無効を設定します（163 ページ）。

15 電源管理の設定：  
自動電源オン・オフの設定をします（164 ページ）。

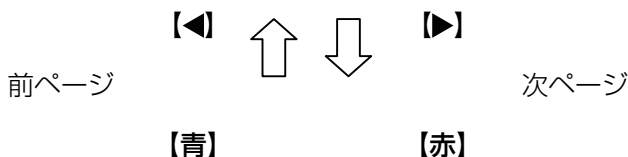


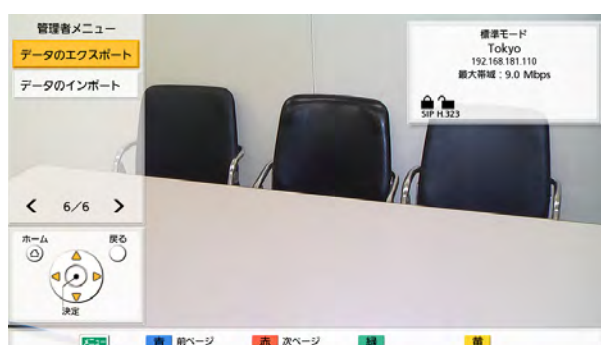
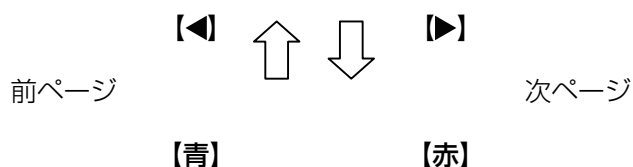
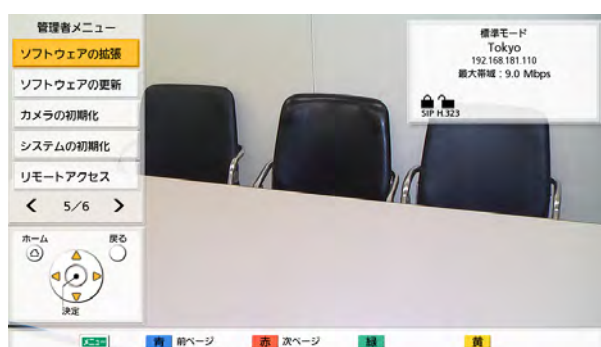
16 ショートカットの設定：  
リモコンのカラーキーに、ネットワーク設定などの画面に、ショートカットで移動できる機能を設定します（165 ページ）。

17 発信元選択の設定：  
発信元の設定を行います（165 ページ）。

18 配信木の設定：  
片方向配信の設定を行います（187 ページ）。

19 アドレス帳転送：  
複数の拠点でアドレス帳を共有するための設定を行います（166 ページ）。





- ⑳ ソフトウェアの拡張：  
本機の機能を拡張するための、レジストレーションキーを登録します（167 ページ）。
- ㉑ ソフトウェアの更新：  
USBメモリーからソフトウェアを更新します（168 ページ）。
- ㉒ カメラの初期化：  
自拠点のビデオカメラを初期化します（170 ページ）。
- ㉓ システムの初期化：  
ソフトウェアの拡張で有効にした機能以外の設定はすべて初期化されます（170 ページ）。
- ㉔ リモートアクセス：  
本機をリモート操作するための設定をします（170 ページ）。
- ㉕ データのエキスポート：  
アドレス帳などの情報をエキスポートします（171 ページ）。
- ㉖ データのインポート：  
エキスポートしたデータをUSBメモリーからインポートします（172 ページ）。

**7 【▲】 【▼】 で設定する項目を選び、【決定】 を押す**

- 選択した画面が表示されるので、各画面（①～㉖）の説明に従って設定します。

**8 【ホーム】 を押す**

- ホーム画面が表示されます。

## 管理者パスワードの設定をする

- 1 「パスワードの設定」を選び、**【決定】**を押す
  - パスワード設定画面が表示されます。
- 2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、パスワード（4～10桁）を入力する  
**「現在のパスワード入力」**：現在のパスワードを入力する（デフォルト：00000000）  
**「新しいパスワードの入力」**：新しいパスワードを入力する  
**「新しいパスワードの再入力」**：新しいパスワードを再度入力する  
**お知らせ**
  - 設置時にログインパスワードを初期値から変更してください。
  - パスワードは大切に保管してください。
- 3 **【緑】**を押す
  - 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。
- 4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す
  - 管理者メニュー画面が表示されます。

## 暗号通信の設定をする

- お知らせ**
- 2地点通信時、両拠点の暗号通信の設定が一致しないと接続できません。ただし、H.323の通信で両拠点のいずれかが**「暗号通信（H.323）」**を**「接続性優先」**に設定した場合、暗号通信の設定が異なっても接続できます。多地点通信時は、親拠点と各子拠点の2地点間で同様に接続の可否を判断します。
  - 通信ができなくなる可能性がありますので、暗号通信の設定を変更するときはご注意ください。
  - 第三者により暗号通信の設定を変更される恐れがあります。管理者パスワードの管理や、暗号通信の設定の権限を一般ユーザーに与えるときはご注意ください。

- SIPでの通信で暗号鍵が設定されていない場合は、暗号通信を有効にすることができません。
- つながるねっとサービスで暗号通信を行う場合は、本設定でSIPの暗号通信を設定してください。標準・つながるねっとサービスモード使用時は、標準モードでのSIP通信、つながるねっとサービスモードでのSIP通信で同一の暗号設定を使用します。
- 暗号通信を無効にした場合、盗聴対策のとられていないネットワークでは、盗聴される恐れがありますのでご注意ください。

- 1 「暗号通信の設定」を選び、**【決定】**を押す
  - 暗号通信設定画面が表示されます。

- 2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する

### お知らせ

- 標準モード使用時
  - 通信タイプ設定画面（154 ページ）で**「SIPの使用」**を**「しない」**に設定している場合、**「設定するユーザー（SIP）」**、**「暗号通信（SIP）」**、**「暗号鍵（SIP）」**は設定できません。
  - 通信タイプ設定画面（154 ページ）で**「H.323の使用」**を**「しない」**に設定している場合、**「設定するユーザー（H.323）」**、**「暗号通信（H.323）」**は設定できません。
  - **「設定するユーザー（つながるねっと）」**、**「暗号通信（つながるねっと）」**は設定できません。
- つながるねっとサービスモード使用時
  - **「設定するユーザー（SIP）」**、**「暗号通信（SIP）」**、**「設定するユーザー（H.323）」**、**「暗号通信（H.323）」**は設定できません。
- 標準・つながるねっとサービスモード使用時
  - 通信タイプ設定画面（154 ページ）で**「H.323の使用」**を**「しない」**に設定している場合、**「設定するユーザー（H.323）」**、**「暗号通信（H.323）」**は設定できません。
- **「暗号通信（SIP）」**、**「暗号通信（つながるねっと）」**、**「暗号通信（H.323）」**はそれぞれ

れ「設定するユーザー (SIP)」、「設定するユーザー (つながるねっと)」、「設定するユーザー (H.323)」に「管理者」を設定しているときに設定可能です。

「設定するユーザー (SIP)」／「設定するユーザー (つながるねっと)」／「設定するユーザー (H.323)」：【◀ ▶】で「管理者」(デフォルト)、「一般」を選ぶ

- 「管理者」を選ぶと、ネットワーク管理者のみ暗号通信の有効／無効を設定することができます。
- 「一般」を選ぶと、一般ユーザーでもそれぞれ「暗号通信 (SIP)」(130 ページ)、「暗号通信 (H.323)」(130 ページ)、「暗号通信 (つながるねっと)」(130 ページ)で、暗号通信の有効／無効を設定することができます。

「暗号通信 (SIP)」／「暗号通信 (つながるねっと)」：【◀ ▶】で暗号通信を有効にするかどうかを選ぶ

- 「有効」：暗号通信が有効です。
- 「無効」(デフォルト)：暗号通信が無効です。

「暗号鍵 (SIP)」：暗号鍵 (4～256文字 [英数字、半角スペース、記号]) を入力する (205 ページ)

#### お知らせ

- & < > , " は入力できません。
- 入力中は、実際に入力した文字が表示されますが、設定保存後は、すべての文字がアスタリスク (\*) で表示されます。設定した暗号鍵を画面で確認することができなくなりますので、暗号鍵はメモに控えるなどして大切に保管してください。
- 「暗号鍵 (SIP)」の設定が相手と一致しない場合は、暗号通信を有効にしても、通信は開始されません。
- 暗号鍵がアスタリスク (\*) で表示されているときに【黄】を押すと、暗号鍵のすべての文字が削除されます。
- 「暗号鍵 (SIP)」は接続モードによって名称が変わります。
  - 標準モード使用時：「暗号鍵 (SIP)」
  - つながるねっとサービスモード使用時：「暗号鍵 (つながるねっと)」

- 標準・つながるねっとサービスモード使用時：「暗号鍵 (SIP/つながるねっと)」

「暗号通信 (H.323)」：【決定】 を押し、【▲】 【▼】 で暗号通信を有効にするかどうかを選ぶ

- 「接続性優先」：相手先が暗号化通信を有効に設定している場合は、暗号化通信が有効になります。無効に設定している場合は、暗号化せず通信します。
- 「有効」：暗号通信を有効にします。
- 「無効」(デフォルト)：暗号通信を無効にします。

### 3 【緑】 を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 【◀ ▶】 で「はい」を選び、【決定】 を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

## バージョンアップ確認の設定をする

ソフトウェアのバージョンアップを行う前に、最新のバージョンを確認するための設定を行います。

#### お知らせ

- バージョンアップの確認や、ネットワークから最新バージョンのダウンロードを行うためには、DNSサーバーの設定が必要です (125 ページ)。

### 1 「バージョン確認の設定」を選び、【決定】 を押す

- バージョン確認設定画面が表示されます。

### 2 【▲】 【▼】 で以下の項目を選び、入力する 「プロキシサーバーアドレス」：プロキシサーバーのIPアドレスを入力する

#### お知らせ

- IPv6アドレスおよびホスト名では設定できません。

- 1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。  
例：「192.168.0.1」の場合：  
(正) 192.168.0.1  
(誤) 192.168.000.001

「プロキシサーバーポート」：プロキシサーバーのポート番号（1～65535）を入力する

「起動時のバージョン確認」：【◀】【▶】で「する」、「しない」（デフォルト）を選ぶ

- 「する」を選ぶと、起動時に自動でアップデートの確認を行います。利用可能なアップデートがある場合は、ホーム画面にダイアログボックスが表示されます。
- 「しない」を選ぶと、起動時に自動でアップデートの確認は行いません。

### 3 【緑】 を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 【◀】【▶】 で「はい」を選び、【決定】 を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

## 接続モードを設定する

### 1 「接続モードの設定」を選び、【決定】 を押す

- 接続モード設定画面が表示されます。

### 2 【決定】 を押し、【▲】【▼】 で設定したい接続モードを選び、再度【決定】 を押す

「標準モード」：インターネットまたはイントラネット回線で通信を行います。

「つながるねっとサービスモード」：つながるねっとサービスを利用して通信を行います。

「標準・つながるねっとサービスモード」：標準モードとつながるねっとサービスモードの2つのモードで通信を行います。

#### お知らせ

- 異なる接続モードの相手とは通信できません。

- 「つながるねっとサービスモード」を利用するためには、アクティベーションキーにより「つながるねっとサービス」を有効にする必要があります。

詳細については、以下のホームページを参照してください。

<https://sol.panasonic.biz/visual/products/connection.html>

### 3 【緑】 を押す

- 設定の保存と保存後の再起動を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 【◀】【▶】 で「はい」を選び、【決定】 を押す

- 設定内容を反映させるため、本機は自動的に再起動されます。

#### お知らせ

- 接続モードを変更する場合、ネットワークの状態によっては再起動に時間がかかる場合があります。

## NATの設定をする

#### お知らせ

- 設定を変更するためには、ポート番号の設定を含めたシステムの設定が必要になります。詳細は販売店にお問い合わせください。
- 標準モード使用時（152 ページ）は手順2で「NATの設定」は表示されません。
- つながるねっとサービスモード使用時（152 ページ）は、手順2で「静的NATの使用」、「WAN側アドレス」、「ローカルアドレス判定」は表示されません。
- この設定は「ネットワークの設定」で「IPアドレスの設定（LAN1）」が「手動」に設定されている場合のみ設定可能です（124 ページ）。
- 「音声用RTP・RTCP」、「映像用RTP・RTCP」、「カメラ制御」、「サブ映像用RTP・RTCP」、「BFCP」、「H.245」の設定範囲は機種により異なります。設定範囲はKX-VC2000J、KX-VC1600J、KX-VC1300Jの順に記載しています。



## 1 「NATの設定」を選び、【決定】を押す

- NATの設定画面が表示されます。

## 2 【▲】【▼】で以下の項目を選び、入力する

- 項目は2画面に渡って表示されます。【赤】を押すと次の画面へ、【青】を押すと前の画面へ移動し、すべての項目を表示することができます。設定を変更した場合は、画面移動の前に【緑】を押して、設定を保存してください。

「NATの設定」：【決定】を押し【▲】【▼】で「動的」（デフォルト）、「静的」を選ぶ

「静的NATの使用」：【◀】【▶】で「する」、「しない」（デフォルト）を選ぶ

### お知らせ

- 「する」を選んだ場合、ホーム画面の本体情報には、「WAN側アドレス」で設定したWAN側のIPアドレスが表示されます（42 ページ）。

「WAN側アドレス」：ルーターのWAN側のIPアドレスを入力する

### お知らせ

- IPv6アドレスでは設定できません。
- 1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。  
例：「192.168.0.1」の場合：  
（正）192.168.0.1  
（誤）192.168.000.001
- 「外部取得」と表示されている場合、WAN側のIPアドレスは設定できません。詳細については、販売店にお問い合わせください。

「ローカルアドレス判定」：【決定】を押し、【▲】【▼】で「無効」（デフォルト）、「自動」を選ぶ

- 「無効」（デフォルト）：すべてのアドレスで静的NATを適用します。
- 「自動」：プライベートアドレスは静的NATを適用しません。

「IPアドレス・ポート変換」：【◀】【▶】で「する」、「しない」（デフォルト）を選ぶ

### お知らせ

- Symmetric NAT特性を持つルーターを介してHDコムモバイルと接続する場合、「する」を選んでください。

- 「する」を設定した場合、本体が接続するルーターおよび本体に静的NATの設定をしてください。

「音声用RTP・RTCP」：音声RTP/RTCPの先頭ポート番号（5100～5108、5100～5164、5100～5188）を入力する（デフォルト：5100）

「映像用RTP・RTCP」：映像RTP/RTCPの先頭ポート番号（5200～5208、5200～5264、5200～5288）を入力する（デフォルト：5200）

「カメラ制御」：ビデオカメラ制御用の先頭ポート番号（5300～5308、5300～5364、5300～5388）を入力する（デフォルト：5300）

「サブ映像用RTP・RTCP」：サブ映像RTP／RTCPのポート番号（5400～5408、5400～5464、5400～5488）を入力する。（デフォルト：5400）

「BFCP」：BFCPの先頭ポート番号（5800～5876、5800～5890、5800～5895）を入力する。（デフォルト：5800）

「SIP」：SIPサーバーを使用して通信するための、2地点用のポート番号（5000～5099）を入力する（デフォルト：5060）

### お知らせ

- 変更したポート番号は機器情報表示画面に表示されます（108 ページ）。

「H.245」：H.245用の先頭ポート番号（5500～5550、5500～5580、5500～5590）を入力する（デフォルト：5500）

### お知らせ

- 以下の項目については、入力した先頭ポート番号に自動的に値を加算して、利用可能な範囲や値を表示します。
  - 「音声用RTP・RTCP」
  - 「映像用RTP・RTCP」
  - 「カメラ制御」
  - 「サブ映像用RTP・RTCP」
  - 「BFCP」
  - 「H.245」

### 3 【緑】 を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 【◀ ▶】 で「はい」を選び、【決定】 を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

## 通信タイプの設定をする

### 1 「通信タイプの設定」を選び、【決定】 を押す

- 通信タイプ設定画面が表示されます。

### 2 【▲ ▼】 で以下の項目を選び、入力する 「SIPの使用」：【◀ ▶】 で「する」（デフォルト）、 「しない」を選ぶ

#### お知らせ

- 「しない」を選んだ場合、「SIPサーバーの使用」で「する」を選んでいても、SIPサーバーは使用できません（154 ページ）。
- KX-VC300・KX-VC600の3.00より古いソフトウェアバージョン（3.00は含みません）を使用している相手に発信する場合、H.323は使用できません。「する」を選ぶ必要があります。

「H.323の使用」：【◀ ▶】 で「する」（デフォルト）、  
「しない」を選ぶ

#### お知らせ

- 「しない」を選んだ場合、「ゲートキーパーの使用」と「H.460の使用」で「する」を選んでいても、ゲートキーパーとH.460は使用できません（155 ページ）。

「優先表示」：【決定】 を押し、【▲ ▼】 で「標準モード（SIP）」（デフォルト）、「標準モード（H.323）」、「つながるねっとサービスモード」を選ぶ

#### お知らせ

- ここで選んだ通信タイプが、機器設定の表示内容や発信時の接続モードのデフォルト値などに反映されます。

### 3 【緑】 を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 【◀ ▶】 で「はい」を選び、【決定】 を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

## SIPの設定をする

イントラネットにおいてSIPサーバーを使用することで、IPアドレスだけではなくSIP-URI（SIPユーザー名@SIPドメイン名）による発信が可能になります。

#### お知らせ

- 通信タイプ設定画面で「SIPの使用」を「する」に設定している場合のみ設定可能です。
- MCU接続または他社機接続の場合、SIPサーバーを経由したSIP-URIによる通信は動作保証外です。
- MCUの会議室番号@IPアドレスを入力してMCU接続を行う場合は、「SIPサーバーの使用」および「ゲートキーパーの使用」（156 ページ）を「しない」に設定する必要があります。
- SIPサーバーの故障、またSIP設定が正しくない（SIPサーバー側または本体側）などの理由により、通信ができなくなっている場合、ホーム画面にSIPユーザー名は表示されず、「サーバー未登録」と表示されます。この場合、SIPサーバーによる通信はできません。ネットワーク管理者にご相談ください。

### 1 「SIPの設定」を選び、【決定】 を押す

- SIP設定画面が表示されます。

### 2 【▲ ▼】 で以下の項目を選び、入力する 「SIPサーバーの使用」：【◀ ▶】 で「する」、「しない」（デフォルト）を選ぶ

#### お知らせ

- SIPサーバーを使用して通信するためには、「する」を選び「SIPサーバーアドレス」、「SIPユーザー名」、「SIPドメイン名」の設定が必要です。

- 「する」を選ぶには、「ゲートキーパーの使用」(156 ページ)で「しない」を選んでいる必要があります。

「SIPサーバーアドレス」: SIPサーバーのIPアドレス (またはホスト名) を入力する

#### お知らせ

- IPv4アドレスで1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。  
例: 「192.168.0.1」の場合:  
(正) 192.168.0.1  
(誤) 192.168.000.001
- IPv6アドレスの場合の入力形式は50 ページを参照してください。
- ホスト名を入力するためには、DNSサーバーの設定が必要です (124 ページ)。
- ホスト名で入力可能な文字と文字数は50 ページを参照してください。

「SIPユーザー名」: SIPユーザー名を入力する。

「SIPドメイン名」: SIPドメイン名を入力する。

#### お知らせ

- 入力可能な文字は50 ページを参照してください。
- 規格に準拠した値を入力してください。詳細については、ネットワーク管理者にご相談ください。

「ダイジェスト認証」: 【◀ ▶】でダイジェスト認証を有効にするかどうかを選ぶ

- 「有効」: ダイジェスト認証を有効にします。
- 「無効」(デフォルト): ダイジェスト認証を無効にします。

「認証用ID」: 認証用ID (半角で1~60文字 [英数字、半角スペース、記号]) を入力する (205 ページ)。& < > , " は入力不可。

「認証用パスワード」: 認証用パスワード (半角で0~60文字 [英数字、半角スペース、記号]) を入力する (205 ページ)。& < > , " は入力不可。

#### お知らせ

- SIPサーバーを使用して通信するためには、「ダイジェスト認証」、「認証用ID」、「認証用パスワード」の設定が必要な場合があります。詳細については、ネットワーク管理者にご相談ください。

- 「認証用ID」、「認証用パスワード」の設定は、「ダイジェスト認証」で「有効」を選んでいるときのみ設定可能です。
- 入力中は、実際に入力した文字が表示されますが、設定保存後は、すべての文字がアスタリスク (\*) で表示されます。設定した認証用パスワードを画面で確認することができなくなりますので、認証用パスワードはメモに控えるなどして大切に保管してください。
- 認証用パスワードがアスタリスク (\*) で表示されているときに【黄】を押すと、認証用パスワードのすべての文字が削除されます。

「SIPトランスポートプロトコル」: 【決定】を押し、【▲】【▼】でSIPによる通信に使用するプロトコル (UDP、TCP、自動 (接続先による切り替え)、自動(TCP/UDP) [デフォルト]) を選ぶ

#### お知らせ

- 「自動 (接続先による切り替え)」を選ぶと、SIPサーバーを使用した通信にはTCPが、SIPサーバーを使用しない通信にはUDPが使用されます。「自動(TCP/UDP)」を選ぶと、TCP、UDPの順で通信を試みます。通常は「自動(TCP/UDP)」に設定してください。

### 3 【緑】を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 【◀ ▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

## H.323の設定をする

#### お知らせ

- 通信タイプ設定画面で「H.323の使用」を「する」に設定している場合のみ設定可能です。
- MCUの会議室番号@IPアドレスを入力してMCU接続を行う場合は、「SIPサーバーの使用」(154 ページ) および「ゲートキーパーの使用」を「しない」に設定する必要があります。

- ゲートキーパーおよびH.460サーバーの故障、またH.323設定が正しくない（ゲートキーパーおよびH.460サーバー側または本体側）などの理由により、通信ができなくなっている場合、ホーム画面にH.323内線番号／H.323名は表示されず、「サーバー未登録」と表示されます。この場合、ゲートキーパー、H.460サーバーによる通信はできません。ネットワーク管理者にご相談ください。

## 1 「H.323の設定」を選び、「決定」を押す

- H.323設定画面が表示されます。

## 2 【▲】【▼】で以下の項目を選び、入力する 「ゲートキーパーの使用」：【◀】【▶】で「する」、 「しない」（デフォルト）を選ぶ

### お知らせ

- この設定は「H.323の使用」（154 ページ）で「する」を選び、「SIPサーバーの使用」で「しない」を選んでいるときのみ設定可能です。

「ゲートキーパーアドレス」：ゲートキーパーのIPアドレス（またはホスト名）を入力する

### お知らせ

- IPv4アドレスで1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「1.001」のような入力はしないでください。  
例：「192.168.0.1」の場合：  
（正）192.168.0.1  
（誤）192.168.000.001
- IPv6アドレスの場合の入力形式は50 ページを参照してください。
- ホスト名を入力するためには、DNSサーバーの設定が必要です（124 ページ）。
- ホスト名で入力可能な文字と文字数は50 ページを参照してください。

「H.323名」：H.323名を入力する。

「H.323内線番号」：H.323内線番号を入力する。

### お知らせ

- 入力可能な文字は50 ページを参照してください。
- 規格に準拠した値を入力してください。詳細については、ネットワーク管理者にご相談ください。

「認証」：【◀】【▶】で認証を有効にするかどうかを選ぶ

- 「有効」：認証を有効にします。
- 「無効」（デフォルト）：認証を無効にします。

「認証用ID」：認証用ID（半角で1～60文字 [英数字、半角スペース、記号]）を入力する（205 ページ）。& < > , " は入力不可。

「認証用パスワード」：認証用パスワード（半角で0～60文字 [英数字、半角スペース、記号]）を入力する（205 ページ）。& < > , " は入力不可。

### お知らせ

- 「認証用ID」、「認証用パスワード」の設定は、「認証」で「有効」を選んでいるときのみ設定可能です。
- 入力中は、実際に入力した文字が表示されますが、設定保存後は、すべての文字がアスタリスク (\*) で表示されます。設定した認証用パスワードを画面で確認することができなくなりますので、認証用パスワードはメモに控えるなどして大切に保管してください。
- 認証用パスワードがアスタリスク (\*) で表示されているときに【黄】を押すと、認証用パスワードのすべての文字が削除されます。

「H.460の使用」：【◀】【▶】で「する」、「しない」（デフォルト）を選ぶ

## 3 【緑】を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

## 4 【◀】【▶】で「はい」を選び、「決定」を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

## コーデックの設定をする

コーデックの有効／無効を設定します。

### お知らせ

- コーデックの設定を変更すると、通信ができなくなる可能性があります。詳細については、販売店にお問い合わせください。

- 接続モードの設定で「つながるねっとサービスモード」を選択している場合、コーデックの設定は表示されません。

## 1 「コーデックの設定」を選び、【決定】を押す

- コーデック設定画面が表示されます。

## 2 以下の項目を選び、入力する

- 項目は2画面に渡って表示されます。【青】を押すとH.323設定画面へ移動し、再度【青】を押すとSIP設定画面に戻すことができます。  
「SIP／映像コーデック」／「SIP／音声コーデック」／「H.323／映像コーデック」／「H.323／音声コーデック」：【▲】【▼】で変更する項目を選び、【決定】を押す
- チェックのあり、なしが切り替わります。チェックのないコーデックは無効になります。
- デフォルトはすべて有効です。

### お知らせ

- 「H.323／映像コーデック」の「H.264／Baseline Profile (PktMode0)」と「H.323／音声コーデック」の「G.722」は設定を変更できません。
- 「SIP／映像コーデック」の「H.264／Baseline Profile (PktMode0)」と「SIP／音声コーデック」の「G.722」は設定を変更できません。

- 「SIP／QoS」／「H.323／QoS」：【決定】を押し、【▲】【▼】でQoSを有効にするかどうかを選ぶ
- 「有効」(デフォルト)：QoSが有効になります。
  - 「無効」：QoSが無効になります。

## 3 【緑】を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

## 4 【◀▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

## セキュリティの設定をする

着信拒否、通信履歴やUSB録画の設定をします。

## 1 「セキュリティの設定」を選び、【決定】を押す

- セキュリティの設定画面が表示されます。

## 2 【▲】【▼】で以下の項目を選び、入力する

### お知らせ

- 項目は2画面に渡って表示されます。【赤】を押すと次の画面へ、【青】を押すと前の画面へ移動し、すべての項目を表示できます。設定を変更した場合は、画面移動の前に【緑】を押して、設定を保存してください。

「アドレス帳以外の着信」：【◀▶】でアドレス帳に登録された端末以外から着信できるかどうかを選ぶ

- 「する」(デフォルト)：着信が可能です。
- 「しない」：着信を拒否します。

### お知らせ

- 「アドレス帳以外の着信」を「する」に設定した場合、「HDコムの着信」、「HDコムモバイルの着信」、「拒否した着信の履歴への保存」は設定できません。

「HDコムの着信」：「アドレス帳以外の着信」を「しない」に設定した場合、【◀▶】でHD映像コミュニケーションユニット／HDVC-MPCSから着信できるかどうかを選ぶ

- 「する」：着信が可能です。
- 「しない」(デフォルト)：着信を拒否します。

「HDコムモバイルの着信」：「アドレス帳以外の着信」を「しない」に設定した場合、【◀▶】でHDコムモバイルから着信するかどうかを選ぶ

- 「する」：着信が可能です。
- 「しない」(デフォルト)：着信を拒否します。

「着信時の認証」：【◀▶】で着信時に認証番号で認証するかどうかを選ぶ

- 「する」：認証します。
- 「しない」(デフォルト)：認証しません。

### お知らせ

- 「着信時の認証」を「しない」に設定した場合、「認証番号」、「HDコムの認証」、

「HDコムモバイルの認証」は設定できません。

- SIPサーバーやH.323ゲートキーパーを経由した通信では、着信時の認証機能は使用できません。
- 「アドレス帳以外の着信」を「しない」に設定し、「着信時の認証」を「する」に設定した場合、一方の着信可能条件を満たせば着信します。

「認証番号」：「着信時の認証」を「する」に設定した場合、6～20桁の数字を設定します。

#### お知らせ

- 接続先の端末が、会議室番号を「認証番号」と同一の数字にして発信する必要があります。  
発信番号の例) 認証番号が「123456」の場合  
(正) 123456@192.168.0.1  
(誤) 12345678@192.168.0.1  
接続先が他社機端末の場合は「@」の代わりにほかの文字列が使われることがあります(例：192.168.0.1##123456)。  
この場合も、着信側では認証番号を「123456」と識別して判定します。

「HDコムの認証」：「着信時の認証」を「する」に設定した場合、【◀ ▶】でHD映像コミュニケーションユニット／HDVC-MPCSからの着信時に認証するかどうかを選ぶ

- 「する」(デフォルト)：認証します。
- 「しない」：認証なしで着信が可能です。

「HDコムモバイルの認証」：「着信時の認証」を「する」に設定した場合、【◀ ▶】でHDコムモバイルからの着信時とHDコムLiveからの着信時に認証するかどうかを選ぶ

- 「する」(デフォルト)：認証します。
- 「しない」：認証なしで着信が可能です。

「拒否した着信の履歴への保存」：「アドレス帳以外の着信」を「しない」、または「着信時の認証」を「する」に設定した場合、【◀ ▶】で拒否した着信の履歴を保存するかどうかを選ぶ

- 「する」(デフォルト)：保存します。

- 「しない」：保存しません。

#### お知らせ

- 「アドレス帳以外の着信」を「する」、かつ「着信時の認証」を「しない」に設定した場合、「拒否した着信の履歴への保存」は設定できません。

「発着信履歴の保存方法」：【決定】を押し、【▲】【▼】で発着信履歴の保存方法を選ぶ

- 「最後の履歴」：同一相手先への発信履歴と同一相手からの異常着信履歴は、最新の1回が保存されます。
- 「全ての履歴」(デフォルト)：すべての発着信履歴が保存されます。

#### お知らせ

- 同一相手からの通常の着信履歴は、設定にかかわらず、すべて保存されます。

「履歴の削除」：【◀ ▶】で通信履歴画面の履歴の削除を有効にするかどうかを選ぶ

- 「有効」(デフォルト)：削除を有効にします。
- 「無効」：削除を無効にします。

「USB録画」：【◀ ▶】でUSB録画機能の有効、無効を選ぶ

- 「有効」：録画機能を有効にします。
- 「無効」(デフォルト)：録画機能を無効にします。

### 3 【緑】を押し

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 【◀ ▶】で「はい」を選び、【決定】を押し

- 管理者メニュー画面が表示されます。

## 映像出力の設定をする

HDMIへの映像出力を設定します。

### 1 「映像出力の設定」を選び、【決定】を押し

- 映像出力の設定画面が表示されます。

2 ▲▼ で以下の項目を選び、入力する  
「映像出力」：【決定】を押し ▲▼ でHDMI2  
を使用するかどうかを選ぶ

- 「HDMI1のみ」(デフォルト)：HDMI1のみ使  
用します。
- 「HDMI1/HDMI2」：HDMI1とHDMI2を使  
用し2画面で表示します。

#### お知らせ

- KX-VC1300J、KX-VC1600Jで  
「HDMI1/HDMI2」を選択した場合、  
PinP表示はできません。

「HDMI1のみ」を選択した場合：

「通信開始時のレイアウト」：【決定】を押し ▲▼ でコンテンツ共有を行っていない通信時のレイアウトを選ぶ

- 「相手映像」(デフォルト)：相手拠点の映像を  
表示します。
- 「相手映像/自映像 (PwithP)」：相手拠点の  
映像と自拠点の映像をPwithPで表示します。
- 「相手映像/自映像 (SidebySide)」：相手拠  
点の映像と自拠点の映像をSidebySideで表示  
します。
- 「自映像」：自拠点の映像を表示します。

「共有開始時のレイアウト1」：【決定】を押し ▲▼ でシングルストリーム通信中にコンテンツ共有を行った場合の表示方法を選ぶ

- 「コンテンツ映像」(デフォルト)：自拠点のコ  
ンテンツ映像を表示します。
- 「コンテンツ映像/カメラ映像 (PwithP)」：  
自拠点のコンテンツ映像と相手拠点のカメラ映  
像をPwithPで表示します。
- 「コンテンツ映像/カメラ映像  
(SidebySide)」：自拠点のコンテンツ映像と  
相手拠点のカメラ映像をSidebySideで表示し  
ます。
- 「相手映像」：相手拠点のカメラ映像を表示し  
ます。
- 「自映像」：自拠点のカメラ映像を表示します。

「共有開始時のレイアウト2」：【決定】を押し ▲▼ でデュアルストリーム通信中にコンテンツ共有を行った場合の表示方法を選ぶ

- 「コンテンツ映像」(デフォルト)：自拠点のコ  
ンテンツ映像を表示します。
- 「コンテンツ映像/相手映像 (PwithP)」：自  
拠点のコンテンツ映像と相手拠点のカメラ映像  
をPwithPで表示します。
- 「コンテンツ映像/自映像 (PwithP)」：自拠  
点のコンテンツ映像とカメラ映像をPwithPで  
表示します。
- 「コンテンツ映像/相手映像 (SidebySide)」：  
自拠点のコンテンツ映像と相手拠点のカメラ映  
像をSidebySideで表示します。
- 「コンテンツ映像/自映像 (SidebySide)」：  
自拠点のコンテンツ映像とカメラ映像を  
SidebySideで表示します。
- 「相手映像」：相手拠点のカメラ映像を表示し  
ます。
- 「自映像」：自拠点の映像を表示します。

「HDMI1/HDMI2」を選択した場合：

「通信開始時のレイアウト」：【決定】を押し ▲▼ でコンテンツ共有を行っていない通信時のレイアウトを選ぶ

- 「相手映像/自映像」(デフォルト)：HDMI1に  
相手側の映像、HDMI2に自拠点の映像を表示  
します。
- 「自映像/相手映像」：HDMI1に自拠点の映像、  
HDMI2に相手拠点の映像を表示します。
- 「相手映像/相手映像」：HDMI1、HDMI2に  
相手拠点の映像を表示します。

「共有開始時のレイアウト1」：【決定】を押し ▲▼ でシングルストリーム通信中にコンテンツ共有を行った場合の表示方法を選ぶ

- 「コンテンツ映像/相手映像」(デフォルト)：  
HDMI1に自拠点のコンテンツ映像、HDMI2  
に相手拠点の映像を表示します。
- 「相手映像/コンテンツ映像」：HDMI1に相手  
拠点の映像、HDMI2に自拠点のコンテンツ映  
像を表示します。

- 「コンテンツ映像/コンテンツ映像」：HDMI1、  
HDMI2に自拠点のコンテンツ映像を表示しま  
す。

「共有開始時のレイアウト2」：【決定】を押し ▲▼ でデュアルストリーム通信中にコンテンツ共有を行った場合の表示方法を選ぶ

- 「コンテンツ映像／相手映像」(デフォルト) : HDMI1に自拠点のコンテンツ映像、HDMI2に相手拠点の映像を表示します。
- 「相手映像／コンテンツ映像」 : HDMI1に相手拠点の映像、HDMI2に自拠点のコンテンツ映像を表示します。
- 「コンテンツ映像／コンテンツ映像」 : HDMI1、HDMI2に自拠点のコンテンツ映像を表示します。

「HDMI3の出力」(KX-VC1600J、KX-VC2000J) : **【決定】** を押し **【▲】** **【▼】** でHDMI3への出力を選ぶ

- 「自拠点映像」(デフォルト) : 自拠点の映像をHDMI3へ出力します。
- 「録画 (HDMI1／LR分離)」 : HDMI1の信号を録画・録音用としてL (他拠点音声)、R (自拠点音声) を分離してHDMI3へ出力します。
- 「録画 (HDMI1／LR合成)」 : HDMI1の信号を録画・録音用としてL (他拠点音声)、R (自拠点音声) を合成してHDMI3へ出力します。
- 「録画 (HDMI2／LR分離)」 : HDMI2の信号を録画・録音用としてL (他拠点音声)、R (自拠点音声) を分離してHDMI3へ出力します。
- 「録画 (HDMI2／LR合成)」 : HDMI2の信号を録画・録音用としてL (他拠点音声)、R (自拠点音声) を合成してHDMI3へ出力します。

#### お知らせ

- 自拠点映像を選択した場合、ビデオカメラの解像度は1080p／1080iでご使用ください。720pは使用できません。

「アナログコンポーネントの映像出力」(KX-VC1600J、KX-VC2000J) : **【決定】** を押し **【▲】** **【▼】** でアナログコンポーネントの出力設定を選ぶ

- 「HDMI1と同一」(デフォルト) : HDMI1と同一映像をアナログコンポーネントに出力します。
- 「HDMI2と同一」 : HDMI2と同一映像をアナログコンポーネントに出力します。

「最大解像度」(KX-VC1600J、KX-VC2000J) : **【決定】** を押し **【▲】** **【▼】** で「1080i」(デフォルト) または「1080p」を選ぶ

#### お知らせ

- 設定した最大解像度は、アナログコンポーネント出力と、アナログコンポーネントと同一映像を出力するHDMIに適用されます。

「自映像の表示位置」 : **【決定】** を押し **【▲】** **【▼】** で自映像をPinP表示する位置を選ぶ

- 「右上」(デフォルト) : 画面の右上に自映像を表示します。
- 「右下」 : 画面の右下に自映像を表示します。
- 「左上」 : 画面の左上に自映像を表示します。
- 「左下」 : 画面の左下に自映像を表示します。

#### お知らせ

- KX-VC1300J、KX-VC1600Jにおいて「映像出力」で「HDMI1／HDMI2」を選択した場合、PinP表示はできません。
- 通信中は**【赤】** を押しごとに、設定した位置から右回りに自映像の表示位置を変更できます (**【赤】** のガイドラインに「PinP表示」と表示されます)。**【戻る】** で自映像を非表示にできます。

### 3 **【緑】** を押し

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 **【◀ ▶】** で「はい」を選び、**【決定】** を押し

- 管理者メニュー画面が表示されます。

## 音声入出力の設定をする

#### お知らせ

- 音声の調整を行うための設定です。
- 「エコーキャンセラー」と「オートゲインコントロール」は、通常は「有効」にしてください。「無効」にすると、通信時に音質が低下する可能性があります。
- 「自音声の出力」は通常は「しない」にしてください。
- マイクを接続した状態で自音声をテレビのスピーカーから出力すると、ハウリングすることがあります。マイクが設置された場所で、自音声をスピーカーから出力しないでください。



- 項目は2画面に渡って表示されます。**【赤】** を押すと次の画面へ、**【青】** を押すと前の画面へ移動し、すべての項目を表示することができます。

## 1 「音声入出力の設定」を選び、**【決定】** を押す

- 音声入出力設定画面が表示されます。

## 2 **【▲】** **【▼】** で以下の項目を選び、入力する

「エコーキャンセラー」：**【◀】** **【▶】** でエコーキャンセラー機能を有効にするかどうかを選ぶ

- 「有効」(デフォルト)：エコーキャンセラー機能を有効にします。
- 「無効」：エコーキャンセラー機能を無効にします。

「オートゲインコントロール」：**【◀】** **【▶】** でオートゲインコントロール機能を有効にするかどうかを選ぶ

- 「有効」(デフォルト)：オートゲインコントロール機能を有効にします。
- 「無効」：オートゲインコントロール機能を無効にします。

### お知らせ

- 「オートゲインコントロール」を設定するには、「エコーキャンセラー」の設定を「無効」にする必要があります。

「RCA音声入力ゲイン」：**【決定】** を押し、**【▲】**

**【▼】** でAudio In L/R端子の入力ゲイン(-42 dB～+4 dB)を選ぶ(デフォルト：-32 dB)

### お知らせ

- 「オートゲインコントロール」を「有効」に設定した場合、「RCA音声入力ゲイン」で設定した値が有効となります。

「音声の出力先」：**【決定】** を押し、**【▲】** **【▼】** で通信中の音声の出力先を選ぶ

- 「HDMI1」(デフォルト)：音声をHDMI1から出力します。
- 「HDMI2」：音声をHDMI2から出力します。
- 「無効」：音声をHDMIに出力しません。

### お知らせ

- 映像出力の設定で「映像出力」を「HDMI1のみ」に設定した場合、「HDMI2」は表示されません(159 ページ)。

「自音声の出力」：**【決定】** を押し、**【▲】** **【▼】** で通信中の自拠点音声を出力先に出力するかどうかを選ぶ

- 「しない」(デフォルト)：自拠点の音声を出力しません。
- 「RCA」：自拠点の音声をAudio Out R端子に出力します。
- 「HDMI」：自拠点の音声を「音声の出力先」で設定したHDMI(R)に出力します。他拠点の音声はHDMI(L)に出力します。

「マイクイコライザー」：**【決定】** を押し、**【▲】** **【▼】** でマイクの集音特性を選ぶ

- 「通常」(デフォルト)：標準的な集音特性です。
- 「こもり感改善」：音のこもりを改善する集音特性です。
- 「低域改善」：低音域の集音を改善する特性です。

「マイクミュートモード」：**【決定】** を押し、**【▲】** **【▼】** でマイクオフ時にミュートするマイクを選ぶ

- 「専用マイク・ヘッドセット・外部音声入力」(デフォルト)：専用マイク、ヘッドセットのマイク、汎用マイクをミュートします。
  - 「専用マイク・ヘッドセット」：専用マイク、ヘッドセットのマイクをミュートします。
- 「メインカメラ音声入力」：**【◀】** **【▶】** で、通信中のメインカメラから音声を入力するかどうかを選ぶ
- 「する」：音声を入力します。
  - 「しない」(デフォルト)：音声を入力しません。

### お知らせ

- ソフトウェアバージョン4.50未満では、「メインカメラ音声入力」は「通信中のメインカメラ音声入力」と表示されます。

「コンテンツ共有中のHDMI音声入力」：**【決定】** を押し、**【▲】** **【▼】** で音声を入力するHDMI端子を選ぶ

- 「しない」：音声を入力しません。
- 「メインカメラ」：メインカメラから音声を入力します。

- 「サブカメラ」：サブカメラから音声を入力します。
- 「PC」（デフォルト）：PC-HDMIから音声を入力します。
- 「サブカメラ+PC」：サブカメラとPC-HDMIから音声を入力します。

「HDMI音声入力ゲイン」：【決定】 を押し、音声入力ゲイン（+6 dB~-32 dB、OFF）を選ぶ（デフォルト：0 dB）。

「HDMI入力音声の出力ゲイン」：【決定】 を押し、音声出力ゲイン（+6 dB~-32 dB、OFF）を選ぶ（デフォルト：0 dB）。

#### お知らせ

- 「メインカメラ音声入力」、「コンテンツ共有中のHDMI音声入力」で音声を入力する設定をしても、「HDMI音声入力ゲイン」、「HDMI入力音声の出力ゲイン」が「OFF」の場合には、音声は出力されません。
- 「コンテンツ共有中のHDMI音声入力」で「メインカメラ」を選択する場合、「メインカメラ音声入力」を「する」に設定してください。
- マイクを備えたビデオカメラを使用する場合、「メインカメラ音声入力」を「する」に設定し、かつ「HDMI入力音声の出力ゲイン」を「OFF」以外に設定すると、ハウリングが発生する場合があります。

### 3 【緑】 を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 【◀ ▶】 で「はい」を選び、【決定】 を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

## GUIの設定をする

### 1 「GUIの設定」を選び、【決定】 を押す

- GUI設定画面が表示されます。

### 2 【▲】 【▼】 で以下の項目を選び、入力する

- 項目は2画面に渡って表示されます。【赤】 を押すと次の画面へ、【青】 を押すと前の画面へ移動し、すべての項目を表示することができません。

「設定/保守をする」メニュー：【◀ ▶】 で「有効」（デフォルト）、「無効」を選ぶ

- 「無効」を選ぶと、メニュー画面で「設定/保守をする」を選択しても、設定/保守画面を表示しません。

「発信元を選択する」メニュー：【◀ ▶】 で「有効」（デフォルト）、「無効」を選ぶ

- 「無効」を選ぶと、メニュー画面で「発信元を選択する」を選択しても、発信元選択画面を表示しません。

「ネットワークの設定」メニュー：【◀ ▶】 で「有効」（デフォルト）、「無効」を選ぶ

- 「無効」を選ぶと、メニュー画面で「ネットワークの設定」を選択しても、ネットワークの設定画面を表示しません。

「通信の設定」メニュー：【◀ ▶】 で「有効」（デフォルト）、「無効」を選ぶ

- 「無効」を選ぶと、メニュー画面で「通信の設定」を選択しても、通信設定画面を表示しません。

「カメラの設定」メニュー：【◀ ▶】 で「有効」（デフォルト）、「無効」を選ぶ

- 「無効」を選ぶと、メニュー画面で「カメラの設定」を選択しても、カメラ設定画面を表示しません。

「MCUの設定」メニュー：【◀ ▶】 で「有効」（デフォルト）、「無効」を選ぶ

- 「無効」を選ぶと、メニュー画面で「MCUの設定」を選択しても、MCUの設定画面を表示しません。

「アドレス帳の編集」：【◀ ▶】 で「有効」（デフォルト）、「無効」を選ぶ

- 「無効」を選ぶと、アドレス帳の新規登録、編集、削除は行えません。

「プロフィールの編集」：【◀ ▶】 で「有効」（デフォルト）、「無効」を選ぶ

- 「無効」を選ぶと、プロフィールの新規登録、編集、削除はできません。

「ホームのガイド表示」：【◀ ▶】 で「する」（デフォルト）、「しない」を選ぶ

- 「しない」を選ぶと、ホーム画面のガイド表示を非表示にします。リモコンの【表示】を押すと、表示・非表示を切り替えることができます。  
「カメラ操作のガイド表示」：【決定】を押し、【▲】【▼】で「一部非表示」（デフォルト）、「全て非表示」を選ぶ
- 通信中のカメラ操作画面で、リモコンの【表示】を押してガイドエリアを非表示にしたときの動作を設定します。
  - 「一部非表示」：操作名とリモコンのカラーボタンの説明以外を非表示にします。
  - 「全て非表示」：全てのガイドエリアを非表示にします。
- 「黄」ボタンの管理者ログイン表示」：【◀】【▶】でメニュー画面の【黄】に「管理者ログイン」を表示するかを選ぶ
  - 「する」（デフォルト）：「管理者ログイン」を表示します。
  - 「しない」：「管理者ログイン」を表示しません。
- 「MCU動作中の「青」ボタン」：【決定】を押し、【▲】【▼】でMCU動作中に「青」ボタンに割り当てる機能を選ぶ
  - 「接続履歴」：通信中の端末が、通信開始から現在まで他拠点と行った接続の履歴を確認します。
  - 「1対1通話」（デフォルト）：1対1通話の開始・終了ダイアログボックスを表示します。
- 「MCU動作中の「黄」ボタン」：【決定】を押し、【▲】【▼】でMCU動作中に「黄」ボタンに割り当てる機能を選ぶ
  - 「手元ノイズ抑圧」：手元ノイズ抑圧機能のON、OFFを切り替えます。
  - 「ディスカッション／プレゼンテーション」（デフォルト）：MCU動作モードを切り替えます。
- 「通信中の「緑」ボタン」：【決定】を押し、【▲】【▼】で通信中に「緑」ボタンに割り当てる機能を選ぶ
  - 「映像横縦比調整」（デフォルト）：2地点通信中に受信映像の横縦比を変更します。
  - 「USB録画」：通信中に録画を開始・終了します。
- 「通信中の「カメラ操作」ボタン」：【◀】【▶】で「有効」（デフォルト）、「無効」を選ぶ
- 「無効」を選ぶと、通信中に【カメラ操作】ボタンは使用できません。

### 3 【緑】を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 【◀】【▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

## HDMI制御の設定をする

### 1 「HDMI制御」を選び、【決定】を押す

- HDMI制御設定画面が表示されます。

### 2 【▲】【▼】で以下の項目を選び、入力する

- 「ワンタッチプレイ機能」：【◀】【▶】で「有効」、「無効」（デフォルト）を選ぶ

#### お知らせ

- 通常は「無効」にしてください。「有効」にすると、接続されるビデオカメラによっては、映像が自動的に切り替わってしまいます。

- 「スタンバイ機能」：【◀】【▶】で「有効」（デフォルト）、「無効」を選ぶ

#### お知らせ

- 「有効」にすると、本体がスクリーンスタンバイ状態になった場合、接続されるビデオカメラによっては、ビデオカメラ（メイン、サブ）も同期してスクリーンスタンバイ状態になります。ビデオカメラの機種によって動作が異なりますので、詳細については、販売店にお問い合わせください。

- 「受信イコライザー」：【決定】を押し、【▲】【▼】でメインカメラ端子のイコライザー設定（「パターン1」[デフォルト]、「パターン2」）を選ぶ

#### お知らせ

- お使いのHDMIケーブルでカメラの映像が乱れることがある場合に「パターン2」の設定を試してください。通常は「パターン1」を設定してください。
- 「パターン1」はソフトウェアバージョン6.10未満と同じ受信イコライザー設定です。「パターン2」は設定値を変更します。

- 「受信イコライザー」の設定を変更すると、手順4のあとに自動的に再起動します。
- KX-VC2000Jでは表示されない設定です。

### 3 【緑】 を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 【◀ ▶】 で「はい」を選び、【決定】 を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

## 電源管理の設定をする

HD映像コミュニケーションユニットの電源を、設定した時刻に自動的にオン・オフします。特定の曜日の設定した時刻にオン・オフするか、毎日同じ時刻にオン・オフするか選べます。

### お知らせ

- 自動電源オフを設定した時刻の約60秒前に、電源をオフするか確認するダイアログボックスが表示されます。  
【◀ ▶】で「はい」「いいえ」を選び、【決定】を押す
  - 「はい」を選んだ場合、設定時刻まで待たずに電源をオフします。
  - 「いいえ」を選んだ場合、直近の設定時刻では電源をオフにせず、次の設定時刻にオフにします。
 60秒以内に【決定】が押されない場合は、設定時刻に電源をオフします。
- 自動電源オフから自動電源オンまで5分未満に時刻が設定されている場合、オフ・オンではなく再起動します。その場合、再起動するかどうか確認するダイアログボックスは表示されません。また、再起動する前に手動で電源が切られても、自動電源オン時刻に自動で電源が入ります。
- 自動電源オンから自動電源オフまで5分以上空くように時刻を設定してください。
- 自動電源オンの時刻にすでに起動していたり、自動オフの時刻に通信、録画やファームウェアの更新を行っていたりする場合は、次の設定時刻に電源オン・オフします。

### 1 「電源管理の設定」を選び、【決定】 を押す

- 電源管理設定画面が表示されます。

### 2 【▲】【▼】 で以下の項目を選び、入力する

#### お知らせ

- 特定の曜日にオン（またはオフ）する場合は、「曜日の設定」を「する」、「自動電源オン」（または「自動電源オフ」）を「する」、「曜日（電源オン）」（または「曜日（電源オフ）」、「時刻（電源オン）」（または「時刻（電源オフ）」を設定します。
- 毎日同じ時刻にオン（またはオフ）する場合は、「曜日の設定」を「しない」、「自動電源オン」（または「自動電源オフ」）を「する」、「時刻（電源オン）」（または「時刻（電源オフ）」を設定します。

「曜日の設定」：【◀ ▶】で「する」、「しない」（デフォルト）を選ぶ

「自動電源オン」：【◀ ▶】で「する」、「しない」（デフォルト）を選ぶ

「曜日（電源オン）」：【決定】を押し、【▲】【▼】で曜日（デフォルト：月曜）を選ぶ

#### お知らせ

- 「曜日の設定」を「しない」または「自動電源オン」を「しない」に設定した場合は設定できません。

「時刻（電源オン）」：時刻（デフォルト：06:00）を設定する

#### お知らせ

- 「自動電源オン」を「しない」に設定した場合は設定できません。

「自動電源オフ」：【◀ ▶】で「する」、「しない」（デフォルト）を選ぶ

「曜日（電源オフ）」：【決定】を押し、【▲】【▼】で曜日（デフォルト：土曜）を選ぶ

#### お知らせ

- 「曜日の設定」を「しない」または「自動電源オフ」を「しない」に設定した場合は設定できません。

「時刻（電源オフ）」：時刻（デフォルト：00:00）を設定する

#### お知らせ

- 「自動電源オフ」を「しない」に設定した場合は設定できません。

**3** 【緑】 を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

**4** 【◀ ▶】 で「はい」を選び、【決定】 を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

**お知らせ**

- 自動電源オフの設定時刻直前に手動操作などで本機を起動した場合、設定時刻に電源がオフにならないことがあります。その場合、次の設定時刻に電源オフします。

## ショートカットを設定する

システム設定画面への移動操作を短縮する機能を、リモコンキーに設定することができます。

**1** 「ショートカットの設定」を選び、【決定】 を押す

- ショートカットの設定画面が表示されます。

**2** 【▲】 【▼】 で以下の項目を選び、入力する

「【青】 ショートカット」(デフォルト:「履歴を見る」) / 「【赤】 ショートカット」(デフォルト:「アドレス帳を開く」) / 「【緑】 ショートカット」(デフォルト:「プロフィールを開く」) / 「【黄】 ショートカット」(デフォルト:「-」): 【決定】 を押し 【▲】 【▼】 で設定する機能を選ぶ

- 「-」: ショートカットキーを設定しません。
- 以下の画面を設定できます。  
履歴を見る / アドレス帳を開く / プロフィールを開く / 機器の設定 / 日時の設定 / ネットワークの設定 / 通信の設定 / MCUの設定 / ワンタッチ設定 / スタンバイの設定 / 音の設定 / マイク位置の設定 / リモコンの設定 / カメラの設定 / 言語の設定 / USB録画の設定 / USBデバイスモード / Webハイブリッド / 配信の設定 / 拡張機能の確認 / ネットワークの確認 / 自己診断 / リモートメンテナンス

**お知らせ**

- 「GUIの設定」で「無効」に設定された項目も表示されます (162 ページ)。
- ソフトウェアバージョン4.50未満の場合、すべてのショートカットキーのデフォルトは「-」です。

**3** 【緑】 を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

**4** 【◀ ▶】 で「はい」を選び、【決定】 を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

## 発信元選択の設定をする

**1** 「発信元選択の設定」を選び、【決定】 を押す

- 発信元選択の設定画面が表示されます。

**2** 【▲】 【▼】 で以下の項目を選び、入力する

「再起動後の選択状態継続」: 再起動前の発信元を再起動後も「有効」にするか「無効」にするかを選ぶ

- 「有効」: 再起動前の発信元が有効になります。
- 「無効」(デフォルト): 再起動前の発信元は保持されません (アドレス帳の転送や設定変更などで自動的に再起動する場合も保持されません)。

「発信元選択の編集」: 発信元選択画面からの編集機能を「有効」にするか「無効」にするかを選ぶ

- 「有効」(デフォルト): 編集機能が有効になります。
- 「無効」: 編集機能が無効になります。

**お知らせ**

- 「無効」を選ぶと、発信元の新規登録、編集、削除はできません。

**3** 【緑】 を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

**4** 【◀ ▶】 で「はい」を選び、【決定】 を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

## 配信木を設定する

片方向配信の設定を行います (184 ページ)。

## アドレス帳を転送する

本機に登録したアドレス帳を、別のHD 映像コミュニケーションユニットに転送してアドレス帳を共有することができます。以降、転送元拠点を「サーバー」、転送先拠点を「クライアント」と記載します。

### サーバーを設定する

#### お知らせ

- 本機をアドレス帳のサーバーとするときは、「リモートアクセス」の設定で「Web ポートの常時オープン」を「する」に設定し、「Web ポート番号」を設定してください（170 ページ）。

#### 1 「アドレス帳転送」を選び、【決定】を押す

- アドレス帳転送の設定画面が表示されます。

#### 2 【▲】【▼】で以下の項目を選び、入力する

「アドレス帳転送（サーバー）」：【◀】【▶】でアドレス帳転送（サーバー）機能を有効にするかどうかを選ぶ

- 「有効」：サーバー機能を有効にします。
- 「無効」（デフォルト）：サーバー機能を無効にします。

「アドレス帳ID」：アドレス帳ID（00000001～99999999）を入力する

#### お知らせ

- サーバーは任意の数字を設定してください。設定したID はアドレス帳転送時にクライアントに転送され、クライアントでも保存されます。
- クライアントから自動または手動でサーバーの「アドレス帳ID」を確認し、クライアントで保存するID と一致しない場合に、サーバーからアドレス帳が転送されます。
- サーバーでアドレス帳を更新したときは「アドレス帳ID」を更新前とは異なる値に変更してください。

- クライアントが保存するアドレス帳ID は、クライアントのアドレス帳画面に表示されます。



#### 3 【緑】を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

#### 4 【◀】【▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

### クライアントを設定する

#### 1 「アドレス帳転送」を選び、【決定】を押す

- アドレス帳転送の設定画面が表示されます。

#### 2 【▲】【▼】で以下の項目を選び、入力する

「アドレス帳転送（クライアント）」：【◀】【▶】でアドレス帳転送（クライアント）機能を有効にするかどうかを選ぶ

- 「有効」：クライアント機能を有効にします。
- 「無効」（デフォルト）：クライアント機能を無効にします。

「起動時のアドレス帳確認」：クライアントが起動時にサーバーの「アドレス帳ID」を確認するかどうかを【◀】【▶】で選ぶ

- 「する」：起動時に「アドレス帳ID」を確認します。
- 「しない」（デフォルト）：起動時に「アドレス帳ID」を確認しません。

### お知らせ

- サーバーのアドレス帳を自動で確認する場合は「**する**」を設定してください。確認時、サーバーの「**アドレス帳ID**」がクライアントで保存するアドレス帳IDと一致しない場合、サーバーからアドレス帳が転送されます。
- サーバーのアドレス帳を手動で確認する場合は「**しない**」を設定してください。手動確認の操作は「手動でサーバーのアドレス帳を確認する（クライアントの操作）」を参照してください（167 ページ）。

「**アドレス帳サーバーアドレス**」：サーバーのIPアドレス（またはホスト名）を入力する

### お知らせ

- IPv4 アドレスで1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。例：「192.168.0.1」の場合：  
（正）192.168.0.1  
（誤）192.168.000.001
- IPv6 アドレスの場合の入力形式は50 ページを参照してください。
- ホスト名を入力するためには、DNS サーバーの設定が必要です（124 ページ）。
- ホスト名で入力可能な文字と文字数は50 ページを参照してください。

「**アドレス帳サーバーポート**」：サーバーのWebポート番号（80、8000～8999）を設定する（デフォルト：80）。

### 3 **【緑】** を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 **【◀ ▶】** で「はい」を選び、**【決定】** を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

### 手動でサーバーのアドレス帳を確認する（クライアントの操作）

#### 1 「**アドレス帳転送**」を選び、**【決定】** を押す

- アドレス帳転送の設定画面が表示されます。

#### 2 **【▲ ▼】** で「**アドレス帳確認**」を選び、**【決定】** を押す

- サーバーの「**アドレス帳ID**」がクライアントで保存するアドレス帳IDと一致しない場合、最新のアドレス帳に更新するか確認するダイアログボックスが表示されます。

#### 3 **【◀ ▶】** で「はい」「いいえ」を選び、**【決定】** を押す

- 「はい」を選ぶと、クライアントのアドレス帳を更新して再起動します。

## 拡張機能を有効にする

ソフトウェアの拡張により、機能を有効にすることができます。機能を有効にするためには、Registration Key（レジストレーションキー）を販売店より入手し登録する必要があります。MPR ID、アクティベーションキーに記載されているActivation Key No.（アクティベーションキーナンバー）およびRegistration ID（レジストレーションID）を販売店に伝えてください。それらの情報を元に販売店がキー管理システムへ登録を行い、発行されたRegistration Key（レジストレーションキー）をお知らせします。

### MPR IDを確認する

#### 1 「**ソフトウェアの拡張**」を選び、**【決定】** を押す

- ソフトウェア拡張画面が表示されます。「**MPR ID**」の表示を確認してください。

### Registration Key（レジストレーションキー）を登録する

入手したRegistration Key（レジストレーションキー）を本体に登録することにより、拡張機能を有効にします。

#### 1 「**ソフトウェアの拡張**」を選び、**【決定】** を押す

- ソフトウェア拡張画面が表示されます。

### お知らせ

- 「**つながるねっとサービス**」には、つながるねっとサービスの登録状況が表示されます。
  - 「**登録されていません**」：サービス未登録または有効期限切れから6か月を超えています

- 「有効期限が切れています」：有効期限切れから6か月以内です。有効期限の延長を行うことができます
- 「<年月日> (GMT) が有効期限です」：サービスが登録されています
- 「つながるねっとのサーバーへ接続していません」：ネットワーク未接続やネットワーク異常などの理由で、つながるねっとサーバーに接続していません。サーバーとの通信が確立すると、自動的にサービス登録状態になります。
- 「ソフトウェア機能」には有効にした機能の情報が表示されます。詳細は次のとおりです。
  - 「4地点接続拡張」：内蔵MCU機能を拡張する機能が有効になっています (KX-VC1600Jの場合、6地点 (デフォルト) から10地点へ拡張。KX-VC2000Jの場合、16地点 (デフォルト) から20地点または24地点へ拡張)。KX-VC2000Jを24地点に拡張した場合、「4地点接続拡張」を2行表示します
  - 「片方向配信拡張」：片方向配信拡張が有効になっています
  - 「モバイル接続拡張」：モバイル接続拡張が有効になっています
  - 「USBデバイスモード拡張」：USBデバイスモード拡張が有効になっています。
  - 「Webハイブリッドモード拡張」：Webハイブリッドモード拡張が有効になっています。
  - 「登録されている機能はありません」：有効になっている機能がありません

## 2 【緑】 を押す

- Registration Key (レジストレーションキー) 登録画面が表示されます。

## 3 Registration Key (レジストレーションキー) (16桁) を入力する

## 4 【緑】 を押す

- 設定の保存と保存後の再起動を確認するダイアログボックスが表示されます。

## 5 【◀ ▶】 で「はい」を選び、【決定】 を押す

- 設定内容を反映させるため、本機は自動的に再起動されます。

### お知らせ

- 入力したRegistration Key (レジストレーションキー) が無効の場合、「Registration Keyの認証に失敗しました」と表示されます。手順3からやり直してください。発行されたRegistration Key (レジストレーションキー) を正しく入力しても、上記のメッセージが表示される場合は、販売店にお問い合わせください。
- Registration Key (レジストレーションキー) の登録は、一度につきひとつのみ可能です。複数の機能を有効にするため複数のRegistration Key (レジストレーションキー) を登録するには、登録毎に再起動が必要になります。
- 有効になっている機能を拡張機能の確認画面でも確認することができます (143 ページ)。

## ソフトウェアを更新する

### お知らせ

- USBからソフトウェア更新を行う場合は、販売店にご相談のうえ、更新を行ってください。
- USBからソフトウェア更新を行う場合は、次の点にご注意ください。
  - 新しいソフトウェアは、USBメモリーのルートディレクトリに保存してください。
  - ソフトウェアのファイル名は変更しないでください。
  - あらかじめUSBメモリーを本体背面のUSB端子に接続しておいてください。

## 1 「ソフトウェアの更新」を選び、【決定】 を押す

- バージョンアップ画面が表示されます。



2 ▲▼ で「ソフトウェアの転送元」を選び、【決定】を押す

3 ▲▼ で「ネットワーク」、「USB」を選び、【決定】を押す

- 「ネットワーク」：ネットワークからソフトウェアを更新します。
- 「USB」：USBからソフトウェアを更新します。

#### お知らせ

- 「USB」を選ぶ場合、詳細については販売店にお問い合わせください。

4 「起動時のバージョン確認」を「する」に設定している場合（152 ページ）：

最新のソフトウェアバージョンが「最新のバージョン」に表示されます。バージョンアップがある場合は、手順5にすすんでください。

「起動時のバージョン確認」を「しない」に設定している場合（152 ページ）または手順3で「ソフトウェアの転送元」を「USB」に設定している場合：

▲▼ で「バージョン確認」を選び、【決定】を押す

- バージョンアップの確認を開始します。最新のソフトウェアバージョンが「最新のバージョン」に表示されます。バージョンアップがある場合は、手順5にすすんでください。

5 ▲▼ で「ソフトウェア更新」を選び、【決定】を押す

- ソフトウェアの更新を確認するダイアログボックスが表示されます。

#### お知らせ

- ダイアログボックス内の注意事項をよく確認してから、次の手順にすすんでください。

6 ◀▶ で「はい」を選び、【決定】を押す

- 自動的に最新バージョンのダウンロードが開始されます。
- ダウンロードが完了すると、設定内容を反映させるため、本機は自動的に再起動されます。再起動が始まる前には、次の画面が表示されます。

#### 再起動前の画面



再起動後、本機は最新バージョンのソフトウェアで起動します。

#### お知らせ

- 最新のファームウェアおよび取扱説明書の入手方法については、販売店にお問い合わせください。
- バージョンアップの確認や、最新バージョンのダウンロードに失敗すると、エラーメッセージが表示されます。【決定】を押して本機を再起動してください。

次の点を実行してみてください。

- ネットワーク設定（124 ページ）で、「DNSの設定」または「優先DNSサーバー」の設定を確認してください。その後、再度ソフトウェアの更新を行ってください。

「DNSの設定」が「自動」に設定されている場合は、DHCPサーバーに問題がある可能性がありますのでネットワーク管理者にご相談ください。

- 上記の方法でもうまくいかない場合は、回線が混み合っている可能性があります。しばらく時間を置いてから、再度ソフトウェアの更新を行ってください。

何度実行してもうまくいかない場合は、ご利用の回線に問題が発生している可能性があります。販売店にご相談ください。

- IPv6アドレスではソフトウェアの更新はできません。

## ビデオカメラを初期化する

### お知らせ

- 非通信中、自分側に接続されたビデオカメラのみ初期化が可能です。
- 対応しているビデオカメラの機種については、販売店にお問い合わせください。

- 1 「カメラの初期化」を選び、**【決定】**を押す
  - ビデオカメラの初期化画面が表示されます。
- 2 **【◀▶】**で初期化するビデオカメラ（「メイン」（デフォルト）、「サブ」）を選ぶ
- 3 **【赤】**を押す
  - ビデオカメラ初期化の開始を確認するダイアログボックスが表示されます。
- 4 **【◀▶】**で「はい」を選び、**【決定】**を押す
  - 初期化完了後、管理者メニュー画面が表示されます。

## システムの初期化を行う

- 1 「システムの初期化」を選び、**【決定】**を押す
  - システム初期化の開始を確認するダイアログボックスが表示されます。
- 2 **【◀▶】**で「はい」を選び、**【決定】**を押す
  - システムの初期化を完了するために、本機は自動的に再起動されます。

### お知らせ

- 初期化後、すべての設定とアドレス帳、プロフィール、発信元、通信履歴に保存されている情報は破棄されます。
- データのインポート（172 ページ）により更新された起動画面データは破棄されません。
- ソフトウェアの拡張（167 ページ）により有効にした機能は破棄されません。

## リモートアクセスの設定をする

本機をリモート操作するための設定をします。

- 1 「リモートアクセス」を選び、**【決定】**を押す
  - リモートアクセスの設定画面が表示されます。
- 2 **【▲▼】**で以下の項目を選び、入力する  
 「パスワードの変更」：**【◀▶】**でパスワードをデフォルトから変更するかを選ぶ
  - 「する」：変更する
  - 「しない」（デフォルト）：変更しない

### お知らせ

- 本機を外部から制御する場合に使用するパスワードで、管理者ログインのパスワード（150 ページ）とは異なります。

**【現在のパスワード入力】**：現在のパスワードを入力する（デフォルト：HDVC\_admin）

**【新しいパスワードの入力】**：新しいパスワードを入力する

**【新しいパスワードの再入力】**：新しいパスワードを再入力する

### お知らせ

- パスワードは半角8～32文字で入力し、アルファベット、数字、記号から2種類以上を混在させる必要があります。
- 「新しいパスワードの入力」にデフォルトのパスワード（HDVC\_admin）を入力することはできません。
- パスワードは大切に保管してください。
- 「パスワードの変更」を「しない」に設定している場合は、パスワードの入力はできません。

**【Webポートの常時オープン】**：**【◀▶】**でWebポートを常時オープンするかを選ぶ

- 「する」：Webポートは常時オープンです。
- 「しない」（デフォルト）：Webポートは常時オープンしません。

### お知らせ

- 「する」を設定した場合、パスワードをデフォルトから変更する必要があります。
- 「する」を設定した場合、Webポートを経由して常時リモートアクセス可能な状態になります。パスワードを定期的に変更する

などして、意図しないアクセスに注意してください。

【Webポート番号】：Webポートを常時オープンにする場合のポート番号（80、8000～8999）を設定します（デフォルト：80）

【telnetポートの常時オープン】：【◀▶】でtelnetポートを常時オープンするかを選ぶ

- 「する」：telnetポートは常時オープンです。
- 「しない」（デフォルト）：telnetポートは常時オープンしません。

#### お知らせ

- 「する」を設定した場合、パスワードをデフォルトから変更する必要があります。
- 「する」を設定した場合、telnetポートを経由して常時リモートアクセス可能な状態になります。パスワードを定期的に変更するなどして、意図しないアクセスに注意してください。

【telnetポート番号】：telnetポートを常時オープンにする場合のポート番号（23、20000～29999）を設定します（デフォルト：23）

### 3 【緑】を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 4 【◀▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- 設定内容を反映させるため、本機は自動的に再起動されます。

## データをエクスポートする

履歴、動作ログ、アドレス帳などをUSBメモリーに保存します。保存された動作ログは、トラブルが発生した場合の原因を特定するのに使用されます。詳細については、販売店にお問い合わせください。

#### お知らせ

- 本機では、マスタレージクラス（FAT16、またはFAT32フォーマット）対応のUSBメモリーを使用できます。
- 次のUSBメモリーは使用できません。
  - U3スマートドライブ（U3プラットフォームに対応したUSBメモリー）
  - セキュリティー機能を持つUSBメモリー

- NTFSフォーマットのUSBメモリー
- 複数LUN（Logical Unit Number）を持つUSBメモリー
- 複数パーティションのUSBメモリー
- 全てのUSBメモリーの動作を保証するものではありません。詳しくは、販売店にお問い合わせください。
- USBメモリーを再度接続する場合は、一度USBメモリーを完全に取り外してから、再度接続してください。
- USBメモリーに十分な空き容量（50 MB以上）があることを確認してから操作を行ってください。

### 1 USBメモリーを、本体背面のUSB端子に接続する（25 ページ）

#### お知らせ

- USBメモリーが正しく接続されていることを確認してください。

### 2 管理者メニュー一覧から「データのエクスポート」を選び、【決定】を押す

- データのエクスポート画面が表示されます。



### 3 【決定】を押す

- データのエクスポートが開始されます。

#### お知らせ

- データのエクスポート中は、USBメモリーを取り外さないでください。故障や障害が発生する原因になります。
- USBメモリーに保存されるデータのファイル名は「hdcvlogall\_XXXX.tar」です。

「XXXX」は使用しているソフトウェアのバージョンや保存した日時によって表示が異なります。

- hdvcllogall\_XXXX.tarに含まれるアドレス帳 (address.xml)、プロファイル (profile.xml)、構成データ (config.xml)、暗号データ (sec\_config.xml)、配信木リスト (alm\_config\_list.xml) は本機にインポートすることができます。
- 本機からエクスポートしたアドレス帳 (address.xml)、プロファイル (profile.xml) の編集については、販売店にご相談ください。

#### 4 保存の結果 (成功/失敗) を確認し、**【決定】** を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

#### 5 USBメモリーを取り外す

##### お知らせ

- USBメモリー内のデータ流出などを回避するために、USBメモリーを廃棄 (または譲渡、返却) される際には、USBメモリー内に保存されたデータを必ず消去してください。

## データをインポートする

本機からエクスポートしたアドレス帳などのデータを、USBメモリーから本機にインポートします。

##### お知らせ

- 本機からエクスポートした暗号データには、ログインID、パスワードが含まれています。暗号データをインポートするとログインID、パスワードが変わってログインできなくなる可能性があるのでご注意ください。
- プロファイル待受けを「**常時設定**」で設定中の本機からエクスポートしたデータをインポートする場合、プロファイルと構成データをあわせてインポートしてください。
- 発信元情報 (117 ページ) を登録した本機からエクスポートしたデータをインポートする場合、暗号データと構成データをあわせてインポートしてください。

- 本機では、マスタレージクラス (FAT16、またはFAT32フォーマット) 対応のUSBメモリーを使用できます。
- 次のUSBメモリーは使用できません。
  - U3スマートドライブ (U3プラットフォームに対応したUSBメモリー)
  - セキュリティー機能を持つUSBメモリー
  - NTFSフォーマットのUSBメモリー
  - 複数LUN (Logical Unit Number) を持つUSBメモリー
  - 複数パーティションのUSBメモリー
- 全てのUSBメモリーの動作を保証するものではありません。詳しくは、販売店にお問い合わせください。
- USBメモリーを再度接続する場合は、一度USBメモリーを完全に取り外してから、再度接続してください。
- 起動画面をインポートすることにより、デフォルトの起動画面を変更することができます。

#### 1 インポートするデータを格納したUSBメモリーを準備する

- インポートするファイル名は固定です。
  - アドレス帳：address.xml
  - プロファイル：profile.xml
  - 構成データ：config.xml
  - 暗号データ：sec\_config.xml
  - 起動画面：startup.png
  - 配信木リスト：alm\_config\_list.xml
- データはUSBメモリーのルートディレクトリ、またはルートディレクトリ直下のフォルダ (フォルダ名「01」～「16」) に格納してください。
- 起動画面は、(960 × 540 pixel) 以下の (PNG) ファイルフォーマットをご使用ください。

#### 2 USBメモリーを、本体背面のUSB端子に接続する (25 ページ)

##### お知らせ

- USBメモリーが正しく接続されていることを確認してください。

- 3 管理者メニュー一覧から「データのインポート」を選び、**【決定】** を押す
  - データのインポート画面が表示されます。
  
- 4 **【▲】** **【▼】** で以下の項目を選び、入力する  
「USBディレクトリ名」：**【決定】** を押し、**【▲】** **【▼】** でインポートするデータが格納されたディレクトリを「ルート」（デフォルト）、「／01」～「／16」から選びます。  
「データ」：**【決定】** を押し、**【▲】** **【▼】** でインポートするデータを「全て」、「アドレス帳」、「プロフィール」、「構成データ」、「暗号データ」、「起動画面」、「配信木リスト」から選びます。
  
- 5 **【緑】** を押す
  - データのインポートとインポート後の再起動を確認するダイアログボックスが表示されます。
  
- 6 **【◀】** **【▶】** で「はい」を選び、**【決定】** を押す
  - インポート内容を反映させるため、本機は自動的に再起動されます。

#### お知らせ

- (960 × 540 pixel) より大きいデータを入力した場合、デフォルトの起動画面が表示されます。
- (960 × 540 pixel) より小さいデータを入力した場合、センタリングされて表示されます。

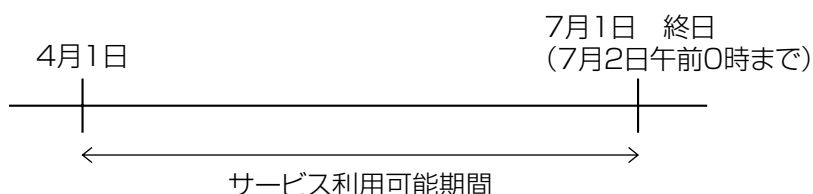
# つながるねっとサービスを利用する

## 接続にあたっての準備

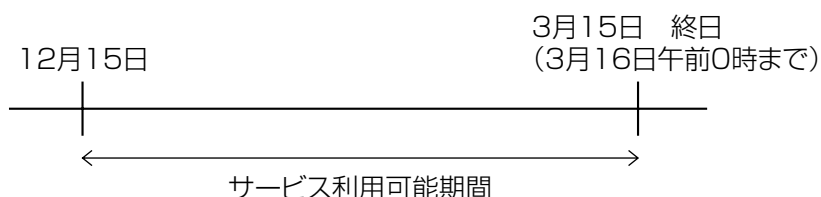
### サービスの有効期限について

本サービスをご利用になるには、サービスの利用登録が必要です。添付のアクティベーションキーで利用登録を行うことで、本サービスを3か月間無料でご利用いただけます。サービスの利用可能期間は、利用登録が完了した時点（「拡張機能を有効にする（167 ページ）」の手順が完了した時点）から開始されます。有効期限は開始から3か月後にあたる日の終日（日付が変わる翌日午前0時まで）となります。

例1：4月1日に利用登録を完了した場合



例2：12月15日に利用登録を完了した場合



### お知らせ

- サービスの有効期限は、本機を使って確認することができます。確認方法については、「拡張機能の確認を行う（143 ページ）」を参照してください。

お試し用の利用可能期間終了後も継続して本サービスをご利用になるには、有償のアクティベーションキーを購入し有効期限を延長する必要があります。延長できる期間はアクティベーションキーによって異なります。アクティベーションキーの詳細については、販売店にお問い合わせください。延長についての手順や詳しい内容については、「有効期限の延長を行う（180 ページ）」を参照してください。

## セキュリティについて

本サービスはインターネット回線を利用して通信を行うため、暗号通信を無効にしていると盗聴される恐れがあります。本サービスを使って通信をする際は、暗号通信を有効にしてください。設定方法については「暗号通信の設定をする（150 ページ）」を参照してください。

## つながるねっとサービスの導入手順

「つながるねっとサービス」を導入し、運用を開始していただくために必要な手順です。詳細は各設定項目を参照してください。

- 1 必要な環境を準備する（176 ページ）。



- 2 Registration Key (レジストレーションキー) を取得する (176 ページ)。  
(パソコンでの操作)



- 3 本体につながるねっとサービスを使用するための設定を行う (152 ページ)。  
(本体での操作)



- 4 Registration Key (レジストレーションキー) を本体に登録する (167 ページ)。  
(本体での操作)



- 5 つながるねっとサービスを使用する。



- 6 つながるねっとサービスの有効期間を延長する (180 ページ)。  
(パソコンでの操作)

#### お知らせ

- 「Registration Key (レジストレーションキー) を取得する (176 ページ)」と「有効期限の延長を行う (180 ページ)」操作は、販売店が行う必要があります。詳細は販売店にお問い合わせください。

## インターネットに接続する

つながるねっとサービスを利用するためには、以下の条件を満たしている機器および環境が必要です。

### ネットワーク環境

つながるねっとサービスを利用して通信をする場合は、ブロードバンド回線による接続が必要です。推奨環境は光回線です。

### ルーター

当社にて動作検証済みのルーターを使用して、プロバイダーからの設定情報をもとにインターネット接続の設定を行ってください。検証済みルーターの詳細については、以下のホームページを参照してください。

<https://sol.panasonic.biz/visual/products/connection.html>

ルーターの設定方法については、お使いのルーターの取扱説明書を参照してください。

#### ルーターと本体を接続する

- 1 ルーターと本体背面のLAN1ジャックを接続する
  - カテゴリ5以上のLANケーブルでルーターと本体背面のLAN1ジャックをつないでください。(LAN1ジャックの位置は「各部のなまえとはたらき」の「本体（背面）(25 ページ)」を参照してください。)

#### お知らせ

- 次の場合、通信は保証されません。
  - 検証済みルーター以外のルーターを使用した場合
  - 1台のルーターに複数台のHD映像コミュニケーションユニットを接続した場合
  - ルーターを使用せずに、HD映像コミュニケーションユニットを直接インターネットに接続した場合

## Registration Key (レジストレーションキー) を取得する

パソコンから、つながるねっとサービス登録ページにアクセスし、Registration Key (レジストレーションキー) を取得します。取得するには次の情報が必要です。

- **MPR ID**
  - 本体底面のラベル、または本機を操作して確認することができます。確認方法については「MPR IDを確認する（本機での操作）(176 ページ)」を参照してください。
- **Activation Key No. (アクティベーションキーナンバー)**
  - アクティベーションキーに記載されています。
- **Registration ID (レジストレーションID)**
  - アクティベーションキーに記載されています。

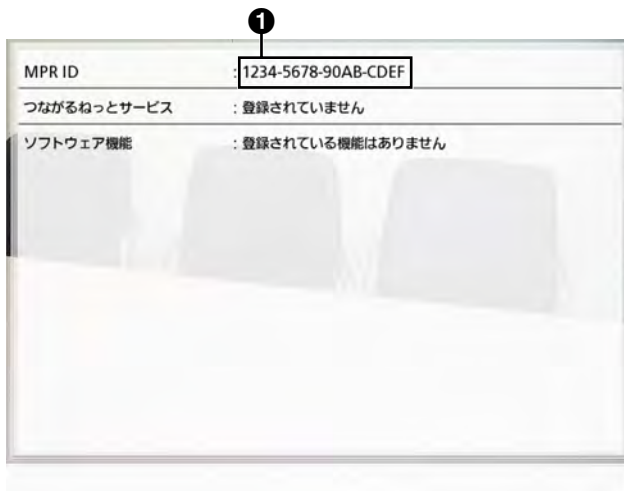
## MPR IDを確認する（本機での操作）

- 1 **【メニュー】** を押す
  - メニュー画面が表示されます。
- 2 **【▲】【▼】** で「**設定／保守をする**」を選び、**【決定】** を押す
  - システム設定画面が表示されます。
- 3 **【◀】【▶】** を押して、4ページ目を表示する



#### 4 【▲】【▼】で「拡張機能の確認」を選び、【決定】を押す

- 拡張機能の確認画面が表示されます。「MPR ID」(①)の表示を確認してください。



#### 5 【ホーム】を押す

- ホーム画面が表示されます。

## Registration Key (レジストレーションキー) を取得する (パソコンでの操作)

### お知らせ

- 対応ブラウザは次のとおりです。
  - Internet Explorer 11 web browser
  - Microsoft Edge web browser

#### 1 パソコンからつながるねっとサービス登録ページ (<https://www2.tsunagarunet.com/hdcom/main/pre/jpn>) にアクセスする

- ログイン画面が表示されます。

#### 2 登録ID、パスワード、および画像に表示されている文字を入力し、「ログイン」をクリックする



- 機能選択画面が表示されます。

### お知らせ

- 入力時にはアルファベットの大文字、小文字の違いも認識されます。
- 登録ID、パスワードをお持ちでない方は、「初めて使用する方へユーザー登録はこちら」からユーザー登録を行ってください。

#### 3 HDコム of 「新規申請」をクリックする



- 新規申請画面が表示されます。

#### 4 以下の項目を入力する



「MPR ID」  
「Activation Key No.」  
「Registration ID」

#### 5 「次へ」をクリックする

- 約款画面が表示されます。

#### 6 約款をよく読み、内容に同意したうえで「同意する」をクリックする

- 接続番号選択画面が表示されます。

#### 7 利用したい接続番号のラジオボタンをクリックし、「次へ」をクリックする



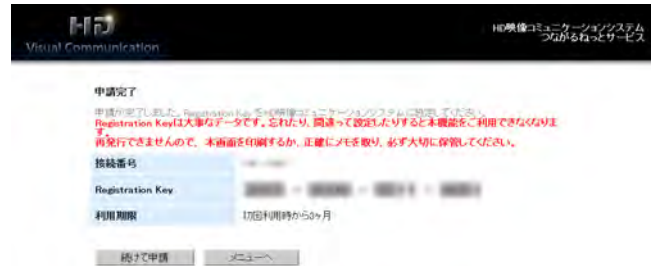
- 入力内容確認画面が表示されます。

#### お知らせ

- 「別候補表示」をクリックすると、別の利用可能な接続番号の候補が表示されます。この操作は5回まで行うことができます。一度「別候補表示」をクリックすると、それまで表示されていた接続番号の候補に戻ることはできません。

#### 8 「登録」をクリックする

- 申請完了画面が表示されます。画面に表示されている「Registration Key」(16桁)は、本体に登録する際に必要です。この画面を印刷するか、アクティベーションキーまたはメモに控えるなどして大切に保管してください。



#### 重要

- Registration Key (レジストレーションキー)の内容を紛失した場合は、「Registration Key (レジストレーションキー)を再表示させる(パソコンでの操作)(179 ページ)」を参照してください。

#### 9 「メニューへ」をクリックする

- 機能選択画面が表示されます。

## Registration Key（レジストレーションキー）を再表示させる（パソコンでの操作）

Registration Key（レジストレーションキー）の内容を紛失した場合は、次の手順で再表示させることができます。

- 1 パソコンからつながるねっとサービス登録ページ（<https://www2.tsunagarunet.com/hdcom/main/pre/jpn>）にアクセスする
  - ログイン画面が表示されます。
- 2 登録ID、パスワード、および画像に表示されている文字を入力し、画面下の「ログイン」をクリックする

- 機能選択画面が表示されます。

### お知らせ

- 入力時にはアルファベットの太文字、小文字の違いも認識されます。

## 3 「キー検索」をクリックする

- 機器参照入力画面が表示されます。

## 4 以下の項目を入力する

「種別」：HDコムを選択  
 「MPR ID」  
 「Activation Key No.」  
 「Registration ID」

## 5 「次へ」をクリックする

- 機器参照画面が表示されます。画面に表示されている「Registration Key」の内容を確認し

てください。確認が完了したら、ブラウザを閉じてください。

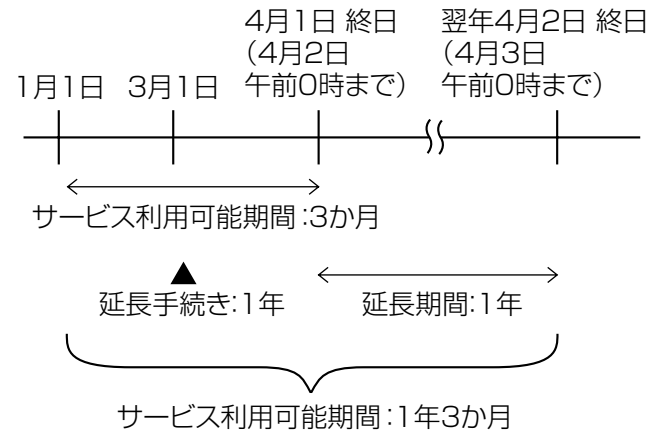


## 有効期限の延長を行う

サービスの有効期限を延長するには、有償のアクティベーションキーを購入する必要があります。延長できる期間はアクティベーションキーによって異なります。アクティベーションキーの詳細については、販売店にお問い合わせください。

### お知らせ

- サービス利用可能期間中に有効期限の延長を行った場合は、延長した分の期間が現在のサービス利用可能期間に加算されます。  
例：3か月のサービス利用可能期間中に、1年の有効期限の延長を行った場合



- 有効期限切れから6か月以内に有効期限の延長を行った場合は、延長を行った時点からサービス利用可能期間が開始されます。

**1** パソコンからつながるねっとサービス登録ページ (<https://www2.tsunagarunet.com/hdcom/main/pre/jpn>) にアクセスする

- ログイン画面が表示されます。

## 2 登録ID、パスワード、および画像に表示されている文字を入力し、「ログイン」をクリックする

- 機能選択画面が表示されます

### お知らせ

- 入力時にはアルファベットの大小文字、小文字の違いも認識されます。

## 3 HDコム の「期間の延長」をクリックする

- 期間の延長画面が表示されます。

## 4 以下の項目を入力する

「MPR ID」：有効期限を延長したい本体のMPR IDを入力する

「Activation Key No.」：有効期限を延長するために購入したアクティベーションキーに記載されているActivation Key No. (アクティベーションキーナンバー)を入力する

「Registration ID」：有効期限を延長するために購入したアクティベーションキーに記載されているRegistration ID (レジストレーションID)を入力する

## 5 「次へ」をクリックする

- 約款画面が表示されます。

## 6 約款をよく読み、内容に同意したうえで「同意する」をクリックする

- 延長確認画面が表示されます。

## 7 「登録」をクリックする

期間の延長	
以下の機器に対し	
MPR ID	0000 - 0000 - 0000 - 1111
有効期間	1年のカードを登録します。
接続番号	1111 - 1111
現在の利用期限	初回利用時から3ヶ月
申請後の利用期限	初回利用時から1年3ヶ月

- 延長完了画面が表示されます。

### お知らせ

- 連続して複数のアクティベーションキーを登録したい場合は、「**続けて申請**」ボタンをクリックして、手順4～7をくり返してください。
- 同時に登録できるアクティベーションキーの有効期間の合計は、現在利用中の有効期間の残りも含めて最長で6年です。有効期間の合計が6年を超えるアクティベーションキーの登録はできません。
- 添付のアクティベーションキーによる3か月の試用期間の残りも、有効期間の合計に含まれます。試用期間中に「アクティベーションキー（つながるねっと3年）」を2回追加登録することはできません。

### 8 「メニューへ」をクリックする

- 機能選択画面が表示されます。

### 9 本体の電源ボタンをオフ／オンして再起動する

- 延長した有効期限が本機に反映されます。

### 10【メニュー】を押す

- メニュー画面が表示されます。

### 11【▲】【▼】で「設定／保守をする」を選び、【決定】を押す

- システム設定画面が表示されます。

### 12【▶】を3回押す

- 4ページ目が表示されます。

### 13【▲】【▼】で「拡張機能の確認」を選び、【決定】を押す

- 拡張機能の確認画面が表示されます。「**つながるねっとサービス**」の表示を確認し、有効期限が延長されていることを確認してください。

### 14【ホーム】を押す

- ホーム画面が表示されます。

## モバイル接続拡張を利用する

アクティベーションキーでHD映像コミュニケーションユニットのモバイル接続拡張を有効にすると、HDコムモバイル端末を機能拡張せずにユニットと接続できます（167 ページ）。

### HD映像コミュニケーションユニットとHDコムモバイル端末の接続条件

	モバイル接続拡張を使用する場合	モバイル接続拡張を使用しない場合	
必要な機能拡張	HD映像コミュニケーションユニット：モバイル接続拡張 HDコムモバイル端末：なし	HD映像コミュニケーションユニット：つながるねっと HDコムモバイル端末：つながるねっと	HD映像コミュニケーションユニット：なし HDコムモバイル端末：つながるねっと
通信可能な接続モード	標準モード 標準・つながるねっとサービスモード（標準モードを使用）	標準モード つながるねっとサービスモード 標準・つながるねっとサービスモード	標準モード 標準・つながるねっとサービスモード（標準モードを使用）

モバイル接続拡張で接続できる最大モバイル端末数

- KX-VC1300J：3台
- KX-VC1600J：5台
- KX-VC1600J（4地点接続拡張時）：9台
- KX-VC2000J：15台
- KX-VC2000J（4地点接続拡張時）：19台
- KX-VC2000J（4地点接続拡張を2回適用時）：23台

### お知らせ

- モバイル接続拡張を使用して接続できるHDコムモバイル端末のソフトウェアバージョンは3.10以上です。

# 片方向配信を利用する

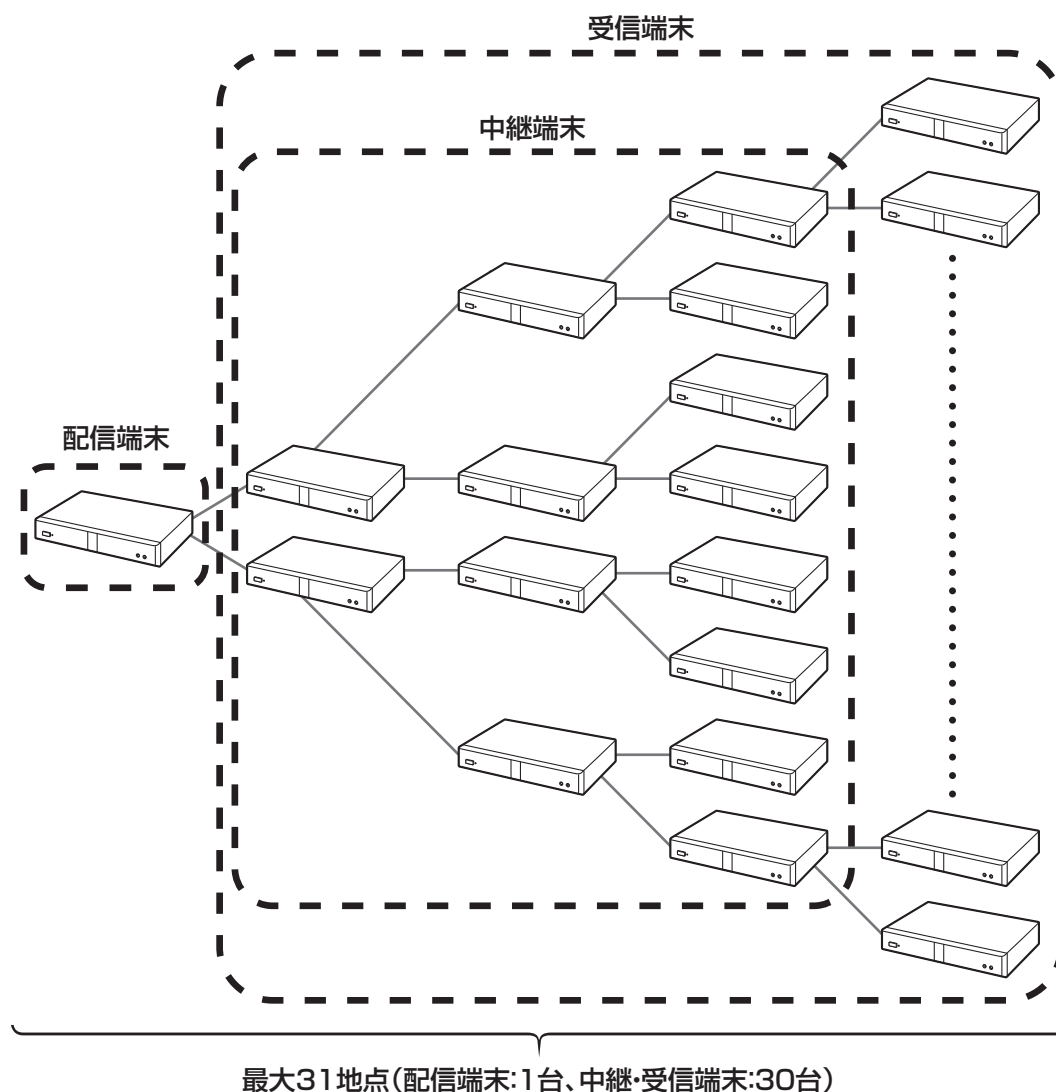
## 片方向配信とは

片方向配信（以降、配信）は、一台のHD映像コミュニケーションユニットが配信する映像・音声を、他の複数のユニットが受信し視聴する一方向の通信サービスです。

データを受信したユニットは映像・音声を視聴する一方、中継端末としてデータを他のユニットへ転送します。1台のユニットから2台のユニットにデータを転送可能で、最大で5段構成、31地点のシステムを構成できます。

配信システムは次の端末で構成されます。

- 配信端末：最上位で映像、音声を配信する
- 中継端末：上位端末から受信した映像、音声を下位端末へ中継する  
(受信した内容を視聴する受信端末を兼ねる)
- 受信端末：音声、映像を受信する





片方向配信はMCUを使用した配信と比較して、配信端末拠点のネットワーク回線帯域を低く抑えることができます。配信中に障害が発生した場合、自動的に端末の構成を組み替えるため、全端末がネットワーク上で相互に接続し通信できることが必要です。

### お知らせ

- 配信機能を使用するには、配信システムを構成するすべてのHD映像コミュニケーションユニットで、片方向配信拡張のアクティベーションキー（KX-VCS302W）で配信機能を有効にしてください。
- IPv6アドレスでは配信機能は動作しません。
- 「ソフトウェアの拡張」で「片方向配信拡張」を有効にした場合、「ネットワークの設定」で必ず本機にIPv4アドレスを付与してください。「IPアドレスの設定（LAN1）」で「自動」を設定して「アドレス未取得」の状態になるなど、IPv4アドレスが付与されていない状態では、IPv4アドレスによる通信ができません。
- 標準モード（H.323）では配信機能は動作しません。
- つながるねっとサービスモードでは配信機能は動作しません。
- 配信データは暗号化できません。
- SIPサーバーを利用した接続はできません。
- 32台以上のシステムを構成する場合は、配信サーバーが必要になります。詳細については、販売店にお問い合わせください。

## 配信の動作について

### 配信開始

配信を行うにはあらかじめ配信木を設定する必要があります（186 ページ、187 ページ）。配信木の設定画面から配信の開始操作を行うと、下位端末に接続確認を行い配信を開始します（191 ページ）。

下位端末の電源が入っていない、またはネットワーク障害などで、接続確認に応答がない場合、自動的に配信木の構成を組み替えて配信を開始します。配信開始時に配信木から除外された端末が配信中に接続確認に応答すると、自動的に配信木に再編入されてデータが配信されます。

### 配信終了

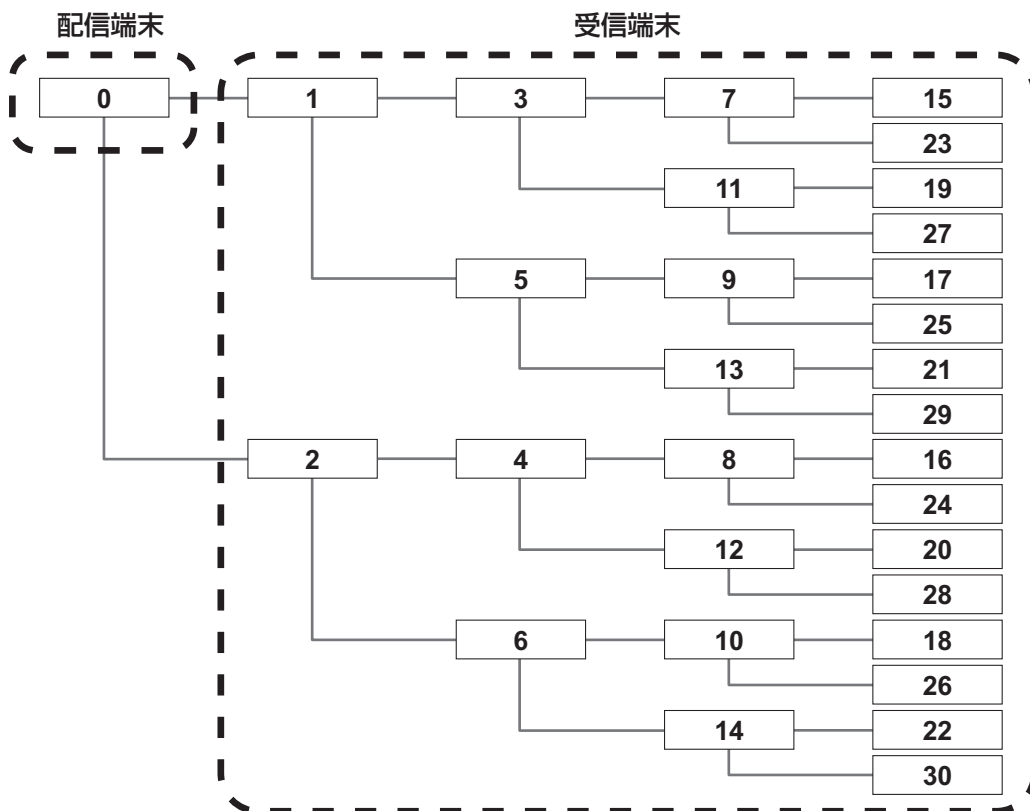
配信端末で【終了】を押すと配信が終了します。

### 配信中の障害への対応

配信中にネットワーク障害などで中継端末が接続不可になった場合、自動的に配信木を組み替えて配信を継続します。

## 配信木について

配信を行うためには配信木を設定します。配信木とは配信システム内の端末の配置を定義したものです。配信木内の端末の位置はノードIDで表され、位置関係は次のようになります。



## ネットワークについて

配信端末、中継端末は最大で2端末に対してデータを配信するため、配信システム内のすべての端末は、配信の最大帯域（1、1.2、2、3、4、5 Mbps）の2倍の回線帯域が必要です。配信の最大帯域に対する推奨解像度は次のとおりです。

最大帯域	最大解像度	
	フルHD (1080/30p)	HD (720/60p)
5 Mbps	推奨	
4 Mbps	推奨	
3 Mbps	推奨	
2 Mbps	推奨	推奨
1.2 Mbps		推奨
1 Mbps		推奨

### お知らせ

- 配信中に回線帯域が低下すると送信帯域も低下するため、解像度、フレームレートが低下します。
- 配信される映像・音声の品質は、パケットの往復時間であるラウンドトリップタイム（RTT）、パケットロス率、再送回数に影響されます。端末はデータ再送用に約1秒分のデータを保持しますが、これを超えてデータ送受信が遅延すると映像の乱れが発生します。ラウンドトリップタイム、パケットロス率などを含むネットワーク設計の詳細に関しては、販売店にご相談ください。

## システムの設定をする

### 配信の設定をする

- 1 「システムの設定／保守をする (120 ページ)」の手順3で「**配信の設定**」を選び、**【決定】**を押す
  - 配信の設定画面が表示されます。
- 2 **【▲】****【▼】**で以下の項目を選び入力する
 

「音声入力」：**【決定】**を押し、**【▲】****【▼】**で片方向配信時に配信端末が使用するマイクを選ぶ

  - 「専用マイク・外部音声入力」（デフォルト）：専用マイクとRCA入力の両方から音声が入力されます。
  - 「外部音声入力」：RCA入力から音声が入力されます。

「映像送信最小帯域」：送信帯域制御による配信中の最小帯域（0 kbps、64 kbps ～ 1500 kbps）を入力する（デフォルト：0 kbps）

### お知らせ

- 最小帯域を無効にするときは0を入力します。

- 3 **【緑】**を押す
  - 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。
- 4 **【◀】****【▶】**で「はい」を選び、**【決定】**を押す
  - システム設定画面が表示されます。

### お知らせ

- 「配信の設定」は「ソフトウェアの拡張」で「片方向配信拡張」を有効にした場合に設定可能です。

## 管理者メニューの設定をする

### 配信木を登録する

配信木に登録する端末や配信条件を設定します。配信木は最大10件まで登録できます。

### 新規に登録する

- 1 「管理者メニューの一覧 (146 ページ)」の手順1から手順6を行い、管理者メニュー一覧から「**配信木の設定**」を選び、**【決定】**を押す
  - 配信木一覧画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】** で「#未使用#」を選ぶ

3 **【青】** を押す

- 配信木の設定画面が表示されます。



4 **【▲】【▼】** で以下の項目を選び入力する

「**配信名**」：配信木名（最大で全角10文字、半角 [英数字、半角スペース、記号] 31文字）を入力する（205 ページ）

「**最大帯域**」：**【決定】** を押し、**【▲】【▼】** で配信に使用する最大帯域（1.0、1.2、2.0、3.0、4.0、5.0 Mbps）を選ぶ（デフォルト：5.0 Mbps）

#### お知らせ

- 配信木に登録されたすべての端末は、「**最大帯域**」に設定した値の2倍の回線帯域が必要です。
- 通信の設定の「**最大帯域**」、「**1拠点毎の最大帯域**」、「**1拠点毎の最大帯域 (LAN1)**」、「**1拠点毎の最大帯域 (LAN2)**」の値は、配信で使用する最大帯域には影響しません。

「**最大解像度**」：**【決定】** を押し、**【▲】【▼】** で「**フルHD**」（デフォルト）または「**HD**」を選ぶ

#### お知らせ

- 配信中に接続している回線帯域が低下した場合、配信データの解像度、フレームレートが低下する場合があります。

「**配信開始時の映像**」：**【決定】** を押し、**【▲】【▼】** で配信開始時の映像を選ぶ

- 「**メインカメラ**」（デフォルト）：メインカメラの映像を配信します。
- 「**サブカメラ**」：サブカメラの映像を配信します。
- 「**PC**」：パソコンの映像を配信します。

#### お知らせ

- 配信中に画面共有の操作を行うことで、配信する映像を変更することができます（92 ページ）。

「**配信開始時の手元ノイズ抑圧**」：**【◀】【▶】** で配信開始時の手元ノイズ抑圧機能を有効にするかどうかを選ぶ

- 「**ON**」（デフォルト）：手元ノイズ抑圧機能を有効にします。
- 「**OFF**」：手元ノイズ抑圧機能を無効にします。

「**マイク状態表示**」：**【◀】【▶】** でマイク状態表示を選ぶ

- 「する」：マイク状態を表示します。
- 「しない」（デフォルト）：マイク状態を表示しません。

「IPアドレス」：配信木の最上位にある配信端末のIPアドレスを入力する

#### お知らせ

- 「IPアドレス」の値が1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。  
例：「192.168.0.1」の場合：  
（正）192.168.0.1  
（誤）192.168.000.001

#### 5 【緑】 を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

#### 6 【◀▶】 で「はい」を選び、【決定】 を押す

- 配信木一覧画面が表示されます。

#### 7 【▲▼】 で新規に登録した配信木を選び【青】 を押す

- 配信木の設定画面が表示されます。

#### 8 【▲▼】 で「配信先」を選び、【決定】 を押す

- 配信先一覧画面が表示されます。



#### お知らせ

- 選択の欄に「✓」が表示された配信先の登録がない場合、【開始】を押しても配信は開始されません。
- 「LAN2の使用」を「しない」に設定している場合（126 ページ）、またはKX-VC1300Jを使用している場合、LANの列は表示されません。
- LANの列に「▲」が表示された配信先があると、【開始】を押しても配信は開始されません。この配信先は「IPアドレス」（189 ページ）で設定したアドレスと通信できないネットワークに属しているため、配信先のIPアドレスを確認してください。

#### 9 【▲▼】 でノードIDが最も小さい「#未使用#」を選び、【青】 を押す

- 入力方式選択のダイアログボックスが表示されます。

### 「アドレス入力」を選択した場合

- アドレス入力画面が表示されます。



- ① **【▲】** **【▼】** で以下の項目を選び、入力する

**「配信先名」**：配信先名（最大で全角10文字、半角 [英数字、半角スペース、記号] 31文字）を入力する（205 ページ）

**「IPアドレス」**：IPアドレスを入力する

- ② **【緑】** を押す

- 配信先一覧画面が表示されます。

#### お知らせ

- 配信に使用できるのは、IPv4アドレスのみです。

### 「アドレス帳参照」を選択した場合

- アドレス帳画面が表示されます。

- ① **【▲】** **【▼】** で登録したい相手を選び、**【決定】** を押す

- 配信先一覧画面が表示されます。

#### お知らせ

- 連続して配信先を登録したい場合は、手順9を繰り返してください。
- 配信先はノードIDを詰めて登録してください。ノードIDが最小ではない「**#未使用#**」を選択して配信先を登録することはできません。

### 10**【緑】** を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

### 11**【◀ ▶】** で「はい」を選び、**【決定】** を押す

- 配信木一覧画面が表示されます。

#### お知らせ

- 連続して配信木を登録したい場合は、手順2～11を繰り返してください。

## 登録内容を編集する

- 1 「管理者メニューの一覧 (146 ページ)」の手順7で「**配信木の設定**」を選び、**【決定】** を押す

- 配信木一覧画面が表示されます

2 **【▲】【▼】** で編集したい配信木を選ぶ

3 **【青】** を押す

- 配信木の設定画面が表示されます。



4 **【▲】【▼】** で編集したい項目を選び、編集する

5 **【緑】** を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

6 **【◀】【▶】** で「はい」を選び、**【決定】** を押す

- 配信木一覧画面が表示されます。

## 登録内容を削除する

1 「管理者メニューの一覧 (146 ページ)」の手順7で「**配信木の設定**」を選び、**【決定】** を押す

- 配信木一覧画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】** で削除したい配信木を選ぶ

3 **【赤】** を押す

- 削除を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】** で「はい」を選び、**【決定】** を押す

- 配信木一覧画面が表示されます。

## 配信を行う

### 配信を行う

あらかじめ設定した最大10件の配信木一覧 (1~10) から配信木を選択して、配信を開始します。

1 「管理者メニューの一覧 (146 ページ)」の手順7で「**配信木の設定**」を選び、**【決定】** を押す

- 配信木一覧画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】** で配信をしたい配信木を選ぶ

3 **【開始】** を押す

- 配信準備中の画面が表示され、下位端末の接続確認が完了すると配信を開始します。

### お知らせ

- 配信準備中に【終了】を押すと、配信を中止します。
- 接続確認に応答しない下位端末がある場合、約1分間応答を待ったあと配信木を組み替えて配信を開始します。

#### 4 配信を終了するときには、【終了】を押す

## 配信先を選択して配信を行う

あらかじめ配信木に登録した配信先一覧から配信先を選択して、配信を開始します。

#### 1 「管理者メニューの一覧 (146 ページ)」の手順7で「配信木の設定」を選び、【決定】を押す

- 配信木一覧画面が表示されます。

#### 2 【▲】【▼】で配信をしたい配信木を選び、【青】を押す

- 配信木の設定画面が表示されます。



#### 3 【▲】【▼】で「配信先」を選び、【決定】を押す

- 配信先一覧画面が表示されます。



#### 4 【▲】【▼】で配信先を選び、【決定】を押す

- 選択欄の「✓」の有無が切り替わります。「✓」が表示された配信先に配信します。

### お知らせ

- 選択欄に「✓」が表示された配信先がない場合、【開始】を押しても配信は開始されません。



- LANの列に「▲」が表示された配信先があると、【開始】を押しても配信は開始されません。この配信先は「IPアドレス」(189 ページ) で設定したアドレスと通信できないネットワークに属しているため、配信先のIPアドレスを確認してください。

## 5 【開始】を押す

- 配信準備中の画面が表示され、下位端末の接続確認が完了すると配信を開始します。



### お知らせ

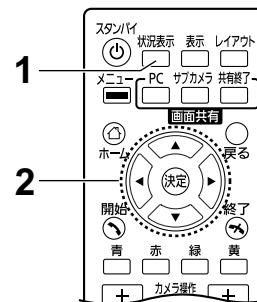
- 配信準備中に【終了】を押すと、配信を中止します。
- 接続確認に回答しない下位端末がある場合、約1分間応答を待ったあと配信木を組み替えて配信を開始します。

## 6 配信を終了するときには、【終了】を押す

## 配信中の通信状況を確認する（配信端末）

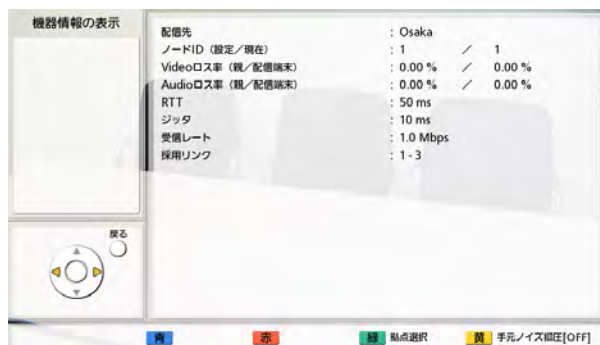
### 1 【状況表示】 を押す

- 配信状況表示画面が表示されます。



### 2 【▲】 【▼】 で配信先を選び、【決定】 を押す

- 選択した配信先の通信状況が表示されます。



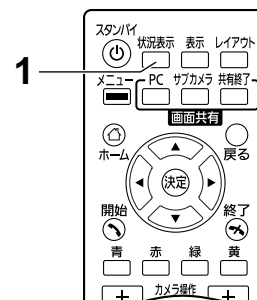
### お知らせ

- 【緑】 を押すと、表示する拠点を変更できます。
- 配信木の自動組み替えが発生した場合、「ノードID (設定/現在)」の「現在」には組み替え後のノードIDが表示されます。

## 配信中の通信状況を確認する（中継・受信端末）

### 1 【状況表示】 を押す

- 配信状況表示画面が表示されます。



## 配信中に録画を開始・終了する

### 1 【メニュー】を押す

- 配信中メニューが表示されます。

### 2 「USB録画」を選び、【決定】を押す

非録画中：録画を開始するか確認するダイアログボックスが表示されるので、【◀ ▶】で「はい」「いいえ」を選び、【決定】を押す

- 「はい」を選んだ場合、録画を開始します。
- 「いいえ」を選んだ場合、録画を開始しません。

録画中：録画を終了するか確認するダイアログボックスが表示されるので、【◀ ▶】で「はい」「いいえ」を選び、【決定】を押す

- 「はい」を選んだ場合、録画を終了します。
- 「いいえ」を選んだ場合、録画を終了しません。

## USB録画機能を利用する

- 本体背面に接続したUSBメモリーに、通信中・待ち受け中・片方向配信中の映像および音声を録画・録音する機能です。
- 異なる通信状態を継続して録画できます。例えば、待ち受け中に録画を開始し、録画中のまま通信を開始・終了することができます。
- USB録画機能を利用するには「**セキュリティの設定**」で「**USB録画**」を「**有効**」に設定してください（158 ページ）。また「**録画の設定をする**」（140 ページ）で録画に関する設定をしてください。

### お知らせ

- 片方向配信の配信端末がKX-VC300、KX-VC400、KX-VC500、KX-VC600の場合、中継端末・受信端末では録画できません。

### USBメモリーについて

- 本機では、マストレージクラス（FAT16、またはFAT32フォーマット）対応のUSBメモリーを使用できます。
- 次のUSBメモリーは使用できません。
  - U3スマートドライブ（U3プラットフォームに対応したUSBメモリー）
  - セキュリティー機能を持つUSBメモリー
  - NTFSフォーマットのUSBメモリー
  - 複数LUN（Logical Unit Number）を持つUSBメモリー
  - 複数パーティションのUSBメモリー

### USBメモリーと録画操作について

- 録画開始時にUSBメモリーが接続されていない場合、USBメモリーの接続を確認するダイアログボックスが表示されます。**【決定】** を押し、USBメモリーを接続して、再度録画を開始してください。USBメモリーを認識できない場合も同様のダイアログボックスが表示されるので、別のUSBメモリーに交換して再度録画を開始してください。
- 録画開始時にUSBメモリーの空き容量が不足している場合、録画開始不可を案内するダイアログボックスが表示されますので、**【決定】** を押し、別のUSBメモリーに交換して再度録画を開始してください。
- 録画途中で、USBメモリーの残容量が少なくなると、録画の継続・終了を選択するダイアログボックスが表示されます。

**【◀▶】** で「はい」「いいえ」を選び、**【決定】** を押す

- 「はい」を選んだ場合、録画を終了します。
- 「いいえ」を選んだ場合、録画を継続します。

残容量がなくなると自動的に録画を終了し、録画終了を案内するダイアログボックスが表示されます。

**【決定】** を押し、別のUSBメモリーに交換して再度録画を開始してください。

- 録画中にUSBメモリーが抜かれるとダイアログボックスを表示して録画を終了しますが、抜かれる最大5分前までの録画が保存されません。また、ファイルが破損し正常に再生できなくなる場合がありますので、録画中にUSBメモリーを抜かないでください。
- 録画中にAC電源がオフになると、USBメモリーのファイルが破損し正常に再生できなくなる場合がありますので、録画中にAC電源をオフにしないでください。

### 録画データについて

- 録画が開始されると、「vc\_日付\_時刻.mp4」というファイルをルートディレクトリに作成します。  
例）2017年12月1日13:30:30に録画開始した場合：vc\_20171201\_133030.mp4

- 連続録画時間が4時間（高画質モードの場合は2時間）を超えると、以降の録画は自動的に新しいファイルに保存されます。新しいファイルの名称は、録画するファイルを切り替えた日付・時刻になります。
- 以下に主な仕様を示します。

項目	仕様
ファイル形式	mp4 Version 1.0
映像レート／最大サイズ (1ファイル)	約512kbps（長時間モード）／1.1 GB 約1Mbps（標準モード）／2.0 GB 約2Mbps（高画質モード）／2.0 GB
1ファイルの最大録画時間	長時間モード／標準モード 4時間 高画質モード 2時間
録画1時間あたりの必要容量	長時間モード：約 0.27 GB 標準モード：約 0.5 GB 高画質モード：約 1 GB
映像記録方式	H.264 High Profile 1280x720 30fps* <sup>1</sup> （最大）
音声記録方式	MPEG-4 AAC-LC 64kbps モノラル
再生環境 (対応メディアプレイヤー)	Windows Media Player Ver.12 QuickTime application program Ver.10.4

\*<sup>1</sup> 本体の映像周波数が50 Hzの場合、25 fpsになります。

## お知らせ

- USBメモリーに記録するビットレートは、映像レートと音声レート（64 kbps）の合算になります。

## 待ち受け中の録画について

- 待ち受け中に録画をすると、待ち受け中に実行できる操作や設定の一部ができなくなります。
- 待ち受け中に録画をしていると、スクリーンスタンバイ状態に移行しません。
- 待ち受け中の録画をしているときに、本体またはリモコンの電源ボタンで電源を切ると、録画を終了して電源を切ります。

## 録画できる映像について

録画できる映像はKX-VC1300J・KX-VC1600JとKX-VC2000Jで異なります。

KX-VC1300J, KX-VC1600J

- 「映像出力の設定」で「映像出力」を「HDMI1のみ」に設定している場合
  - 単画面表示の場合：HDMI1と同じ映像を録画します。
  - PwIthP・SideBySide表示の場合：左側のメイン映像のみを全画面表示で録画します。

## お知らせ

- PinP表示の場合、内側に表示されている小画面は録画されません。
- 「映像出力の設定」で「映像出力」を「HDMI1／HDMI2」に設定している場合  
「USB録画の設定」の「デュアルモニター時の録画面面」で設定した映像を録画します。

KX-VC2000J

- 「映像出力の設定」で「映像出力」を「HDMI1のみ」に設定している場合  
HDMI1と同じ映像を録画します
- 「映像出力の設定」で「映像出力」を「HDMI1/HDMI2」に設定している場合  
「USB録画の設定」の「デュアルモニター時の録画面面」で設定した映像を録画します。

#### 録音できる音声について

- 待ち受け中  
自拠点の音声を録音します。
- 通信中
  - － 親拠点：音声が大きい上位4拠点と自拠点の音声を録音します。音声が大きい上位4拠点に自拠点が含まれる場合は、上位4拠点の音声を録音します。
  - － 子拠点：自拠点の音声と、親拠点の音声（親拠点が合成したほかの子拠点の音声を含む）を録音します。
- 配信中  
配信端末の音声のみ録音します。

## USBデバイスモードを利用する

HD映像コミュニケーションユニットに接続しているビデオカメラ・マイクを、パソコンにインストールした汎用会議アプリケーションで通信する際のビデオカメラ・マイクとして使用することができます。

### お知らせ

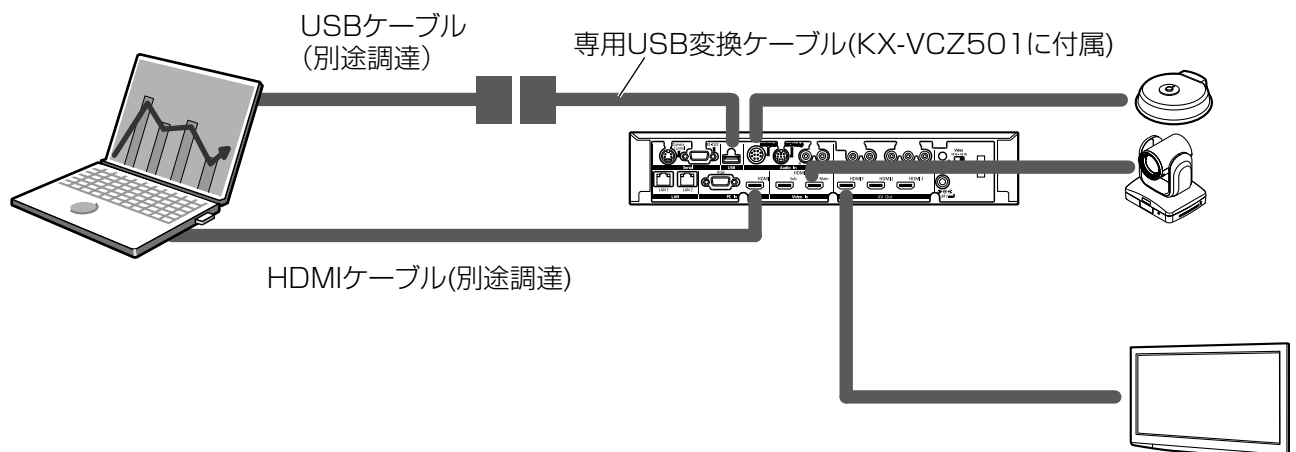
- USBデバイスモード拡張のアクティベーションキー（KX-VCZ501）でUSBデバイスモード機能を有効にしてください。また「USBデバイスモードの設定をする（140 ページ）」でモードの切り替えや関連する設定をしてください。
- USBデバイスモード中<sup>\*1</sup>は発着信できません。また、スクリーンスタンバイ状態に移行しません。
- USBデバイスモード中<sup>\*1</sup>はUSB端子にUSBメモリーを接続して利用することはできません。
- <sup>\*1</sup> USBデバイスモード中とは、パソコンを接続しているかどうかにかかわらず、「USBデバイスモード」を「常時有効」または「一時有効」に設定している間になります（141 ページ）。

### 接続について

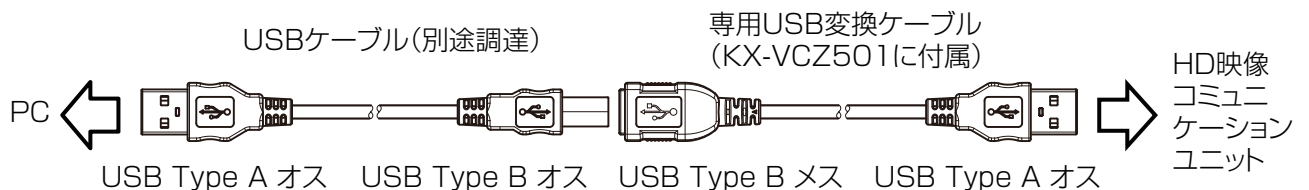
パソコンとHD映像コミュニケーションユニットを以下のように接続します。

### お知らせ

- 必ずアクティベーションキー（KX-VCZ501）に付属の専用USB変換ケーブル（PGWD1933ZAJ1）を使用してください。



### USBケーブルの接続



## 仕様について

主な仕様を以下に示します。

項目		仕様
映像	規格	UVC Version 1.0
	映像方式	Motion JPEG
	解像度	640 × 480 (最大30fps <sup>*1</sup> ) 1280 × 720 (最大15fps <sup>*2</sup> )
音声	規格	UAC Version 1.0
	音声方式	PCM・16bits・32kbps
対応OS		Microsoft Windows 8.1 operating system Microsoft Windows 10 operating system

\*1 本体の映像周波数が50 Hzの場合、最大25 fpsになります。

\*2 本体の映像周波数が50 Hzの場合、最大12.5 fpsになります。

## お知らせ

- USBデバイスモード中にパソコンがスリープ、ロック、休止状態になると、HD映像コミュニケーションユニットのビデオカメラ・マイクをパソコンで使用できなくなることがあります。その場合、次の操作のいずれかを行ってください。
  - USBケーブルを抜き差しする
  - 「USBデバイスモード」を「無効」に設定し、再度「常時有効」または「一時有効」に設定する（141 ページ）
- パソコンの汎用会議アプリケーション動作中にUSBケーブルを抜き差しすると、HD映像コミュニケーションユニットのビデオカメラ・マイクをパソコンで使用できなくなることがあります。その場合、次の操作のいずれかまたは両方を行ってください。
  - 汎用会議アプリケーションを再起動する
  - 「USBデバイスモード」を「無効」に設定し、再度「常時有効」または「一時有効」に設定する（141 ページ）



## Webハイブリッドモードを利用する

HD 映像コミュニケーションユニットのビデオ会議と、パソコンの汎用会議アプリケーションを使用した Web会議を相互接続します。ビデオ会議と Web会議で音声を共有し、一方の会議の音声を常に両方の会議で聞くことができます。また、パソコンの画面をコンテンツ共有することで、ビデオ会議参加者に Web会議の映像を共有できます。

### お知らせ

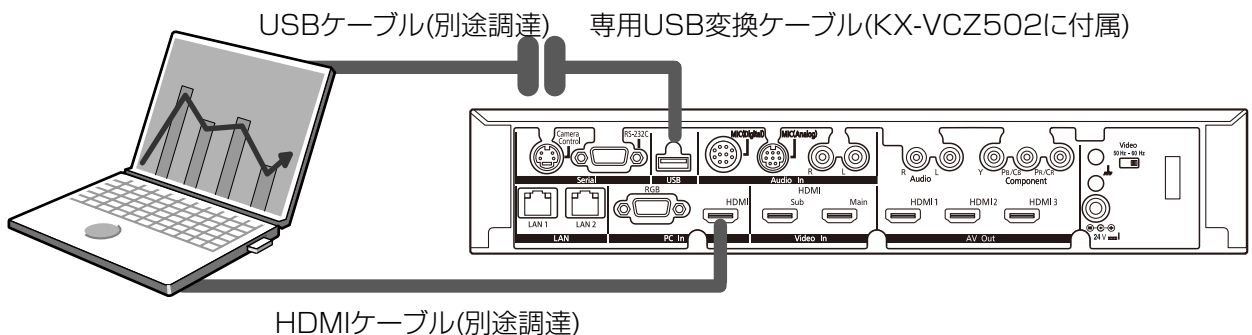
- Webハイブリッドモード拡張のアクティベーションキー（KX-VCZ502）で Webハイブリッドモード機能を有効にしてください。また「Webハイブリッドモードの設定をする（142 ページ）」でモードの切り替えや関連する設定をしてください。
- Webハイブリッドモード中<sup>\*1</sup>は、スクリーンスタンバイ状態に移行しません。また、USB端子に USBメモリーを接続して利用することはできません。
- <sup>\*1</sup> Webハイブリッドモード中とは、パソコンを接続しているかどうかにかかわらず「Webハイブリッドモード」を「常時有効」または「一時有効」に設定している間になります（142 ページ）。

### 接続について

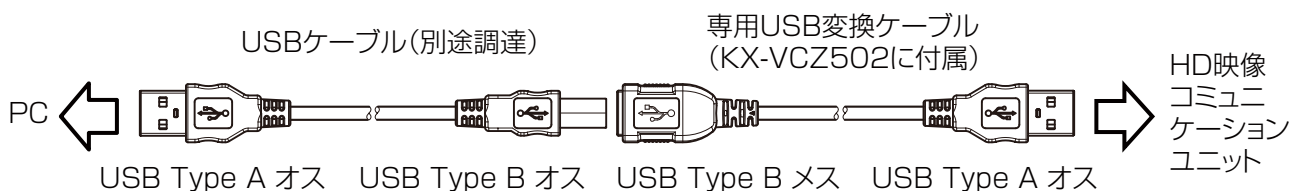
パソコンと HD映像コミュニケーションユニットを以下のように接続します。

### お知らせ

- 必ずアクティベーションキー（KX-VCZ502）に付属の専用 USB変換ケーブル（PGWD1933ZAJ1）を使用してください。
- パソコンの汎用会議アプリケーションで、音声入出力の設定がパナソニックのデバイスに設定されていることを確認してください。



### USBケーブルの接続



## 仕様について

主な仕様を以下に示します。

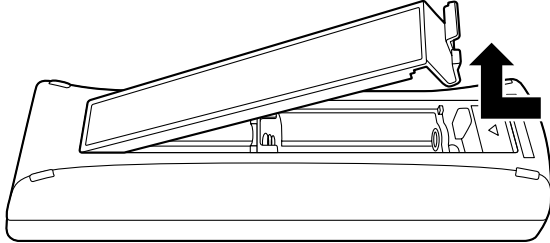
項目		仕様
音声	規格	UAC Version 1.0
	音声方式	PCM・16bits・32kbps
対応OS		Microsoft Windows 8.1 Microsoft Windows 10

## お知らせ

- パソコンの複数ディスプレイ設定を「表示画面を複製する」に設定してください（パソコンをWebハイブリッドモードで接続すると、複数ディスプレイ設定が有効になります）。「表示画面を拡張する」に設定して自拠点のテレビにWeb会議画面を表示すると、ビデオ会議の相手拠点がコンテンツ共有操作をしたときに、Web会議画面を確認できなくなります。
- Webハイブリッドモード中は以下のように動作します。
  - 「**マイク位置の設定**」にかかわらず、すべての専用デジタルマイクが「**中央モノラル**」で集音します（135 ページ）。
  - 「**メインカメラ音声入力**」を「**する**」に設定しても、メインカメラではなくPC-HDMIから音声を入力します（161 ページ）。
  - 「**HDMI3の出力**」を「**自拠点映像**」以外に設定すると、設定値にかかわらず次の音声をLとRに分離してHDMI3へ出力します（160 ページ）。  
L：自拠点音声、他拠点音声、PC-HDMI音声の合成  
R：自拠点音声と他拠点音声の合成
  - 音声入力は「**コンテンツ共有中のHDMI音声入力**」（161 ページ）を「**PC**」に設定した場合と同じになります。

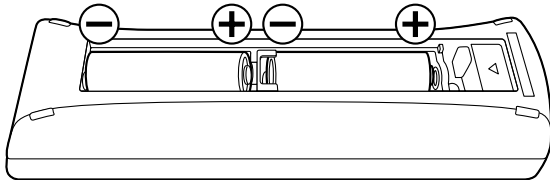
## リモコンの電池を交換する

### 1 ふたを開ける



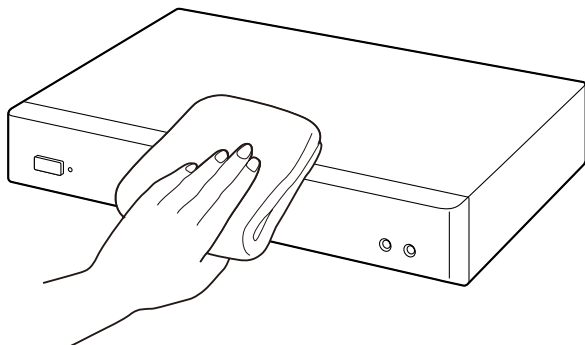
### 2 単3形乾電池を取り出す

### 3 交換用の単3形乾電池を（-）側から入れ、ふたを閉める



## お手入れ

お手入れをするときは、電源プラグやケーブルを抜き、電源を切った状態で行ってください。電源を入れたままお手入れをすると、感電の原因となります。



- 機器は、乾いた柔らかい布でふいてください。  
汚れがひどい場合、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、固く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。
- お手入れには下記のものはいけません。変色、変質の原因になります。
  - 石油
  - みがき粉
  - アルコール
  - シンナー
  - ベンジン
  - ワックス
  - 熱湯
  - 粉せっけん
- 化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。

## 文字や数字を入力する

リモコンでカタカナ、アルファベット、数字を入力することができます。(リモコンで漢字を入力することはできません。漢字を入力したい場合は、お手数ですが販売店までご相談ください。)

入力可能な文字や数字は次のとおりです。設定により選択した言語、また、選択した接続モードによって入力可能な文字は異なります。入力したい文字や数字が表示されるまで、該当するボタンを繰り返し押します。同じボタンに割り当てられている文字を続けて入力するには、**▶** を押してカーソルを右に移動させてください。

表1 日本語

ボタン	カナモード(全角)	英字モード(半角)		数字モード(半角)
		大文字優先モード	小文字優先モード	
<b>1</b> ア	アイウエオアイウエオ	1	1	1
<b>2</b> カ ABC	カキクケコ	ABCabc2	abcABC2	2
<b>3</b> サ DEF	サシスセソ	DEFdef 3	defDEF3	3
<b>4</b> タ GHI	タチツテトッ	GHIghi4	ghiGHI4	4
<b>5</b> ナ JKL	ナニヌネノ	JKLjkl5	jklJKLM5	5
<b>6</b> ハ MNO	ハヒフヘホ	MNOmno6	mnoMNO6	6
<b>7</b> マ QRS	マミムメモ	PQRSpqrs7	pqrsPQRS7	7
<b>8</b> ヤ TUV	ヤユヨヤユヨ	TUVtuv8	tuvTUV8	8
<b>9</b> ワ XYZ	ワリルレロ	WXYZwxyz9	wxyzWXYZ9	9
<b>0</b> ワ _	ワヨンワー(全角スペース)	0(半角スペース)	0(半角スペース)	0
<b>・</b> * @	“(濁点)”(半濁点)	. @ : ; " = * + < >	. @ : ; " = * + < >	. @ : ; " = * + < >
<b>#</b> 記号	. @ : ; " = * + < > # _ - & \$ ¥ % ~ ^ ! ? / ' ( ) , [ ] { } '	# _ - & \$ \% ~ ^ ! ? / ( ) , [ ] { } '	# _ - & \$ \% ~ ^ ! ? / ( ) , [ ] { } '	# _ - & \$ \% ~ ^ ! ? / ( ) , [ ] { } '





表4 ドイツ語

ボタン	ラテン文字モード		数字モード	拡張文字1(西欧系)		拡張文字2(東欧系)	
	大文字優先モード	小文字優先モード		大文字優先モード	小文字優先モード	大文字優先モード	小文字優先モード
<b>1</b> ア	1	1	1	1	1	1	1
<b>2</b> カ ABC	AÄBCaäb c2	aäbcAÄB C2	2	AAÄÄÄÄÄ ÆBCÇaää ääääæbcç 2	aaaaääääæ bcçAÄÄÄ ÄÄÄÆBC Ç2	AÄÄÄBCÇ Čaäääqbcč č2	aaaaqbcčč AÄÄÄBCÇ Č2
<b>3</b> サ DEF	DEFdef 3	defDEF 3	3	DEÈÉÊËF deèéêëf3	deèéêëfD EÈÉÊËF3	DĎEÉÊËF dďeéëëf3	dd'eéëëfD ĎEÉÊËF3
<b>4</b> タ GHI	GHIghi4	ghiGHI4	4	GĜHIÍÎÏÏÏ İgĝhiîîîÏÏÏ 4	gĝhiîîîÏÏÏ GĜHIÍÎÏÏÏ 4	GHIÍghi4	ghiÍGHIÍ4
<b>5</b> ナ JKL	JKLjkl5	jkIJKL5	5	JKLjkl5	jkIJKL5	JKLŁŁŁjkl Íł5	jkIłłłJKLŁ Łł5
<b>6</b> ハ MNO	MNOÖmn oö6	mnoöMNO Ö6	6	MNŃOÒÓ ÔÕØŒ mnñoòóó ôõøœ6	mnñoòóóô öøœMNŃ OÒÓÔÕÔ øœ6	MNŃŃOÓ ŌŎmnňño óöô6	mnňñoóóô MNŃŃOÓ ŌŌ6
<b>7</b> マ QRS	PQRSßpq rsß7	pqrsßPQR Sß7	7	PQRSŞßp qrsşß7	pqrsşßP QRSŞß7	PQRŔŔSS Şpqŕŕŕŕŕ 7	pqrŕŕŕŕŕP QRŔŔŔŔŔ 7
<b>8</b> ヤ TUV	TUÜVtuüv 8	tuüvTUÜV 8	8	TUÜÚÜÜÜ Vtuüúüüü v8	tuüúüüüv TUÜÚÜÜÜ V8	TŤUÜÜÜÜ Vtŭüüüüv 8	tŭüüüüüvT ŤUÜÜÜÜÜ 8
<b>9</b> ワ XYZ	WXYZwxy z9	wxyzWXY Z9	9	WŴXIJYŶ Zwŵxijyŷ Z9	wŵxijyŷ WŴXIJYŶ Z9	WXYŶYZŹ ŹŹwxyŷŷ źźź9	wxyŷŷŷŹ WXYŶYZŹ ŹŹ9
<b>0</b> フ _	0 (スペース)	0 (スペース)	0	0 (スペース)	0 (スペース)	0 (スペース)	0 (スペース)
<b>・</b> *@	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>
<b>#</b> 記号	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '



表5 フランス語

ボタン	ラテン文字モード		数字モード	拡張文字1(西欧系)		拡張文字2(東欧系)	
	大文字優先モード	小文字優先モード		大文字優先モード	小文字優先モード	大文字優先モード	小文字優先モード
<b>1</b> ア	1	1	1	1	1	1	1
<b>2</b> カ ABC	AÂĂÆBC ÇaàâæbcçA ç2	aââæbcçA ÂĂÆBCÇ2	2	AÂĂÂĂÂĂ ÆBCÇaàâ ââââæbcç 2	aââââââæ bcçAÂĂÂ ÂĂĂÆBC Ç2	AÂĂÂBCÇ Çaàâæbcç ç2	aâââæbcç AÂĂÂBCÇ Ç2
<b>3</b> サ DEF	DEÊÉÊËF deèéêëf3	deèéêëfD EÊÉÊËF3	3	DEÊÉÊËF deèéêëf3	deèéêëfD EÊÉÊËF3	DĎEÊÉËF dďeèéëf3	dďeèéëfD ĎEÊÉËF3
<b>4</b> タ GHI	GHIÏghiï 4	ghiïGHIÏ 4	4	GĜHIÏġġ ġġghiïġġ 4	gġhiïġġ GĜHIÏġġ 4	GHIġghiġ 4	ghiġGHIġ 4
<b>5</b> ナ JKL	JKLjkl5	jkIJKL5	5	JKLjkl5	jkIJKL5	JKLĹĹĹjkl ĹĹ5	jkIĹĹJKLĹ ĹĹ5
<b>6</b> ハ MNO	MNOÔŒ mnoôœ6	mnoôœM NOÔŒ6	6	MNŃŃŃŃ ŃŃŃŃŃŃ mnňňňň ňňňňňň ŃŃŃŃŃŃ ŃŃŃŃŃŃ	mnňňňňňň ňňňňňň ŃŃŃŃŃŃ ŃŃŃŃŃŃ	MNŃŃŃŃ ŃŃŃŃŃŃ ňňňňňň ňňňňňň	mňňňňňňň ňňňňňňňň MNŃŃŃŃŃ ŃŃŃŃŃŃ
<b>7</b> マ QRS	PQRSpqr s7	pqrSPQR S7	7	PQRSŒŒp qrsŒŒ7	pqrŒŒP QRSŒŒ7	PQRŔŔŔŔ ŔŔŔŔŔŔ ŔŔŔŔŔŔ	pqrŕŕŕŕŔ ŔŔŔŔŔŔŔŔ ŔŔŔŔŔŔŔŔ
<b>8</b> ヤ TUV	TUÛŪŪVt uûûŭv8	tuûûŭvTU ÛŪŪV8	8	TUÛŪŪŪŪ ŪŪŪŪŪŪ Vtuûûŭv v8	tuûûŭŭŭv TUÛŪŪŪŪ Vtuûûŭŭŭv v8	TŤUŪŪŪŪŪ ŤŤuûûŭŭŭv ŤŤUŪŪŪŪŪ ŤŤUŪŪŪŪŪ	tŧuûûŭŭŭvT ŤŤUŪŪŪŪŪV ŤŤUŪŪŪŪŪV ŤŤUŪŪŪŪŪV
<b>9</b> ワ XYZ	WXYZwxy z9	wxyzWXY Z9	9	WŴXIJYŶ Zwŵxijyŷ Z9	wŵxijyŷz WŴXIJYŶ Z9	WXYŶŶZŹ ŹŹwxyŷŷz ŹŹŹŹ9	wxyŷŷzŹŹŹ WXYŶŶZŹŹ ŹŹŹŹ9
<b>0</b> フラ	0 (スペース)	0 (スペース)	0	0 (スペース)	0 (スペース)	0 (スペース)	0 (スペース)
<b>.</b> * @	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>
<b>#</b> 記号	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '

表6 イタリア語

ボタン	ラテン文字モード		数字モード	拡張文字1(西欧系)		拡張文字2(東欧系)	
	大文字優先モード	小文字優先モード		大文字優先モード	小文字優先モード	大文字優先モード	小文字優先モード
<b>1</b> ア	1	1	1	1	1	1	1
<b>2</b> カ ABC	AÀBCaàb c2	aàbcAÀB C2	2	AAÀÀÀÀ ÆBCÇaàá ââââæbcç 2	aàáâãäåæ bcçAÀÀÀ ÃÃÃÆBC Ç2	AÁÀÀBCÇ Čaáâabcč č2	aáâabcčč AÁÀÀBCÇ Č2
<b>3</b> サ DEF	DEÈÉFde èéf3	deèéfDEÈ ÉF3	3	DEÈÉÊËF deèéêëf3	deèéêëfD EÈÉÊËF3	DĎEÈÉËF dďeéëf3	dďeéëfD ĎEÈÉËF3
<b>4</b> タ GHI	GHIìghii4	ghiiGHIÌ4	4	GĜHIÌÍÎÏ İġghiiîîî 4	gġhiîîîî GĜHIÌÍÎÏ 4	GHIÍghií4	ghiíGHIÍ4
<b>5</b> ナ JKL	JKLjkl5	klIJKL5	5	JKLjkl5	klIJKL5	JKLŁŁŁjkl Íł5	klÍłłJKLŁ ŁŁ5
<b>6</b> ハ MNO	MNOÒÓm noòó6	mnoòóMN OÓÓ6	6	MNŃOÒÓ ÔÕØŒ mnñoòóó õõøœ6	mnñoòóóó öøœMNŃ OÓÓÔÕÔ øœ6	MNŃŃOÓ ŌŌmnňň óóó6	mnňňóóóó MNŃŃOÓ ŌŌ6
<b>7</b> マ QRS	PQRSpqr s7	pqrsPQR S7	7	PQRSSßp qrsßß7	pqrsßßP QRSßß7	PQRŘRSS Špqrřřřř 7	pqrřřřřP QRŘŘŘŘ 7
<b>8</b> ヤ TUV	TUÛVtuùv 8	tuùvTUÛV 8	8	TUÛÚÛÜÛ Vtuùúúüü v8	tuùúüüüv TUÛÚÛÜÛ V8	TŤUÛÚÛÛ Vtťuùúüüv 8	tťuùúüüvT ŤUÛÚÛÜV 8
<b>9</b> ワ XYZ	WXYZwxy z9	wxyzWXY Z9	9	WŴXIJYŶ Zwŵxijyŷ Z9	wŵxijyŷz WŴXIJYŶ Z9	WXYŶYZŽ ŽŽwxyŷz žžž9	wxyŷzžžž WXYŶYZŽ ŽŽ9
<b>0</b> フ _	0 (スペース)	0 (スペース)	0	0 (スペース)	0 (スペース)	0 (スペース)	0 (スペース)
<b>・*@</b>	.@:;="*+ <>	.@:;="*+ <>	.@:;="*+ <>	.@:;="*+ <>	.@:;="*+ <>	.@:;="*+ <>	.@:;="*+ <>
<b>#</b> 記号	#_ -&\$\% ~^!?/\`(), []{}'	#_ -&\$\% ~^!?/\`(), []{}'	#_ -&\$\% ~^!?/\`(), []{}'	#_ -&\$\% ~^!?/\`(), []{}'	#_ -&\$\% ~^!?/\`(), []{}'	#_ -&\$\% ~^!?/\`(), []{}'	#_ -&\$\% ~^!?/\`(), []{}'

表7 スペイン語

ボタン	ラテン文字モード		数字モード	拡張文字1(西欧系)		拡張文字2(東欧系)	
	大文字優先モード	小文字優先モード		大文字優先モード	小文字優先モード	大文字優先モード	小文字優先モード
<b>1</b> ア	1	1	1	1	1	1	1
<b>2</b> カ ABC	AÁBCaáb c2	aábcAÁB C2	2	AÁÁÁÁÁ ÆBCÇaáá ááááæbcç 2	áááááááæ bcçAÁÁÁ ÁÁÁÆBC Ç2	AÁÁAABC Čaááabc č2	áááabcč AÁÁABC Č2
<b>3</b> サ DEF	DEÉFdeé f3	deéfDEÉ F3	3	DEÉÉÉÉ deèèèè EÉÉÉÉÉ F3	deèèèè EÉÉÉÉÉ F3	DĎEÉÉÉ dďeééé F3	dďeééé ĎEÉÉÉÉ F3
<b>4</b> タ GHI	GHIÍghií4	ghiíGHIÍ4	4	GĜHIÍÍÍ Íĝghiííí 4	gĝhiííí GĜHIÍÍÍ 4	GHIÍghií4	ghiíGHIÍ4
<b>5</b> ナ JKL	JKLjkl5	jkIJKL5	5	JKLjkl5	jkIJKL5	JKLÍłJKL Íł5	jkIłJKL ł5
<b>6</b> ハ MNO	MNÑOÓm nñoó6	mnñoóMN ÑOÓ6	6	MNÑOÓ ÓÖØŒ mnñoóó öøœ6	mnñoóó öøœMNÑ OÓOÓÖ öøœ6	MNÑÑOÓ ÖŒmnño óóó6	mnññoóó MNÑÑOÓ ÖŒ6
<b>7</b> マ QRS	PQRSpqr s7	pqrsPQR S7	7	PQRSŞßp qrsşß7	pqrsşßP QRSŞß7	PQRŘŘSŠ Špqřřsš 7	pqřřsšP QRŘŘSŠ 7
<b>8</b> ヤ TUV	TUÚÜVtu úüv8	tuúüvTUÚ ÜV8	8	TUÚÚÚÚ Vtuúúüü v8	tuúúüü TUÚÚÚÚ V8	TŤUÚÚÚ VtŤuúúüü 8	tŤuúúüü ŤUÚÚÚÜ V8
<b>9</b> ワ XYZ	WXYZwxy z9	wxyzWXY Z9	9	WŴXIJYŶ Zwŵxijyŷ 9	wŵxijyŷ WŴXIJYŶ Z9	WXYŶYZ Žžwxyŷ žžž9	wxyŷžž WXYZŶZ ŽŽ9
<b>0</b> フラ	0 (スペース)	0 (スペース)	0	0 (スペース)	0 (スペース)	0 (スペース)	0 (スペース)
<b>・*@</b>	.@:;="*+ <>	.@:;="*+ <>	.@:;="*+ <>	.@:;="*+ <>	.@:;="*+ <>	.@:;="*+ <>	.@:;="*+ <>
<b>#</b> 記号	#_-\$\% ~^!/?/`(), []{}'`	#_-\$\% ~^!/?/`(), []{}'`	#_-\$\% ~^!/?/`(), []{}'`	#_-\$\% ~^!/?/`(), []{}'`	#_-\$\% ~^!/?/`(), []{}'`	#_-\$\% ~^!/?/`(), []{}'`	#_-\$\% ~^!/?/`(), []{}'`



表9 ポルトガル語

ボタン	ラテン文字モード		数字モード	拡張文字1(西欧系)		拡張文字2(東欧系)	
	大文字優先モード	小文字優先モード		大文字優先モード	小文字優先モード	大文字優先モード	小文字優先モード
<b>1</b> ア	1	1	1	1	1	1	1
<b>2</b> カ ABC	AAÂÃÀBC Çaáãâàbc ç2	aaaaàbcç AAÂÃÀBC Ç2	2	AAÂÃÀÃÃ ÆBCÇaaá âãääæbcç 2	aaaaãääæ bcçAAÂÃ ÃÃÃÆBC Ç2	AAÂÃBCÇ Čaáãabcč č2	aaaaqbcčč AAÂÃBCÇ Č2
<b>3</b> サ DEF	DEÉÊFde ééf3	deéêfDEÉ ÊF3	3	DEÊÉÊËF deèèèëf3	deèèèëfD EÊÉÊËF3	DĎEÊÉËF dďeéëëf3	dďeéëëfD ĎEÊÉËF3
<b>4</b> タ GHI	GHIíghii4	ghiiGHÍÍ4	4	GĜHÍÍÍÍÍ Ígĝhiiíííí 4	gĝhiiííííí GĜHÍÍÍÍÍ 4	GHIíghii4	ghiiGHÍÍ4
<b>5</b> ナ JKL	JKLjkl5	jkIJKL5	5	JKLjkl5	jkIJKL5	JKLÍĹĹĹkl ÍĹ5	jkÍÍĹJKLÍ ĹĹ5
<b>6</b> ハ MNO	MNOÓÔÕ mnoóôõ6	mnoóôõM NOÓÔÕ6	6	MNÑOOÓ ÔÔÔØŒ mnñoóóô ôôôæ6	mnñoóóôõ öøæMNÑ OOÓÔÕ ôôôæ6	MNÑŃOO ÕŎmnňo óóõ6	mnňňoóóõ MNÑŃOO ÕŎ6
<b>7</b> マ QRS	PQRSpqr s7	pqrsPQR S7	7	PQRSŞßp qrsşß7	pqrsşßP QRSŞß7	PQRŔŔŞŞ Şpqŕŕşşş 7	pqŕŕŕşşşP QRŔŔŞŞŞ 7
<b>8</b> ヤ TUV	TUÚÛVtuú üv8	tuúüvTUÚ ÜV8	8	TUÚÚÚÚÚ Vtuúúúú v8	tuúúúúüv TUÚÚÚÚÚ V8	TŤUÚÚÚÚ Vtŭúúúüv 8	tŭúúúúüvT ŤUÚÚÚÚV 8
<b>9</b> ワ XYZ	WXYZwxy z9	wxyzWXY Z9	9	WŴXIJYŶ Zwŵxijyŷ Z9	wŵxijyŷz WŴXIJYŶ Z9	WXYŶŶZŻ Żŵxyŷŷz żżż9	wxyŷŷzżż WXYŶŶZŻ ZŻ9
<b>0</b> フ _	0 (スペース)	0 (スペース)	0	0 (スペース)	0 (スペース)	0 (スペース)	0 (スペース)
<b>・</b> * @	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>
<b>#</b> 記号	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	#_ - & \$ \% ~^! ? / ` ( ) , [ ] {   } '



前ページからの続き

ボタン	拡張文字1 (西欧系)		拡張文字2 (東欧系)	
	大文字優先モード	小文字優先モード	大文字優先モード	小文字優先モード
1	1	1	1	1
2	AAÁÂÃÄÅ ÆBCÇaàá âãäåæbcç 2	aáâãääåæ bcçAAÁÂ ÃÄÅÆBC Ç2	AAÁABCĆ Čaáâabcć č2	aáâabcć AAÁABCĆ Č2
3	DEÉÊËĚF deèéëěf3	deèéëěfD EĚÉÊĚF3	DĎEÉĚĚF dďeéěěf3	dďeéěěfD ĎEÉĚĚF3
4	GĜHIÍĪĴĴĴ ĴgĝhiíĴĴĴ 4	gĝhiíĴĴĴ GĜHIÍĪĴĴ 4	GHIĴghií4	ghiíGHIĴ4
5	JKLjkl5	jkIJKL5	JKLĹĹĹjkl Ĵ5	jkIĴJKLĹ ĹĹ5
6	MNŃOÓ ÔÖØŒ mnñoóô õöøœ6	mnñoóôö øœMNŃ OÓOÓO ØŒ6	MNŃNOÓ ŌŌmnňo óóö6	mnňnoóö MNŃNOÓ ŌŌ6
7	PQRSSßp qrsßß7	pqrssßP QRSßß7	PQRŘRSS Špqrřrssš 7	pqrřrssšP QRRŘSSŠ 7
8	TUÚÚŮŮŮ VtuúúúŮ v8	tuúúúŮv TUÚÚŮŮŮ V8	TŤUÚŮŮŮ VtťuúúúŮ 8	tťuúúúŮvT ŤUÚŮŮŮŮ 8
9	WŴXIYŶ Zwŵxijyŷ 9	wŵxijyŷ WŴXIYŶ Z9	WXYŶZŽ ŽŽwxyŷz žžž9	wxyŷzžž WXYŶZŽ ŽŽ9
0	0 (スペース)	0 (スペース)	0 (スペース)	0 (スペース)
	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>	.@:; "=*+ <>
#	# _ - & \$ \ % ~ ^ ! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	# _ - & \$ \ % ~ ^ ! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	# _ - & \$ \ % ~ ^ ! ? / ` ( ) , [ ] {   } '	# _ - & \$ \ % ~ ^ ! ? / ` ( ) , [ ] {   } '

## 入力モードを切り替える

【青】または【赤】を押すたびに、次のように順番に入力モードが切り替わります。

- 【青】：  
（日本語選択時）カナモード → 英字モード → 数字モード  
（日本語、中国語、ロシア語以外選択時）ラテン文字モード → 数字モード → 拡張文字1モード → 拡張文字2モード  
（中国語選択時）ラテン文字モード → 数字モード  
（ロシア語選択時）キリル文字モード → 数字モード → ラテン文字モード → 拡張文字1モード → 拡張文字2モード
- 【赤】：  
（カナモード／数字モード以外選択時）小文字優先モード → 大文字優先モード

現在選択中の入力モードはガイドエリアに表示されます。

例：カナモードを選択中



## 入力した文字や数字を削除する

【黄】を押すと、入力した文字や数字を削除できます。カーソルの位置によって削除される文字や数字が次のように異なります。

- カーソルの位置が入力文字・数字の最後：直前の1文字や数字を削除
- カーソルの位置が入力文字・数字の途中：直後の1文字や数字を削除

## 文字や数字を挿入する

【◀】【▶】で挿入したい位置にカーソルを移動させ、文字や数字を入力します。入力した文字や数字は、移動させたカーソルの前後の文字や数字の間に挿入されます。



## ポート番号について

通信のため本機は以下のポートを使用します。

### お知らせ

- 標準・つながるねっとサービスモード利用時は、「標準モード」と「つながるねっとサービスモード」のそれぞれに該当する表をご覧ください。

### 標準モード

使用目的	通信方式	プロトコル	ポート番号			備考
			KX-VC1300J	KX-VC1600J	KX-VC2000J	
RAS	H. 323	UDP	1719	1719	1719	NAT の設定 で変更可能 (152 ページ)
H.225		TCP	1720	1720	1720	
H.245		TCP	5500 ~ 5509	5500 ~ 5519	5500 ~ 5549	
SIP	SIP	TCP/ UDP	5060	5060	5060	
音声用 RTP・ RTCP	SIP/ H. 323	UDP	5100 ~ 5111	5100 ~ 5135	5100 ~ 5191	
映像用 RTP・ RTCP		UDP	5200 ~ 5211	5200 ~ 5235	5200 ~ 5291	
カメラ制御用 RTP・ RTCP		UDP	5300 ~ 5311	5300 ~ 5335	5300 ~ 5391	
サブ映像用 RTP・ RTCP		UDP	5400 ~ 5411	5400 ~ 5435	5400 ~ 5491	
BFCP	SIP	UDP	5800 ~ 5802	5800 ~ 5808	5800 ~ 5822	

つながるねっとサービスモード

使用目的	通信方式	プロトコル	ポート番号			備考
			KX-VC1300J	KX-VC1600J	KX-VC2000J	
管理サーバー	SIP	TCP	443	443	443	つながるねっとの管理サーバーの待ち受けポート
SIP		TCP	15060 (5060)	15060 (5060)	15060 (5060)	つながるねっとのSIPサーバーの待ち受けポート 通信の設定で通常ポート(5060)に変更可能 (130 ページ)
STUN*2		UDP	13478 /13479	13478 /13479	13478 /13479	つながるねっとのSTUNサーバーの待ち受けポート
音声用 RTP・ RTCP*1		UDP	5100 ~ 5111	5100 ~ 5135	5100 ~ 5191	NAT の設定で 変更可能 (152 ページ)
映像用 RTP・ RTCP*1		UDP	5200 ~ 5211	5200 ~ 5235	5200 ~ 5291	
カメラ制御用 RTP・ RTCP*1		UDP	5300 ~ 5311	5300 ~ 5335	5300 ~ 5391	
サブ映像用 RTP・ RTCP*1		UDP	5400 ~ 5411	5400 ~ 5435	5400 ~ 5491	
BFCP*1	UDP	5800 ~ 5802	5800 ~ 5808	5800 ~ 5822		

\*1 ファイヤーウォールを設定をする場合、対向先ネットワークや対向先機器の仕様に依存するので、対向側で利用されるUDP ポートはANY で許可してください。

\*2 \*1の対応を行うと、STUN 用のポートもオープンになります。

## 標準モード／つながるねっとサービスモード共通

使用目的	プロトコル	ポート番号			備考
		KX-VC1300J	KX-VC1600J	KX-VC2000J	
Telnet	TCP	23	23	23	リモートアクセスの設定で変更可能 (170 ページ)
Web アドレス帳転送	TCP	80	80	80	
ソフトウェア更新 (https)	TCP	443 /48750	443 /48750	443 /48750	ソフトウェアダウンロードサーバーの待ち受けポート
DHCP	UDP	67	67	67	DHCP サーバーの待ち受けポート (本機はポート番号68を使用)
DNS	UDP	53	53	53	DNS サーバーの待ち受けポート

## 困ったとき

トラブルが起きたときは、こちらをお読みください。点検を行う前に、本体が正しく接続されているか、電源プラグを差し込んである電源コンセントから電源が供給されているか確認してください。

## 基本動作について

こんなとき	原因と対応
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 電源プラグが電源コンセントに接続されていません。</li> <li>→ 電源プラグを電源コンセントに差し込んでください。</li> </ul>
画面が表示されない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ケーブルやコードが正しく接続されていません。</li> <li>→ 本体と正しく接続されているか確認してください（25 ページ）。自己診断を行い、本体に接続しているビデオカメラとテレビの動作を確認してください（144 ページ）。</li> <li>• メインビデオカメラの電源が入っていません。</li> <li>→ メインビデオカメラの電源を入れてください。</li> <li>• テレビの電源が入っていません。またはテレビの入力切替の設定が異なります。</li> <li>→ テレビの電源を入れてください。テレビの入力切替の設定を変更してください。</li> <li>• スクリーンスタンバイ状態です。</li> <li>→ リモコンを操作するか、着信があるとスクリーンスタンバイ状態が解除され、映像が表示されます。</li> </ul> <p><b>お知らせ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ネットワーク管理者がスクリーンスタンバイ状態に移行するまでの時間を設定することができます（135 ページ）。</li> <li>• HDCP（不正コピー防止技術）に対応した機器を接続したときは、青い画面が表示されたり、青と黒の画面を繰り返すなど映らない場合があります。</li> <li>→ 正常に映らない場合は、HDCPに対応した機器を接続しないでください。</li> </ul>
映像の上／下または左／右が欠けているように見える	<ul style="list-style-type: none"> <li>• テレビが、すべてを表示できる設定になっていません。</li> <li>→ パナソニック（株）製テレビをご使用の場合は、テレビの画面表示モードが「フル」になっていることを確認してください。</li> <li>→ パナソニック（株）製以外のテレビをご使用の場合は、販売店にご相談ください。</li> <li>• MCU接続または他社機接続の場合、相手側の機器によっては、映像の一部が切れて表示されることがあります。</li> <li>→ 販売店にご相談ください。</li> </ul>

こんなとき	原因と対応
映像の横縦比が正しく表示されない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MCU接続または他社機接続の場合、相手側の機器によっては、映像の横縦比が正しく表示されないことがあります。</li> <li>→ 2地点通信中に【緑】を押すと映像横縦比を変更するダイアログボックスが表示されるので、【▲】【▼】で横縦比を選んでください。ダイアログボックスは約3秒後に消えます。変更した映像横縦比は、通信が終了すると「自動」（デフォルト）に戻ります。</li> </ul>
操作しても動かない／動作がおかしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ケーブルやコードが正しく接続されていません。</li> <li>→ 本体と正しく接続されているか確認してください（25 ページ）。</li> <li>• エラーが発生しています。</li> <li>→ 電源を切って再起動してください。</li> <li>• ご利用の回線に問題が発生している可能性があります。</li> <li>→ 販売店にご相談ください。</li> </ul>

こんなとき	原因と対応
リモコンが動かない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リモコンの電池が切れています。</li> <li>→ 新しい電池に交換してください。</li> <li>• リモコンの動作範囲外で操作しています。</li> <li>→ リモコンの動作範囲内で操作していることを確認してください。</li> <li>• リモコンIDが本体とリモコンとで一致していません。</li> <li>• リモコンの電池が切れた（または電池を取り出した）状態で1日以上経過し、リモコンIDが初期化されています。</li> <li>→ 本体とリモコンのリモコンIDが一致するよう設定を変更してください。次の手順を行ってください。</li> <li><b>1. 電源を一度切ったあと再度入れ直して本機を再起動する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホーム画面が表示されます。本体のリモコンIDを確認してください（42 ページ）。</li> </ul> </li> <li><b>お知らせ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• リモコンIDがホーム画面に表示されていない場合は、販売店へお問い合わせください。</li> </ul> </li> <li><b>2. [・]と[#]を同時に押したままにする</b></li> <li><b>3. ボタンを離して2秒以内にホーム画面に表示されているIDと一致する番号（1～3）を押す</b></li> <li><b>お知らせ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 上記の手順を行ってもリモコンが動かない場合は、販売店へお問い合わせください。</li> </ul> </li> <li>• リモコンスルー機能に対応したカメラが、リモコンからの信号を受信する設定になっています。</li> <li>→ カメラのリモコン受信部にリモコンを向けて操作を行ってください。</li> <li>→ 「<b>リモコンスルー機能</b>」（ソフトウェアバージョン4.50未満では「<b>固定カメラのリモコン受信</b>」）を「<b>無効</b>」に設定してください（139 ページ）。</li> <li>• 本体が、リモコンからの信号を受信する設定になっています。</li> <li>→ 本体のリモコン受信部にリモコンを向けて操作を行ってください（24 ページ）。</li> <li>→ 「<b>リモコンスルー機能</b>」（ソフトウェアバージョン4.50未満では「<b>固定カメラのリモコン受信</b>」）を「<b>有効</b>」に設定してください（139 ページ）。</li> </ul>

こんなとき	原因と対応
<p>リモコンで自分側のビデオカメラ（メインまたはサブビデオカメラ）を操作できない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分側のビデオカメラが、本体がサポートしているビデオカメラではありません。</li> <li>→ 本体がサポートしているビデオカメラを使用してください。詳細については、販売店にお問い合わせください。</li> <li>• 自分側のビデオカメラがサポートしていない機能を実行しようとしています。例えば、ズーム機能のみサポートしているビデオカメラに対してパン操作を行おうとしています。</li> <li>→ 実行しようとしている機能を自分側のビデオカメラがサポートしているか確認してください。</li> <li>• 自分側でメインビデオカメラとサブビデオカメラを両方接続している場合、操作できないときがあります。</li> <li>→ 操作できないビデオカメラのHDMIケーブルを一度抜いて、再度接続し直してください。</li> <li>• デュアルストリーム通信でメインカメラは操作できますが、サブビデオカメラは操作できません。</li> <li>→ サブビデオカメラはシングルストリーム通信で操作してください。通信の設定で「<b>デュアルストリーム</b>」を「<b>無効</b>」に設定してください（129 ページ）。通信中の場合は、通信中メニューの「<b>コンテンツ送信方法</b>」で「<b>シングルストリーム固定</b>」を選択してください（74 ページ）。</li> </ul>

こんなとき	原因と対応
<p>リモコンで相手側のビデオカメラ（メインまたはサブビデオカメラ）を操作できない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 相手側のビデオカメラが、本体がサポートしているビデオカメラではありません。</li> <li>→ 本体がサポートしているビデオカメラを使用するように相手に伝えてください。詳細については、販売店に問い合わせるように相手に伝えてください。</li> <li>• 相手側の「通信相手からのカメラ制御」が「無効」に設定されています（138 ページ）。</li> <li>→ 相手側に「通信相手からのカメラ制御」を「有効」に設定するように伝えてください。</li> <li>• 相手側のビデオカメラがサポートしていない機能を実行しようとしています。例えば、ズーム機能のみサポートしているビデオカメラに対してパン操作を行おうとしています。</li> <li>→ 実行しようとしている機能を相手側のビデオカメラがサポートしているか確認してください。</li> <li>• 相手側でメインビデオカメラとサブビデオカメラを両方接続している場合、操作できないときがあります。</li> <li>→ 操作できないビデオカメラのHDMIケーブルを一度抜いて、再度接続し直すように相手に伝えてください。</li> <li>• 互換性のないソフトウェアのバージョンを使用している通信参加者がいます。</li> <li>→ 通信参加者のソフトウェアのバージョンを確認してください。ソフトウェアを更新して、バージョンを合わせてください。</li> <li>• 相手が他社製のビデオ会議システムを使用しています。</li> <li>→ 他社製のビデオ会議システムの場合、操作ができなかったり、誤動作を起こす可能性があります。</li> <li>• 自拠点の内蔵MCU機能を使用した多地点通信の子拠点で、相手側のカメラの制御を許可されていません。</li> <li>→ 「MCUの設定」の「カメラ制御の転送」を「有効」に設定してください。</li> <li>• デュアルストリーム通信でメインカメラは操作できますが、サブビデオカメラは操作できません。</li> <li>→ サブビデオカメラはシングルストリーム通信で操作してください。通信の設定で「デュアルストリーム」を「無効」に設定してください（129 ページ）。通信中の場合は、通信中メニューの「コンテンツ送信方法」で「シングルストリーム固定」を選択してください（74 ページ）。</li> </ul>



こんなとき	原因と対応
<p>相手とつながらない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• LAN1またはLAN2 (KX-VC1600J、KX-VC2000J) のケーブルが正しく接続されていません。</li> <li>→ 本体と正しく接続されているか確認してください (25 ページ)。相手のIPアドレスを指定して、ネットワーク接続の確認を行い、相手との接続を確認してください (143 ページ)。</li> <li>• ルーティング情報が正しくありません。</li> <li>→ ネットワーク設定、ルーティング設定をご確認のうえ、ネットワーク管理者にご相談ください。</li> <li>• 最大帯域の設定が正しくありません。</li> <li>→ 他社機接続の場合、双方の帯域設定によっては通信できません。最大帯域の設定を確認し設定を変更するか、適切な設定に変更するように相手に伝えてください (128 ページ)。</li> <li>• 通信タイプの設定が正しくありません。</li> <li>→ 通信タイプの設定を相手と合わせてください (154 ページ)。</li> <li>• SIPの設定が正しくありません。</li> <li>→ SIPの設定を確認してください (154 ページ)。SIPの設定を確認後、それでも相手とつながらない場合はネットワーク管理者にご相談ください。</li> <li>• ダイジェスト認証用のIDとパスワードが正しく設定されていません。</li> <li>→ 「<b>認証用ID</b>」と「<b>認証用パスワード</b>」が正しく設定されているか確認してください (155 ページ)。</li> <li>• 「<b>SIPトランスポートプロトコル</b>」の設定が相手と異なります。</li> <li>→ 「<b>SIPトランスポートプロトコル</b>」の設定を相手と合わせてください (155 ページ)。</li> <li>• 発信元の設定が正しくありません。</li> <li>→ 発信元を確認してください。ご使用の環境に合った発信元を選択してください (118 ページ)。</li> <li>• IPアドレスが正しく入力されていません。</li> <li>→ 相手のIPアドレスを正しく入力したか確認してください。</li> <li>• SIP-URI (またはSIPユーザー名) /H.323内線番号/H.323名が正しく入力されていません。</li> <li>→ 相手のSIP-URI (またはSIPユーザー名) /H.323内線番号/H.323名を正しく入力したか、また、規格に準拠した値を入力したか確認してください。</li> <li>• MCUの会議室番号@IPアドレスが正しく入力されていません。</li> <li>→ 接続するMCUの会議室番号およびIPアドレスを正しく入力したか確認してください。</li> </ul>

こんなとき	原因と対応
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MCUの会議室番号@IPアドレスを入力して発信する場合、「<b>SIPサーバーの使用</b>」または「<b>ゲートキーパーの使用</b>」を「<b>する</b>」に設定しています。</li> <li>→ 「<b>SIPサーバーの使用</b>」と「<b>ゲートキーパーの使用</b>」を「<b>しない</b>」に設定してください（154 ページ、156 ページ）。</li> <li>• インターネット接続が確立（リンクアップ）していません。</li> <li>→ 接続するハブ、ルーターなどによっては、リンクアップに 10 秒以上かかるものがあります。</li> <li>• ご利用の回線に問題が発生している可能性があります。</li> <li>→ 販売店にご相談ください。</li> <li>• MCU接続または他社機接続で通信をしようとしています。</li> <li>→ MCU接続または他社機接続の場合、相手側の機器によっては、暗号通信ができなかったり、誤動作を起こしたりする可能性があります。その場合は販売店にご相談ください。</li> <li>• MCU接続または他社機接続の場合、対応していない機種に接続しようとしています。</li> <li>→ 発信履歴から問題のある機器名を確認し、販売店にご相談ください。</li> <li>• ホスト名が正しくIPアドレスに変換されていません。</li> <li>→ ネットワーク設定（124 ページ）で、「<b>DNSの設定</b>」または「<b>優先DNSサーバー</b>」の設定を確認してください。</li> <li>• LAN1のIPアドレスとLAN2のIPアドレスが、同じネットワークアドレスになっている可能性があります（KX-VC1600J、KX-VC2000J）。</li> <li>→ ホーム画面の本体情報でLAN1 / LAN2のIPアドレスを確認してください（42 ページ）。同じネットワークアドレスになっている場合、ネットワーク管理者にご相談ください。</li> <li>• 「<b>IPv6アドレスの設定 (LAN1)</b>」で「<b>自動 (SLAAC)</b>」を選択時、IPアドレス / デフォルトゲートウェイが設定されていません。</li> <li>→ ルーターが接続されていません。</li> <li>→ ルーターが正しく設定されていません。ネットワーク管理者にご相談ください（ルーターで配布するプレフィックス長は64に設定してください。プレフィックス長64以外の場合、IPv6アドレスが登録されません）。</li> <li>• 「<b>IPv6アドレスの設定 (LAN1)</b>」で「<b>自動 (DHCP)</b>」を選択時、IPアドレス / デフォルトゲートウェイが設定されていません。</li> <li>→ DHCPv6サーバー、またはルーターが接続されていません。</li> <li>→ DHCPv6サーバーが正しく設定されていません。ネットワーク管理者にご相談ください（DHCPv6で配布するアドレスはグローバルアドレスを配布してください。グローバルアドレス以外の場合、IPv6アドレスが登録されません）。</li> </ul>

こんなとき	原因と対応
映像が乱れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ハブやルーターの設定が本機と異なります。</li> <li>→ 販売店にご相談ください。</li> <li>• パケットロスが発生しています。(ネットワークが混雑しています。)</li> <li>→ ネットワーク状況アイコンの表示を確認してください (48 ページ)。アンテナの数が0~1本の状態が続く場合は、<b>【状況表示】</b>を押して、<b>【ロス率】</b>と<b>【帯域】</b>をご確認のうえ、ネットワーク管理者または販売店にご相談ください (108 ページ)。</li> <li>• 最大帯域の設定が正しくありません。</li> <li>→ 多地点通信では、1拠点あたり256 kbps以上の帯域が必要です。<b>【最大帯域】</b>を接続拠点数×256 kbps以上の値に設定してください (128 ページ)。</li> <li>→ MCU接続または他社機接続の場合、相手側の機器によっては、帯域不足などにより映像が乱れることがあります。その場合は販売店にご相談ください。</li> <li>• ご利用の回線に問題が発生している可能性があります。</li> <li>→ 販売店にご相談ください。</li> </ul>
通信中の最大帯域が変わっている	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 通信中は、最大帯域を最も小さく設定した参加者の最大帯域が適用されます。</li> <li>→ ご利用の回線に問題が発生する場合は、販売店にご相談ください。</li> </ul>
パソコンの画面やサブビデオカメラの映像が共有できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ケーブルやコードが正しく接続されていません。</li> <li>→ 本体と正しく接続されているか確認してください (92 ページ)。ホーム画面で<b>【PC】</b>または<b>【サブカメラ】</b>を押して、パソコン画面やサブビデオカメラの映像を確認してください。</li> <li>• パソコンの解像度が本機に対応していません。</li> <li>→ 本機に対応している解像度に設定してください (92 ページ)。</li> </ul>

## 音声について

こんなとき	原因と対応
相手に自分の声が聞こえない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• マイクのケーブルが正しく接続されていません。</li> <li>→ 本体と正しく接続されているか確認してください (25 ページ)。自己診断を行い、本体に接続しているマイクの動作を確認してください (144 ページ)。</li> <li>• マイクがマイクオフになっています。</li> <li>→ リモコンの【マイクオフ】を押すか、専用マイクのマイクオフボタンを押して、マイクオフを解除してください (89 ページ)。</li> <li>• 「発信時のマイクオフ」が「する」に設定されています。</li> <li>• 「着信時のマイクオフ」が「する」に設定されています。</li> <li>→ 通信を開始したときのマイクがマイクオフになります。設定を確認してください (129 ページ)。</li> <li>• マイクが遮られています。</li> <li>→ 通信中は、物や手でマイクを遮らないでください。</li> <li>• マイクから離れすぎています。</li> <li>→ マイクの近くで話をしてください。</li> <li>• 専用デジタルマイクを5台以上カスケード接続しています。</li> <li>→ 接続台数を4台以下にしてください。</li> <li>• ヘッドセットが接続されています。</li> <li>→ ヘッドセットを接続している場合は、専用マイクからの音声入力が機能しなくなりますので、専用マイクを使って通信する場合は、ヘッドセットを外してください。</li> <li>• ご利用の回線に問題が発生している可能性があります。</li> <li>→ 販売店にご相談ください。</li> </ul>
音が途切れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>• マイクから離れすぎています。</li> <li>→ マイクの近くで話をしてください。</li> <li>• 通信中に本体やマイクを動かしています。</li> <li>→ 通信中は、本体やマイクを動かさないでください。</li> <li>• マイクが遮られています。</li> <li>→ 通信中は、物や手でマイクを遮らないでください。</li> <li>• ご利用の回線に問題が発生している可能性があります。</li> <li>→ 販売店にご相談ください。</li> </ul>

こんなとき	原因と対応
音声が聞こえない・小さい	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本機の音量の設定が小さすぎます。</li> <li>→ 音量を大きくしてください (88 ページ)。</li> </ul> <p><b>お知らせ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 通信開始時の音量を設定することができます。設定を確認してください (135 ページ)。</li> <li>• 通信中の相手がマイクオフになっています。</li> <li>→ 相手にマイクオフを解除するように伝えてください。</li> <li>• テレビの音量の設定が小さすぎます。</li> <li>→ テレビの音量を大きくしてください。</li> <li>• ヘッドセットが接続されています。</li> <li>→ ヘッドセットを接続している場合は、テレビやスピーカーからの音声出力が機能しなくなりますので、ヘッドセットを外してください。</li> <li>• プロファイルの登録の「<b>接続先の音声</b>」、または通信中メニューの「<b>接続先の音声</b>」を「<b>合成 (固定拠点)</b>」に設定し、「<b>音声の合成拠点</b>」を設定していません。</li> <li>→ プロファイルの登録、または通信中メニューで「<b>音声の合成拠点</b>」を設定してください (84 ページ、115 ページ)。</li> </ul>
ハウリングが発生する	<ul style="list-style-type: none"> <li>• マイクがテレビ・スピーカーに近づきすぎています。</li> <li>→ マイクをテレビ・スピーカーから1 m以上離してください。</li> <li>• テレビの音量の設定が大きすぎます。</li> <li>→ テレビの音量を小さくしてください。</li> </ul>
音が途切れる／エコー（自分の声がスピーカーから聞こえる現象）が発生する	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 通信開始直後は、本機が使用環境に適応していない場合があります。</li> <li>→ 通信開始直後は、相手と交互にお話ください。本機が使用環境に合わせて両者の声を聞き取りやすくなるように自動的に調整します。</li> </ul>
相手にノイズが聞こえる	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 専用マイクのケーブルが正しく接続されていません。</li> <li>→ 本体と正しく接続されているか確認してください (32 ページ)。</li> </ul>

こんなとき	原因と対応
相手の映像と逆のスピーカーから声が聞こえる（画面の右側に映っている相手の声が左側から聞こえるなど）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スピーカーが正しく配置されていません。</li> <li>→ テレビの両側にスピーカーを配置し、左右が正しく接続されているか確認してください。</li> <li>• 相手側のスピーカーが正しく配置されていません。</li> <li>→ 相手にテレビの両側にスピーカーを配置するように伝えてください。マイク位置の設定がおまかせ設定の場合、会議室の前方にテレビ、後方にスピーカーを配置すると、マイクの集音位置が左右逆になり、相手側の映像と逆のスピーカーから声が聞こえます。</li> <li>• 相手側のマイク位置の手動設定が正しくありません。</li> <li>→ 相手にマイク位置の手動設定内容を確認するように伝えてください。マイク位置の手動設定の左右はメインビデオカメラから見た左右です。また、「中央ステレオ」に設定する場合は、専用デジタルマイクのコネクターをテレビ側に向けて設置してください（136 ページ）。</li> </ul>

## 機能の設定について

こんなとき	原因と対応
本機の設定ができない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 通信中です。</li> <li>→ 通信を終えてから、本機を設定してください。</li> <li>• 着信中です。</li> <li>→ 着信に応答するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。【終了】を押して着信を切断してから、本機を設定してください。</li> <li>→ 本機の設定を編集中に着信すると、編集内容を保存せずに着信に応答するかどうかを確認するダイアログボックスが表示され、一時的に編集ができなくなります。編集を継続したい場合は、応答を拒否してください。</li> </ul>

## こんなメッセージが出たら

表示メッセージ	原因と対応
暗号設定が異なるため通信できませんでした	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 暗号通信の有効／無効の設定が相手と一致していません。</li> <li>→ 暗号通信の設定を相手と合わせてください（130 ページ、130 ページ、150 ページ）。</li> </ul>
暗号鍵が一致しないため通信できませんでした	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 暗号鍵の設定が相手と一致していません。</li> <li>→ 暗号鍵の設定を相手と合わせてください（151 ページ）。</li> </ul>

表示メッセージ	原因と対応
メインカメラの入力信号を確認してください	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ケーブルやコードが正しく接続されていません。</li> <li>→ 本体と正しく接続されているか確認してください（25 ページ）。</li> <li>• メインビデオカメラからの入力信号不正です。</li> <li>→ 接続したメインビデオカメラから正常な入力信号が受信できません。販売店にお問い合わせください。</li> </ul>
アドレス帳に空きがないため登録できません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アドレス帳に空きがありません。</li> <li>→ 不要な登録先を削除してください（111 ページ）。</li> </ul>
IPアドレスが正しくありません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IPアドレスとして無効な値を入力しています。</li> <li>→ 正しいIPv4アドレスを入力してください。IPv4アドレスはXXX.XXX.XXX.XXX（ドット形式10進表記）で入力してください。1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。 例：「192.168.0.1」の場合： （正）192.168.0.1 （誤）192.168.000.001 マルチキャストアドレスやブロードキャストアドレスは使用できません。</li> <li>→ 正しいIPv6アドレスを入力してください。IPv6アドレスの入力形式は50 ページを参照してください。</li> </ul>
サブネットマスクが正しくありません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• サブネットマスクとして無効な値を入力しています。</li> <li>→ 正しいサブネットマスクを入力してください。1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.000」のような入力はしないでください。 例：「255.255.255.0」の場合： （正）255.255.255.0 （誤）255.255.255.000</li> </ul>
デフォルトゲートウェイが正しくありません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• デフォルトゲートウェイとして無効な値を入力しています。</li> <li>→ 正しいIPv4アドレス用のデフォルトゲートウェイを入力してください。1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。 例：「192.168.0.1」の場合： （正）192.168.0.1 （誤）192.168.000.001</li> <li>→ 正しいIPv6アドレス用のデフォルトゲートウェイを入力してください。IPv6アドレスの入力形式は50 ページを参照してください。</li> </ul>
日時の入力 that 正しくありません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 有効な入力範囲以外の値を入力しています。</li> <li>→ 2020/1/1～2035/12/31の値で入力してください。</li> </ul>

表示メッセージ	原因と対応
PCが接続されていません 接続を確認してください	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ケーブルやコードが正しく接続されていません。</li> <li>→ 本体と正しく接続されているか確認してください（36 ページ）。</li> <li>• パソコンの電源が切れています。</li> <li>→ パソコンの電源を入れてください。</li> <li>• パソコンの外部ディスプレイ端子から信号が出力されていません。</li> <li>→ パソコンの画面の出力先が外部ディスプレイになるように、パソコンの設定を変更してください。</li> </ul>
サブカメラが接続されていません 接続を確認してください	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ケーブルやコードが正しく接続されていません。</li> <li>→ 本体と正しく接続されているか確認してください（36 ページ）。</li> <li>• サブビデオカメラの電源が切れています。</li> <li>→ サブビデオカメラの電源を入れてください。</li> </ul>
サブカメラの入力信号を確認してください	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ケーブルやコードが正しく接続されていません。</li> <li>→ 本体と正しく接続されているか確認してください（36 ページ）。</li> <li>• サブビデオカメラからの入力信号不正です。</li> <li>→ 接続したサブビデオカメラから正常な入力信号が受信できません。販売店にお問い合わせください。</li> </ul>
HDMIInに映像周波数、または解像度が異なるTVが接続されました  <b>お知らせ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• nにはHDMI端子番号（1～3）が表示されます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本体の映像周波数と異なるテレビが接続されました。</li> <li>→ 本体の映像周波数をご使用のテレビに合わせてください。</li> <li>• 1920 × 1080に対応していないテレビが接続されました。</li> <li>→ 1080に対応したテレビをご使用ください。</li> </ul> <b>お知らせ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 接続されたすべてのテレビの解像度が低下します。表示メッセージが示す端子のテレビを外すとフルHDの解像度に戻ります。</li> <li>• 表示メッセージが示す端子の出力は、機器状況表示画面で「サポート外」と表示されます。</li> </ul>
画面の解像度を確認してください	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パソコンの解像度が本機に対応していません。</li> <li>→ 本機に対応している解像度に設定してください（92 ページ）。</li> </ul>
nはすでに使用されています  <b>お知らせ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• nにはIPアドレスが表示されます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 使用するネットワーク上に、入力したアドレスがすでに設定された機器があります。</li> <li>→ 同一ネットワーク上ではIPアドレスが重複しないように設定してください。</li> </ul>
冷却用ファンが停止しました 速やかに電源を切ってください	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CPU冷却用のファンが停止しました（KX-VC1300J、KX-VC1600Jで表示されます）。</li> <li>→ 速やかに電源を切り、販売店にご相談ください。</li> </ul>



表示メッセージ	原因と対応
冷却用ファンが停止しました 自動で電源がオフになります	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CPU冷却用のファンが停止しました（KX-VC2000Jで表示されます）。</li> </ul> <p>→ 販売店にご相談ください。</p>
サポート外のため通信できませんでした	<ul style="list-style-type: none"> <li>• サポートしていない機能で接続しようとしてしました。</li> </ul> <p>→ 通信参加者のソフトウェアのバージョンを確認してください。ソフトウェアを更新して、バージョンを合わせてください。接続可能なバージョン、機能の詳細については、販売店へお問い合わせください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• サポートしていないMCUまたは他社製のビデオ会議システムの機種と接続しようとしてしました。</li> </ul> <p>→ 接続可能なMCUまたは他社製のビデオ会議システムの機種の詳細については、販売店へお問い合わせください。</p>
コーデックの調停に失敗したため 通信を切断しました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 通信相手の機器がサポートしていないコーデックを使用しています。</li> </ul> <p>→ 通信相手の機器の設定を確認してください。</p>

表示メッセージ	原因と対応
<p>本体の設定 (n2) と異なるリモコンID (n1) を受信しました</p> <p>本体の設定と同じリモコンで [ホーム] を押してください または、以下の手順でリモコンを設定してください</p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1</b> [・] と [#] を同時に押し して離してください</li> <li><b>2</b> 2秒以内に、[n2] を押し てください</li> <li><b>3</b> リモコンの [ホーム] を 押し、この表示が消え れば変更完了です</li> </ol> <p>※この表示が消えない場合 は、リモコンの電池を確認 し、本体近くで、もう一度設 定してください</p> <p><b>お知らせ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ここでは、リモコンの リモコンID (1、2、 <b>3</b>) をn1と記載して います。</li> <li>• ここでは、本体のリモ コンID (1、2、<b>3</b>) はn2と記載していま す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本体とリモコンのリモコンIDが一致しません。</li> </ul> <p>→ 画面上の手順に従って、リモコンのリモコンIDを変更して本体と合わせてください。</p> <p>→ リモコンのリモコンIDが変更できない場合は、販売店へお問い合わせください。</p> <p>→ 近くで複数のリモコンIDを使用している場合や、このメッセージを表示させない場合は、「IDの不一致確認」を「しない」に設定してください (137 ページ)。</p>

表示メッセージ	原因と対応
<p>発信先アドレスが正しくありません</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IPアドレスとして無効な値を入力しています。</li> <li>→ 正しいIPv4アドレスを入力してください。IPv4アドレスはXXX.XXX.XXX.XXX（ドット形式10進表記）で入力してください。1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。 例：「192.168.0.1」の場合： （正）192.168.0.1 （誤）192.168.000.001 マルチキャストアドレスやブロードキャストアドレスは使用できません。</li> <li>→ 正しいIPv6アドレスを入力してください。IPv6アドレスの入力形式は50 ページを参照してください。</li> <li>→ IPv6アドレスで、ポート番号を指定して発信する場合には、以下のようにIPv6アドレスを[]で囲んでください。 [2001:db8::10]:5060</li> <li>• アドレス情報として無効な値を入力しています。</li> <li>→ 正しい宛先を入力してください（50 ページ）。</li> </ul>
<p>自拠点には発信できません 発信先を確認してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 相手のIPアドレスが自分のIPアドレスと同じです。</li> <li>→ 正しいIPアドレスを登録してください。</li> </ul>
<p>同じ接続先と通信しています 発信先を確認してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 多地点通信において、通信参加者の中に、同一のIPアドレスを使用している相手が含まれています。</li> <li>→ 正しいIPアドレスを登録してください。</li> </ul>
<p>優先DNSサーバーが正しくありません</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IPアドレスとして無効な値を入力しています。</li> <li>→ 正しいIPv4アドレスを入力してください。IPv4アドレスはXXX.XXX.XXX.XXX（ドット形式10進表記）で入力してください。1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。 例：「192.168.0.1」の場合： （正）192.168.0.1 （誤）192.168.000.001 マルチキャストアドレスやブロードキャストアドレスは使用できません。</li> </ul>
<p>代替DNSサーバーが正しくありません</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IPアドレスとして無効な値を入力しています。</li> <li>→ 正しいIPv4アドレスを入力してください。IPv4アドレスはXXX.XXX.XXX.XXX（ドット形式10進表記）で入力してください。1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。 例：「192.168.0.1」の場合： （正）192.168.0.1 （誤）192.168.000.001 マルチキャストアドレスやブロードキャストアドレスは使用できません。</li> </ul>
<p>DNSサーバーには異なるアドレスを入力してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 優先DNSサーバーと代替DNSサーバーのアドレスが同じです。</li> <li>→ 異なるアドレスを入力してください（125 ページ）。</li> </ul>
<p>IPv6 優先DNSサーバーが正しくありません</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IPアドレスとして無効な値を入力しています。</li> <li>→ 正しいIPv6アドレスを入力してください。IPv6アドレスの入力形式は50 ページを参照してください。</li> </ul>
<p>IPv6 代替DNSサーバーが正しくありません</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IPアドレスとして無効な値を入力しています。</li> <li>→ 正しいIPv6アドレスを入力してください。IPv6アドレスの入力形式は50 ページを参照してください。</li> </ul>

表示メッセージ	原因と対応
IPv6 DNSサーバーには異なるアドレスを入力してください	<ul style="list-style-type: none"> <li>IPv6 優先DNSサーバーとIPv6 代替DNSサーバーのアドレスが同じです。</li> <li>→ 異なるアドレスを入力してください（126 ページ）。</li> </ul>
<p>あとn秒で通信を終了します 通信を継続する場合は、[はい] を押してください</p> <p><b>お知らせ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>設定した時間の残り1分前になったとき、このメッセージが表示されます。最初に表示されるとき、nは「60」と表示されています。残りの時間が減り始めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「<b>最長通信時間</b>」で設定した時間が残り1分となっています（129 ページ）。</li> <li>→ 「はい」を選ぶと、「<b>最長通信時間</b>」で設定した時間分の通信時間を延長することができます。「いいえ」を選ぶと、通信は切断されます。</li> </ul>
切断されました	<ul style="list-style-type: none"> <li>MCU接続時または他社機接続時に通信が切断されました。</li> <li>→ MCU接続または他社機接続の場合、相手側の機器によっては、暗号通信ができなかったり、誤動作を起こしたりする可能性があります。その場合は販売店にご相談ください。</li> <li>MCUまたは他社機接続時に相手と通信ができない場合、本体が原因を特定できずに、通信が切断されました。</li> <li>→ しばらく待って再度発信し、それでも接続できない場合は、販売店にご相談ください。</li> </ul>
<p>ネットワークに接続できません (XXXX XXXX)</p> <p><b>お知らせ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「XXXX XXXX」にはエラーコード（数字）が表示されます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>LANケーブルが正しく接続されていないため、通信できません。</li> <li>→ LANケーブルが正しく接続されているか確認してください。ホーム画面にIPアドレス/SIPユーザー名/電話番号などが表示されるのを待って、再度発信してください。それでも接続できない場合は、エラーコードをお控えのうえ、販売店にご相談ください。</li> </ul> <p><b>お知らせ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>LANケーブルが正しく接続されていないことが原因で、通信が行えない状態が発生した場合、LANケーブルを正しく接続し直しても、最大で約10分IPアドレス/SIPユーザー名/電話番号などが表示されず、通信を行えない場合があります。</li> </ul>
サポート外のためPC共有できませんでした	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手がサポートできない解像度のため、パソコン画面を共有することができません。</li> <li>→ 相手が対応可能な解像度に設定を変更してください。</li> <li>→ ネットワーク管理者にご相談ください。</li> </ul>
トーン信号は送信できません	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手側の機器がトーン信号に対応していないため、トーン信号を送信できません。</li> <li>→ 相手側の機器の設定を確認するように伝えてください。</li> </ul>

表示メッセージ	原因と対応
現在この操作はできません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分側のビデオカメラが、本体がサポートしているビデオカメラではありません。</li> <li>→ 本体がサポートしているビデオカメラを使用してください。詳細については、販売店にお問い合わせください。</li> <li>• 自分側のビデオカメラがサポートしていない機能进行操作しようとしています。例えば、ズーム機能のみサポートしているビデオカメラに対してパン操作を行おうとしています。</li> <li>→ 操作しようとしている機能を自分側のビデオカメラがサポートしているか確認してください。</li> <li>• 発信元を選択中に、通信タイプを変更しようとしています。</li> <li>→ 発信元を選択を解除してから通信タイプの変更を行ってください。</li> </ul>
SIPサーバーアドレスが正しくありません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• SIPサーバーアドレスとして無効な値を入力しています。</li> <li>→ 正しいIPv4アドレス用のSIPサーバーアドレスを入力してください。SIPサーバーアドレスはXXX.XXX.XXX.XXX（ドット形式10進表記）で入力してください。1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。例：「192.168.0.1」の場合：                      (正) 192.168.0.1                      (誤) 192.168.000.001                      マルチキャストアドレスやブロードキャストアドレスは使用できません。</li> <li>→ 正しいIPv6アドレスを入力してください。IPv6アドレスの入力形式は50 ページを参照してください。</li> </ul>
SIPドメイン名が正しくありません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• SIPドメイン名として無効な値を入力しています。</li> <li>→ 規格に準拠した値を入力してください。詳細については、ネットワーク管理者にご相談ください。</li> </ul>
WAN側アドレスが正しくありません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ルーターのWAN側IPアドレスとして無効な値を入力しています。</li> <li>→ 正しいWAN側IPアドレスを入力してください。WAN側IPアドレスはXXX.XXX.XXX.XXX（ドット形式10進表記）で入力してください。1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。例：「192.168.0.1」の場合：                      (正) 192.168.0.1                      (誤) 192.168.000.001                      マルチキャストアドレスやブロードキャストアドレスは使用できません。</li> </ul>

表示メッセージ	原因と対応
ゲートキーパーアドレスが正しくありません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ゲートキーパーアドレスとして無効な値を入力しています。</li> <li>→ 正しいIPv4アドレス用のゲートキーパーアドレスを入力してください。ゲートキーパーアドレスはXXX.XXX.XXX.XXX（ドット形式10進表記）で入力してください。1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。</li> <li>例：「192.168.0.1」の場合：                          (正) 192.168.0.1                          (誤) 192.168.000.001</li> <li>マルチキャストアドレスやブロードキャストアドレスは使用できません。</li> <li>→ 正しいIPv6アドレスを入力してください。IPv6アドレスの入力形式は50 ページを参照してください。</li> </ul>
データの保存に失敗しました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本機に対応していないUSBメモリーを使用しています。</li> <li>→ 本機に対応しているUSBメモリーを使用してください（171 ページ）。</li> <li>• 使用しているUSBメモリーの空き容量が不足しています。</li> <li>→ USBメモリーに十分な空き容量（50 MB以上）があることを確認してから操作を行ってください。</li> </ul>
初期設定がされていないため設定できません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 発信元設定において、ネットワーク設定が完了していない接続モードを選択し保存しようとした。</li> <li>→ 発信元設定の前に、接続モードを変更し（152 ページ）ネットワーク設定を行ってください（124 ページ）。</li> </ul>
ネットワーク障害（LANn）が発生しています ネットワークを確認してください  <b>お知らせ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• nにはLANの番号（1、2）が表示されます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ネットワークループが発生するなど、ネットワークに異常が発生しています。</li> <li>→ LANケーブルやネットワーク機器を確認してください。ネットワーク異常の解消を検出すると、以下のメッセージを表示しますので、<b>【決定】</b>を押してください。                          ネットワークは正常になりました                          「決定」で再起動します</li> </ul>
障害が発生しました 電源を入れ直してください ※自動的に再起動する場合があります	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本体内部のソフトウェアの起動に失敗しました。</li> <li>• 本体内部のフラッシュメモリーへのデータの書き込みに失敗しました。</li> <li>→ 約20秒経過しても自動的に再起動しない場合、電源を一度切り再度入れて本機を再起動してください。再起動後も同じメッセージが表示される場合は、販売店にご相談ください。</li> </ul>
WAN側アドレスの取得に失敗しました	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 外部サーバーからのWAN側アドレス取得に失敗しました。</li> <li>→ 販売店にご相談ください。</li> </ul>

表示メッセージ	原因と対応
バージョン確認に失敗しました (3996 0BBB)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• USBメモリーに適切なファームウェアがありません。</li> <li>• ファームウェアが異常です。</li> </ul>
ソフトウェア更新に失敗しました (3996 0BBB) 再起動します	<p>→ USBメモリーに正しいファームウェアが保存されているかどうかを確認ください。 ファームウェアの詳細に関しては販売店にご相談ください。</p>
管理者権限によりこの操作は できません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 管理者メニューによって操作が制限されています。</li> </ul> <p>→ ネットワーク管理者にご相談ください。</p>
MCU拠点ではないため この操作はできません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実行できないメニューを選択しています。</li> </ul> <p>→ 1対1接続の通信中に多地点通信中の操作は選択できません。</p>
コンテンツ共有中のため この操作はできません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実行できないメニューを選択しています。</li> </ul> <p>→ 内蔵MCU機能を使用した多地点通信でシングルストリームによるコンテンツ共有中の場合、親拠点で通信中メニューの「<b>発信する</b>」、「<b>メイン表示の設定</b>」は選択できません。</p>
USB録画中のためこの操作は できません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• USB録画中に実行できない操作やメニューを選択しています。</li> </ul> <p>→ USB録画を終了してから操作してください。</p>
USBメモリーの書き込み速度 に問題があります USBメモリーを交換してくだ さい	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 録画データの書き込み時にエラーが発生しました。</li> </ul> <p>→ 長期間使用の経年劣化やそのほかの原因でUSBメモリーの書き込み速度が低下する場合があります。USBメモリーを交換してください。交換しないで録画を継続すると、録画映像に乱れや途切れが発生する場合があります。</p>
USBメモリーの残容量が少な いためこの操作はできません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 接続しているUSBメモリーの空き容量が不足しています。</li> </ul> <p>→ 必要な録画時間・画質に応じて十分な空き容量があるUSBメモリーを接続してください。画質ごとの必要容量については197 ページを参照してください。</p>
USBデバイスモード中のため この操作はできません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• USBデバイスモード中は、発着信やUSBメモリーを利用する操作はできません。</li> </ul> <p>→ 「<b>USBデバイスモード</b>」を「<b>無効</b>」に設定してください（141 ページ）。</p>
Webハイブリッドモード中の ためこの操作はできません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Webハイブリッドモード中は、USBメモリーを利用する操作はできません。</li> </ul> <p>→ 「<b>Webハイブリッドモード</b>」を「<b>無効</b>」に設定してください（142 ページ）。</p>
Webハイブリッドモード中の ため配信の着信ができません	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Webハイブリッドモード中は片方向配信の着信ができません。</li> </ul> <p>→ 「<b>Webハイブリッドモード</b>」を「<b>無効</b>」に設定してください（142 ページ）。</p>

表示メッセージ	原因と対応
ソフトウェアが登録されていないためこの操作はできません	<ul style="list-style-type: none"> <li>機能を拡張しないと実行できないメニューを選択しています。</li> </ul> → 必要なアクティベーションキー（22 ページ）を確認し、「 <b>ソフトウェアの拡張</b> 」（167 ページ）で機能を拡張してください。詳細については販売店にお問い合わせください。
アドレス帳のバージョンが異なります ソフトウェアを更新してください	<ul style="list-style-type: none"> <li>アドレス帳のサーバーとクライアントで、ソフトウェアのバージョンが異なります。</li> </ul> → アドレス帳のサーバーまたはクライアントでソフトウェアの更新が必要です。詳細については販売店にお問い合わせください。
最新のアドレス帳があります サーバーが通信中のため今回は更新できません	<ul style="list-style-type: none"> <li>アドレス帳のサーバーに新しいアドレス帳がありますが、サーバーが通信中のためクライアントに転送できません。</li> </ul> → しばらく時間をおいてから、手動でサーバーのアドレス帳を確認してください（167 ページ）。

## つながるねっとサービス登録ページについて

### 基本動作について

こんなとき	原因と対応
機器申請画面にログインできない	<ul style="list-style-type: none"> <li>画像に表示されている文字が正しく入力されていません。</li> </ul> → アルファベットの大文字と小文字が間違っていないか確認して、再度入力してください。 → 使用されない文字を入力していないか確認して、再度入力してください。次の文字は使用されません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 大文字：I O</li> <li>- 小文字：c i j l o s u v w x z</li> </ul>

### こんなメッセージが出たら

表示メッセージ	原因と対応
Activation Key No.（アクティベーションキーナンバー）が不正です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入力したActivation Key No.（アクティベーションキーナンバー）、またはRegistration ID（レジストレーションID）が正しくありません。</li> </ul> → アクティベーションキーの記載を確認して、正確に入力してください。



表示メッセージ	原因と対応
申請済みのアクティベーションキーカードです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入力したActivation Key No. (アクティベーションキーナンバー)とRegistration ID (レジストレーションID) は、他のHD映像コミュニケーションユニットですでに使用されています。</li> <li>入力したActivation Key No. (アクティベーションキーナンバー)とRegistration ID (レジストレーションID) は、過去に使用されたものです。</li> </ul> <p>→ 未使用のアクティベーションキーに記載されている情報を入力してください。それでもメッセージが表示される場合は、販売店にご相談ください。</p>
無償ライセンスは1つの機器に複数登録できません。	<ul style="list-style-type: none"> <li>添付のお試し用アクティベーションキーで利用登録が完了している状態で、さらに別のアクティベーションキーを使用しようとしています。</li> </ul> <p>→ 添付以外のアクティベーションキーは使用しないでください。</p>

## つながるねっとサービスの本機について

こんなとき	原因と対応
Registration Key (レジストレーションキー) を登録したのに、つながるねっとサービスでの通信ができない	<ul style="list-style-type: none"> <li>接続モードが「つながるねっとサービスモード」に設定されていません。</li> </ul> <p>→ 接続モードを「つながるねっとサービスモード」に設定してください (152 ページ)。</p>
Registration Key (レジストレーションキー) 登録後、再起動から5分以上経ってもホーム画面右上に接続番号が表示されない	<ul style="list-style-type: none"> <li>LANケーブルが正しく接続されていません。</li> </ul> <p>→ 本体と正しく接続されているか確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ルーターのインターネット接続の設定が正しくありません。</li> </ul> <p>→ プロバイダーからの設定情報をもとに、お使いのルーターの取扱説明書に従って正しく設定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ルーターのパケットフィルタリング設定、ポートフォワード設定が有効になっています。</li> </ul> <p>→ ルーターの設定を無効にしてください。設定方法については、お使いのルーターの取扱説明書を参照してください。</p>
サービス有効期限の延長を行ったのに、ホーム画面に接続番号が表示されない	<ul style="list-style-type: none"> <li>つながるねっとサービス登録ページでの登録後、本機を再起動していません。登録内容を反映させるためには、本機を再起動する必要があります。</li> </ul> <p>→ 電源を一度切ったあと再度入れて本機を再起動してください。</p>
サービス有効期限の延長を行ったのに、期限が延長されない	<ul style="list-style-type: none"> <li>つながるねっとサービス登録ページでの登録後、本機を再起動していません。登録内容を反映させるためには、本機を再起動する必要があります。</li> </ul> <p>→ 電源を一度切ったあと再度入れて本機を再起動してください。</p>

## つながるねっとサービスでこんなメッセージが出たら

表示メッセージ	原因と対応														
Registration Keyの認証に失敗しました	<ul style="list-style-type: none"> <li>無効なRegistration Key (レジストレーションキー) を登録しようとしています。</li> </ul> <p>→ 取得したRegistration Key (レジストレーションキー) の内容を再度確認して (179 ページ)、登録をやり直してください (167 ページ)。</p>														
ネットワークに接続できません (XXXXXXXX)  <b>お知らせ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>「XXXXXXXX」にはエラーコード (英数字) が表示されます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本体とルーターまたはLANケーブルが正しく接続されていないため、通信ができません。エラーコードの内容は次のとおりです。</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #00FFFF;">エラーコード</th> <th style="background-color: #00FFFF;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10000001</td> <td>ゲートキーパーへの登録失敗</td> </tr> <tr> <td>01000003</td> <td>DHCP リース期限切れ</td> </tr> <tr> <td>01000006</td> <td>DHCP リース延長による変更</td> </tr> <tr> <td>01000007</td> <td>DHCP ネットワーク情報無効</td> </tr> <tr> <td>05000008</td> <td>SIP サーバーへの登録失敗</td> </tr> <tr> <td>05000009</td> <td>つながるねっとサービスモードでの TCP 切断</td> </tr> </tbody> </table> <p>→ 本体とルーターが正しく接続されているか確認してください。(本体とルーターを直接接続し、動作確認を行ってください。また、LANケーブルを交換し、動作確認を行ってください。) 正しく接続されている場合は、ルーターの設定内容が正しくないか、または本体に異常が発生している可能性がありますので、販売店にご相談ください。</p> <p><b>お知らせ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>LANケーブルが正しく接続されていないことにより、本機とルーターとの間で通信が行えない状態が発生した場合、LANケーブルをさし直しても最大で約10分、接続番号が表示されず通信が行えない場合があります。</li> </ul>	エラーコード	内容	10000001	ゲートキーパーへの登録失敗	01000003	DHCP リース期限切れ	01000006	DHCP リース延長による変更	01000007	DHCP ネットワーク情報無効	05000008	SIP サーバーへの登録失敗	05000009	つながるねっとサービスモードでの TCP 切断
エラーコード	内容														
10000001	ゲートキーパーへの登録失敗														
01000003	DHCP リース期限切れ														
01000006	DHCP リース延長による変更														
01000007	DHCP ネットワーク情報無効														
05000008	SIP サーバーへの登録失敗														
05000009	つながるねっとサービスモードでの TCP 切断														
サービスの有効期限が近づいています 有効期限が切れる前に、つながるねっとサービスの「Activation Key」(アクティベーションキー) を購入して登録していただくと、期間を延長することができます 有効期限は拡張機能の確認画面でご確認ください	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご利用中のサービスの有効期限が3か月を切っています。</li> </ul> <p>→ アクティベーションキーをご購入いただき、有効期限の延長を行ってください (180 ページ)。</p>														

表示メッセージ	原因と対応
<p>サービスの有効期限が切れています つながるねっとサービスの「Activation Key」(アクティベーションキー) を購入して登録していただくと、ご利用いただけるようになります</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• サービスの有効期限が切れています。</li> <li>→ 有効期限切れから6か月以内の場合： アクティベーションキーをご購入いただき、有効期限の延長を行ってください(180 ページ)。</li> <li>→ 有効期限切れから6か月以上の場合： アクティベーションキーをご購入いただき、新たにRegistration Key (レジストレーションキー) を取得し、本体に登録し直してください(167 ページ、176 ページ)。</li> </ul> <p><b>お知らせ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 有効期限切れから6か月以上かどうかを確認する方法は、「拡張機能の確認を行う」を参照してください。</li> </ul>
<p>つながるねっとサービスの障害のため、サービスがご利用できなくなっています お客様にはご迷惑をおかけして、大変申し訳ございません</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「つながるねっと」サーバーに障害が発生しています。</li> <li>→ しばらく待って再度発信し、それでも接続できない場合は、販売店にご相談ください。</li> </ul>

## おもなシステム仕様

本体		KX-VC2000J	KX-VC1600J	KX-VC1300J
端末方式		SIP、H.323		
画像圧縮方式		H.261 (メインストリームのみ)、H.263、H.263+、H.263++ (受信のみ)、H.264 High Profile、H.264 Baseline Profile		
音声圧縮方式		G.711 $\mu$ -law、A-law (3.4 kHz@64 kbps) G.722 (7.0 kHz@64 kbps) G.722.1 (7.0 kHz@32 kbps) G.722.1 Annex C (14.0 kHz@48 kbps/24 kbps) MPEG-4 AAC-LD Mono (7.0 kHz@32 kbps、 14.0 kHz@64 kbps、22.0 kHz@96 kbps) MPEG-4 AAC-LD Stereo (14.0 kHz@64 kbps、 22.0 kHz@96 kbps)  チャンネル数： G.711/G.722/G.722.1/G.722.1 Annex C : 1 MPEG-4 AAC-LD Mono : 1/MPEG-4 AAC-LD Stereo : 2		
遠隔カメラコントロール		H.224、H.281 (ズーム/パン/チルト/プリセット)		
デュアル ストリー ム	方式	H.239 (H.323)、BFCP (SIP)		
	複数モニター	3 モニター	2 モニター	
	対応解像度フレーム 数	メイン：最大1080p 30 フレーム/秒 サブ：最大1080p 30 フレーム/秒		
暗号化		SRTP (AES 128-bit)、H.235 (AES 128-bit)		
その他		H.460		
通信帯域		256 kbps ~ 24 Mbps	256 kbps ~ 18 Mbps	
映像	対応解像度 <sup>*1</sup>	176 × 144p、352 × 240p、352 × 288p、512 × 288p、 640 × 480p、704 × 480p、704 × 576p、768 × 432p、 800 × 600p、1024 × 768p、1280 × 720p、1280 × 768p、 1280 × 800p、1920 × 1080p		
	フレーム数	最大 60 フレーム/秒 (H.264 1080p時)		
	画面表示	フルスクリーン、PinP、PwithP、Side by Side		
音声		エコーキャンセラー、オートゲインコントロール、定常ノイズ抑圧、リップシンク、イコライザー、マイクミュート		

本体		KX-VC2000J	KX-VC1600J	KX-VC1300J
入/出力端子	映像入力	カメラ*2	HDMI メイン × 1、HDMI サブ × 1 入力対応解像度：1280 × 720p、1920 × 1080i、1920 × 1080p	
		パソコン*3	RGB × 1 (ミニD-sub 15pin)、HDMI × 1*2 入力対応解像度：VGA、SVGA、XGA、HD、WXGA、SXGA、FWXGA、WXGA+、WXGA++、UXGA、WSXGA+、フルHD	
	映像出力	HDMI × 2 出力対応解像度：1920 × 1080i、1920 × 1080p		—
		RCA × 1 (コンポーネント) HDMI × 1 (自拠点/録画用)		
	音声入力	専用デジタルマイク × 1 (KX-VCA001) 最大4台 専用アナログマイク × 1 (KX-VCA002) 最大1台 HDMI ステレオミニプラグ*4 *5 × 1 (ø3.5 mm) RCA*6 × 1 (ステレオ)		
	音声出力	HDMI*7 ステレオミニプラグ*4 *8 × 1 (ø3.5 mm) RCA*9 × 1 (ステレオ)		
	ネットワーク	RJ45 × 2 (1000BASE-T 全二重)	RJ45 × 2 (100BASE-TX 全二重)	RJ45 × 1 (100BASE-TX 全二重)
	外部制御	RS-232C × 1 (メンテナンス用兼用)		
その他	USB 2.0*10 × 1 (ホストモード、デバイスモード)、カメラ制御端子 × 1 (未使用)			
同時接続地点数	16 (最大24まで拡張可能)	6 (最大10まで拡張可能)	4	
コンテンツ共有	PC (RGB/HDMI)、サブカメラ (HDMIサブ)			
USBホストモード (USBメモリー)	バージョンアップ、インポート (アドレス帳/プロフィール/構成データ/暗号データ/起動画面/配信木リスト)、エクスポート (アドレス帳/プロフィール/構成データ/暗号データ/配信木リスト)、録画			
USBデバイスモード	USB Video Class : バージョン1.0 USB Audio Class : バージョン1.0			
Webハイブリッドモード	USB Audio Class : バージョン1.0			
ネットワークプロトコル	TCP/IPv4、TCP/IPv6*11、UDP/IPv4、UDP/IPv6*11、DHCP、DNS、HTTP、HTTPS、TELNET、NTP			

本体	KX-VC2000J	KX-VC1600J	KX-VC1300J
ネットワーク機能	パケット再送 (ARQ)、前方誤り訂正 (FEC)、最適レート制御 (ARC)、リオーダー、パケットシェーピング、ポートの任意設定、NAT対応、暗号化、IP Precedence/DiffServのサポート		
外部制御	Webブラウザ経由/HTTP CGIでの制御、TELNET、RS-232C		
接続モード	標準モード、つながるねっとサービスモード、標準・つながるねっとサービスモード		
外形寸法 (幅×奥行き×高さ)	約320 mm × 約270 mm × 約61 mm (突起部除く)	約320 mm × 約230 mm × 約61 mm (突起部除く)	
質量	約3.4 kg	約2.0 kg	
使用電源	AC 100 ~ 240 V <sup>*12</sup> 、50/60 Hz		
	~1.0 A	~1.4 A	
消費電力	最大時：73 W、 待機時：0.6 W	最大時：45 W、 待機時：0.6 W	最大時：43 W、 待機時：0.6 W
本体入力電源	DC 24 V、3.0 A	DC 24 V、2.5 A	
動作温度	0 °C ~ 40 °C		
動作湿度	10 % ~ 90 % (結露なきこと)		

\*1 HD映像コミュニケーションユニットの設定やネットワークの状況により、変化します。

\*2 HDCPには対応していません。

\*3 RGBとHDMIの両方にパソコンが接続されている場合は、HDMIに接続されているパソコンの映像が表示されます。

\*4 3極ステレオミニプラグ専用です。

\*5 不平衡、入力インピーダンス：約2.3k $\Omega$  (約3VのDCバイアス有り)

\*6 不平衡、推奨入力値：-16dBV、インピーダンス：約100k $\Omega$

\*7 HDMI1/HDMI2に同時に音声を出力することはできません。

\*8 不平衡、推奨負荷インピーダンス：16 $\Omega$

\*9 不平衡、出力レベル：約-25dBV、インピーダンス：約400 $\Omega$

\*10 給電能力：5V /500mA

\*11 一部の機能はIPv6に対応していません。

\*12 電源コードはAC 100 V 専用です。

## 保証とアフターサービス よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは

■まず、お買い求め先へご相談ください。

▼お買い上げの際に記入されると便利です

お買い上げ先			
電 話	(       )	—	
お買い上げ日		年 月 日	

### 修理を依頼されるときは

「困ったとき」(220 ページ)でご確認のあと、直らないときは、まず電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ日と下の内容をご連絡ください。

- 製品名     HD 映像コミュニケーションユニット

---

- 品 番     KX-VC1300J、KX-VC1600J、KX-VC2000J

---

- 故障の状況   できるだけ具体的に

### ●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

ただし、リモコンの乾電池は、消耗品ですので保証期間内でも「有料」とさせていただきます。

### ●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料 診断・修理・調整・点検などの費用

部品代 部品および補助材料代

出張料 技術者を派遣する費用

※補修用性能部品の保有期間 8年

当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後 8 年保有しています。

### アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

- ・ 正常な使用状態で本装置に故障が生じた場合、当社は本装置の保証書に定められた条件に従って修理をさせていただきます。ただし、落雷や停電などの外部要因、または本装置の故障、誤動作等で、本装置が使えなかったことによる付随的被害の補償については、当社はその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- ・ 説明書に記載されている内容は、製品のバージョンアップなどに伴い、将来予告無しに変更することがあります。



# 索引

## 英数字

GUIの設定 162  
 H.323の設定をする 155  
 KX-VCS302W (片方向配信拡張用アクティベーションキー) 22  
 KX-VCS304W (4地点接続拡張用アクティベーションキー) 22  
 KX-VCS305W (4地点接続拡張用アクティベーションキー) 22  
 KX-VCS351W (モバイル接続拡張用アクティベーションキー) 22  
 KX-VCS352W (モバイル接続拡張用アクティベーションキー) 23  
 KX-VCS701W (つながるねっとサービス1年延長用アクティベーションキー) 23  
 KX-VCS703W (つながるねっとサービス3年延長用アクティベーションキー) 23  
 KX-VCZ501 (USBデバイスモード拡張用アクティベーションキー) 23  
 KX-VCZ502 (Webハイブリッドモード拡張用アクティベーションキー) 23  
 MCUに接続する 68  
 MPR IDを確認する 167  
 Registration Key (レジストレーションキーを登録する) 167  
 SIPの設定をする 154  
 USBデバイスモード 140, 199  
 USB録画 84, 140, 196  
 Webハイブリッドモード 142, 201

## あ行

アクティベーションキー 22  
 アクティベーションキー、4地点接続拡張用 (KX-VCS304W) 22  
 アクティベーションキー、4地点接続拡張用 (KX-VCS305W) 22  
 アクティベーションキー、USBデバイスモード拡張用 (KX-VCZ501) 23  
 アクティベーションキー、Webハイブリッドモード拡張用 (KX-VCZ502) 23  
 アクティベーションキー、つながるねっとサービス1年延長用 (KX-VCS701W) 23  
 アクティベーションキー、つながるねっとサービス3年延長用 (KX-VCS703W) 23

アクティベーションキー、モバイル接続拡張用 (KX-VCS352W) 23  
 アクティベーションキー、片方向配信拡張用 (KX-VCS302W) 22  
 アクティベーションキー、モバイル接続拡張用 (KX-VCS351W) 22  
 宛先を直接入力して発信する 60  
 アドレス帳に登録 109  
 アドレス帳から発信する 56  
 アドレス帳を削除 111  
 アドレス帳を転送 166  
 アドレス帳を編集 110  
 暗号通信の設定 150  
 安全上のご注意 12  
 アンプ/アクティブスピーカー 37  
 音の設定 135  
 親拠点 3  
 音量 88  
 お手入れ 204

## か行

拡張機能を有効にする 167  
 各部のなまえとはたらき 24  
 片方向配信を利用する 184  
 画面の見かた 42  
 画面レイアウトを変更する 75  
 管理者パスワードの設定 150  
 機器情報 108, 143  
 強制応答 67  
 拠点名の設定 124  
 ケーブル 31  
 言語の設定 139  
 コーデックの設定 156  
 子拠点 3  
 困ったとき 220

## さ行

サブビデオカメラ 36  
 自己診断を行う 144  
 システムの初期化を行う 170  
 自動応答 67  
 手動応答 66  
 仕様 244  
 肖像権 19  
 情報の保護 18  
 初期設定 51  
 スクリーンスタンバイ 29  
 スクリーンスタンバイの設定 135

セキュリティー 18  
セキュリティの設定 157

接続

アンプ/アクティブスピーカー 37  
サブビデオカメラ 36  
パソコン 36  
接続機器 31  
接続状況 107  
接続端子 25  
専用マイク 22

**た行**

着信に応答する 66  
通信タイプの設定 154  
通信の設定 128  
通信履歴から発信する 63  
電源管理設定 164  
電源ボタン 24  
電池交換 203  
同梱物 20

**な行**

日時の設定 124  
ネットワークの設定 124  
ネットワーク接続の確認を行う 143  
ノイズを減らす 91

**は行**

バージョンアップ確認の設定 151  
バウンダリーマイクロホン  
専用アナログマイク 22, 33  
専用デジタルマイク 22, 32  
パソコン 36  
パソコンやサブビデオカメラの映像を共有する 92  
発信する 55  
発信元の設定 117  
ビデオカメラを操作する 95  
プライバシー 19  
プロファイルから発信する 58  
ヘッドセット 35  
別売品 21  
ボタン  
電源 24  
リモコン 27

**ま行**

マイク位置の設定 135  
マイクオフ 89

文字入力 205  
モバイル接続拡張を利用する 183

**ら行**

ランプ表示 29  
リモートアクセス 170  
リモートメンテナンスを行う 144  
リモコン 27, 40  
リモコンの設定 137

**わ行**

ワンタッチダイヤルで発信する 55




取扱説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック ビデオ会議システム ご相談センター

電話  **0570-087-800** 受付：9時～17時30分  
(土・日・祝祭日・年末年始・弊社休業日は除く)  
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは <https://sol.panasonic.biz/visual/soudan>

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。  
本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

#### 【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくためのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

## パナソニック株式会社 コネクティッドソリューションズ社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号